富山県文化振興財団
埋蔵文化財発掘調査報告第30集

任海宮田遺跡発掘調査報告Ⅰ

―― 公害防除特別土地改良事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告Ⅵ ――

第一分冊

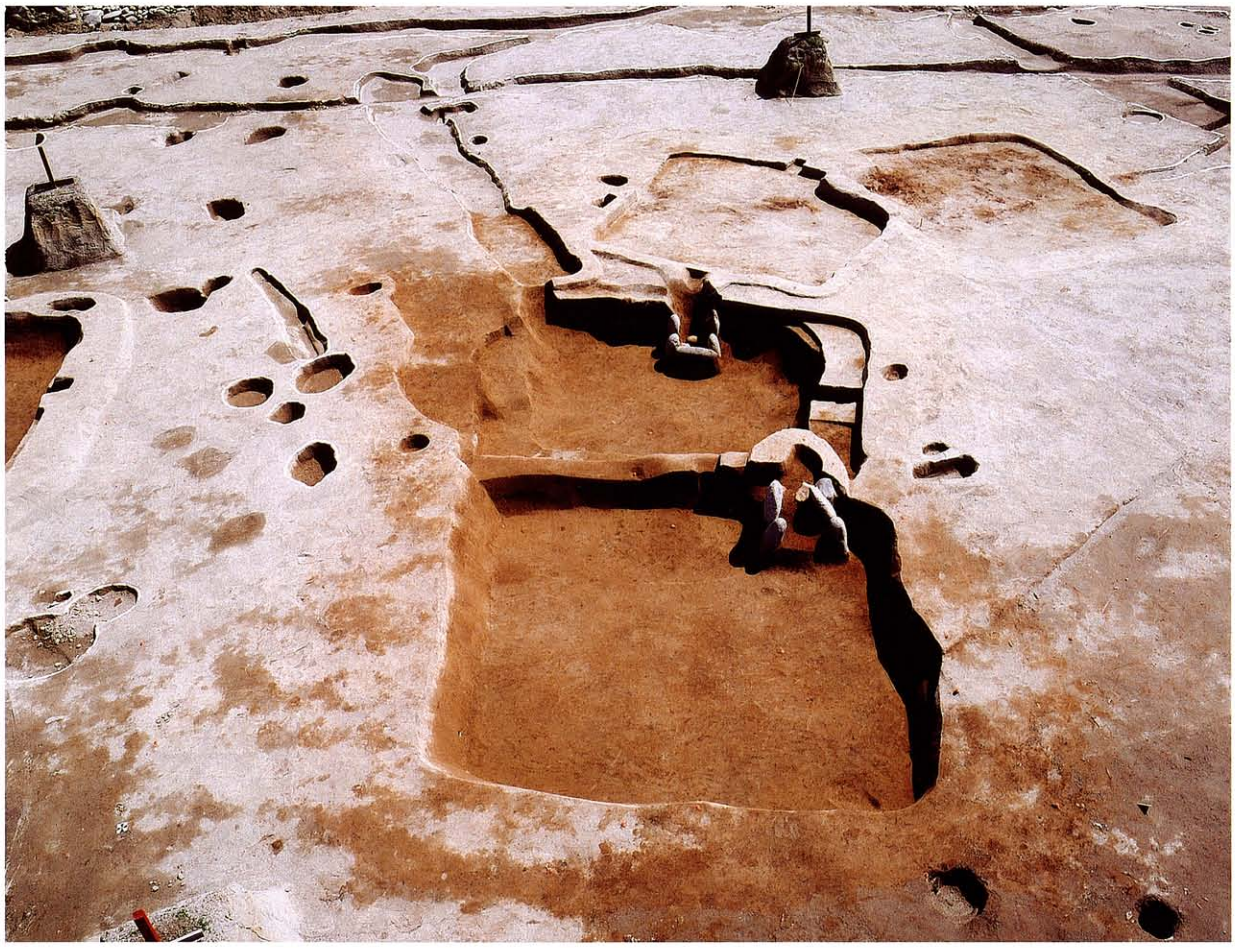
２００６年

財団法人 富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

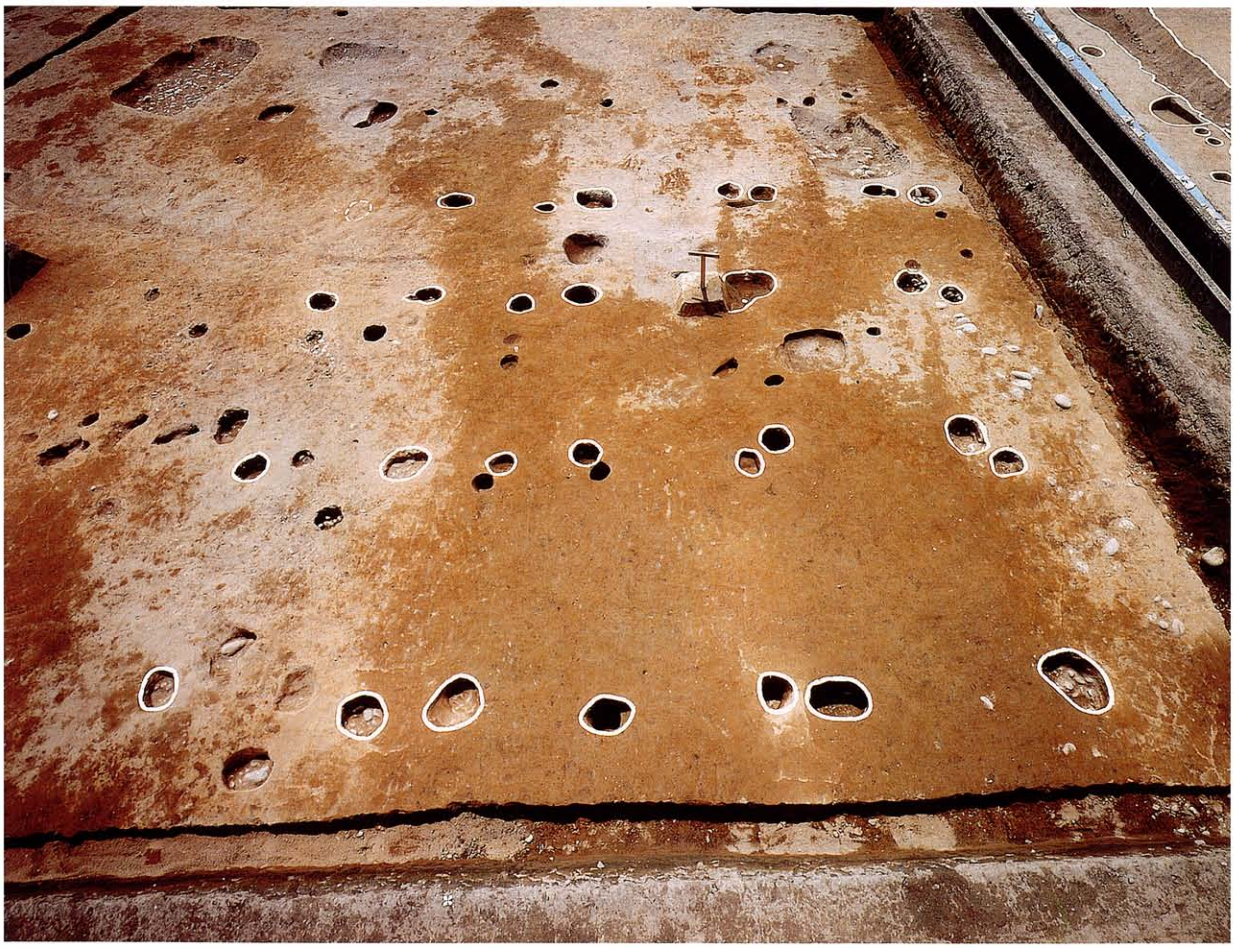
上＝任海宮田遺跡Ａ地区　全景（南から）
下＝任海宮田遺跡Ａ地区　全景（西から）

上＝任海宮田遺跡Ａ１地区　中世面　全景（南から）
下＝任海宮田遺跡Ａ１地区　古代面　全景（南から）

上＝任海宮田遺跡Ａ１地区掘立柱建物 SB03・05（南東から）
下＝任海宮田遺跡Ａ１地区掘立柱建物 SB07（北から）



上＝任海宮田Ａ1 地区 SI12・13（西から）
下＝任海宮田Ａ1 地区 SI02（北西から）



上＝任海宮田遺跡Ａ３地区　全景（東から）
下＝任海宮田遺跡Ａ３地区　SB07・08（北から）

任海宮田遺跡 A 地区　竪穴住居出土遺物

富山県文化振興財団
埋蔵文化財発掘調査報告第30集

任海宮田遺跡発掘調査報告Ⅰ

―― 公害防除特別土地改良事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告Ⅵ ――

第一分冊

2006年

財団法人 富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

埋蔵文化財調査事務所では、平成７年度より県営公害防除特別土地改良事業に伴う発掘調査を行っております。

本書は、平成12・13年度に実施した富山市任海宮田遺跡Ａ地区の発掘調査成果を一冊の報告書としてまとめたものです。県営公害防除特別土地改良事業における旧婦中町域での発掘調査の報告が一応完結し、本報告書が旧富山市域における２冊目の調査報告書となります。

任海宮田遺跡は扇状地扇端部分に位置し、この周辺は奈良時代以降に著しく集落が増加した地域です。これらの集落は古代の開墾集落と考えられ、周辺の遺跡では吉倉Ｂ遺跡・南中田Ｄ遺跡・栗山楮原遺跡などが存在します。任海宮田遺跡もこの地域一帯で展開する開墾集落の一群と考えられます。また、当調査地の北方300mには、平成８年度に県埋蔵文化財センターによって調査された任海宮田遺跡Ｌ１地区があり、本調査地と同様に古代の竪穴住居群や中世の掘立柱建物群が確認されています。

当地区の遺構は、古代では竪穴住居や畑、中世では掘立柱建物や石組井戸など典型的な集落跡を検出しました。さらに、出土した遺物も日常生活で使用されたものが大半でしたが、『山』と墨書された土器や『成』と線刻された土器などがみつかっています。このような開墾集落の調査事例は近年増加しており、本書が地域の郷土史研究や歴史教育などに少しでも寄与することができれば幸いです。

最後に、本書を作成する過程において、多大なご指導、ご助力を賜りました関係機関・団体および諸氏に、厚くお礼申し上げます。

平成18年１月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
所長　桃野　真晃

例　言

1　本書は富山県富山市任海地内に所在する、任海宮田遺跡Ⅰの発掘調査報告書である。

2　本書は２分冊からなる。第一分冊には本文・挿図・表・遺跡・遺構・遺物図面を、第二分冊には自然科学分析および写真図版を掲載する。また遺構全体図は付図として本書に添付した。

3　調査は富山農地林務事務所からの委託を受けて、財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所が実施した。

4　発掘調査と内業整理の期間については以下のとおりである。

発掘調査期間　　平成12（2001）年６月７日～12月25日
　　平成13（2002）年７月２日～７月27日
内業整理期間　　平成13（2002）年４月１日～平成18（2006）年３月31日

5　本書の執筆・編集は細辻真澄が担当・実施した。また「付論」は中村亮仁が執筆し、文責を記した。

6　出土遺物の写真は、楠華堂（代表　内田真紀子）に委託した。

7　自然科学的な分析は、以下の諸機関に委託し、その成果について報文を得た。

金属製品等分析　　JFEテクノリサーチ株式会社
漆塗膜分析　　漆器文化財科学研究所（代表　四柳嘉章）

8　本書に記載される図面・図版・記述の凡例については、必要に応じてその都度本文中で言及した。

9　本書で使用した遺構の略号は次のとおり

SB：掘立柱建物　SI：竪穴住居　SE：井戸　SK：土坑等　SP：柱穴等　SD：溝

10　本書の作成にあたり、出土石製品の石材については赤羽久忠氏（富山市科学文化センター）から、瀬戸美濃施釉陶器については藤澤良祐氏（財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター）から、中国陶磁器については山本信夫氏（山本考古学研究所）から、珠洲については吉岡康暢氏（国立歴史民俗博物館名誉教授）から多大なご教示・助言を得た。記して感謝申し上げたい。

目　次

第Ⅰ章　地理的・歴史的環境 …… 1
1　地理的環境 …… 1
2　歴史的環境 …… 2

第Ⅱ章　調査経緯 …… 5
1　調査に至る経緯 …… 5
A　調査の契機…… 5　　B　試掘調査…… 5
C　本調査…… 6
2　調査経過 …… 6
A　調査方法…… 6　　B　調査の経過…… 7
C　調査体制…… 7　　D　現地説明会…… 9
E　整理の経過…… 9　　F　整理体制 …… 9

第Ⅲ章　任海宮田遺跡Ａ地区の調査 ……11
1　調査地区の設定と基本層序 ……11
A　調査地区の設定 ……11
B　基本層序 ……12
2　遺　　構 ……13
①Ａ１・Ａ４地区 ……13
②Ａ３地区 ……38
③Ａ５地区 ……45
④Ａ６地区 ……48
⑤Ａ７・Ａ８・Ａ９地区 ……52
⑥A10・A11地区 ……58
⑦A12地区 ……59
⑧A13地区 ……62
⑨A14地区 ……64
⑩A15地区 ……68
⑪A16地区 ……71
⑫A17地区 ……74
⑬A18地区 ……75
3　遺　　物
A　土器・陶磁器 ……76
B　木製品 ……100
C　金属製品 ……100
D　石製品 ……104

第Ⅳ章　結　　語 ……155

―付論―

１．任海宮田遺跡A地区出土の中世土器・陶磁器組成について……中村亮仁
２．任海宮田遺跡A地区における古代の竪穴住居出土の土器組成について…中村亮仁

（付図）　任海宮田遺跡A地区遺構全体図

巻頭写真目次

巻頭写真１　任海宮田遺跡　１．２．Ａ地区全景
巻頭写真２　任海宮田遺跡　１．Ａ１地区中世面全景　２．Ａ１地区古代面全景
巻頭写真３　任海宮田遺跡　１．２．Ａ１地区掘立柱建物
巻頭写真４　任海宮田遺跡　１．２．Ａ１地区竪穴住居
巻頭写真５　任海宮田遺跡　１．Ａ３地区全景　２．Ａ３地区掘立柱建物
巻頭写真６　任海宮田遺跡　Ａ地区竪穴住居出土遺物

図面目次

図面001：任海宮田遺跡Ⅰ調査地配置図
図面002～003：基本層序柱状図
図面004～006：Ａ１地区中世面遺構全体図（１）～（３）
図面007：Ａ４地区中世面遺構全体図
図面008～012：Ａ１地区掘立柱建物実測図（１）～（５）
図面013：Ａ４地区掘立柱建物実測図　Ａ１・Ａ４地区井戸実測図
図面014～021：Ａ１・Ａ４地区中世面土坑実測図（１）～（８）
図面022～023：Ａ１・Ａ４地区中世面溝実測図（１）～（２）
図面024～026：Ａ１地区古代面遺構全体図（１）～（３）
図面027：Ａ４地区古代面遺構全体図
図面028～036：Ａ１地区竪穴住居実測図（１）～（９）
図面037～040：Ａ４地区竪穴住居実測図（１）～（４）
図面041・042：Ａ１・Ａ４地区古代面土坑実測図（１）（２）
図面043～044：Ａ１・Ａ４地区古代面溝実測図
図面045～047：Ａ３地区中・近世面遺構実測図（１）～（３）
図面048～052：Ａ３地区掘立柱建物実測図（１）～（５）
図面053・054：Ａ３地区井戸実測図（１）（２）
図面055～058：Ａ３地区中世面溝実測図（１）～（４）
図面059：Ａ３地区中・近世面土坑・溝実測図
図面060・061：Ａ５地区中・近世面遺構全体図（１）（２）
図面062：Ａ５地区中・近世面井戸実測図
図面063～070：Ａ５地区中世面土坑実測図（１）～（８）
図面071：Ａ５地区中・近世面溝実測図
図面072：Ａ６地区中・近世面遺構全体図
図面073：Ａ６地区掘立柱建物実測図
図面074・075：Ａ６地区中・近世面土坑実測図
図面076：Ａ６地区中・近世面・古代面土坑・溝実測図
図面077：Ａ６地区古代面遺構全体図　古代面土坑実測図
図面078・079：Ａ７地区中・近世面遺構全体図（１）（２）
図面080：Ａ８地区中・近世面遺構全体図
図面081：Ａ９地区中・近世面遺構全体図
図面082・083：Ａ７地区中・近世面土坑実測図（１）（２）
図面084：Ａ８地区中・近世面土坑実測図

図面085：A７・A８・A９地区中・近世面溝実測図
図面086：A７地区古代面遺構全体図
図面087：A８・A９地区古代面遺構全体図
図面088：A８地区竪穴住居実測図
図面089：A７・A８・A９地区古代面土坑・溝実測図
図面090：A10地区中・近世面遺構全体図　周壁土層断面図　土坑・溝実測図
図面091：A11地区中・近世面遺構全体図　周壁土層断面図　土坑・溝実測図
図面092～095：A12地区中・近世面遺構全体図（１）～（４）
図面096・097：A12地区中・近世面土坑・溝実測図（１）（２）
図面098：A12地区古代面遺構全体図
図面099：A12地区古代面竪穴住居・溝実測図
図面100・101：A13地区中・近世面遺構全体図（１）（２）
図面102：A13地区掘立柱建物実測図
図面103～105：A13地区中・近世面土坑実測図（１）～（３）　溝実測図
図面106：A14地区中・近世面遺構全体図
図面107～109：A14地区中・近世面土坑実測図（１）～（３）　溝実測図
図面110～112：A15地区中・近世面遺構実測図（１）～（３）
図面113：A15地区中・近世面土坑・溝実測図
図面114・115：A15地区古代面遺構全体図（１）（２）
図面116：A15地区古代面土坑・溝実測図
図面117：A16地区中・近世面遺構全体図
図面118：A16地区掘立柱建物実測図
図面119～121：A16地区中・近世面土坑実測図（１）～（３）　溝実測図
図面122：A17地区中世面遺構全体図　土坑実測図　周壁土層断面図
図面123：A18地区中・近世面遺構全体図　土坑・溝実測図
図面124～137：A１・A４地区出土遺物（土器・陶磁器）
図面138：A３・A５地区出土遺物（土器・陶磁器）
図面139：A５～A７地区出土遺物（土器・陶磁器）
図面140・141：A７～A９地区出土遺物（土器・陶磁器）
図面142：A７～A９・A11・A12地区出土遺物（土器・陶磁器）
図面143：A12～A14地区出土遺物（土器・陶磁器）
図面144：A14～A16・A18地区出土遺物（土器・陶磁器）
図面145：A地区出土遺物（木製品・金属製品）
図面146～149：A地区出土遺物（金属製品）
図面150～153：A地区出土遺物（石製品）

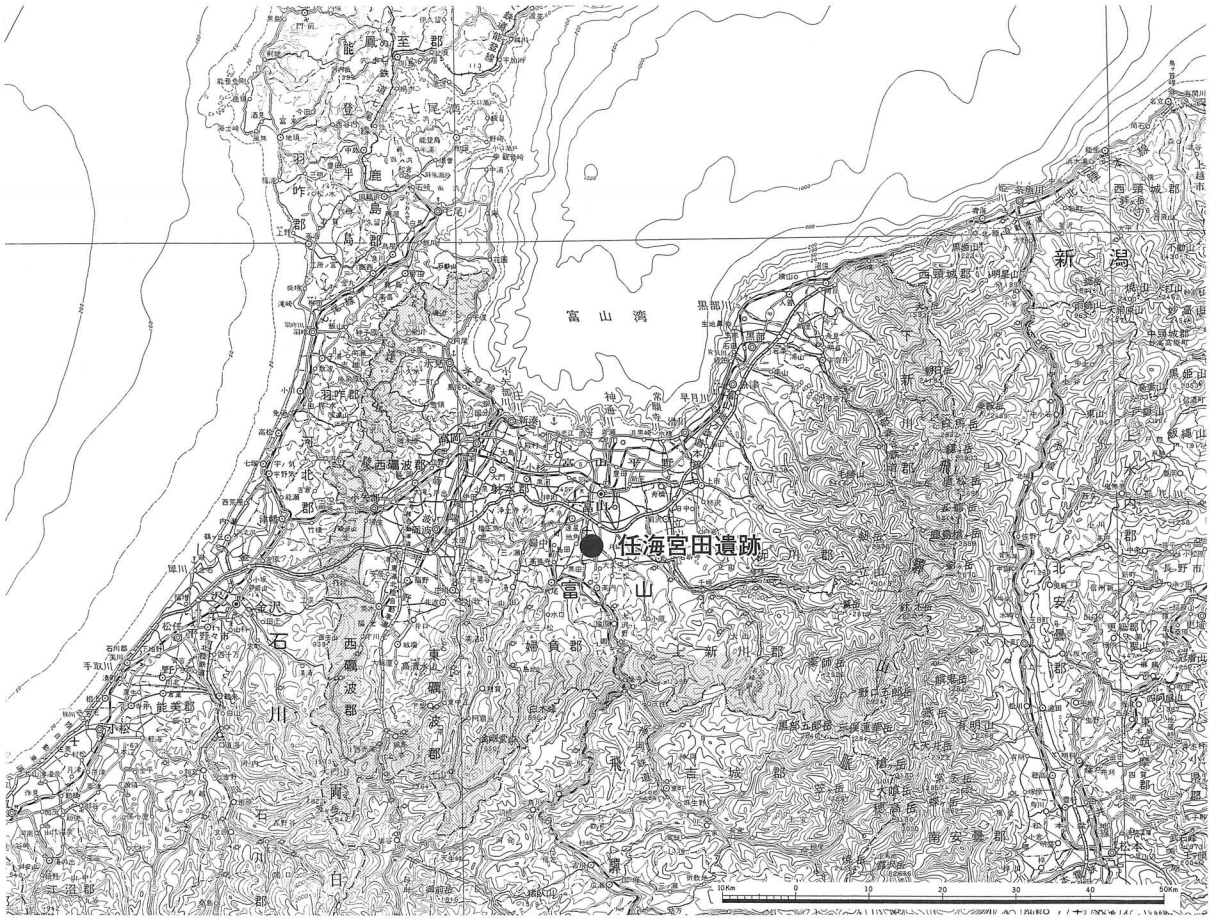
第Ⅰ章　地理的・歴史的環境

1　地理的環境

富山県は、北は富山湾に面し、東・南・西はそれぞれ海抜3,000m級の立山連峰、飛騨山地、医王山・宝達山に囲まれている。任海宮田遺跡が位置する富山市は、富山県のほぼ中央に位置している。

県域全体を見渡すと、県域南部は大きくは山岳地帯に、県域中央から北部の海岸線に沿っては平野部が発達している。この平野部は大きくは４つにからなり、西から東にかけて氷見平野、砺波・射水平野、富山平野、黒部平野と続く。このなかで富山平野は県中央部に位置し、東は早月川扇状地を東端に、西は呉羽丘陵を西端とする地域に広がりをみせる。平野内には早月川、神通川、常願寺川などの水系があり、とくに常願寺川扇状地の発達が最も著しくみられる。

任海宮田遺跡は、富山市任海・友杉に所在する遺跡であり、その広がりは南北に約１㎞東西に約900mにも及ぶ。富山市南部の神通川と熊野川が合流する地点の南方約４㎞に位置し、これらの河川により形成された複合扇状地上に立地する。現標高は30m前後を測る。立地環境から度重なる水害にみまわれた歴史をもつ。近代に入ってからは、大正３年(1914年)の８月に神通川・井田川・山田川・熊野川が未曾有の大出水をし、大被害をもたらした。これらの度重なる水害は遺跡にも影響を与えている。



第１図　富山市任海宮田遺跡位置図（1：1,000,000）

2　歴史的環境

神通川・熊野川中流域では、縄文時代から中世を中心とした遺跡が見られる。

遺跡は複合河岸段丘上（大沢野段丘）に立地する一群と扇状地上に立地する一群に大別できる。

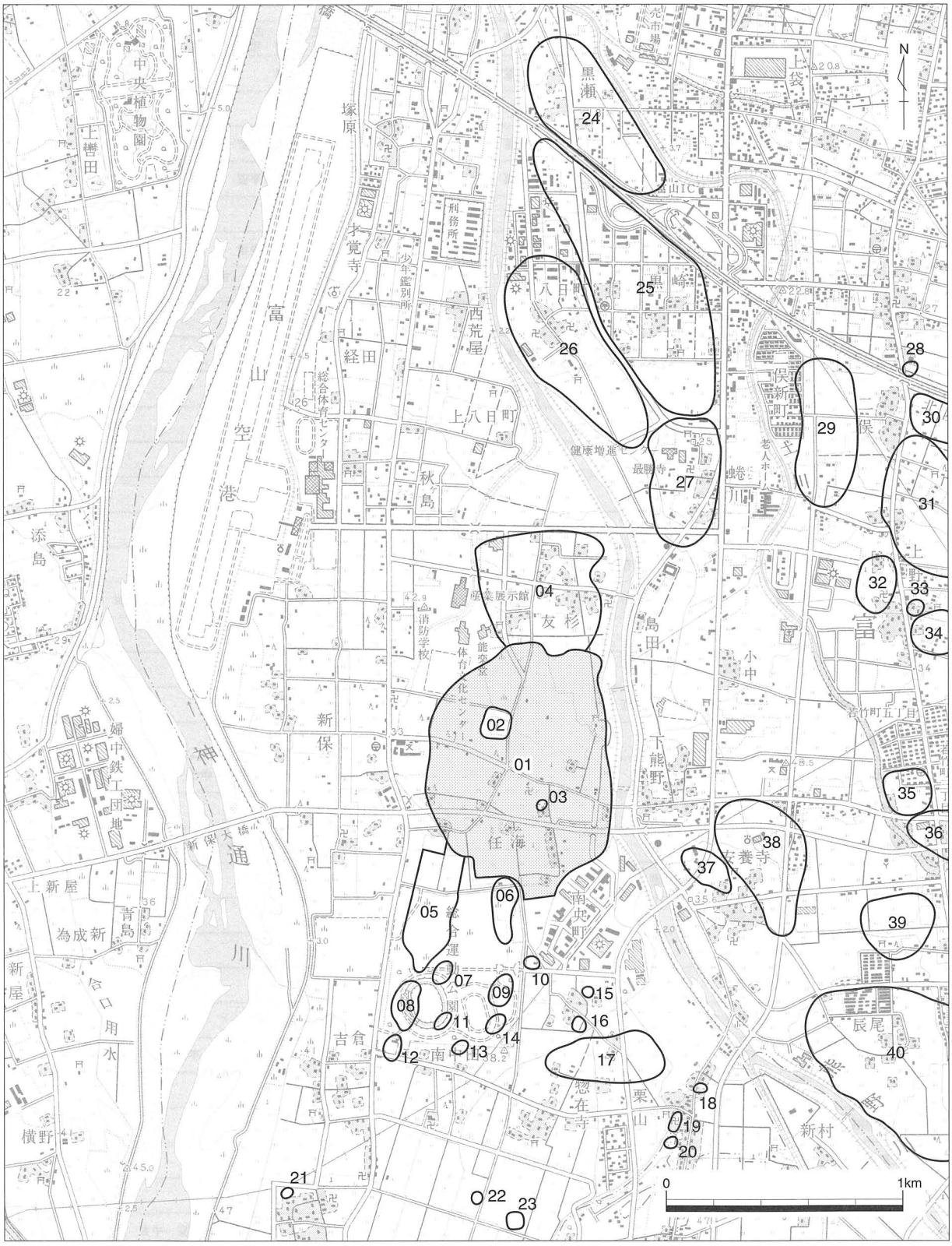
縄文時代では伊豆宮Ⅱ遺跡が大沢野段丘上にあり、中期後葉の縄文土器が出土しているが、遺構は確認されていない。晩期以降になると段丘上から扇状地へと遺跡が移るようで、扇状地には悪王寺遺跡、栗山Ａ遺跡、大利屋敷遺跡において晩期の遺物の散布が認められる。

弥生から古墳時代にかけての遺跡は希薄であり、弥生時代では黒瀬大屋遺跡で遺物の散布が認められる他、この周辺地域で概期の明確な遺構は現在のところ確認されていない。古墳時代では中期の福居古墳や後期の伊豆宮古墳がある。伊豆宮古墳の円礫積横穴式石室からは須恵器・馬具・刀子・紡錘車が出土している。

古代になると扇状地上にも多くの遺跡が形成されるようになり、周辺では当遺跡を含め吉倉Ｂ遺跡、南中田Ｄ遺跡、栗山楮原遺跡など多くの遺跡が確認されている。これらの諸遺跡は東西1.5㎞、南北２㎞の範囲内に密集して所在しており、さながら一続きの古代・中世の遺跡群を形成しているかような様相を呈している。７世紀後半～８世紀代に小規模な集落が出現し、９～10世紀前半にピークに達するが11世紀代には集落が確認されておらず、一旦衰退の時期を迎える。また新保地区は県史によると『加茂別雷神社文書』の中の寿永３年（1184年）の源頼朝下文などの文献にみられる「加茂社領新保御厨」の比定地の一つとされ、当地以外に滑川市高月付近説も有力視されてる。上記の「加茂社領新保御厨」と関連付ける確証となるものはないが、少なくともこの辺り一帯には古代には初期荘園が形成され、10世紀初頭から12世紀前半にわたって一旦は衰退するものの、その後12世紀後半から再び大規模な新田開発の手が入る社会的背景があり、その調査成果に見られるような集落が形成されたものと推測される。これらの遺跡に北接する平成７・８・９年度に富山県埋蔵文化財センターが調査した任海宮田遺跡においても８世紀初頭～10世紀初頭（一部７世紀後半のものもあるが）の古代の集落跡と12世紀後半～13世紀代の中世の集落跡を検出している。

これらのことからこのあたり一帯は連綿と人が住み続けてはいたものの、８世紀前半から大規模な開発の手が入ることによって急激に集落が広がり、一時の衰退の後再び12世紀後半から開発が始まり集落が広がったと考えられる。集落自体の占地は古代に形成された既存の遺跡の上層に形成されるものが大半であり、新規に生活圏を獲得する例は少ない。このことから古代において扇状地内の定住可能な地域については殆ど開発の手が伸びていたものと考えられる。集落以外では起源を中世に求められる城跡や豪族の館、寺院跡などが認められる。上熊野城跡は土塁や堀の一部が確認されており、布市遺跡には布市城跡の存在が推定されている。また豪族蜷川氏の館跡は本遺跡の北方に地名として残っており、北東には興国寺館跡もある。寺院では森田瑞泉寺跡、龍高寺跡、月岡新安国寺跡、任海池原寺跡などが推定・確認されている。

中世以降の遺跡は、神通川と熊野川に挟まれた地域、および熊野川右岸の地域を比較すれば後者の地域には多く存在する。任海地区を中世の宮河（川）荘という意見もあるが、「角川日本地名辞典」によれば現在比定地不明という。少なくとも近世の段階においては富山から飛騨に抜ける飛騨街道が熊野川沿いを南北に走っており、その街道から現在の任海橋付近で岩木道・八尾道が分岐していた。任海橋あたりには熊野川の「徒歩渡り」があり、富山・飛騨・任海・下熊野・八尾方面からの街道が交差し、往来が頻繁に行なわれていたようである。



第２図　周辺遺跡分布図（１：25,000）

01. 任海宮田遺跡、02. 任海池原寺跡、03. 任海三十苅塚、04. 友杉遺跡、05. 吉倉Ｂ遺跡、06. 任海遺跡
07. 任海鎌倉遺跡、08. 南中田Ｄ遺跡、09. 栗山椿原遺跡、10. 任海砂田遺跡、11. 南中田Ｃ遺跡、12. 吉倉Ａ遺跡
13. 南中田Ｂ遺跡、14. 南中田Ａ遺跡、15. 栗山塚、16. 惣在寺廃寺、17. 栗山Ａ遺跡、18. 伊豆宮Ⅱ遺跡、19. 円教寺遺跡
20. 伊豆宮古墳、21. 押上古墳、22. 大利屋敷遺跡、23. 大利遺跡、24. 黒瀬大屋遺跡、25. 黒崎種田遺跡、26. 八日町遺跡
27. 蜷川館跡、28. 二俣寺跡、29. 上野井田遺跡、30. 二俣北遺跡、31. 二俣遺跡、32. 上野鍋田遺跡、33. 上野遺跡
34. 上野亀田遺跡、35. 悪王寺遺跡、36. 若竹町遺跡、37. 安養寺遺跡、38. 下熊野遺跡、39. 宮保遺跡、40. 辰尾遺跡

番号	遺跡名	所在地	種類	時代
01	任海宮田遺跡	富山市任海字宮田割・字大塚割	集落	縄文（晩）・古墳（古墳・白鳳）・古代（奈良・平安）・中世（鎌倉・室町）・近世
02	任海地原寺跡	富山市任海字仙田割・桜町割	寺院	中世・近世
03	任海三十苅塚	富山市任海字三十苅割	塚	中世？
04	友杉遺跡	富山市友杉字北条田割・字辻ノ内割・字田割・字堤田割・任海字桜町割	集落	古代（奈良・平安）・中世（鎌倉・室町）・近世
05	吉倉B遺跡	富山市字柿ノ木又割・押上字藤地割・南中田字土居野割・任海・新保	集落	古代（奈良・平安）・中世
06	任海遺跡	富山市任海	集落	平安・中世
07	任海鎌倉遺跡	富山市任海字鎌倉	集落	奈良・平安・中世
08	南中田D遺跡	富山市南中田	集落	縄文（晩）・古墳（古墳・白鳳）・古代（奈良・平安）・中世（鎌倉・室町）・近世
09	栗山楮原遺跡	富山市栗山字楮原割	集落	平安・中世
10	任海砂田遺跡	富山市任海字砂田割・栗山字楮原割	集落	平安・中世
11	南中田C遺跡	富山市南中田字田鳩割	集落	平安・中世
12	吉倉A遺跡	富山市吉倉字小屋作割	集落・墓	平安・中世
13	南中田B遺跡	富山市南中田字鳩割	集落	平安・中世
14	南中田A遺跡	富山市南中田字土居野割	集落	奈良・平安
15	栗山塚	富山市栗山字楮原割	墓・経塚	中世・近世
16	惣在寺廃寺跡	富山市南中田字土居野割・惣在寺	散布地・墓	中世・近世
17	栗山A遺跡	富山市惣在寺字下寺田割・栗山	集落	縄文（晩）・古代（奈良・平安）・中世
18	伊豆宮II遺跡	富山市上栗山字野田割	集落	縄文（中期）
19	円教寺遺跡	富山市上栗山	散布地	奈良・平安・中世
20	伊豆宮古墳	富山市上栗山(伊豆ノ宮)、大沢野町	古墳	古墳（後期）
21	押上古墳	富山市押上	古墳？	古墳？
22	大利屋敷遺跡	富山市大利字大利割・惣在寺	散布地・墓	縄文（晩期）・平安・中世
23	大利遺跡	富山市大利字大利割	散布地	平安
24	黒瀬大屋遺跡	富山市黒瀬字大屋割	散布地	弥生(後)・古代(奈良・平安)・中世・近世
25	黒崎種田遺跡	富山市黒崎字種田割・寺田割・蟇川	散布地	平安・中世・近世
26	八日町遺跡	富山市八日町	散布地	平安・中世
27	蟇川館跡	富山市蟇川	城館	中世・近世
28	二俣寺跡	富山市二俣	寺院	不明
29	上野井田遺跡	富山市上野・二俣	散布地	奈良・平安・近世
30	二俣北遺跡	富山市二俣	散布地	縄文（中・後）・奈良・平安
31	二俣遺跡	富山市二俣	散布地	不明
32	上野鍋田遺跡	富山市上野	散布地	不明
33	上野遺跡	富山市上野	散布地	不明
34	上野亀田遺跡	富山市上野	散布地	不明
35	悪王寺遺跡	富山市悪王寺字水尻割	集落	縄文（後・晩）・奈良・平安・中世
36	若竹町遺跡	富山市若竹町・悪王寺・吉岡字稗田割	散布地	古墳・奈良・平安・中世
37	安養寺遺跡	富山市安養寺字寺後割・中川原割他	散布地	中世・近世
38	下熊野遺跡	富山市下熊野字庄平割・安養寺他	散布地	奈良・平安・中世・近世
39	宮保遺跡	富山市宮保字三日田割・宮西割・辰郎	散布地	縄文・奈良・平安・中世
40	辰尾遺跡	富山市辰尾字沼・東側・窪田・日崎他	散布地	奈良・平安・中世・近世

第1表　周辺遺跡地名一覧

第Ⅱ章　調査経緯

1　調査に至る経緯

A　調査の契機

岐阜県神岡鉱山から神通川に排出されたカドミニウムを含む汚泥は、水だけでなくその水で灌漑されている下流の田も汚染した。昭和45年に農業用地の土壌汚染防止法が公布され、翌年から土壌汚染調査が行なわれた結果、富山市、旧婦中町、旧大沢野町、旧八尾町（上記旧３町は現富山市）の１市３町に及ぶ1500.6haが汚染土壌地域に指定された。その結果、昭和54年から、県営公害防除特別土地改良事業による本格的な土壌復元が始まった。この事業により、汚染対象地域では１～３次地区、２期地区に分けて復元工事が進められることになった。事業は、大型圃場による区画整理で、汚染対策地域と指定された農地に隣接する地域を併せて行われることとなった。復元工法は、上乗せ客土工法と埋め込み客土工法の二つの工法が採用された。上乗せ客土工法とは、計画耕区ごとに均平化し山土砂により耕盤を造成し、その上に客土をする工法である。一方、埋込客土工法とは、計画耕区ごとに深い溝を掘り、表土から約30㎝の汚染土をはぎ取り溝に埋め込んだ後、基盤を均平化して埋め込み溝を掘削した時の土砂（非汚染土）で耕盤を造成し、その上に耕土を15㎝客土をする工法である。両工法とも地下の埋蔵文化財に影響が及ぶことが予想されたため、個々の復元計画の内容に応じて発掘調査が必要な場合、事前協議のうえで発掘調査の計画を立案した。

汚染対象地域の第１次地区は90haで昭和54年に始まり昭和59年に完了、第２次地区は357haで昭和58年に始まり平成６年に完了、さらに第３次地区の工事が平成４年から平成16年までの予定で着手された。この第三次地区は、残余の436.9ha（富山市107.7ha）が対象地域となった。そこでこれらの工事に伴い破壊される可能性の高い埋蔵文化財について、該当地域の埋蔵文化財の保存措置を講じるための処置が検討・協議され、さらに必要に応じて試掘調査、本調査へと段階を踏んで進む運びとなった。

B　試掘調査

平成３年度に、富山県農地林務事務所から第３次事業地区内の埋蔵文化財所在状況について富山市教育委員会に照会があり、市教育委員会は吉倉Ｂ遺跡、任海宮田遺跡、友杉遺跡の３遺跡（50ha）が調査対象であるとした。平成４年度には、遺跡の所在しない区域の工事が着工され、平成８年度以降の遺跡所在区域についての調査対応・工事工法の変更などについて協議が行なわれた。協議の結果、平成12年度工事区域の任海宮田遺跡Ａ地区について富山市教育委員会が主体となって試掘調査する運びとなった。埋蔵文化財包蔵地に対する試掘調査は、地表面を対象とした分布調査だけでは確認しえない遺跡の具体的な様相を把握するために実施する調査である。この試掘調査によって、はじめて地下に眠る遺跡の実態が明らかとなるわけだが、汚染田の復元工事が前提となるこの試掘調査では、とりわけ遺構面の平面的広がりと遺構深度の確認が重要となる。すなわち、遺構面が工事施工面の影響深度よりも浅い場合は、客土の上乗せ盛土保存が可能となり、遺跡自体もまた現状のまま保存されることになる。逆に施工影響深度が遺構面よりも深い時や、汚染土を埋め込む深い溝や穴を掘削する時、遺跡は工事により破壊されることになる。この場合記録保存を前提とした発掘調査が必要となる。埋蔵文化財保護の立場からは、できるだけ現状で遺跡を保存するほうが望ましいが、この保存処置は

工事の施工法等の変更や調整によって達成できる場合も多い。それだけに早急な試掘調査による遺跡の実態把握が必要となる。

このような観点から、任海宮田遺跡A地区では幅約1mの試掘溝が34ヶ所で設定された。試掘調査の結果、古代～近世の遺構・遺物が確認され、遺構面までの深度が把握された。

C　本調査

試掘調査の結果をもとに、富山県耕地課、富山県農地林務事務所、富山市農地課、富山市教育委員会、富山県教育委員会文化課（現文化財課）、富山県埋蔵文化財センターの6者で事前協議がなされ、計画田面高の調整による遺跡の最大限の保存措置が考慮・検討された。田面調整では、遺構・遺物包含層の高さに保護層10cmを上乗せした数値を工事掘削の限界深度とし、この深さに達しない範囲で施工可能なら現状保存、さらに深く掘削が及ぶものについては記録保存を目的とする緊急発掘調査（本調査）を実施することとなった。

このような経過を経て、平成12年度より任海宮田遺跡A地区において本調査が開始された。この中で、財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所では、平成7年度より県営公害防除特別土地改良事業関連事業として発掘調査を富山農地林務事務所から受託し、本調査を実施した。事業開始年度となる平成7年度には、旧婦中町域で清水島Ⅱ遺跡、中名Ⅱ遺跡を、平成8年度は旧婦中町域で中名Ⅱ遺跡、中名Ⅴ遺跡、持田Ⅰ遺跡を、富山市域で吉倉B遺跡の調査に着手した。平成9年度は中名Ⅰ・Ⅴ遺跡、吉倉B遺跡を、平成10年度は中名Ⅴ遺跡、道場Ⅰ遺跡を、平成11年度は中名Ⅴ遺跡、中名Ⅵ遺跡、道場Ⅰ遺跡、道場Ⅱ遺跡を、平成12年度は中名Ⅴ遺跡、砂子田Ⅰ遺跡、任海宮田遺跡の調査に着手し、任海宮田遺跡の本調査は、平成12～16年度の五カ年にわたり実施された。

2　調査経過

A　調査方法

本調査地は、任海宮田遺跡A地区の周知範囲の南端付近に位置し、富山県総合運動公園の北側に隣接する。試掘調査では、周知の遺跡範囲よりも北側および東側へ拡がることが窺えた。また調査の結果、奈良・平安時代と中世～近世の大きく2時期の遺構・遺物が確認された。遺構面は中世・古代の2面存在すると考えられた。ただし後世の削平により農道東側部分では中世の遺物包含層が一部削平を受けており、1面と考えられた。任海宮田遺跡の発掘調査の基準となるグリッドは、国家座標を用い設定した。任海宮田遺跡の場合69,4700.00、2,7300.00、をX0Y0の基点とし、南北方向をX軸、東西方向をY軸とした。グリッドは2m×2mの方画を遺物取り上げ等の基本区画とし、グリッド名は北東角のX軸・Y軸の座標名で呼称した。発掘調査は表土・耕作土・無遺物層の除去、包含層の発掘、遺構確認面の精査・遺構の検出、遺構の発掘、遺構の記録、写真撮影、空中写真測量、補足作業の順で行った。

表土・耕作土・無遺物層の除去は、人力掘削による調査の事前準備として、調査員立ち会いのもと、試掘調査の結果をふまえ基本層序を確認しながら、事業者が重機（バックホウ）により掘削した。包含層の発掘は、スコップ等を用い、人力で掘削した。排土は、ベルトコンベアーを使用し、調査区隣接地に集積した。遺構確認面の精査・遺構の検出は、ジョレンやねじり鎌を用い、検出した遺構は石灰等でマーキングを行い、平板等で位置を測り遺構概略図を作成した。検出した遺構には遺構番号を付した。遺構番号は各地区ごとに遺構の種類にかかわらず通し番号とした。遺構の発掘は移植ごてで小さい土坑・柱穴などは長軸に沿って半截し、大きい土坑は十字状に土層観察用のセクションベルト

を残して、溝は適宜間隔をあけてセクションベルトを残して発掘し、記録をとった後、完掘した。遺構の記録には土層断面を1/20で実測し、遺構によっては1/10の遺物出土状況図を作成した。各遺構の断面は35㎜カメラで撮り、出土状況や個別の完掘写真・ブロック写真は適宜ブローニー判もあわせて撮影した。調査区の全景写真は35㎜・ブローニー判・4×5判カメラで可能な限り2方向以上から撮影するようにした。フィルムは、35㎜はカラーと白黒、ブローニー判・4×5インチ判はカラースライドと白黒を使用した。遺構の平面図作成には、空中写真測量を㈱イビソクに委託して行った。井戸は完掘後重機（バックホウ）で断ち割り、最終レベルの確認、遺物の採取、写真撮影、図面作成を行った。

B　調査の経過

調査は富山農地林務事務所・富山県教育委員会文化課（現文化財課）・当財団との協議のうえで実施し、発掘調査中も進捗状況等によって、必要に応じて協議を継続して、調査地を決定した。当財団の場合、現地で調査にあたる専門職員は2名1班体制で行なった。任海宮田遺跡は平成12～15年度に調査を実施している。このうち平成12年度調査の任海宮田遺跡A地区は、調査対象平面積18,396㎡、延べ面積22,229㎡、調査期間は平成12年6月7日～12月25日、調査員6名で調査を実施した。平成13年度調査の任海宮田遺跡B地区は、調査対象平面積35,787㎡、延べ面積49,840㎡、調査期間は平成13年5月14日～12月26日、調査員10名で調査を実施した。平成14年度調査の任海宮田遺跡C地区は調査対象平面積34,320㎡、延べ面積45,346㎡、調査期間は平成14年5月13日～12月16日、調査員8名で調査を行った。平成15年度調査の任海宮田遺跡C地区は調査対象平面積624㎡、延べ面積809㎡、調査期間は平成15年10月1日～10月31日、調査員3名であった。

C　調査体制

平成12年度（2000年度）

総　括	桃野　真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	肥田　啓章	埋蔵文化財調査事務所副所長
	上野　　章	埋蔵文化財調査事務所副所長
	棚田　信之	埋蔵文化財調査事務所嘱託
庶　務	竹中　慎一	埋蔵文化財調査事務所課長補佐
	江本　裕一	埋蔵文化財調査事務所主事
調査総括	池野　正男	埋蔵文化財調査事務所調査第一課課長
調査員	森　　隆	埋蔵文化財調査事務所主任
	武田健次郎	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	中村　亮仁	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	中野由紀子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	細辻　真澄	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	内田亜紀子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成13年度（2001年度）

総　括	桃野　真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	肥田　啓章	埋蔵文化財調査事務所副所長
	上野　　章	埋蔵文化財調査事務所副所長
	棚田　信之	埋蔵文化財調査事務所嘱託

庶　務	竹中　慎一	埋蔵文化財調査事務所課長補佐
	江本　裕一	埋蔵文化財調査事務所主事
調査総括	狩野　睦	埋蔵文化財調査事務所調査第一課課長
調査員	森　隆	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主任
	島田美佐子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主任
	武田健次郎	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	青山　晃	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	中村　亮仁	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	細辻　真澄	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	町田　尚美	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	長瀬　出	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	須原　拓	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	植木久美子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

（1）　任海宮田遺跡A地区

地区	調査期間	延日数	調査面積	調査担当者	検出遺構	出土遺物
A1地区 中世層	H.12.6.7～8.2	57日	1,955㎡	武田健次郎・中野由紀子・内田亜紀子	掘立柱建物、石組井戸、柱穴、土坑、溝	中世土師器、珠洲、八尾、白磁、青磁、瀬戸美濃、越中瀬戸、唐津、金属製品、石製品
古代層	H.12.8.3～11.20	110日	1,955㎡		竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝	土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、土製品
A3地区 中世層	H.12.6.16～10.1	108日	1,488㎡	中村亮仁	掘立柱建物、石組井戸、柱穴、土坑、溝	中世土師器、珠洲、白磁、越中瀬戸、唐津、伊万里、金属製品、石製品
A4地区 中世層	H.12.6.26～8.23	59日	562㎡	中野由紀子	掘立柱建物、石組井戸、柱穴、土坑、溝	中世土師器、珠洲、八尾、白磁、青磁、瀬戸美濃、越中瀬戸、唐津、金属製品、石製品
古代層	H.12.8.24～10.11	49日	562㎡		竪穴住居、土坑、溝	土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、土製品
A5地区 中世層	H.12.7.6～10.11	98日	1,030㎡	中村亮仁	石組井戸、土坑、溝	中世土師器、珠洲、瀬戸美濃、越中瀬戸、伊万里、木製品、金属製品、石製品
A6地区 中世層	H.12.7.6～8.31	57日	353㎡	中村亮仁	掘立柱建物、柱穴、土坑、溝	中世土師器、珠洲、白磁、唐津、石製品
古代層	H.12.9.1～10.11	41日	353㎡		土坑、溝	土師器、須恵器
A7地区 中世層	H.12.7.17～8.21	36日	1,406㎡	細辻真澄	土坑、溝	中世土師器、珠洲、越中瀬戸、伊万里、金属製品、石製品
古代層	H.12.8.22～10.11	51日	1,406㎡		土坑、溝	土師器、須恵器、黒色土器、土製品
A8地区 中世層	H.12.6.26～8.1	37日	1,032㎡	細辻真澄	土坑、溝	中世土師器、珠洲、越中瀬戸、伊万里、金属製品、石製品
古代層	H12.8.2～10.11	71日	1,032㎡		竪穴住居、土坑、溝	土師器、須恵器、黒色土器、土製品
A9地区 中世層	H.12.7.3～8.21	50日	1,081㎡	細辻真澄	土坑、溝	中世土師器、珠洲、越中瀬戸、伊万里、金属製品、石製品
古代層	H.12.8.22～10.11	51日	1,081㎡		土坑、溝	土師器、須恵器、黒色土器、土製品
A10地区 中世層	H.12.8.8～10.11	65日	1,081㎡	細辻真澄	土坑、溝	土師器、蔵骨器、金属製品
A11地区 中世層	H.12.8.17～9.29	44日	394㎡	内田亜紀子	土坑、溝	越中瀬戸、伊万里
A12地区 中世層	H.12.10.23～11.14	23日	331㎡	中村亮仁	土坑、溝	中世土師器、珠洲、越中瀬戸、伊万里、石製品、金属製品
古代層	H.12.11.15～12.7	25日	331㎡		竪穴住居、溝	土師器、須恵器
A13地区 中世層	H.12.9.30～11.7	39日	1,485㎡	中村亮仁	掘立柱建物、柱穴、土坑、溝	中世土師器、珠洲、八尾、瀬戸美濃、越中瀬戸、木製品、金属製品、石製品
A14地区 中世層	H.12.9.22～10.6	15日	241㎡	細辻真澄	土坑、溝	中世土師器、珠洲、青磁、白磁、金属製品

A15地区 中世層	H.12.9.4～11.7	62日	1,999㎡	細辻真澄	土坑、溝	中世土師器、珠洲
古代層	H.12.11.15～12.7	33日	1,999㎡		土坑、溝	土師器、須恵器
A16地区 中世層	H.12.9.25～11.7	43日	1,222㎡	武田健次郎	掘立柱建物、柱穴、溝、土坑	中世土師器、珠洲、青磁、伊万里、越中瀬戸、木製品、金属製品、石製品
A17地区 中世層	H.12.10.24～12.7	45日	119㎡	中野由紀子	土坑	中世土師器
A18地区 中世層	H.13.7.2～7.27	26日	85㎡	森　隆	土坑、溝	中世土師器、珠洲、越前、青磁、八尾、越中瀬戸、金属製品、石製品

D　現地説明会

発掘調査の結果を広く一般に公開するため、調査工程を検討しながら対象地区を選定して現地説明会を発掘調査現場で年に１回開催している。任海宮田遺跡Ａ地区の発掘調査においては、平成12年度の任海宮田遺跡Ａ１・Ａ４地区を主たる会場とした現地説明会を計画・実施した。開催日時は、平成12年11月12日（日）午前10時から12時である。当日は調査地区内に順路を設定し、各主要遺構の周辺には説明員を配置し、遺跡見学の際の便宜を図った。当日は、調査現場事務所前での発掘調査概略説明の後、調査現場であるＡ１・Ａ４地区へ見学者を誘導し、調査現場を見学していただいた。見学順路の各所には説明員を配置し、現在掘削中である遺構や完掘済みの遺構について、適宜、見学者に説明した。また現場調査事務所においては、任海宮田遺跡Ａ地区の出土遺物を展示し、遺跡・遺構などの写真パネルも掲示した。当日の見学者参加人数は約50名を数えた。

E　整理の経過

出土遺物は、可能な限り各年度内に洗浄・注記・分類を行った。現地発掘調査は通常年内(12月頃)までに終了するが、それ以後、年度末にかけて埋蔵文化財調査事務所において当年度調査の基礎的な整理作業をおこなった。これらの諸作業には調査員による遺構カード、写真台帳、木製品・金属器製品・石製品台帳、遺構別出土遺物台帳等の作成がある。同時に概要作成に向けての出土遺物の選別・実測図作成作業や空中測量図面の最終校正もこの時期に実施した。なお、当該年度の調査成果の一部については『埋蔵文化財調査概要―平成12年度―』『埋蔵文化財調査概要―平成13年度―』として概要報告している。以上の作業は、後の遺物整理・報告書作成に先立つ基礎整理作業となる。また、金属製品の遺物写真撮影については業者委託となるため、これに先立ち各出土遺物の法量計測、メモ写真撮影、整理台帳等を作成した。

報告書刊行に向けての本格的な整理は、平成16年３月に開始した。遺物の実測のうち土器・陶磁器については調査員がおこなった。遺構の実測図・写真・航空測量図の台帳はそれぞれ調査員が作成・整理し、遺物カードとともにパーソナルコンピューターを使用してデータ入力した。データ入力は人材派遣会社に委託し、これを整理作業員が補足した。遺物の写真撮影は写房楠華堂に委託し、４×５判の白黒・カラースライドフィルムで撮影した。鉄滓分析についてはJFEテクノリサーチ株式会社（平成16年度）に、漆器塗膜分析については漆器文化財科学研究所（平成16年度）にそれぞれ委託した。本報告書の写真図版作成、遺構・遺物図版のレイアウト・トレース作業、遺物・遺構一覧表の作成、および本文原稿の執筆・編集・校正等については、平成17年度に細辻真澄を中心に、整理担当職員及び整理作業員の協力を得て埋蔵文化財調査事務所で実施した。

F　整理体制

平成14年度（2002年度）

総　括　　桃野　真晃　　埋蔵文化財調査事務所所長

　　肥田　啓章　　埋蔵文化財調査事務所副所長

総　括	上野　章	埋蔵文化財調査事務所副所長
庶　務	竹中　慎一	埋蔵文化財調査事務所課長補佐
	広田　英貴	埋蔵文化財調査事務所主事
整理総括	酒井　重洋	埋蔵文化財調査事務所調査第二課課長
担　当	森　隆	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主任
	青山　裕子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成15年度（2003年度）

総　括	桃野　真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	関　清	埋蔵文化財調査事務所主査・副所長
	盛田世津子	埋蔵文化財調査事務所副所長・総務課長
庶　務	竹中　慎一	埋蔵文化財調査事務所課長補佐
	広田　英貴	埋蔵文化財調査事務所主任
整理総括	宮田　進一	埋蔵文化財調査事務所調査第二課課長
担　当	森　隆	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主任
	中村　亮仁	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成16年度（2004年度）

総　括	桃野　真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	関　清	埋蔵文化財調査事務所主査・副所長
	盛田世津子	埋蔵文化財調査事務所副所長
庶　務	竹中　慎一	埋蔵文化財調査事務所課長補佐
	広田　英貴	埋蔵文化財調査事務所主任
	岩田　扶紀	埋蔵文化財調査事務所主任
整理総括	宮田　進一	埋蔵文化財調査事務所調査第二課課長
担　当	武田健次郎	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	中村　亮仁	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	細辻　真澄	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

平成17年度（2005年度）

総　括	桃野　真晃	埋蔵文化財調査事務所所長
	関　清	埋蔵文化財調査事務所主査・副所長
	盛田世津子	埋蔵文化財調査事務所副所長
庶　務	竹中　慎一	埋蔵文化財調査事務所課長補佐
	岩田　扶紀	埋蔵文化財調査事務所主任
整理総括	宮田　進一	埋蔵文化財調査事務所調査第二課課長
担　当	武田健次郎	埋蔵文化財調査事務所主任
	青山　晃	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	細辻　真澄	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事
	朝田亜紀子	埋蔵文化財調査事務所文化財保護主事

第Ⅲ章　任海宮田遺跡Ａ地区の調査

1　調査地区の設定と基本層序

Ａ　調査地区の設定

任海宮田遺跡Ａ地区の発掘調査は平成12・13年度の２ヵ年に分けて行われた。平成12年度はＡ１地区、Ａ３地区、Ａ４地区、Ａ５地区、Ａ６地区、Ａ７地区、Ａ８地区、Ａ９地区、A10地区、A11地区、A12地区、A13地区、A14地区、A15地区、A16地区、A17地区、平成13年度はA18地区が該当する。調査地区はスーパー農道の南側に沿って東西0.8km、南北0.3kmの広範囲な地域に分散して所在する。大きくは新保企業団地側の東地区（Ａ１～A12・A18）と県総合運動公園側の西地区（A13～A17）に二分される。このなかでＡ２地区については、包含層掘削中に遺構面の確認のため四壁に沿ってサブ・トレンチを設定したところ、遺構面が工事掘削影響高より深いことが判明した。このためＡ２地区については本調査の対象地から除外した。

今回報告する任海宮田遺跡Ａ地区の調査地のなかで最も面積がまとまるのはＡ７・Ａ８・Ａ９地区で、３地区を合わせた平面積は3,519㎡となる。これらの調査区は任海宮田遺跡の指定範囲の南端付近に位置する。遺構の分布状況や土層の堆積状況がほぼ同様であるため、ここでは３地区を同時に概観することにした。

Ａ７・Ａ８・Ａ９地区に次いで面積がまとまる調査地は、Ａ１・Ａ４地区で、合わせて平面積2,517㎡を数える。Ａ１地区東側に近接して現在の熊野川が流れ、西側1,500mには神通川が位置しており、河川の氾濫などが頻繁に起こった場所と考えられる。しかし約50m北側には富山市教育委員会の試掘調査で「城長」と書かれた墨書土器が多量に出土した地点があり、集落の存在を窺わせる地区であった。またＡ１地区の西側に道路を挟んでＡ４地区が隣接する。遺構の分布状況や土層の堆積状況がほぼ同様であるため、この両地区も同時に概観したい。

Ａ３地区はスーパー農道の南側に接する調査地区で、掘削面積は1,488㎡である。

Ａ５地区は任海宮田遺跡の指定範囲の南東付近に位置する。掘削面積は1,030㎡である。

Ａ６地区はＡ５地区の西側に位置する調査地区で、掘削面積は353㎡を数える。

A10地区は任海宮田遺跡の南側に位置しており、掘削面積は1,081㎡を数える。

A11地区はほぼ中央部のスーパー農道側に位置している。東から西に向かって緩く傾斜する地形で、調査区西隣の区画は一段低く形成されている。掘削面積は394㎡である。

A12地区は用水路取り付けに係る部分の幅1.5m、長さ約220mの南北に細長い調査区で、大きく３ヶ所に分割されている。掘削面積は331㎡である。

A13地区は任海宮田遺跡の指定範囲の南西付近に位置する。掘削面積は1,485㎡を数える。地形は調査区両端に向って落ち込んでいる。

A14地区はA15地区の北側に隣接する調査地区で掘削面積は331㎡を数える。

次いでA15地区は任海宮田遺跡の西端に位置する調査地区で、掘削面積は1,999㎡である。中世と古代の遺構が同一面で混在している。

A16地区は調査対象範囲の西端に位置し、調査区北側にはスーパー農道が隣接している。掘削面積は1,222㎡である。

A17地区は任海宮田遺跡の指定範囲の西端に位置し、西側は吉倉B遺跡に隣接する。東側は用水路があり、調査区の半分以上がこれに伴う攪乱である。掘削面積は119㎡である。

A18地区はA11地区の南東側に位置する調査地区で、掘削面積は85㎡と小規模である。

B　基本層序

調査区域がスーパー農道の南側に沿って東西0.8㎞、南北0.3㎞の広範囲な地域に分散して所在する。基本層序はⅠa～Ⅰe層：耕作土、Ⅱa層：オリーブ褐色シルト、Ⅱb層：黒褐色砂質シルト土層、Ⅲ層：黄褐色砂質土、Ⅳ層：地山層からなる。調査地が広いこともあり、地山の土層は場所によってかなり異なるが、概ね黄褐色砂質土層、オリーブ色砂質土層、にぶい黄褐色砂質土層、浅黄色砂質土層ないしは基盤礫層の直接露出となる。中世の遺構検出面は、遺構の掘り込みから見て、Ⅲ層上面と考えられる。しかし、Ⅲ層の堆積状況が調査区内で一様ではなく、全地区でこれらの層での遺構検出がなされた訳ではない。そのため多くの地区で2面の遺構検出面で確認された遺構を、中世面として合わせて調査している。但し、検出面が明瞭に異なる場合や、覆土や遺物などにより層を分離できる場合は、中世面、古代面として提示しており、A1・A4地区のみ2面調査を実施した。

A1・A4地区：A1・A4地区でも古代の包含層が薄く、地山の高い部分では同時に遺構を検出している部分もある。検出した遺構は古代および中近世の集落跡が主体を占め、一部近世の遺構が窺えた。

A3地区：A3地区では、Ⅲ層の堆積がなく中近世の集落跡のみ検出した。また調査区東北隅では砂礫層が隆起している状態が確認できた。

A5地区：A5地区は近代以降に削平・盛土による改変を受けている。このため他地区と同様の基本層序は当てはめることはできない。耕作土の下にほ場整備時に整地したとみられる礫混じりの盛土が堆積しており、層厚は北側に向かって厚くなる。遺構は中近世のみで、この礫層を掘削した段階で確認した。

A6地区：A6地区の層序は耕作土直下で古代・中近世の遺構を同一面で確認したが、主体となる時期は中近世である。

A7・A8・A9地区：基本的にはA1・A4地区と同様の層序であるが、A8・A9地区の北西側は基盤礫層が直接露出しており、古代・中近世の遺構を同一面で確認した。遺構の主体は中近世で、古代では竪穴住居等を確認できた。

A10・A11地区：A10地区とA11地区は近代以降に削平・盛土による改変を受けている。このため他地区と同様の基本層序は当てはめることはできない。耕作土の下にほ場整備時に整地したとみられる礫混じりの盛土が堆積している。この層の直下の基盤礫層で中近世の自然河道等を確認したのみである。

A12地区：A12地区は用水取り付けに係る部分の幅1.5m、長さ約220mの南北に細長い調査区で、層序は調査区の北と南では多少異なるがⅠ層、Ⅱ層の下に地山層が堆積している。旧地形は北側に向かって低く傾斜している。遺構の主体は中近世で、古代では竪穴住居等を確認した。

A13地区：A13地区も基本的にA12地区と同様の層序であり、中近世の遺構を検出した。地形は調査区両端に向って落ち込んでいる。遺構は調査区の中央部、南北方向に帯状に延びる微高地上に分布する。

A14・A15地区：A14・A15地区もA12・A13地区と同様の層序で、古代と中近世の遺構を同一面で確認した。

A16地区：基本的にはA1・A4地区と同様の層序である。確認した遺構の主体は中世であり、一部

近世の遺構を検出した。

A17地区：A17地区は東側に用水路があり、調査区の半分以上がこれに伴う攪乱である。

A18地区：A18地区はⅠ層を除去した段階でほ場整備時の盛り土となっており、現地表面からおよそ0.4m～0.6mの深さで、地山の基盤礫層が直接露出している。遺構はこの礫層中に掘り込まれている。

2　遺　　構

①Ａ１・Ａ４地区の調査

Ａ１・Ａ４地区では上から順に、大きく中世、古代の２時期の遺構が確認されている。検出した遺構は中世と古代２時期とも集落遺構としてほぼ限定される。これらの集落遺構は、Ａ１・Ａ４地区のほぼ全域で広く検出されている。中世の遺構についてはＡ１・Ａ４地区全域で検出されており、集落遺構は掘立柱建物、井戸等を確認している。古代の遺構では竪穴住居が検出遺構の主体となる。従って以下の遺構の記述については、中世の時期が中心となる。

（１）中世の遺構

中世の遺構は主に調査区全域で検出した。近世の遺構は若干検出しているが中世遺構と重複・混在する状況にある。検出された遺構は、掘立柱建物10棟、井戸２基、様々な形態の土坑群、区画溝等である。掘立柱建物はＡ１地区で７棟、Ａ４地区で２棟確認しており、主軸方向で大きく２種類に分けられる。内訳は北西方向のSB03・SB04・SB05・SB07・SB08の５棟とSB01・SB02・SB06・SB09の４棟である。両者は重複しておらず遺構と関連する遺物も出土していないことから前後関係は不明である。溝は、SD001とSD002が並行して南西から北東に向かってのび、これらの溝に切られてSD013の区画溝がある。SD013は長方形に区画しており、南西隅で西側に抜ける溝である。また遺物の出土も稀少であり、遺構に伴う遺物は土坑、溝出土のものを除きほとんど認められなかった。以下では、各遺構ごとについて示していく。竪穴住居・掘立柱建物などの主要な遺構については、検出されたもの全てを提示している。また、土坑・溝といった多数検出された遺構に関しては、遺物が出土しているものや、規模・形態などが特徴的なものを選別し提示している。

掘立柱建物

SB01－SP001～SP009（図面008）：Ａ１地区北端に位置する。調査区外に延びる可能性がある。検出された建物の規模は、梁行２間（5.15～5.2m）、桁行２間（5.1～5.15m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はＮ２°Ｅで床面積は27.0㎡。柱間距離は、梁行2.4m、桁行2.55～2.6mである。柱穴形態は円～不整形で径0.24～0.64m、深さ0.17～0.53mを測る。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルト～灰黄褐色シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB02－SP010～SP019（図面008）：Ａ１地区北端に位置し、その北側が調査区外に延びる。建物の規模は、梁行４間（9.35m）、桁行２間以上（4.4m～）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈すと推定される。建物の棟方向はＮ８°Ｅとなる。柱間距離は、梁行2.1～2.9m、桁行3.1mである。柱穴形態は円～楕円形で径0.27～0.59m、深さ0.28～0.45mを測る。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB03－SP020～SP030（図面009）：Ａ１地区中央部西寄り、SB05と同位置で同一方向に主軸を持つ。建物の規模は、梁行２間（4.7～4.8m）、桁行３間（8.25～8.3m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はＮ３°Ｗで床面積は39.8㎡。柱間距離は、梁行2.2～2.4m、桁行2.5～3.0mである。柱穴形態は円～楕円形で径0.21～0.7m、深さ0.13～0.37mを数える。柱穴内覆土は黒褐

色粘質シルト～にぶい黄褐色砂を基調とする。出土遺物は認められない。

SB04－SP031～SP040（図面009）：A1地区南側に位置する掘立柱建物である。規模は、梁行2間(4.6m)、桁行3間（8.0～8.1m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN5°Wで床面積は37.2㎡。柱間距離は、梁行2.2～2.4m、桁行2.6～2.8mである。柱穴形態は円～長楕円形で径0.29～0.91m、深さ0.26～0.4mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB05－SP041～SP058（図面010）：SB03と同位置で、同一方向に主軸を持つ。建物の規模は、梁行2間（5.25～5.3m）、桁行5間（13.6m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN6°Wで床面積は72.0㎡。柱間距離は、梁行2.5～2.8m、桁行2.6～2.9mである。柱穴形態は円～隅丸方形で径0.3～0.53m、深さ0.2～0.67mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルト～にぶい黄褐色砂を基調とする。遺物はSP047で金属製品の釘（002）が出土している。

SB06－SP052・SP059～SP066（図面010）：建物の規模は、梁行2間（3.05m）、桁行2間（3.7～3.8m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN9°Eで床面積は11.6㎡。柱間距離は、梁行1.5m、桁行1.8～1.9mである。柱穴形態は円～楕円形で径0.11～0.36m、深さ0.16～0.35mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルト～暗オリーブ褐色シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB07－SP067～SP083（図面011）：SD014・SD015の東側に位置し、建物内部北西角に大型のSK116を持つ。規模は、梁行3間（6.5～6.65m）、桁行4間（10.0～10.25m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN5°Wで床面積は68.2㎡。柱間距離は、梁行2.0～2.4m、桁行2.1～2.6mである。柱穴形態は円～隅丸長方形で径0.26～0.87m、深さ0.1～0.37mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルト～灰黄褐色シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB08－SP084～SP096（図面012）：A4地区北側に位置する総柱建物で、規模は梁行2間（6.0～6.1m）、桁行4間（13.3m）、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN13°Wで床面積は81.1㎡。柱間距離は、梁行2.8～3.2m、桁行2.8～3.4mである。柱穴形態は楕円～不整形で径0.35～0.55m、深さ0.12m～0.39mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB09－SP097～SP103（図面013）：A4地区南端に位置し、規模は梁行1間（3.6m）、桁行3間（7.4m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN5°Eで床面積は26.6㎡。柱間距離は桁行2.1～2.7mである。柱穴形態は円～楕円形で径0.21～0.39m、深さ0.06～0.33mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルト～灰黄褐色シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

井戸

SE01（図面013）：西側が調査区外となる石組井戸である。掘り方の平面形態は不整形で、長辺1.71m、短辺1.1m以上、深さ1.3mの規模を測る。石組みはほぼ抜き取られており、底面の一段分がわずかに残存している。横断面の形態は逆台型である。内径は上面で0.85m、底面で0.52mと、やや角度を付けて石組みされる。覆土は黄褐色砂質シルトを基調とする4層から構成される。遺物としては珠洲が出土している。

SE02（図面013）：石組井戸であるが石組部分は抜き取られたか破壊されたために残存しておらず、石組に利用されたと考えられる石が少量出土した。井筒部は堀方の中心に設置される。掘方の平面形態は隅丸長方形で、長辺1.9m、短径約1.2m、深さ0.83mの規模を測る。横断面の形態は擂鉢型であ

る。覆土は褐灰色粘質シルトを基調とする５層から構成される。出土遺物は認められない。

土坑

SK001（図面014）：平面形態は円形で、規模は径0.25～0.3m、深さ0.1m を測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK002（図面014）：平面形態は楕円形で、SK003を切る。規模は長径0.7m、短径0.42m、深さ0.13m を測る。覆土は灰黄褐色シルト炭化物混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK003（図面014）：平面形態は円形で、規模は径0.62～0.65m、深さ0.05m を測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK004（図面014）：平面形態は隅丸方形で、南西隅を SK023に切られる。規模は長辺0.93m、短辺0.85m、深さ0.16m を測る。覆土は第１層：灰黄褐色シルト炭化物多量に混、第２層：にぶい黄褐色砂質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK005（図面014）：平面形態は楕円形で、南側を SK007に切られる。規模は長径0.5m 以上、短径0.4m、深さ0.03m を測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK006（図面014）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.2m、短径0.6m、深さ0.09m を測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK007（図面014）：平面形態は楕円形で、SK005を切る。規模は長径0.4m、短径0.35m、深さ0.07m を測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK008（図面014）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.83m、短径0.55m、深さ0.16m を測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK009（図面014）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.7m、短径0.4m、深さ0.21m を測る。覆土は第１層：暗オリーブ褐色砂質シルト、第２層：灰黄褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK010（図面014）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.65m、短径0.45m、深さ0.16m を測る。覆土は第１層：黒褐色シルト、第２層：灰黄褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK011（図面014）：平面形態は不整形で、SK040に切り込まれる。規模は長径0.25m、短径0.15m 以上、深さ0.18m を測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK012（図面014）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.9m、短径0.4m、深さ0.07m を測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK013（図面014）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.5m、短径0.42m、深さ0.15m を測る。覆土は第１層：灰黄褐色シルト、第２層：にぶい黄褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK014（図面014）：平面形態は円形で、SK015を切る。規模は径0.45m、深さ0.2m を測る。覆土は第１層：褐灰色粘質シルト、第２層：褐灰色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK015（図面014）：平面形態は楕円形で、北側を SK014に切られる。規模は長径0.55m 以上、短径0.45m、深さ0.13m を測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK016（図面014）：平面形態は不整形で、規模は長径1.0m、短径0.85m、深さ0.21m を測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK017（図面014）：平面形態は不整形で、規模は長径0.55m、短径0.38m、深さ0.4m を測る。覆土は第１層：灰黄褐色粘質シルト、第２層：褐灰色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK018（図面014）：平面形態は楕円形で、SK022を切る。規模は長径0.65m、短径0.45m、深さ0.25m

を測る。覆土は暗オリーブ褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK019（図面014）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.26m、短径0.2m、深さ0.08mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルト炭化物混の単層となる。出土遺物は認められない。

SK020（図面014）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺0.7m、短辺0.38m、深さ0.16mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色砂、第2層：暗オリーブ褐色シルト、第3層：黒褐色粘質シルトに分層される。出土遺物は認められない。

SK021（図面014）：平面形態は隅丸方形で、規模は長辺1.1m、短辺0.9m、深さ0.08mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK022（図面014）：平面形態は隅丸方形で、SK018に切られる。規模は長辺1.6m以上、短辺1.03m以上、深さ0.15mを測る。覆土は第1層：暗オリーブ褐色粘質シルト、第2層：黒褐色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK023（図面014）：平面形態は不整形で、SK004を切る。規模は長径1.7m、短径1.5m、深さ0.08mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は棒状鉄製品（009）が出土している。

SK024（図面015）：平面形態は不整形で、規模は長径0.95m、短径0.75m、深さ0.45mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：灰黄褐色粘質シルト、第3層：にぶい黄褐色砂に分層される。出土遺物は認められない。

SK025（図面015）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.28m、短径0.2m、深さ0.45mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK026（図面015）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.28m、短径0.21m、深さ0.36mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK027（図面015）：平面形態は不整形で、規模は長径1.0m、短径0.85m、深さ0.2mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：黒褐色砂質シルト、第3層：暗オリーブ褐色砂質シルトに分層される。出土遺物は認められない。

SK028（図面015）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.95m、短径0.65m、深さ0.28mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：黒褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK029（図面015）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.57m、短径0.47m、深さ0.2mを測る。覆土は第1層：暗褐色粘質シルト、第2層：灰黄褐色粘質シルト炭化物少量混となる。出土遺物は認められない。

SK030（図面015）：平面形態は円形で、規模は径0.5m、深さ0.2mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：にぶい黄褐色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK031（図面015）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.6m、短径0.3m、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK032（図面015）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.55m、短径0.45m、深さ0.15mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：にぶい黄褐色砂となる。出土遺物は認められない。

SK033（図面015）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.45m、短径0.3m、深さ0.15mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色粘質シルト、第2層：にぶい黄褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK034（図面015）：平面形態は楕円形とみられ、SK035を切る。規模は長径0.85m、短径0.75m、深さ0.13mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：にぶい黄褐色砂となる。出土遺物は認められない。

SK035（図面015）：平面形態は楕円形で、SK034に切られる。規模は長径1.1m以上、短径0.85m、深さ0.2mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：黒褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK036（図面015）：平面形態は不整形で、南側をSD003に切り込まれる。規模は長径1.1m、短径0.3m以上、深さ0.05mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK037（図面015）：平面形態は不整形で、規模は長径0.49m以上、短径0.37m、深さ0.17mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：にぶい黄褐色砂に分層される。出土遺物は認められない。

SK038（図面015）：平面形態は楕円形で、SP055に切られる。規模は長径1.05m、短径0.6m、深さ0.32mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト炭化物少量混、第2層：灰黄褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK039（図面015）：平面形態は不整形で、規模は長径0.4m以上、短径0.23m以上、深さ0.11mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK040（図面015）：平面形態は円形で、規模は径0.45m、深さ0.09mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK041（図面015）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.8m、短径0.62m、深さ0.39mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする4層から構成される。出土遺物は認められない。

SK042（図面015）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.64m以上、短径0.44m、深さ0.3mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：にぶい黄褐色砂、第3層：にぶい黄褐色砂質シルトに分層される。出土遺物は認められない。

SK043（図面015）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.35m、短径0.28m、深さ0.13mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK044（図面015）：平面形態は不整形で、規模は長径2.2m、短径1.25m以上、深さ0.12mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色粘質シルト、第2層：黒褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK045（図面015）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.75m以上、短径0.45m、深さ0.26mを測る。覆土は第一層：灰黄褐色粘質シルト、第2層：黒褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK046（図面015）：平面形態は円形で、SD013を切る。規模は径2.05m、深さ0.29mを測る。覆土は第1層：暗褐色シルト炭化物少量混、第2層：黒褐色シルト炭化物少量混、第3層：灰黄褐色シルトに分層される。出土遺物は認められない。

SK047（図面016）：平面形態は楕円形で、SD013を切る。規模は長径0.75m、短径0.55m、深さ0.27mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト炭化物少量混、第2層：黒褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK048（図面016）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.2m、短径0.15m、深さ0.4mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK049（図面016）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺1.11m、短辺0.84m、深さ0.39mを測る。覆土は灰黄褐色シルトを基調とする4層から構成される。出土遺物は認められない。

SK050（図面016）：平面形態は不整形で、SK066を切る。規模は長径1.42m、短径0.85m、深さ0.43mを測る。覆土は灰黄褐色シルトを基調とする7層から構成される。遺物は中世土師器、珠洲が出土している。

SK051（図面016）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.89m、短径0.38m、深さ0.38mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト、第2層：にぶい黄褐色砂、第3層：黒褐色シルトに分層される。遺物は中国製白磁が出土している。

SK052（図面016）：平面形態は不整形で、規模は長径1.41m、短径1.25m、深さ0.17mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK053（図面016）：平面形態は不整形で、北側は調査区外に広がる。規模は長径1.62m、短径0.53m以上、深さ0.38mを測る。覆土は第1層：（10YR3/2）黒褐色粘質シルト、第2層：（10YR3/1）黒褐色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK054（図面016）：平面形態は隅丸方形で、規模は一辺2.69～2.8m、深さ0.32mを測る。覆土は第1層：（10YR3/2）黒褐色シルト、第2層：（10YR3/1）黒褐色シルトとなる。遺物は金属製品の刀子（012）が出土している。

SK055（図面016）：平面形態は隅丸長方形で、SK056に切られる。規模は長辺1.91m以上、短辺1.14m、深さ0.19mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK056（図面016）：平面形態は不整形で、SK055を切る。規模は長径1.32m、短径1.16m、深さ0.33mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト、第2層：暗褐色シルト鉄粒少量混となる。出土遺物は認められない。

SK057（図面017）：平面形態は不整形で、規模は長径1.53m、短径1.4m、深さ0.27mを測る。覆土は第1層：暗オリーブ褐色粘質シルト、第2層：黒褐色粘質シルトとなる。遺物は珠洲が出土している。

SK058（図面017）：平面形態は不整形で、SK113を切る。規模は長径1.62m、短径1.13m、深さ0.21mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色粘質シルト炭化物少量混、第2層：褐灰色粘質シルト炭化物多量に混、第3層：にぶい黄褐色砂に分層される。遺物は珠洲が出土している。

SK059（図面017）：平面形態は不整形で、規模は長径1.04m、短径0.79m以上、深さ0.36mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト鉄粒少量混、第2層：黒褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK060（図面017）：平面形態は隅丸方形で、SD002に切られる。規模は一辺1.72～1.74m、深さ0.28mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト、第2層：にぶい黄褐色砂鉄粒少量混となる。遺物は金属製品の釘（004）が出土している。

SK061（図面017）：平面形態は楕円形で、SD001を切る。規模は長径1.45m以上、短径1.17m、深さ0.05mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK062（図面017）：平面形態は円形で、規模は径0.75～0.79m、深さ0.2mを測る。覆土は灰黄褐色シルト鉄粒少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK063（図面017）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.62m以上、短径0.38m、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK064（図面017）：平面形態は不整形で、SK065を切る。規模は長径0.66m、短径0.35m、深さ0.17mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK065（図面017）：平面形態は楕円形で、SK066を切る。規模は長径2.02m、短径1.34m、深さ0.44mを測る。覆土は第1層：褐灰色シルト、第2層：灰黄褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK066（図面017・021）：平面形態は長楕円形で、SK050・SK065・SK113に切られる。規模は長径6.87m以上、短径2.32m、深さ0.41mを測る。覆土は灰黄褐色シルトを基調とする15層から構成、底に鉄分が帯状に堆積する。遺物は八尾、中国製白磁が出土している。

SK067（図面017）：平面形態は不整形で、規模は長径0.82m、短径0.8m、深さ0.36mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト、第2層：暗褐色シルトとなる。遺物は認められない。

SK068（図面017）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺0.87m、短辺0.63m、深さ0.37mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト炭化物混、第2層：黒褐色シルト炭化物混となる。出土遺物は認められない。

SK069（図面018）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.36m、短径0.33m、深さ0.16mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト、第2層：にぶい黄褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK070（図面018）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.82m、短径0.7m、深さ0.09mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK071（図面018）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.41m、短径0.34m、深さ0.14mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK072（図面018）：平面形態は円形で、径0.34m、深さ0.26mを測る。覆土は第1層：（10YR3/2）黒褐色粘質シルト、第2層：にぶい黄褐色砂、第3層：（10YR3/1）黒褐色粘質シルトに分層される。出土遺物は認められない。

SK073（図面018）：平面形態は円形で、規模は径0.41m、深さ0.06mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK074（図面018）：平面形態は楕円形で、SK114を切る。規模は長径0.34m、短径0.29m、深さ0.31mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：にぶい黄褐色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK075（図面018）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.78m、短径0.69m、深さ0.06mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK076（図面018）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.81m、短径0.59m、深さ0.06mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK077（図面018）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.85m、短径0.61m、深さ0.41mを測る。覆土は第1層：（10YR4/2）灰黄褐色シルト、第2層：（10YR5/2）灰黄褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK078（図面018）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺1.3m、短辺1.11m、深さ0.12mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK079（図面018）：平面形態は不整形で、規模は長径1.51m、短径0.54m、深さ0.07mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は金属製品の釘（003）が出土している。

SK080（図面018）：平面形態は隅丸長方形で、SD024・SD025に切られる。規模は長辺1.71m、短辺1.28m以上、深さ0.22mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト、第2層：黒褐色シルトとなる。遺物は中世土師器が出土している。

SK081（図面018）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺0.98m、短辺0.89m、深さ0.16mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK082（図面018）：平面形態は不整形で、SD023・SD024・SD030・SK109を切り、東側をSD019に切られる。規模は長径2.37m、短径0.72m以上、深さ0.39mを測る。土坑内には礫が混入している。覆土は褐灰色シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK083（図面018）：平面形態は隅丸長方形で、SK084・SK085・SD027を切る。長辺1.3m、短辺1.14

m、深さ0.26mを測る。覆土は第1層：にぶい黄褐色シルト、第2層：灰白色シルト、第3層：灰黄褐色シルトに分層される。遺物は珠洲擂鉢（499）が出土している。

SK084（図面018）：平面形態は不整形で、SD026を切り、SK083・SK089に切られる。規模は長径1.49m以上、短径1.35m、深さ0.27mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は中国製青磁碗（501）が出土している。

SK085（図面019）：平面形態は不整形で、SD026を切り、SK083に切られる。規模は長径1.01m、短径0.76m以上、深さ0.23mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK086（図面019）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.54m、短径0.43m、深さ0.1mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK087（図面019）：平面形態は円形で、規模は径0.5m以上、深さ0.34mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト炭化物少量混、第2層：灰黄褐色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK088（図面019）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.22m、深さ0.12mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK089（図面019）：平面形態は楕円形で、SK084を切る。規模は長径0.46m、短径0.37m、深さ0.06mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK090（図面019）：平面形態は不整形で、SK109・SD030に切られる。規模は長径1.2m以上、短径0.52m以上、深さ0.16mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK091（図面019）：平面形態は不整形で、SD030を切り、東側をSD019に切られる。規模は長径1.47m、短径0.49m以上、深さ0.17mを測る。覆土は褐灰色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK092（図面019）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.44m、短径0.38m、深さ0.22mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：灰黄褐色砂となる。出土遺物は認められない。

SK093（図面019）：平面形態は長楕円形で、規模は長径0.94m、短径0.42m、深さ0.23mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK094（図面019）：平面形態は不整形で、SD025を切り、SK099に切られる。規模は長径2.0m以上、短径1.18m以上、深さ0.47mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト炭化物少量混、第2層：黒褐色シルトとなる。遺物は珠洲擂鉢（500）が出土している。

SK095（図面019）：平面形態は不整形で、SD018・SD020・SD021・SD022・SD029・SD030を切り、北側は調査区外に広がる。土坑内にはφ20～30㎝の礫がみられる。規模は長径2.44m以上、短径1.39m、深さ0.56mを測る。覆土は褐灰色砂礫のみの単層となる。遺物は瀬戸美濃が出土している。

SK096（図面019）：平面形態は不整形で、SP081に切られる。長径1.04m以上、短径0.71m、深さ0.6mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト、第2層：灰黄褐色粘質シルト、第3層：にぶい黄褐色粘質シルトに分層される。出土遺物は認められない。

SK097（図面019）：平面形態は隅丸長方形で、SD021を切る。規模は長辺1.93m、短辺1.2m、深さ0.29mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK098（図面019）：平面形態は長楕円形で、規模は長径1.0m、短径0.48m、深さ0.19mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK099（図面019）：平面形態は円形で、規模は径0.97m、深さ1.0mを測る。覆土は黒褐色シルト炭

化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK100（図面020）：平面形態は円形で、規模は径0.29m、深さ0.29mを測る。覆土は褐灰色シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK101（図面020）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.55m、短径0.43m、深さ0.07mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK102（図面020）：平面形態は不整形で、SD017に切られる。規模は長径0.84m以上、短径0.57m、深さ0.11mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK103（図面020）：平面形態は円形で、規模は径0.92～1.0m、深さ0.18mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK104（図面020）：平面形態は不整形で、規模は長径1.24m、短径0.97m、深さ0.17mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK105（図面020）：平面形態は不整形で、西側をSD017に切られる。規模は長径2.47m、短径0.8m、深さ0.15mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK106（図面020）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.26m、深さ0.19mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK107（図面020）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.45m、短径0.39m、深さ0.17mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：にぶい黄褐色砂となる。遺物は金属製品の鉄滓（032）が出土している。

SK108（図面020）：平面形態は不整形で、西側をSD017に切られる。規模は長径2.05m、短径1.96m以上、深さ0.25mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK109（図面020）：平面形態は不整形で、SK090・SK112を切り、SD030・SK082に切られる。規模は長径2.6m、短径0.89m以上、深さ0.46mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト炭化物少量混、第2層：褐灰色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器が出土している。

SK110（図面020）：平面形態は不整形で、西側をSD017に切られる。規模は長径1.73m、短径0.49m以上、深さ0.41mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK111（図面020）：平面形態は不整形で、SK186を切る。規模は長径2.19m、短径1.71m、深さ0.23mを測る。覆土はaセクションでは第1層：（10YR5/2）灰黄褐色シルト、第2層：（10YR4/2）灰黄褐色シルトとなり、bセクションで灰黄褐色シルトの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK112（図面021）：平面形態は不整形で、SD020・SD026・SK109に切られる。規模は長径2.67m、短径2.12m、深さ0.5mを測る。東端に大礫が集石する。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器が出土している。

SK113（図面021）：平面形態は隅丸方形で、SK066を切り、SK058・SD001に切られる。規模は一辺4.4～4.54m、深さ0.63mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂を基調とする14層から構成され、鉄・炭化物少量混となる。遺物は中世土師器、金属製品では板状鉄製品（011）が出土している。

SK114（図面021）：平面形態は不整形で、SD020を切り、SK074に切られる。規模は長径3.34m、短径2.66m、深さ0.06mを測る。覆土はa・b共に褐灰色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK115（図面011）：平面形態は不整形で、規模は長径2.82m、短径1.77m、深さ0.18mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト炭化物少量混、第2層：暗褐色粘質シルト炭化物混となる。遺物は金属製品の釘（005）が出土している。

溝

SD001（図面004・022）：不整形の溝で、両端とも壁で消失している。確認できる長さは47.0m、最大幅1.0m、最大深0.22mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はa、bセクションが灰黄褐色シルトの単層、cセクションがにぶい黄褐色砂質シルトの単層、dセクション第1層：灰黄褐色砂質シルト、第2層：灰黄色砂質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SD002（図面004・022）：南北に延びる溝で両端とも壁で消失している。確認できる長さは40.0m以上、最大幅2.2m、最大深0.18mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はa、b、c、d各セクションともに灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD003（図面004・022）：北東から南西方向に延びる直線的な溝であり、両端とも消失している。SK036を切り込みSK041に切られる。長さは5.6m、最大幅0.8m、最大深0.09mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はオリーブ褐色粘質シルトの単層である。出土遺物は金属製品の棒状鉄製品（006）が認められる。

SD004（図面004・022）：北東から南西方向に延びる直線的な溝で、両端とも消失している。途中土坑に切られる。SD004～SD007の4条の溝が同方向に併走している。長さは1.9m、最大幅0.3m、最大深0.15mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD005（図面004・022）：SD004の西側に併走する直線的な溝であり、両端とも消失する。長さ1.65m、最大幅0.35m、最大深0.15mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SD006（図面004・022）：直線的な溝であり、両端とも消失する。長さは1.1m、最大幅は0.3m、最大深は0.16mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトからなる。出土遺物は認められない。

SD007（図面004・022）：SD006の西側に併走する直線的な溝で、両端とも消失する。長さは1.55m、最大幅は0.35m、最大深は0.16mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SD008（図面004・022）：北西から南東方向に直線的に延びる溝で、両端とも消失している。SD013を切り込んでいる。長さは5.7m、最大幅0.5m、最大深0.2mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD009（図面004・022）：東西に延びる小溝で両端とも消失している。長さは1.4m、最大幅0.5m、最大深0.11mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD010（図面006・022）：確認できる長さは6.3m、最大幅1.2m、最大深0.07mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はにぶい黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SD011（図面006・022）：平面形態は直線的で東西に延びる小溝で、両端とも消失している。SD012を切り込む。長さは0.8m、最大幅は0.3m、最大深は0.34mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黒褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD012（図面006・022）：調査区北側で南北に延びる不整形の溝である。北側は調査区外に続いており南端はSD011に切られる。確認できる長さは4.2m以上、最大幅0.8m、最大深0.29mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第1層：灰黄褐色シルト、第2層：黒褐色砂質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SD013（図面004・022）：長方形の区画溝であり、南西隅で西側に抜け調査区外に延びている。SE01に切られ、途中SD001・SD002に切られている。確認できる長さは73.0m以上、最大幅2.5m、最大深0.18mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は、a、b、c、dセクションとも灰黄褐色粘質シルトからなる。遺物は認められない。

SD014（図面005・022）：調査区東側を南北に横断し、調査区外に延びる直線的な溝である。SD016に併走しSD015を切り込む。確認できる長さは23.0m以上、最大幅1.2m、最大深0.11mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はにぶい黄褐色砂である。出土遺物は中国製白磁の碗（495）、珠洲の壷（502）が認められる。

SD015（図面005・022）：南北に延びる溝で両端とも壁に切られている。確認できる長さは22.0m以上、最大幅3.5m、最大深0.72mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は中世土師器（496）、陶磁器、珠洲、八尾がある。

SD016（図面005・022）：SD014の西側に併走する不整形の溝である。北側は調査区外に続き、SD015を切り込みながら南北に延びて、南端は消失している。確認できる長さは21.2m以上、最大幅1.6m、最大深0.35mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はaセクションで第1層：灰黄褐色砂質シルト、第2層：黒褐色砂質シルト、第3層：灰黄褐色砂質シルトからなり、bセクションでにぶい黄褐色砂質シルトを基調とする5層からなる。出土遺物は認められない。

SD017（図面007・023）：SD018の東側を南北に併走している不整形の溝である。北端はSK095に切られ、南端は調査区外に延びる。SD020・SD027を垂直に切り込み、SK102・SK105・SK108・SK110を切る。確認できる長さは32.8m以上、最大幅0.6m、最大深0.13mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はa、bセクションとも褐灰色シルトとなる。出土遺物は越中瀬戸の皿（497）、中世土師器、珠洲が認められる。

SD018（図面007・023）：西壁沿いに調査区を南北に走る不整形の溝で、両端とも調査区外に広がる。SD017が併走しており、確認できる長さは36.0m以上、最大幅1.7m以上、最大深0.84mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はaセクションでは灰黄褐色粘質シルト炭化物少量混を基調とする6層から構成され、bセクションでは灰黄褐色シルト炭化物少量混を基調とする4層からなる。出土遺物は越中瀬戸天目茶碗（498）、中世土師器、珠洲、瀬戸美濃、八尾が認められる。

SD019（図面007・023）：平面形態は不整形で、西端は消失し、東端はSD021・SD028に切られる。長さは5.0m、最大幅は1.8m、最大深0.18mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は灰黄褐色シルト炭化物少量混の単層となる。出土遺物は中国製白磁が認められる。

SD020（図面007・023）：平面形態は不整形で調査区東側沿いから調査区外に広がり南北に延びる。北端は調査区外に続き、南端は消失する。途中SD030・SK091を切り込む。確認できる長さは14.5m以上、最大幅1.1m以上、最大深0.19mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は褐灰色シルトである。出土遺物は金属製品の棒状鉄製品（007・008）、中世土師器、珠洲、越中瀬戸が認められる。

SD021（図面007・023）：L字形の区画溝で、東西に延び、東側で南に折れて南北に走る。西端はSD017、SK095に切られ、途中SD024～SD028を切っており、SK114に切られる。南端は南側壁付近の溝

に切られる。長さ36.5m、最大幅0.6m、最大深0.33mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はa、bセクションとも第1層：(10YR4/2) 灰黄褐色シルト、第2層：(10YR5/2) 灰黄褐色シルトからなり、cセクションでは灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は珠洲が認められる。

SD022（図面007・023）：北側にSD023・SD030・SD031が併走しているL字形の溝である。西端はSK095に切られ、南端はSD031に切られる。途中SK097に切られる。長さ25.5m、最大幅0.5m、最大深0.15mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はa、bセクションとも灰黄褐色シルトとなる。出土遺物は金属製品の鉄滓（033・034）が認められる。

SD023（図面007・023）：平面形態はL字形で一つの溝が途中でSD022とSD030に分かれ、また合流している。西端はSK095に切られ、南端は消失している。途中併走しているSD031に切り込まれる。長さ18.5m、最大幅0.4m、最大深0.17mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は各セクションとも灰黄褐色シルトからなる。出土遺物は金属製品の鉄滓（035）が認められる。

SD024（図面007・023）：SD025の北側を併走し東西に直線的に延びる溝である。西端は消失し東端はSK082に切られる。途中SD021に切られる。長さは5.0m、最大幅0.5m、最大深0.19mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD025（図面007・023）：SD026の北側を併走し東西に直線的に延びる溝である。西端は消失し、途中SD021切られ、東端はSK082に切られる。長さ8.2m、最大幅0.3m、最大深0.1mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトからなる。出土遺物はが認められない。

SD026（図面007・023）：東西に直線的に延びる溝で、SD024・SD025に併走している。西端はSK094に切られ、東端はSD020に切られる。途中SK080を切り、SD021に切られる。長さ8.6m、最大幅0.35m、最大深0.09mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD027（図面007・023）：平面形態は不整形で北東端はSD022に切られ、南西端はSK083～SK085に切られる。途中SD021に切られる。長さ10.2m、最大幅1.6m、最大深0.14mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はa、bセクションともにぶい黄褐色砂となる。出土遺物は認められない。

SD028（図面007・023）：調査区を東西に横断する直線的な溝である。西端はSD017に切られ、東端はSD020に切られる。途中SD021に切られる。長さは12.0m、最大幅0.4m、最大深0.14mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は珠洲が認められる。

SD029（図面007・023）：平面形態は不整形の小溝であり、西端、南東端とも消失している。長さ2.4m、最大幅0.8m、最大深0.08mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はaセクションでは黒褐色シルト、bセクションでは黒褐色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SD030（図面007・023）：平面形態はL字形でSD023と途中分かれて二股になるがまた合流して一本の溝になっている。西端はSK095に切られ、南端は消失している。途中SD031に切り込まれている。長さ18.5m、最大幅0.4m、最大深0.13mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は各セクションとも灰黄褐色シルトからなる。出土遺物は棒状銅製品（001）が認められる。

SD031（図面007・023）：平面形態はL字形で、北西側調査区外から東西に延び、東側で南に折れて南北に延びる溝である。南端はSD020に切られる。SD022・SD023・SD030が併走しており、途中SD023を切り込む。確認できる長さは28.0m以上、最大幅1.8m、最大深0.7mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はa、b、cセクションとも灰黄褐色シルトを基調とする3層～4層からなる。出土遺物は中世土師器、珠洲、八尾が認められる。

（2）古代の遺構

古代の遺構は竪穴住居24棟、多数の土坑と溝、その他に谷、畑のさく状遺構などを検出した。遺構の分布はY405～Y435とX80～X110にかけて分布密度が高い。竪穴住居の大半はほぼ同じ向きを示している。これら竪穴住居には3回以上の重複関係があり、8世紀後半～10世紀代の間に5～6棟の建物群が3期以上の変遷を経て存続していたことを確認した。畑はさく状にそれぞれ平行に一定の間隔および長さを保持している。ほぼ同時期の建物がSD164を挟んで西側部分の竪穴規模が東側に比べやや小型になる状況や、生産場所である畑が建物群に隣接している景観なども窺えることができた。主に竪穴住居、谷から古代の遺物が出土している。以下にこれらの遺構について概述していく。

竪穴住居

SI01（図面028）：A1地区北端に位置する。SI02・SD101に切られ、北側の半分以上が調査区外となる。平面形態は方形と推定され、一辺5.85m程度、掘方までの深さ0.4m、検出された床面積は7.02㎡を測る。主軸方位はN77°Wとなる。竪穴の覆土はにぶい黄褐色砂質シルトを基調とする7層から構成される。遺構の東側隅にカマドを持つが、袖材は一部のみの残存である。カマドの規模は幅0.5m、長さ1.2m程度と推測される。カマドの覆土は暗褐色砂質シルトの焼土炭化物多量に混を基調とする。遺物は須恵器壷（002）、須恵器杯（001）、土師器甕（004～009）、土師器鍋（017・018）、黒色土器の椀（003）が出土している。

SI02（図面028）：A1地区北端に位置し、SI01を切る。平面形態は隅丸方形を呈し、一辺3.45～3.75m、掘方までの深さ0.18～0.3m、検出された床面積は11.5㎡を測る。主軸方位はN52°Wとなる。壁面の立ち上がりは傾斜を持つ。竪穴の覆土は第1層：暗灰黄色砂質シルト炭化物混、第2層：暗オリーブ褐色砂質シルト炭化物少量混、第3層：黄褐色砂質シルトに分層される。北端隅に炭化物と焼土が広がるが、SD101・SD103・SD104などの遺構に撹乱されており、カマドの規模など詳細は不明。カマドの覆土は褐色砂質シルトの焼土炭化物が多量に混を基調とする。遺物は須恵器杯蓋（010～012）、須恵器杯A（013～016）、土師器甕（019～029）、金属製品では棒状鉄製品（013）、刀子（019）、鉄滓（054）が出土している。

SI03（図面029）：平面形態は隅丸方形を呈し、一辺2.63m程度、深さ0.15～0.25m、検出された床面積は4.97㎡を測る。壁面の立ち上がりは北東側ではやや傾斜を持ち、南西側では溝群との重複が激しくはっきりしない。竪穴の覆土は第1層：暗灰黄色砂質シルト、第2層：黒褐色粘質シルト炭化物・焼土ブロック混、第3層：黄褐色砂質シルトに分層される。遺構内北西側に焼土・炭化物が広がるが、カマドおよび付属施設は確認されない。遺物は須恵器の壷（030）、土師器杯（031・032）、土師器甕（033～036）が出土している。

SI04（図面029）：平面形態は隅丸方形を呈し、一辺2.9m以上、深さ0.1～0.2m、検出される床面積は10.7㎡を測る。壁面の立ち上がりは南西側では溝群との重複が激しくはっきりしないが、緩やかな傾斜を持つと思われる。竪穴の覆土は第1層：暗灰黄色砂質シルト、第2層：黄褐色砂質シルト、第3層：黒褐色粘質シルト炭化物・焼土ブロック混に分層される。カマドおよび付属施設は確認されないが、遺構の北側、SD103との重複部分に炭化物・焼土が広がり、袖石の一部と考えられる直径20～25㎝の石が見つかった。遺物は須恵器杯B（038～040）、須恵器杯（037）、土師器杯（041～045）が出土している。

SI05（図面030）：平面形態は隅丸方形を呈し、一辺2.75m程度、掘方までの深さ0.17～0.46m、床面積約5.0㎡を測る。主軸方位はN1°Eとなる。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土は黄

褐色砂質シルトを基調とする５層から構成される。遺構の南側にカマドをもつが、SI06・SD118・SD121・SD152に切られ規模などの詳細は不明。カマド周辺の覆土は黄褐色砂質シルト焼土・炭化物混を基調とする。遺物は須恵器甕（059）、土師器甕（055～058）が出土している。

SI06（図面030）：SI04・SI05より新しい竪穴住居である。平面形態は隅丸方形を呈し、一辺2.65～3.2m、掘方までの深さ0.25～0.35m、床面積はおおよそ7.9㎡を測る。主軸方位はＮ１°Ｅとなる。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする４層から構成される。遺構の南側にカマドをもつが、SD118と重複するため規模などの詳細は不明。カマド周辺の覆土は黒褐色砂質シルトを基調とする焼土からなる。遺物は土師器が出土している。

SI07（図面031）：Ａ１地区北側中央に位置し、SI08・SD114に切られる。平面形態は隅丸長方形を呈し、一辺3.6～4.2m、掘方までの深さ0.25～0.45m、床面積16.1㎡を測る。主軸方位はN26°Ｅとなる。壁面の立ち上がりは傾斜を持つ。竪穴の覆土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする４層から構成される。カマドは南東隅側部分に構築されている。カマドの袖および天井部に利用された石が崩れこんだ状態で検出されているが、カマドの規模は長さ1.0m、幅0.45m程度と推定される。覆土は黄灰色砂質シルト酸化鉄沈着を基調とする。遺物は須恵器杯（046・047）、須恵器甕（054）、土師器甕（048～053）、金属製品では刀子（020）、棒状鉄製品（022）が出土している。

SI08（図面032）：Ａ１地区北側部分の中央に位置し、SI07を切りSI09・SD120に切られる。平面形態は隅丸方形を呈し、一辺3.7m、掘方までの深さ0.2～0.4m、床面積11.2㎡を測る。主軸方位はN25°Ｅとなる。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土は黄褐色砂質シルトを基調とする４層から構成される。遺構の北西隅に焼土集中部分がありSI07との重複部分となるが、カマドの規模は長さ0.7m、幅0.4m程度と推定される。覆土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする焼土から構成される。遺物は須恵器杯蓋（063～065）、須恵器壷（062）、土師器甕（060・066～081）、土師器鍋（061）が出土している。

SI09（図面033）：Ａ１地区北側部分の中央に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、一辺4.3～4.5m、掘方までの深さ0.3m、床面積13.0㎡を測る。主軸方位はN23°Ｗとなる。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土は第１層：黒褐色砂質シルト炭化物多量に混、第２層：黄褐色砂質シルト炭化物微量に混となる。カマドは屋内南東隅に構築されていて、主軸方位はN72°Ｗとなる。竪穴外へ東に伸びる煙道は1.0m突出している。袖石は一部のみの残存であるが、カマドの規模は主軸長0.95m、幅0.35mと推定される。覆土は黄灰色砂質シルト炭化物混を基調とする。カマド前には炭化物・焼土が集中しており、遺物は須恵器杯蓋（082～084）、須恵器壷（090）、須恵器杯Ａ（086・088・089）、杯（085）、土師器甕（091～093）、土師器杯（087）、土師器鍋（094）が、金属製品では鉄滓（057）が出土している。

SI10（図面034）：Ａ１地区北側隅に位置するが、その大半は調査区外となるため規模や形態は不明で、カマドを中心とした一部のみの約3.7㎡の検出となる。竪穴の覆土は暗灰黄色砂質シルトを基調とする５層から構成される。カマドは南西隅に構築されており、主軸方位はN76°Ｗ、竪穴外へ伸びる煙道は0.85m突出している。カマドの規模は主軸長1.1m、幅0.6m程度と推測される。カマドの覆土はにぶい黄褐色砂質シルトを基調とする焼土からなる。カマド前には炭化物層が広がるが、袖材などは確認できない。遺物は須恵器杯（095）、黒色土器椀（112・113）、土師器甕（096～098）が出土している。

SI11（図面034）：Ａ１地区ほぼ中央部分に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、一辺3.2～3.4m、

竪穴掘方までの深さ0.14～0.35m、床面積10.6㎡となる。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土は第1層：灰褐色砂質シルト炭化物混、第2層：灰黄褐色砂質シルト炭化物混、第3層：暗灰黄色砂質シルトとなる。カマドは北東隅に構築されている。主軸方位はN85°Eとなる。カマドの規模は幅0.7m程度、主軸長は1.6m程度、煙道は竪穴外へ0.6m突出している。カマドの覆土はにぶい赤褐色砂質シルトを基調とする焼土からなる。カマド右脇部分には炭化物層が広がり、遺物は燃焼部内・カマド周辺から須恵器杯A（103・104）、須恵器杯蓋（099）が、竪穴内覆土から須恵器壷（106・107）、須恵器杯蓋（100・101）、須恵器杯（102）、杯A（108）、杯B（105）、土師器杯（109）、土師器甕（110・111）、金属製品の棒状鉄製品（015）、鉄鏃（017）、刀子（018）が出土している。

SI12（図面035）：A1地区ほぼ中央に位置し、SI13・SI14に切られる。平面形態は隅丸方形を呈し、一辺3.7m程度、掘方までの深さ0.35～0.7m、床面積8.8㎡が検出された。壁面の立ち上がりは傾斜を持つ。竪穴の覆土は暗灰黄色砂質シルト炭化物混を基調とする4層から構成される。カマドは東壁側の中央位置に構築されている。主軸方位はN60°Wとなる。カマドの規模は幅0.6mで、竪穴外へ伸びる煙道は0.3m突出している。燃焼部での袖間の幅は0.3mで、左袖に2個、右袖に2個の長径20㎝ほどの自然礫を袖補強材としている。カマドの覆土は黄灰色砂質シルト炭化物混を基調とする。カマド前には炭化物層が広がり、遺物は燃焼部内・カマド周辺から須恵器杯B（117～119）、須恵器杯蓋（115）が、竪穴内覆土から須恵器杯蓋（114）、須恵器杯A（116）、土師器が、金属製品では鉄鏃（014）が出土している。

SI13（図面035）：A1地区ほぼ中央に位置し、SI12を切る。平面形態は隅丸方形を呈し、一辺3.2～3.55m、掘方までの深さ0.29～0.47m、床面積11.2㎡を測る。壁面の立ち上がりは傾斜を持つ。竪穴の覆土は暗灰黄色砂質シルト炭化物少量混を基調とする4層から構成される。カマドは南東隅に構築されている。主軸方位はN54°Wとなる。カマドの規模は幅0.65mで、主軸長は1.1m、竪穴外へ伸びる煙道は0.3m突出している。燃焼部での袖間の幅は0.3mで、カマド奥側に長径30㎝の大型の礫を、手前側に約15㎝の小型の礫を左右一対で並べている。カマドの覆土は暗灰黄色砂質シルト炭化物・焼土混を基調とする。カマド前には炭化物層が広がり、遺物は燃焼部内・カマド周辺から土師器鍋（132・156）、土師器甕（123・125・127）が、竪穴内覆土から須恵器壷（120）、土師器甕（122・124・126・128・129）、土師器鍋（130・131）、黒色土器の椀（121）が出土している。

SI14（図面036）：平面形態は方形を呈し、一辺3.1m、掘方までの深さ0.18m、床面積8.5㎡を測る。主軸方位はN38°Wとなる。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土は第1層：オリーブ褐色砂質シルト、第2層：暗灰黄色砂質シルトとなる。カマドは確認されない。遺物は土師器鍋（157）が出土している。

SI15（図面036）：A1地区ほぼ中央に位置する。平面形態は方形を呈し、一辺3.0～3.4m、掘方までの深さ0.14～0.3mを測る。主軸方位はN34°Eとなる。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土は第1層：にぶい黄褐色砂質シルト、第2層：暗褐色砂質シルト炭化物混となる。カマドは北壁部分に構築されるが袖材は確認されない。カマドの規模は主軸長0.75m、幅0.4m程度と推定される。カマドの覆土は灰黄褐色砂質シルト炭化物多量に混を基調とする。遺物は土師器甕（142～145）、須恵器が出土している。

SI16（図面037）：A4地区北側に位置する建物群である。平面形態は隅丸方形を呈し、一辺3.0m、掘方までの深さ0.06m、床面積9.8㎡を測る。主軸方位はN3°Wとなる。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土は第1層：褐色砂質シルトを基調とする焼土、第2層：黄褐色砂質シルト炭化物・

焼土ブロック混となる。遺構の南東隅は焼土が広がっており、長さ1m、幅0.5m程度のカマドがあったと推測される。カマドの覆土は褐色砂質シルト焼土ブロック混となる。遺物は須恵器杯蓋（133）、土師器鍋（158）が出土している。

SI17（図面037）：A4地区北側に位置する建物群である。西側が調査区外となるため竪穴の規模ははっきりしないが、径3.1m以上、掘方までの深さ0.2mを測る方形プランと考えられる。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土は第1層：にぶい黄褐色シルト、第2層：にぶい赤褐色シルトに褐色砂多量に混、第3層：にぶい黄褐色シルトに分層される。遺構の東側は焼土が広がっており、長さ1m、幅0.7m程度のカマドがあったと思われる。遺物は須恵器杯B（134）、土師器鍋（140）、土師器甕（141・149）が出土している。

SI18（図面038）：A4地区北側に位置する建物群である。北・西側部分がSD17・SD21と重複するためカマド部分のみの検出となる。竪穴の規模や形態は不明、掘方までの深さ0.14mを測る。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土は黄褐色シルトににぶい黄褐色砂少量混となる。カマドは遺構の東側に構築されるが袖材などは検出されない。カマドの規模は主軸長1.1m、幅0.55mで、覆土はにぶい赤褐色シルトを基調とする焼土炭化物少量混から構成される。遺物は土師器鍋（159）、須恵器が出土している。

SI19（図面038）：A4地区中央部に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、一辺2.45m、掘方までの深さ0.25m、床面積6.9㎡を測る。主軸方位はN2°Eとなる。壁面の立ち上がりははっきりとした傾斜を持つ。竪穴の覆土は黄褐色砂質シルトとなる。遺構内の南側に焼土が広がり、カマドと推定されるが規模は不明。カマド周辺の覆土は第1層：明赤褐色シルト炭化物多量に混、第2層：オリーブ褐色シルト炭化物混となる。遺物は土師器甕（150）、須恵器が出土している。

SI20（図面039）：A4地区北端に位置する建物群である。平面形態は隅丸方形を呈し、一辺3.4m、掘方までの深さ0.25mを測る。主軸方位はN18°Wとなる。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土は灰黄色砂質シルトを基調とする4層から構成される。カマドは南壁の中央に構築されている。カマドの規模は長さ1m、幅0.8m程度である。カマドの覆土は褐色砂質シルト炭化物少量混となる。カマド前には炭化物層が広がり、遺物は燃焼部内・カマド周辺から須恵器の甕（151）が、竪穴内覆土から土師器の甕（152）が出土している。

SI21（図面039）：A4地区北側中央に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、一辺3.1～3.3m、掘方までの深さ0.07m、床面積8.3㎡を測る。主軸方位はN71°Eとなる。壁面の立ち上がりははっきりとした傾斜を持つ。竪穴の覆土はオリーブ褐色砂質シルト炭化物混となる。カマドは西側壁の中央位置に構築されている。袖材などは検出されないが、カマドの規模は幅0.8m、主軸長は1.2m程度で竪穴外へ突出している。カマドの覆土はオリーブ褐色砂質シルトに焼土混を基調とする。遺物は燃焼部内・カマド周辺から土師器の甕（146～148）、須恵器が出土している。

SI22（図面040）：A4地区中央部に位置する。SD163と重複するため竪穴の規模や形態は不明で、掘方までの深さ0.2m、検出された床面積は4.9㎡を測る。主軸方位はN78°Eとなる。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土は灰黄褐色細砂炭化物混となる。カマドは竪穴の西側に構築されているが袖材などは検出されない。規模は幅約0.5mで、長さは0.8m程度、覆土は灰黄褐色砂質シルト炭化物混を基調に構成される。遺物は須恵器の杯（135）、緑釉陶器の椀（136）、金属製品の金環（021）、土師器が出土している。

SI23（図面040）：A4地区中央部に位置する。遺構の大部分がSD163と重複するため竪穴やカマドの

形態や規模は不明であるが、掘方までの深さ0.22m、主軸方位はN39°Eとなる。壁面の立ち上がりはなだらかである。竪穴の覆土は第1層：灰黄褐色砂質シルト炭化物多量に混、第2層：にぶい黄褐色シルトとなる。遺物は土師器、須恵器が出土している。

SI24（図面040）：A4地区南に位置する。その大部分がSD163と重複するため竪穴の規模や形態は不明で、カマドの煙道部分のみの検出となる。竪穴の掘方までの深さは0.21mを測り、竪穴の覆土は灰オリーブ粘質シルトとなる。カマドの規模は幅0.8mで、煙道の長さは0.65mとなる。カマドの覆土はオリーブ黒色シルト炭化物少量混、煙道部の覆土は黄褐色砂質シルト炭化物多量に混からなる。遺物は須恵器の杯（137）、杯A（138）、土師器の甕（139・153～155）、金属製品の鉄滓（055・056）が出土している。

掘立柱建物

SB10－SP104～SP112（図面024）：調査区のほぼ中央に位置する。梁行2間（4.9m）、桁行3間（6.8m）の側柱建物で、棟方位はN69°Eとなる。柱間距離は梁行2.1～2.4m、桁行2.2～2.3mである。柱穴形態は円～楕円形で、柱穴規模は0.39～0.85m、深さ0.12～0.35mを測る。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルト炭化物混を基調とする。出土遺物は認められない。

土坑

SK201（図面041）：平面形態は楕円形で、SD128に切られる。規模は長径0.73m、短径0.53m、深さ0.02mを測る。覆土は第1層：にぶい黄褐色シルト、第2層：灰黄褐色シルト炭化物少量混となる。遺物は土師器が出土している。

SK202（図面041）：平面形態は不整形で、規模は長径0.85m、短径0.6m、深さ0.2mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト、第2層：にぶい黄褐色砂となる。遺物は須恵器、土師器が出土している。

SK203（図面041）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.92m、短径0.7m、深さ0.48mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト、第2層：黒褐色シルト、第3層：にぶい黄褐色砂鉄少量混に分層される。遺物は須恵器、土師器が出土している。

SK204（図面041）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺0.99m、短辺0.8m、深さ0.26mを測る。覆土は灰黄褐色シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK205（図面041）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.48m、短径0.32m、深さ0.1mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK206（図面041）：平面形態は円形で、規模は径0.87m、深さ0.08mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は須恵器、土師器が出土している。

SK207（図面041）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.8m、短径0.38m、深さ0.09mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK208（図面041）：平面形態は楕円形で、SK209に切られる。規模は長径0.86m、短径0.68m、深さ0.12mを測る。覆土は第1層：暗赤褐色シルトを基調とする焼土、第2層：暗灰黄色シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK209（図面041）：平面形態は円形で、SK208を切る。規模は径0.69m、深さ0.23mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト、第2層：にぶい黄褐色砂となる。遺物は須恵器杯B（160）、土師器が出土している。

SK210（図面041）：平面形態は円形で、規模は径0.42m、深さ0.13mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK211（図面041）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.7m、短径0.25m、深さ0.1mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK212（図面041）：平面形態は楕円形で、SI07を切る。規模は長径0.65m、短径0.35m、深さ0.15mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK213（図面041）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.62m、短径0.27m、深さ0.08mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK214（図面041）：平面形態は楕円形で、SD109を切って開放。規模は長径0.45m以上、短径0.4m、深さ0.1mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK215（図面041）：平面形態は不整形で、規模は長径0.56m以上、短径0.27m、深さ0.11mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK216（図面041）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.47m、短径0.32m、深さ0.1mを測る。覆土は灰黄褐色粘質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK217（図面041）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.65m、短径0.55m、深さ0.18mを測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK218（図面041）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.62m、短径0.22m、深さ0.18mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂のみの単層となる。遺物は土師器の甕（165）が出土している。

SK219（図面041）：平面形態は不整形で、SD012に切られる。規模は長径0.56m以上、短径0.5m、深さ0.14mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト、第2層：暗褐色シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK220（図面041）：平面形態は不整形で、南東側は調査区外に広がる。規模は長径0.78m、短径0.36m以上、深さ0.1mを測る。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK221（図面041）：平面形態は不整形で、SD120を切る。規模は長径1.48m、短径1.14m、深さ0.22mを測る。覆土は灰黄褐色シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK222（図面041）：平面形態は楕円形で、長径0.78m、短径0.62m以上、深さ0.31mを測る。覆土は第1層：（10YR4/2）灰黄褐色シルト、第2層：（10YR3/3）灰黄褐色シルト、第3層：暗褐色シルトに分層される。遺物は土師器が出土している。

SK223（図面041）：平面形態は楕円形で規模は長径0.91m、短径0.72m、深さ0.34mを測る。覆土は第1層：（10YR4/2）灰黄褐色粘質シルト炭化物少量混、第2層：（10YR5/2）灰黄褐色粘質シルト、第3層：にぶい黄褐色砂に分層される。遺物は土師器が出土している。

SK224（図面042）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.46m、短径0.4m、深さ0.21mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色砂質シルト炭化物混、第2層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器甕（178）が出土している。

SK225（図面042）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.49m、短径0.35m、深さ0.18mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色砂質シルト炭化物混、第2層：黄褐色砂質シルトとなる。遺物は須恵器が出土している。

SK226（図面042）：平面形態は不整形で、SD153に切られる。規模は長径0.45m、短径0.36m、深さ0.16mを測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルト炭化物混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK227（図面042）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.34m、短径0.21m、深さ0.27mを測る。覆土

は第１層：オリーブ褐色砂質シルト、第２層：暗オリーブ褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK228（図面042）：平面形態は円形で、規模は径0.31m、深さ0.15m を測る。覆土は第１層：暗オリーブ褐色砂質シルト、第２層：オリーブ褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK229（図面042）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.4m、短径0.35m、深さ0.21m を測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトのみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK230（図面042）：平面形態は不整形で、規模は長径0.6m、短径0.35m、深さ0.22m を測る。覆土は暗オリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK231（図面042）：平面形態は楕円形で、SI08に切られる。規模は長径0.4m 以上、短径0.35m、深さ0.24m を測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂質シルト、第２層：にぶい黄褐色砂質シルトとなる。遺物は土師器が出土している。

SK232（図面042）：平面形態は楕円形で、長径0.6m、短径0.5m、深さ0.36m を測る。覆土は第１層：暗灰黄色砂質シルト、第２層：黒褐色シルト炭化物混、第３層：オリーブ褐色砂質シルト炭化物混に分層される。遺物は土師器が出土している。

SK233（図面042）：平面形態は不整形で、SI09内に位置する。規模は長径0.4m、短径0.3m、深さ0.09m を測る。覆土は黒褐色砂質シルト炭化物多量に混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK234（図面042）：平面形態は楕円形で、長径0.95m、短径0.55m、深さ0.3m を測る。覆土は第１層：暗オリーブ褐色砂質シルト炭化物多量に混、第２層：オリーブ褐色砂質シルト炭化物混、第３層：黄褐色砂質シルトに分層される。遺物は須恵器、土師器が出土している。

SK235（図面042）：平面形態は楕円形で、SI07内に位置し、西側をトレンチに切られる。規模は長径0.75m 以上、短径0.7m、深さ0.08m を測る。覆土は第１層：青黒色粘土炭化物混、第２層：黒褐色砂質シルト炭化物混となる。遺物は土師器甕（166）が出土している。

SK236（図面042）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.65m、短径0.75m、深さ0.25m を測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルト炭化物混を基調とする４層から構成される。遺物は須恵器杯Ｂ（162）、土師器が出土している。

SK237（図面042）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.95m、短径0.8m、深さ0.15m を測る。覆土は暗灰黄色砂質シルト炭化物少量混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK238（図面042）：平面形態は不整形で、SD161に切られる。規模は長径2.7m、短径0.85m、深さ0.17m を測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK239（図面042）：平面形態は不整形で、西側を SD144に切られる。規模は長径1.9m、短径1.6m 以上、深さ0.4m を測る。覆土は第１層：黄褐色砂質シルト、第２層：オリーブ褐色粘質シルトとなる。遺物は須恵器杯Ｂ（161・163）、須恵器杯Ａ（164）、土師器が出土している。

SK240（図面042）：平面形態は円形で、規模は径0.7m、深さ0.11m を測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

溝

SD101（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北西から南東方向に延びている。北西側は調査区外に続き、SI01・SI02を切り込んで消失している。確認できる長さは2.8m 以上、最大幅0.35m、最大深0.12m を測る。断面形態はＵ字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シル

ト炭化物少量混の単層である。出土遺物は認められない。

SD102（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝である。北西から南東に同方向で延びる畑が併走している。平面形態は直線的で北西調査区外から南東に延びる。南東端はSI02を切って消失する。確認できる長さは5.3m以上、最大幅0.6m、最大深0.16mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層である。出土遺物は須恵器杯A（167）、土師器が認められる。

SD103（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北西調査区外から南東方向に延びる。確認できる長さは7.4m以上、最大幅0.4m、最大深0.17mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD104（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北西調査区外から南東方向に延びる。確認できる長さは14.4m以上、最大幅0.6m、最大深0.27mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第1層：（10YR4/2）灰黄褐色シルト、第2層：（10YR5/2）灰黄褐色シルトからなる。出土遺物は須恵器甕（179）、土師器が認められる。

SD105（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北西から南東方向に延び、両端とも消失している。長さは7.4m、最大幅0.4m、最大深0.13mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD106（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は不整形で北西調査区外から南東方向に延び、消失している。確認できる長さは16.0m以上、最大幅3.0m、最大深0.25mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は須恵器の杯蓋（168）、須恵器の杯（169）、須恵器の杯A（170・171）、土師器、金属製品では棒状鉄製品（016）、鉄滓（051・052）が認められる。

SD107（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で西側調査区外から南東方向に延びる。南東端は消失している。確認できる長さは10.8m以上、最大幅0.6m、最大深0.22mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第1層：灰黄褐色シルト炭化物少量混、第2層：灰黄褐色シルトとなる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD108（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北西から南東方向に延び、両端とも消失している。長さ2.4m、最大幅0.5m、最大深0.14mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は須恵器の壷（182）、土師器が認められる。

SD109（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は不整形でSD108に併走して北西から南東方向に延びる。両端とも消失している。東端でSK214に切り込まれる。長さ4.4m、最大幅0.9m、最大深0.11mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD110（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は不整形で東西に延び、両端とも消失している。長さは1.3m、最大幅0.35m、最大深0.11mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD111（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は不整形で途中SI03を切り込み、途切れ、南東方向に続き、SD113に合流している。長さ4.5m、最大幅0.6m、最大深0.18mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器、金属製品の鉄滓（053）が認められる。

SD112（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は不整形で北西端、南東端とも

消失している。長さ3.8m、最大幅0.6m、最大深0.14mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は土師器杯A（183）が認められる。

SD113（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は不整形で北西端は消失し、南東に延びてSD111に合流している。長さは4.0m以上、最大幅0.6m、最大深0.04mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD114（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北西から南東方向に延びる。北西端はSI07を切り込み消失し、南東端は消失している。長さは5.8m、最大幅0.4m、最大深0.12mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD115（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は不整形で東西に延びている。西端はSD163に切られ開放しており、東端は消失している。長さ4.3m、最大幅1.0m、最大深0.11mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD116（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は不整形で西側調査区外より南東に延び逆L字形に折れてSD117に切られる。確認できる長さは11.5m以上、最大幅0.13m、最大深0.21mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は須恵器の杯A（172・173）、土師器が認められる。

SD117（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。西端はSI06を切り込み開放、東端はSD116を切って消失している。長さは5.3m、最大幅0.9m、最大深0.29mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第1層：（10YR4/2）灰黄褐色シルト、第2層：にぶい黄褐色砂、第3層：（10YR5/2）灰黄褐色シルトとなる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD118（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。SD119の南側で北西から南東方向に直線的に延び、途中SI05・SI06を切り込み、SD152・SD144を切っている。北西側は調査区外に延びており、東端は消失している。確認できる長さは7.8m以上、最大幅0.7m、最大深0.17mを測る。断面形態はU字形～不整形を呈し、覆土は第1層：灰黄褐色シルト炭混、第2層：灰褐色シルトとなる。出土遺物は須恵器の杯（174）、須恵器の杯B（175）、土師器の甕（180）がある。

SD119（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北西側は調査区外に延びており、東端は消失している。確認できる長さは2.5m以上、最大幅0.4m、最大深0.15mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD120（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北西から南東方向に延びる。北西端はSI08を切り込んで消失し、南東端はSK221に切られる。長さは2.5m、最大幅0.6m、最大深0.19mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD121（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北西から南東方向に延びている。北西側は調査区外に続き、東端は消失している。途中SD138・SD140～SD143を切る。確認できる長さは6.7m以上、最大幅0.5m、最大深0.32mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色粘質シルトの単層である。出土遺物は須恵器の杯B（176）、土師器が認められる。

SD122（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。SD120の南側に併走し、両端とも消失している。長さは2.5m、最大幅0.5m、最大深0.01mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐

色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SD123（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北西から南東方向に延びている。北西側は調査区外に続き、東端は消失している。途中SD136・SD137・SD139を切っている。長さは6.5m、最大幅0.55m、最大深0.28mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD124（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。SD125の北側で同方向に直線的に延びている。西側調査区外に続き、南東端は消失している。SD137・SD139を切っている。確認できる長さは5.4m以上、最大幅0.4m、最大深0.11mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第1層：黄褐色砂質シルト、第2層：オリーブ褐色砂質シルトとなる。出土遺物は土師器が認められる。

SD125（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。西側調査区外から南東方向に直線的に延び、南東端は消失している。SD137を切っている。確認できる長さは4.5m以上、最大幅0.5m、最大深0.15mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はオリーブ褐色砂質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SD126（図面024・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北西から南東方向に延び、両端とも消失している。北西端で溝を切り、南西端でSD146を切っている。長さは2.4m、最大幅0.3m、最大深0.08mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗灰黄色砂質シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD127（図面024・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北西から南東方向に延び、両端とも消失している。SD127・SD147を切りこんでいる。長さ7.8m、最大幅0.5m、最大深0.08mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SD128（図面024・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。SD128～SD130が北西から南東方向に延び、SD131の北側に併走している。平面形態は直線的で両端とも消失している。南東端でSK201を切っている。長さは6.5m、最大幅0.4m、最大深0.13mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD129（図面024・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北西から南東方向に延び、両端とも消失している。途中SD145を切り込んでいる。長さは5.8m、最大幅0.35m、最大深0.13mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD130（図面024・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は不整形で北西から南東方向に延び、両端とも消失している。途中SD145を切り込んでいる。長さは5.5m、最大幅0.4m、最大深0.09mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD131（図面024・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北西から南東方向に延びており、両端とも消失している。長さは2.8m、最大幅0.5m、最大深0.09mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色砂質シルト炭化物混となる。出土遺物は認められない。

SD132（図面024・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。SD127の北側に併走する。平面形態は直線的で北西から南東方向に延び、両端とも消失している。途中SD154を切り込む。長さは1.4m、最大幅0.3m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルト炭化物少量混の単層である。出土遺物は認められない。

SD133（図面024・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。SD127の南側に併走する。平面形態は直線的で北西から南東方向に延び、両端とも消失している。SD147を切る。長さは2.8m、最大幅0.4m、最大深0.15mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はaセクションで灰黄褐色シルトの単層、bセクションで第1層：にぶい黄褐色シルト、第2層：黄褐色砂質シルトからなる。出土遺物は認められない。

SD134（図面024・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は不整形でSD127に併走し北西から南東方向に延びている。北西端はSD146を切り込んで消失し、南東端はSI11に切られる。途中SD147を切っている。長さは8.3m、最大幅0.7m、最大深0.07mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD135（図面024・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的でSD134に併走し北西から南東に延びている。北西端は消失し南東端はSI11に切られる。長さは4.5m、最大幅0.7m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は須恵器が認められる。

SD136（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で南北に延びている。北側は調査区外に続き、南端はSD123に切られている。確認できる長さは2.5m以上、最大幅0.3m、最大深0.09mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色粘質シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD137（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は不整形で南北に蛇行しながら延びる。北端は消失し南端は開放している。途中SD123～SD125に切られる。長さは7.0m、最大幅0.6m、最大深0.13mを測る。断面形態はV字形を呈し、覆土は灰黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD138（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北端はSD121に切られ、南端は消失している。長さは2.2m、最大幅は0.3m、最大深は0.16mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD139（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は不整形で途中SD123に切られ途切れるが、南北に延びている。北端、南端とも消失している。確認できる長さは5.0m以上、最大幅0.4m、最大深0.19mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第1層：（10YR4/2）灰黄褐色シルト、第2層：（10YR5/2）灰黄褐色シルトとなる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD140（図面026・043）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北端はSD121に切られ、南端は消失している。長さは1.7m、最大幅0.3m、最大深0.16mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色粘質シルトとなる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD141（図面026・044）：畑のさく状遺構と考えられる溝。北端はSD152に切られ南北に延び、途中SD121に切られて途切れる。南側に続く遺構は南北端とも消失している。確認できる長さは3.4m、最大幅0.5m、最大深0.23mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄褐色粘質シルトとなる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD142（図面026・044）：畑のさく状遺構と考えられる溝。北端はSD152に切られSD143と合流している。南北に延びて途中SD121に切られ途切れるが、更に延びて南端は消失している。長さは3.3m、最大幅0.4m、最大深0.21mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色粘質シルトの単層となる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD143（図面026・044）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は不整形で北端はSD142と合流しSD152に切り込まれ、南北に延びて途中SD121に切られるが南端は延びて消失している。長さ3.3m、最大幅0.65m、最大深0.17mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は須恵器の杯蓋（177）、土師器の杯（181）が認められる。

SD144（図面026・044）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は不整形でSD143の東側に併走する。北端はSD118に切られ、南端はSD121に切られる。長さは2.2m、最大幅0.5m、最大深0.1mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄褐色砂となる。出土遺物は須恵器、土師器が認められる。

SD145（図面024・044）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で東側のSD146に併走し北東から南西方向に延びる。北端は消失し、南端はSD129に切られる。長さは5.0m、最大幅0.4m、最大深0.22mを測る。断面形態はV字形を呈し、覆土は第1層：オリーブ褐色砂質シルト、第2層：黄褐色砂質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SD146（図面024・044）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は不整形で北東から南西方向に延びている。両端とも消失している。途中SD134に切られ、SD157を切っている。長さは8.7m、最大幅0.7m、最大深0.11mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はオリーブ褐色砂質シルトマンガン混となる。出土遺物は認められない。

SD147（図面024・044）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北東から南西方向に延び、両端とも消失している。途中SD127・SD133・SD134に切られる。長さは3.6m、最大幅0.3m、最大深0.09mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はオリーブ褐色砂質シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD148（図面024・044）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的でSD149の東側に併走し、両端とも消失している。長さは5.8m、最大幅0.25m、最大深0.05mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はオリーブ褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD149（図面024・044）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的でSD150の東側に併走し、両端とも消失している。長さは3.0m、最大幅は0.3m、最大深は0.06mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はオリーブ褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD150（図面024・044）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的でSD151の東側に併走し、両端とも消失している。長さは7.0m、最大幅0.35m、最大深0.05mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はオリーブ褐色砂質シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD151（図面024・044）：畑のさく状遺構と考えられる溝。SD148～SD151の4条が北東から南西方向に併走している。平面形態は直線的で両端とも消失している。長さは1.3m、最大幅0.3m、最大深0.07mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はオリーブ褐色砂質シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD152（図面026・044）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は不整形で東西に延びている。西端は消失（SI05を切り込む）し東端はSD118に切られる。途中SD141～SD143を切り込んでいる。長さは3.8m以上、最大幅0.55m、最大深0.12mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層である。出土遺物は須恵器が認められる。

SD153（図面024・044）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は不整形で東西方向に延び、両端とも消失している。SD154を切っている。長さ4.4m、最大幅0.8m、最大深0.11mを測る。断面形

態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD154（図面024・044）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で北端はSD153に切られ、南端はSD127に切られる。途中SD132に切られる。長さ1.5m、最大幅0.25m、深さ0.14mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は土師器が認められる。

SD155（図面024・044）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で南西から北東に延びている。南西端はSI11に切られ北東端は土坑に切られ消失している。長さは5.0m、最大幅0.45m、最大深0.16mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層となる。出土遺物は須恵器が認められる。

SD156（図面024・044）：西側調査区外から東に延びて南側に折れるL字形の溝である。南端は土坑に切られる。確認できる長さは15.5m、最大幅4.3m、最大深0.13mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は第1層：黒褐色砂質シルト、第2層：オリーブ褐色砂質シルトである。出土遺物は認められない。

SD157（図面024・044）：畑のさく状遺構と考えられる溝。北西端はSD146に切られ、南東端は消失している。長さは0.8m以上、最大幅0.3m、最大深0.1mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はオリーブ褐色砂質シルトマンガン粒混の単層となる。出土遺物は須恵器の杯（186）が認められる。

SD158（図面024・044）：畑のさく状遺構と考えられる溝。平面形態は直線的で東西に延びており、両端とも消失している。長さは3.2m、最大幅0.5m、最大深0.07mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層である。出土遺物は土師器が認められる。

SD159（図面026・044）：平面形態は不整形で東西に延びており、両端とも消失している。長さは2.8m、最大幅0.5m、最大深0.13mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混の単層である。出土遺物は須恵器の杯B（184）が認められる。

SD160（図面024・044）：南北に延びる不整形の小溝で北端は消失し、南端は開放している。長さ1.2m、最大幅0.6m、最大深0.48mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第1層：灰黄褐色砂質シルト、第2層：黒褐色砂質シルト、第3層：暗灰黄色砂質シルトとなる。出土遺物は土師器が認められる。

SD161（図面024・044）：北東から南西に延びる不整形の溝である。両端とも消失している。長さは5.0m、最大幅1.4m、最大深0.14mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗灰黄色砂質シルトの単層である。出土遺物は須恵器の杯蓋（185）が認められる。

SD162（図面025・044）：調査区東側で南北に軽い円弧を描いて延び、調査区外に続いている。確認できる長さは12.5m以上、最大幅0.5m、最大深0.15mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄灰色砂質シルトマンガン・酸化鉄帯状に沈着する。出土遺物は須恵器の壷（187）が認められる。

SD163（図面026・044）：調査区を東西に横断し、調査区外に広がる古代の溝である。確認できる長さは21.0m以上、最大幅12.5m、最大深0.32mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は黄褐色粘質シルトを基調とする11層から構成される。出土遺物は須恵器の杯蓋（204～210）、須恵器の杯B（190・211～214）、須恵器の杯A（188・189・193・194）、須恵器の杯（191・192）、土師器の杯（195～198）、土師器の甕（200～203）、黒色土器の椀（199）、金属製品の棒状鉄製品（010）が認められる。

SD164（図面027・044）：平面形態は不整形で北東から南西方向に調査区を流れる古代の溝である。確認できる長さは26.0m以上、最大幅4.3m、最大深0.69mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はにぶい黄褐色粗砂を基調とする5層から構成される。出土遺物は須恵器の杯蓋（215～229）、須恵

器の杯A（231～235・240・259・262）、須恵器の杯（230・236～239・260・261・263・264・265）、須恵器の杯B（266～269）、土師器の甕（245～258・270～273）、土師器の鍋（274・275）、土師器の杯（241～244）、土製品の土錘（276・277）、金属製品の棒状鉄製品（023）、椀形滓（036）、鉄滓（037～050）、石製品の砥石（001）が認められる。

②A3地区の調査

A3地区では中近世の遺構のみ確認した。集落として検出した遺構は中世の時期にほぼ限定される。これらの集落遺構はA3地区のほぼ全域で広く確認した。中世の遺構は掘立柱建物、土坑、溝等である。これに比べ中近世にかけての遺構は、A3地区南東側を中心に部分的に土坑、溝を検出したにすぎない。

（1）中近世の遺構

中近世面の検出面は東から西へ緩く傾斜している。主な遺構には掘立柱建物10棟、多数の土坑、溝である。掘立柱建物は重複関係からみると、SB07とSB08ではSB07が古く、SB05はSB06に切られることからSB05が古い時期に建てられたとみなされる。またSB05はSB04を切ることからSB05の方が新しいことになる。つまり、古い順にSB04→SB05→SB06となる。またSB02～SB05、SB07の主軸はN－2°－Wでほぼ同一軸であることが分かる。SB01・SB06はN－3°－Eでほぼ一致している。建て替えにおいてはN－2°－W軸で2回、N－3°－E軸で並ぶ掘立柱建物の計3回以上の遷移が想定できる。溝はSD02が調査区南東側で西から東に向かって直線的に続き、X119Y362付近で90度に近い角度で南方向に屈曲している。遺物の出土がほとんどなく、水が流れていた痕跡もみられないことからSD02は田畑を区画する溝の可能性が高いと思われる。SD09は直線的に東西方向に延び、X121Y349付近でSD08と鋭角で交わる。SD08は南北方向に直線的に延びる溝である。SD08・SD09はSB04～SB06の主軸方向でほぼ一致することから、屋敷地を区画するために構築された区画溝的要素が高いと思われる。遺構の時期については、出土遺物から13世紀中頃～17世紀代と比較的長い時間軸で捉え得ることができる。

掘立柱建物

SB01－SP001～SP009（図面048）：建物の規模は、梁行2間（6.4～6.48m）、桁行2間（7.1～7.2m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN2°Wで床面積は46.7㎡。柱間距離は、梁行3.1～3.3m、桁行3.5～3.6mである。柱穴形態は円～長楕円形で径0.28～0.58m、深さ0.12～0.39mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混を基調とする。出土遺物はSP006で中世土師器が認められる。

SB02－SP010～SP018（図面048）：建物の規模は、梁行2間（5.9～6.1m）、桁行2間（7.1～7.3m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN7°Wで床面積は44.5㎡。柱間距離は、梁行3.2～3.3m、桁行3.8～3.9mである。柱穴形態は円～不整形で径0.2～0.42m、深さ0.15～0.27mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混を基調とする。出土遺物は認められない。

SB03－SP019～SP029（図面049）：A3地区北側に位置する掘立柱建物で、規模は、梁行2間（6.0m）、桁行3間（9.7m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN6°Wで床面積は58.2㎡。柱間距離は、梁行2.9～3.0m、桁行3.2～3.3mである。柱穴形態は円～楕円形で径0.27～0.56m、深さ0.25～0.52mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混を基調とする。出土遺物は認められない。

SB04－SP030～SP045（図面050）：調査区南端に位置するため調査区外に拡大する可能性がある掘立

柱建物で、SB05・SB06より古い。建物の規模は、梁行３間（11.9m）、桁行４間（10.2m～）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はＮ８°Ｗで床面積は121.4㎡。柱間距離は、梁行2.6～2.9m、桁行3.4mである。柱穴形態は円～楕円形で径0.29～0.53m、深さ0.22～0.66mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混～褐灰色シルト質砂炭化物少量混を基調とする。出土遺物は認められない。

SB05－SP046～SP055（図面050）：調査区南端に位置するため調査区外に拡大する可能性がある掘立柱建物で、SB06より古い。建物の規模は、梁行３間（9.0m）、桁行２間以上（7.6m～）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はＮ７°Ｗで床面積は68.4㎡。柱間距離は、梁行3.0m、桁行3.4～3.9mである。柱穴形態は円～楕円形で径0.34～0.52m、深さ0.15～0.46mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混を基調とする。出土遺物は認められない。

SB06－SP051・SP056～SP063（図面050）：調査区南端に位置するため調査区外に拡大する可能性のある掘立柱建物である。規模は、梁行３間（9.0m）、桁行２間以上（7.7m～）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はＮ８°Ｗで床面積は69㎡程度。柱間距離は、梁行2.8～3.3m、桁行3.8～3.9mである。柱穴形態は円～楕円形で径0.33～0.5m、深さ0.14～0.36mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混を基調とする。出土遺物は認められない。

SB07－SP064～SP084（図面051）：SB08に先行する掘立柱建物で、建物の規模は、梁行３間（8.5m）、桁行４間（13.0～13.2m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はＮ７°Ｗで床面積は112.2㎡。柱間距離は、梁行2.9m、桁行2.9～3.0mである。柱穴形態は円～楕円形で径0.23～0.74m、深さ0.21～0.56mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混を基調とする。出土遺物は認められない。

SB08－SP064～SP066・SP085～SP101（図面051）：建物の規模は、梁行３間（10.9～11.2m）、桁行４間（12.7～12.8m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はＮ３°Ｗで床面積は143.3㎡。柱間距離は、梁行3.5～3.8m、桁行3.0～3.4mである。柱穴形態は円～不整形で径0.23～0.8m、深さ0.21～0.5mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混～褐灰色シルト質砂炭化物少量混を基調とする。出土遺物は認められない。

SB09－SP102～SP107（図面052）：建物の規模は、梁行１間（3.7m）、桁行２間（6.4m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN87°Wで床面積は23.7㎡。柱間距離は、桁行3.2～3.3mである。柱穴形態は円～楕円形で径0.25～0.61m、深さ0.12～0.3mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混～褐灰色シルト質砂炭化物少量混を基調とする。出土遺物は認められない。

SB10－SP108～SP116（図面052）：建物の規模は、梁行２間（6.4～6.5m）、桁行２間（6.5m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はＮ４°Ｅで床面積は42.3㎡。柱間距離は、梁行3.2～3.3m、桁行3.2～3.4mである。柱穴形態は円～楕円形で径0.26～0.52m、深さ0.21～0.29mを数える。柱穴内覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混を基調とする。出土遺物は認められない。

井戸

SE01（図面053）：掘方のみの残存であるが、木枠組井戸と想定される。木枠部分は検出されない。掘方の平面形態は円形で、規模は径4.0m、深さ1.7mを測る。横断面の形態は擂鉢型となる。井筒内には巨礫が充填されている。覆土は黒褐色シルト質砂を基調とする８層から構成される。出土遺物は中国製白磁の碗（539）、越前がある。

SE02（図面054）：木枠組か石組かは不明で、掘方のみ残存している井戸である。平面形態は隅丸方形で、規模は長辺2.8m、短辺0.95m、深さ0.95mを測る。横断面の形態は擂鉢型となる。覆土は灰色シルト質砂を基調とする4層から構成される。出土遺物は認められない。

SE03（図面054）：掘方のみの残存であるが、木枠組井戸と推定される井戸である。掘方の平面形態は円形で、規模は径2.94m、深さ1.60mを測る。横断面の形態は擂鉢型となる。覆土は黒褐色シルト質粘土を基調とする9層から構成される。出土遺物は中世土師器の皿（531）、珠洲の擂鉢（538）がある。

土坑

SK01（図面055）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.25m、深さ0.06mを測る。覆土は褐灰色シルト質砂炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は中世土師器の皿（529）、越中瀬戸がある。

SK02（図面055）：平面形態は円形で、規模は径0.3m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は近世磁器（白磁）がある。

SK03（図面055）：平面形態は不整形で、規模は長径0.86m、短径0.82m、深さ0.16mを測る。覆土は灰オリーブ色シルト酸化鉄少量混のみの単層となる。出土遺物は珠洲、越中瀬戸がある。

SK04（図面055）：平面形態は不整形で、南東側は調査区外に広がる。規模は長径1.1m以上、短径1.04m、深さ0.15mを測る。覆土は灰オリーブ色シルト酸化鉄少量混のみの単層となる。出土遺物は唐津、伊万里がある。

SK05（図面055）：平面形態は不整形で、規模は長径1.7m、短径1.1m、深さ0.15mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト、第2層：オリーブ褐色シルトとなる。出土遺物は越中瀬戸がある。

SK06（図面055）：平面形態は不整形で、規模は長径2.6m、短径1.6m、深さ0.34mを測る。覆土は第1層：暗灰黄色シルト、第2層：暗オリーブ灰色シルトとなる。出土遺物は珠洲がある。

SK07（図面055）：平面形態は不整形で、東側は調査区外に広がる。規模は長径2.48m、短径1.03m以上、深さ0.63mを測る。覆土は灰オリーブ色シルトを基調とする4層から構成する。出土遺物は認められない。

SK08（図面055）：平面形態は楕円形で、SD02に切られる。規模は長径1.04m、短径0.95m、深さ0.23mを測る。覆土は第1層：黒褐色粘質シルト炭化物少量混、第2層：黒褐色粘質シルトとなる。出土遺物は中世土師器がある。

SK09（図面055）：平面形態は不整形で、規模は長径2.03m、短径1.12m、深さ0.14mを測る。土坑内には人頭大の礫が含まれる。覆土は灰オリーブ色シルト酸化鉄少量混のみの単層となる。出土遺物は中国製白磁の皿（534）、中世土師器、中国製青磁、唐津がある。

SK10（図面056）：平面形態は円形で、規模は径0.25m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は中世土師器の皿（530）がある。

SK11（図面056）：平面形態は円形で、規模は径0.24m、深さ0.33mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は中世土師器がある。

SK12（図面056）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.25m、深さ0.2mを測る。覆土は褐灰色シルト質砂炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK13（図面056）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.22m、深さ0.16mを測る。覆土は褐灰色シルト質砂炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK14（図面056）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.29m、短径0.22m、深さ0.28mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。
SK15（図面056）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.23m、短径0.2m、深さ0.15mを測る。覆土は褐灰色シルト質砂炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。
SK16（図面056）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.23m、短径0.2m、深さ0.12mを測る。覆土は褐灰色シルト質砂炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。
SK17（図面056）：平面形態は楕円形で、SK18・SK20を切る。規模は長径0.44m、短径0.31m、深さ0.36mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。
SK18（図面056）：平面形態は不整形で、SK17・SK20に切られる。規模は長径0.31m、短径0.17m以上、深さ0.24mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。
SK19（図面056）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.35m、短径0.3m、深さ0.28mを測る。覆土は褐灰色シルト質砂炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は中世土師器がある。
SK20（図面056）：平面形態は楕円形で、SK18を切り、SK17に切られる。規模は長径0.46m、短径0.38m、深さ0.15mを測る。覆土は第１層：褐灰色シルト質砂炭化物少量混、第２層：灰オリーブ色シルト酸化鉄少量混となる。出土遺物は認められない。
SK21（図面056）：平面形態は不整形で、規模は長径0.45m、短径0.3m、深さ0.12mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。
SK22（図面056）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.32m、短径0.28m、深さ0.33mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は中世土師器、越中瀬戸がある。
SK23（図面056）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.23m、短径0.2m、深さ0.13mを測る。覆土は褐灰色シルト質砂炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。
SK24（図面056）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.58m、短径0.31m、深さ0.11mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。
SK25（図面056）：平面形態は円形で、規模は径0.38m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。
SK26（図面056）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.25m、深さ0.05mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。
SK27（図面056）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.45m、短径0.32m、深さ0.07mを測る。覆土は褐灰色シルト質砂炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。
SK28（図面056）：平面形態は不整形で、規模は長径0.45m、短径0.4m、深さ0.08mを測る。覆土は褐灰色シルト質砂炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。
SK29（図面056）：平面形態は円形で、規模は径0.38m、深さ0.26mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は中世土師器の皿（533）がある。
SK30（図面056）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.61m、短径0.47m、深さ0.27mを測る。覆土は第１層：黒褐色粘質シルト炭化物少量混、第２層：褐灰色シルト質砂炭化物少量混となる。出土遺物は認められない。
SK31（図面056）：平面形態は不整形で、SD10に切られる。規模は長径0.65m以上、短径0.4m、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。
SK32（図面056）：平面形態は不整形で、規模は長径0.53m、短径0.4m、深さ0.3mを測る。覆土は第

1層：黒褐色粘質シルト炭化物少量混、第2層：褐灰色シルト質砂炭化物少量混となる。出土遺物は白磁の碗（535）がある。

SK33（図面056）：平面形態は不整形で、規模は長径0.87m、短径0.55m、深さ0.35mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる遺物は中世土師器が出土している。

SK34（図面056）：平面形態は楕円形で、SD09に切られる。規模は長径0.75m以上、短径0.9m、深さ0.17mを測る。覆土は褐灰色シルト質砂炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK35（図面056）：平面形態は不整形で、規模は長径1.13m、短径0.93m、深さ0.11mを測る。覆土は褐灰色シルト質砂炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK36（図面056）：平面形態は楕円形で、SD02に切られる。規模は長径1.2m、短径0.91m、深さ0.42mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト、第2層：にぶい黄褐色砂質シルト炭化物混、第3層：黒褐色粘土炭化物混に分層される。出土遺物は珠洲の擂鉢（537）、中世土師器がある。

SK37（図面056）：平面形態は不整形で、東側は調査区外に広がる。規模は長径1.47m以上、短径1.09m、深さ0.4mを測る。覆土は第1層：灰オリーブ色シルト酸化鉄少量混、第2層：暗オリーブ色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK38（図面056）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.1m、短径0.97m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色シルト質粘土炭化物多量に混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK39（図面057）：平面形態は隅丸方形で、規模は一辺0.95m、深さ0.24mを測る。覆土は第1層：（10YR3/1）黒褐色粘質シルト炭化物少量混、第2層：褐灰色シルト質砂炭化物少量混、第3層：（2.5Y3/1）黒褐色粘質シルトに分層される。出土遺物は認められない。

SK40（図面057）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.99m、短径0.71m、深さ0.24mを測る。土坑内には10cm程度の礫が混じる。覆土は第1層：オリーブ黒色シルト、第2層：灰オリーブ色シルトとなる。出土遺物は中世土師器、珠洲がある。

SK41（図面057）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.95m、短径1.07m、深さ0.31mを測る。覆土は第1層：（7.5Y3/2）オリーブ黒色シルト、第2層：（5Y3/1）オリーブ黒色シルトとなる。出土遺物は金属製品の棒状鉄製品（063）がある。

SK42（図面057）：平面形態は楕円形で、規模は長径3.28m、短径2.23m、深さ0.45mを測る。覆土は黄褐色細砂を基調とする4層から構成される。出土遺物は認められない。

SK43（図面058）：平面形態は不整形で、規模は長径7.15m以上、短径2.15m以上、深さ0.5mを測る。覆土はオリーブ黒色シルト質砂を基調とする6層から構成される。出土遺物は認められない。

SK44（図面059）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.35m、短径0.3m、深さ0.17mを測る。覆土は褐灰色シルト質砂炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK45（図面059）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.36m、短径0.3m、深さ0.14mを測る。覆土は第1層：褐灰色シルト質砂炭化物少量混、第2層：黒褐色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK46（図面059）：平面形態は円形で、SK51を切る。規模は径0.44～0.46m、深さ0.1mを測る。覆土は第1層：（10YR3/1）黒褐色粘質シルト炭化物少量混、第2層：（2.5Y3/1）黒褐色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK47（図面059）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.19m、深さ0.09mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK48（図面059）：平面形態は不整形で、SK49に切られる。規模は長径0.47m、短径0.24m以上、深さ0.08mを測る。覆土は褐灰色シルト質砂炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK49（図面059）：平面形態は不整形で、規模は長径0.55m、短径0.35m、深さ0.18mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK50（図面059）：平面形態は不整形で、東側は調査区外に広がる。規模は長径0.55m以上、短径0.5m、深さ0.35mを測る。覆土は褐灰色シルト質砂炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は中国製白磁の碗（536）、中世土師器がある。

SK51（図面059）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.27m、短径0.25m、深さ0.22mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK52（図面059）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.38m、短径0.3m、深さ0.14mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK53（図面059）：平面形態は円形で、規模は径0.25m、深さ0.3mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK54（図面059）：平面形態は円形で、規模は径0.3m、深さ0.2mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK55（図面059）：平面形態は隅丸長方形で、西側は調査区外に広がる。規模は長辺3.84m、短辺0.7m以上、深さ0.14mを測る。覆土は第1層：（10YR3/1）黒褐色粘質シルト炭化物少量混、第2層：（2.5Y3/1）黒褐色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK56（図面059）：平面形態は円形で、規模は径0.35m、深さ0.28mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK57（図面059）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.46m、短径0.33m、深さ0.13mを測る。覆土は褐灰色シルト質砂炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK58（図面059）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.35m、短径0.22m、深さ0.28mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK59（図面059）：平面形態は不整形で、規模は長径0.37m、短径0.27m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK60（図面059）：平面形態は楕円形で、SK61に切られる。規模は長径0.35m以上、短径0.25m以上、深さ0.12mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK61（図面059）：平面形態は楕円形で、SK60を切る。規模は長径0.4m、短径0.28m、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK62（図面059）：平面形態は楕円形で、SK66を切る。規模は長径0.38m、短径0.28m、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK63（図面059）：平面形態は不整形で、SK65に切られる。規模は長径0.33m、短径0.25m、深さ0.05mを測る。覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK64（図面059）：平面形態は楕円形で、SD05を切る。規模は長径0.4m、短径0.23m、深さ0.07mを測る。覆土は褐灰色シルト質砂のみの単層となる。出土遺物は認められない。

溝

SD01（図面047・059）：平面形態は不整形でSK46の周りを囲み、切り込みながら西側調査区外に延

びている。確認できる長さは15.0m以上、最大幅1.2m、最大深0.2mを測る。断面形態はU字形で、覆土はa，bセクションとも第1層：(7.5Y5/2) 灰オリーブ色シルト、第2層：(5Y5/2) 灰オリーブ色シルト質砂となる。出土遺物は認められない。

SD02（図面046・059）：平面形態は逆L字形の区画溝である。西側調査区外から東側に延びて南に折れ調査区外に続く。途中SK08・SK36・SP073を切り込む。確認できる長さは26.0m以上、最大幅0.7m、最大深0.25mを測る。断面形態はU字形で、覆土はa、bセクションでは第1層：黒褐色粘質シルト炭化物少量混、第2層：黄灰色シルト、第3層：黄灰色シルト質砂からなり、c、d、eセクションでは灰オリーブ色シルト酸化鉄少量混の単層となる。出土遺物は中世土師器、珠洲、瀬戸美濃が認められる。

SD03（図面045・059）：平面形態は不整形で北端はSD08に切られ、東端は消失している。長さ3.1m、最大幅0.65m、最大深0.1mを測る。断面形態は不整形で、覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混の単層である。出土遺物は認められない。

SD04（図面045・059）：平面形態は直線的で、北端は消失し、南端は南側調査区外に延びる。（途中攪乱により切られている。）確認できる長さは1.1m以上、最大幅0.1m、最大深0.1mを測る。断面形態は不整形で、覆土は第1層：(10YR3/1) 黒褐色粘質シルト炭化物少量混、第2層：(2.5Y3/1) 黒褐色粘質シルトからなる。出土遺物は認められない。

SD05（図面047・059）：平面形態は直線的で、北西端、南東端とも消失している。長さ4.3m、最大幅0.6m、最大深0.09mを測る。断面形態は逆台形で、覆土は褐灰色シルト質砂炭化物少量混の単層である。出土遺物は認められない。

SD06（図面045・059）：調査区の北端にあり調査区外に延びている直線的な小溝で南端は消失している。確認できる長さは1.2m以上、最大幅0.55m、最大深0.1mを測る。断面形態は不整形で、覆土は褐灰色シルト質砂炭化物少量混の単層である。出土遺物は認められない。

SD07（図面045・059）：平面形態は直線的で、東西に延びる溝である。両端とも消失しており、途中SD10に切られる。長さは4.3m、最大幅0.72m、最大深0.19mを測る。断面形態は不整形で、覆土は黒褐色粘質シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SD08（図面045・059）：平面形態は直線的で、西側調査区外から東西に延び東端はSD09に接する。途中SD10を切っている。確認できる長さは24.0m以上、最大幅1.3m、最大深0.3mを測る。断面形態はU字形で、覆土はaセクションでは暗灰黄色シルトの単層となり、bセクションでは第1層：(7.5Y5/2) 灰オリーブ色シルト質砂、第2層：(5Y5/2) 灰オリーブ色シルト質砂からなり、cセクションでは灰オリーブ色シルトの単層である。出土遺物は金属製品の鉄滓（062）が認められる。

SD09（図面045・059）：南北に直線的に延びて南側調査区外に続く溝である。北端はSD08に接し、消失している。確認できる長さは14.5m以上、最大幅1.6m、最大深0.51mを測る。断面形態はU字形で、覆土は第1層：暗オリーブ褐色粘質シルト、第2層：明褐色砂、第3層：黄灰色シルトからなる。出土遺物は越中瀬戸、唐津、伊万里が認められる。

SD10（図面045・059）：平面形態は不整形で南北に延びる溝である。北端は消失し、南端はSD08に切られている。SK31、SD07を切り込んでいる。長さは0.33m、最大幅1.1m、最大深0.15mを測る。断面形態は逆台形で、覆土は第1層：(10YR3/1) 黒褐色粘質シルト炭化物少量混、第2層：(2.5Y3/1) 黒褐色粘質シルトからなる。出土遺物は認められない。

③ A５地区の調査

A５地区では調査区全体で中世末～近世の遺構を検出した。遺構には石組井戸、土坑、溝、自然流路がある。建物跡はなく、中近世集落における生活の痕跡を示す遺構は、井戸のみである。

（１）中近世の遺構

井戸はSE01とSE02の２基で、人頭大の円礫を螺旋状に積み上げて造られた石組井戸である。溝ではSD03が南北方向に直線的に続く溝で、北はSD04と直角に交わる。SD04も直線的に東西方向に延びる溝である。SD03とSD04は屋敷地を区画する溝と思われる。SD11も形態や規模から、区画に関連した溝である。SD03、SD04、SD11の溝は屋敷地を区画するとみなされることから、区画の規模は一辺（南北）約70mの規模を有し、屋敷地の範囲を示していると考えられる。さらにこれら区画溝とSE01の主軸が一致することから、屋敷地内の構造物との関連が高い遺構と思われる。

井戸

SE01（図面062）：SD03を切り込む近世の石組井戸である。井筒部は掘方の東側にやや片寄って設置される。内径は上面で0.9m、底面で0.35mと、やや角度を付けて螺旋状に石組みされる。掘方の平面形態は円形で、径2.65m、深さ1.1mの規模を測る。横断面の形態は擂鉢型で、掘方の覆土は黄褐色シルト礫混となる。遺物としては木製品の板材（001）、中世土師器、珠洲、越中瀬戸、伊万里が出土している。

SE02（図面062）：西側が調査区外となる石組井戸である。内径は上面で0.85m、底面で0.63mと、やや角度を付けて螺旋状に石組みされる。掘り方の平面形態は不整形で、長径3.1m、短径は不明、深さ1.1mの規模を測る。横断面の形態は擂鉢型で、掘方の覆土は第１層：黒褐色シルト、第２層：明黄褐色粘質シルトとなる。遺物としては伊万里の皿（559）、珠洲、石製品の凹石（028）が出土している。

土坑

SK01（図面063・068）：平面形態は楕円形で、SK17を切る。規模は長径2.4m、短径2.0m、深さ0.47mを測る。覆土は第１層：にぶい黄褐色砂礫、第２層：灰黄褐色砂礫、第３層：暗オリーブ色砂礫に分層される。遺物は越中瀬戸が出土している。

SK02（図面063）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.22m、短径1.01m、深さ0.32mを測る。土坑内からは人頭大の礫に混じって、五輪塔の火輪が出土している。覆土は灰黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK03（図面063）：平面形態は不整形で、規模は長径0.44m、短径0.4m以上、深さ0.15mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。遺物は瀬戸美濃の天目茶碗（564）が出土している。

SK04（図面063）：平面形態は不整形で、規模は長径2.35m、短径2.05m、深さ0.66mを測る。土坑内にはφ10～20cmの礫が混入している。覆土は第１層：にぶい黄褐色砂礫、第２層：灰黄褐色砂礫、第３層：暗褐色砂礫に分層される。遺物は瀬戸美濃天目茶碗（560）、越中瀬戸が出土している。

SK05（図面063）：平面形態は不整形で、規模は長径1.22m、短径0.82m、深さ0.2mを測る。覆土はオリーブ褐色砂礫のみの単層となる。出土遺物は中世土師器、珠洲がある。

SK06（図面063）：平面形態は楕円形で、規模は長径2.0m以上、短径1.15m、深さ0.28mを測る。覆土はにぶい黄褐色砂礫のみの単層となる。遺物は石製品の砥石（007）が出土している。

SK07（図面063）：平面形態は不整形で、SD03・SD11を切る。規模は長径2.91m、短径1.75m、深さ0.52mを測る。土坑内は30～50cmの巨礫が混入している。覆土は第１層：暗オリーブ褐色砂礫炭化

物混、第２層：褐色砂礫、第３層：灰黄褐色砂に分層される。遺物は珠洲が出土している。

SK08（図面064）：平面形態は不整形で、西側は調査区外に広がる。規模は長径2.07m 以上、短径1.6m 以上、深さ0.64m を測る。土坑内はφ150～300㎜の礫がやや規則的に充填されている。覆土は黄褐色砂礫のみの単層となる。遺物は珠洲が出土している。

SK09（図面064）：平面形態は不整形で、SK10を切る。規模は長径3.3m、短径2.0m、深さ0.32m を測る。覆土は第１層：黄褐色砂礫、第２層：オリーブ褐色砂礫となる。出土遺物は認められない。

SK10（図面065）：平面形態は隅丸長方形で、SK09に切られる。規模は長辺2.8m 以上、短辺2.0m、深さ0.23m を測る。覆土は第１層：黄褐色砂礫、第２層：オリーブ褐色砂礫となる。出土遺物は認められない。

SK11（図面065・070）：平面形態は不整形で、SK19に切られる。規模は長径4.0m、短径1.67m 以上、深さ0.9m を測る。覆土は黄褐色砂礫を基調とする４層から構成される。出土遺物は認められない。

SK12（図面066）：平面形態は不整形で、南側は調査区外に広がる。規模は長径3.25m、短径2.27m、深さ0.6m を測る。西側と北側に礫がみられる。覆土は第１層：灰黄褐色シルト、第２層：暗オリーブ褐色砂礫となる。遺物は珠洲片口擂鉢（569）、中世土師器が出土している。

SK13（図面066）：平面形態は不整形で、西側は調査区外に広がる。規模は長径3.7m、短径2.1m、深さ0.35m を測る。覆土は第１層：暗オリーブ色砂礫、第２層：（５Y5/2)灰オリーブ色砂礫、第３層：（５Y5/3）灰オリーブ色砂礫に分層される。出土遺物は認められない。

SK14（図面067）：平面形態は不整形で、SK15を切る。規模は長径3.3m、短径3.05m、深さ0.47m を測る。覆土は第１層：にぶい黄褐色砂礫、第２層：灰黄褐色砂礫、第３層：暗褐色砂礫に分層される。出土遺物は認められない。

SK15（図面067）：平面形態は方形で、SD03を切り、SK14に切られる。規模は長辺2.9m、短辺2.35m、深さ0.35m を測る。覆土は第１層：暗褐色シルト炭化物混、第２層：（10YR3/2）黒褐色シルト、第３層：（10YR3/1）黒褐色シルトに分層される。出土遺物は認められない。

SK16（図面068）：平面形態は不整形で、SK01に切られる。規模は長径4.3m 以上、短径3.05m、深さ0.71m を測る。覆土は第１層：灰黄褐色砂礫、第２層：暗オリーブ褐色砂礫に分層される。出土遺物は認められない。

SK17（図面068）：平面形態は不整形で、SK01・SK18に切られる。規模は長径2.54m、短径2.08m 以上、深さ0.75m を測る。覆土は第１層：（2.5Y5/4）黄褐色砂礫、第２層：（2.5Y5/3）黄褐色砂礫、第３層：オリーブ褐色砂礫に分層される。遺物は越中瀬戸が出土している。

SK18（図面069）：平面形態は不整形で、SK17を切る。規模は長径6.1m、短径4.5m、深さ0.89m を測る。覆土は暗オリーブ色砂礫を基調とする４層から構成される。出土遺物は認められない。

SK19（図面070）：平面形態は不整形で、SK11を切り込む。規模は長径4.3m、短径4.0m、深さ0.74m を測る。覆土は黄褐色砂礫を基調とする６層から構成される。遺物は中世土師器、金属製品では鉄鍋（076）が出土している。

溝

SD01（図面060・071）：平面形態は直線的で、東端西端はともに消失している小溝である。SD03を切り込んでいる。長さ2.3m、最大幅0.5m、最大深0.12m を測る。断面形態はＵ字形を呈し、覆土は灰黄褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD02（図面061・071）：平面形態は不整形な小溝である。北端はSD07を切り込んで消失しており、

南端も消失している。長さ3.5m、最大幅0.87m、最大深0.25mを測る。断面形態はV字形を呈し、覆土は、第1層：暗オリーブ褐色シルト炭化物混、第2層：暗灰黄色砂となる。出土遺物は石製品の五輪塔の火輪（008～011）、五輪塔の地輪（012～021）、板碑（022～025）が認められる。

SD03（図面060・071）：平面形態は直線的で、調査区を南北に延び南側で軽い円弧を描く区画溝である。北端はSD04に切られ、南端はSK07に切られる。途中SE01、SD01、SK15に切られる。長さ29.4m、最大幅1.78m、最大深0.47mを測る。断面形態は逆台形～不整形で、覆土は各セクションとも第1層：暗褐色シルト炭化物混、第2層：黒褐色砂質シルトとなる。出土遺物は中世土師器皿（561・563）、越中瀬戸皿（562）、越中瀬戸擂鉢（571）、珠洲、越前、瀬戸美濃、唐津が認められる。

SD04（図面060・071）：平面形態は直線的で、東西に延びて調査区外に続く。途中SD03を切っている。確認できる長さは13.7m以上、最大幅2.5m、最大深0.7mを測る。断面形態はU字形で、覆土はaセクションでは第1層：黄褐色砂礫、第2層：（2.5Y4/4）オリーブ褐色砂礫、第3層：（2.5Y4/3）オリーブ褐色砂礫からなり、bセクションでは第1層：黄褐色砂礫、第2層：オリーブ褐色砂礫となる。出土遺物は越中瀬戸、石製品では五輪塔の地輪（026）、すり石（027）が認められる。

SD05（図面061・071）：調査区南側の東壁を縦断している不整形な溝である。南北とも調査区外に続いている。確認できる長さは18.5m以上、最大幅3.7m、最大深0.54mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は、第1層：灰褐色砂礫、第2層：オリーブ褐色砂礫、第3層：黄褐色シルトからなる。遺物は珠洲甕（567）、瀬戸美濃端反皿（566）、瀬戸美濃天目茶碗（565）、中世土師器、八尾、越中瀬戸、石製品では五輪塔の火輪（029）が出土している。

SD06（図面060・061・071）：北側調査区より続くと考えられる。平面形態は不整形で、蛇行しながら南北に延びている。北端は北側調査区に延びて消失し、南端も消失している。途中SD05・SD07・SD08に切られる。確認できる長さは26.1m以上、最大幅3.3m、最大深0.2mを測る。断面形態は不整形で、覆土はaセクション第1層：暗灰黄色砂、第2層：暗オリーブ色砂礫、第3層：オリーブ黒色シルト、bセクションでは灰黄褐色砂礫からなる。出土遺物は珠洲が認められる。

SD07（図面061・071）：平面形態は直線的で、南北に延びる溝である。北端は消失し、南端は調査区外に延びている。途中SD08を切り、SD02に切られる。確認できる長さは17.0m、最大幅1.6m、最大深0.23mを測る。断面形態は不整形で、覆土はaセクションでは黄褐色砂、bセクションでは第1層：黄褐色砂、第2層：暗オリーブ色砂となる。出土遺物は珠洲、八尾、近世陶磁器が認められる。

SD08（図面061・071）：北側調査区より続き南北に蛇行しながら延び、南側で大きく広がる不整形の溝である。北端は消失し、南側調査区外に広がっている。南側ではSD07に切られる。SD06を南北に切り込んでいる。確認できる長さは30.5m以上、最大幅1.6m、最大深0.25mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はa、bセクションとも灰オリーブ色砂礫である。出土遺物は珠洲擂鉢（570）が認められる。

SD09（図面061・071）：東西に延びる直線的な溝で、西端は西側調査区外に続き、東端はSD07に切られる。確認できる長さは2.9m以上、最大幅0.6m、最大深0.15mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は暗灰黄色砂の単層である。出土遺物は認められない。

SD10（図面060・071）：平面形態は直線的で、東西に延びる小溝である。西端はSK07に切られ、東端は消失している。長さ1.7m、最大幅0.5m、最大深0.12mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第1層：暗オリーブ褐色シルト、第2層：褐色シルトとなる。出土遺物は中世土師器が認められる。

SD11（図面060・071）：東西に延びる不整形の溝である。西側調査区外に続き、東端は消失している。

途中SK07に切られる。確認できる長さは14.2m、最大幅2.8m、最大深0.52mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は、第1層：灰黄褐色シルト、第2層：暗オリーブ褐色砂礫となる。遺物は中世土師器小皿（568）、珠洲、八尾、瀬戸美濃が出土している。

④A6地区の調査

A6地区では中世・古代を同一面で確認したが、主体となる時期は中世にほぼ限定される。中世の遺構は掘立柱建物、方形土坑、土坑、溝で、A6地区のほぼ全域で広く検出した。これに比べ古代の遺構は、部分的に土坑、溝があるのみで遺構数が希薄で、出土遺物も少ない。

（1）中世の遺構

中世の遺構はSD01を境に西側部分に集中している。掘立柱建物は3棟確認した。方形土坑はSK35・SK36を確認した。これらは重複関係にあり、SK36のほうがSK35よりも先行するとみなされる。また、SK40・SK41の主軸がSB02の主軸と一致することから、掘立柱建物に関係する遺構と考えられる。以下主要な遺構について簡単に記述しておく。

掘立柱建物

SB01－SP01～SP12（図面073）：調査区外に拡大する可能性がある掘立柱建物である。規模は、梁行4間（9.25m）、桁行3間以上（6.15m～）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN5°Wで床面積は56.9㎡。柱間距離は、梁行2.1～2.3m桁行2.5～2.7mである。柱穴形態は円～不整形で径0.22～0.7m、深さ0.14～0.43mを数える。柱穴内覆土は灰黄褐色シルト質砂を基調とする。出土遺物は認められない。

SB02－SP04・SP09・SP13～SP19（図面073）：建物の規模は、梁行2間（4.6～4.7m）、桁行3間（7.3～7.4m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向は南北棟のN88°Wで床面積は34.8㎡。柱間距離は、梁行・桁行ともに2.3～2.5mである。柱穴形態は楕円～不整形で径0.26～0.64m、深さ0.14～0.36mを数える。柱穴内覆土は灰黄褐色シルト質砂炭化物混を基調とする。出土遺物は認められない。

SB03－SP19～SP29（図面073）：建物の規模は、梁行3間（6.9m）、桁行3間（7.0～7.2m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN11°Wで床面積は49.0㎡。柱間距離は、梁行2.2～2.3m、桁行2.2～2.7mである。柱穴形態は円～楕円形で径0.22～0.64m、深さ0.2～0.36mを数える。柱穴内覆土は灰黄褐色シルト質砂～にぶい黄褐色シルト質砂を基調とする。出土遺物は認められない。

土坑

SK001（図面074）：平面形態は不整形で、規模は長径0.61m以上、短径0.22m、深さ0.21mを測る。覆土はオリーブ褐色シルト質砂（やや粘性あり）のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK002（図面074）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.54m、短径0.4m、深さ0.26mを測る。覆土はオリーブ褐色シルト質砂（やや粘性あり）のみの単層となる。遺物は唐津が出土している。

SK003（図面074）：平面形態は不整形で、規模は長径1.09m、短径0.34m、深さ0.31mを測る。覆土はオリーブ褐色シルト質砂（やや粘性あり）のみの単層となる。遺物は唐津が出土している。

SK004（図面074）：平面形態は不整形で、長径1.08m、短径0.84m、深さ0.46mを測る。土坑内は大小の礫が散在している。覆土は第1層：オリーブ褐色砂、第2層：（2.5Y4/6）オリーブ褐色シルト、第3層：（2.5Y4/4）オリーブ褐色シルトに分層される。出土遺物は認められない。

SK005（図面074）：平面形態は不整形で、西側は調査区外に広がる。規模は長径1.32m、短径1.06m

以上、深さ0.4mを測る。土坑内には拳大～人頭大の円礫が充填されている。覆土はオリーブ褐色シルト質砂（やや粘性あり）のみの単層となる。遺物は唐津が出土している。

SK006（図面074）：平面形態は不整形で、SK007を切る。西側は調査区外に広がる。規模は長径1.99m、短径1.32m以上、深さ0.65mを測る。土坑内は拳大～人頭大の楕円～円礫が充填されている。覆土はオリーブ黒色粘質シルトのみの単層となる。遺物は唐津、伊万里が出土している。

SK007（図面074）：平面形態は不整形で、SK006に切られる。規模は長径1.65m以上、短径0.96m、深さ0.7mを測る。土坑内は拳大～人頭大の亜円～円礫が充填されている。覆土はオリーブ黒色粘質シルトのみの単層となる。遺物は唐津三島手皿（595）、近世陶磁器が出土している。

SK008（図面074）：平面形態は楕円形で、長径1.32m、短径1.2m、深さ0.32mを測る。土坑内は礫が混入している。覆土は第1層：(2.5Y4/6) オリーブ褐色シルト、第2層：(2.5Y4/4) オリーブ褐色シルト、第3層：黄褐色シルトに分層される。遺物は近世陶磁器が出土している。

SK009（図面074）：平面形態は円形で、規模は径0.78～0.82m、深さ0.32mを測る。覆土はオリーブ褐色シルト質砂（やや粘性あり）のみの単層となる。遺物は越中瀬戸が出土している。

SK010（図面074）：平面形態は不整形で、西側をSD101に切られる。規模は長径1.39m以上、短径1.26m、深さ0.78mを測る。覆土はオリーブ褐色砂を基調とする4層から構成される。遺物は唐津が出土している。

SK011（図面074）：平面形態は不整形で、SD01に切られる。北側は調査区外に広がる。規模は長径2.86m以上、短径1.94m以上、深さ0.81mを測る。土坑内には拳大～人頭大の円礫が充填されている。覆土はオリーブ褐色シルト質砂を基調とする4層から構成される。遺物は越中瀬戸、伊万里が出土している。

SK012（図面075）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.31m、短径0.24m以上、深さ0.27mを測る。覆土は灰黄褐色シルト質砂のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK013（図面075）：平面形態は円形で、規模は径0.32～0.38m、深さは0.15mを測る。覆土は灰黄褐色シルト質砂炭化物混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK014（図面075）：平面形態は楕円形で、SK035・SD101を切る。規模は長径0.43m、短径0.35m、深さ0.3mを測る。覆土は灰黄褐色シルト質砂炭化物混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK015（図面075）：平面形態は楕円形で、SK106を切る。規模は長径0.47m、短径0.36m、深さ0.5mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト質砂炭化物混、第2層：にぶい黄褐色シルト質砂となる。遺物は認められない。

SK016（図面075）：平面形態は不整形で、規模は長径0.61m、短径0.58m、深さ0.41mを測る。土坑内に礫が混入している。覆土はオリーブ褐色シルト質砂のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK017（図面075）：平面形態は楕円形で、SK018を切り、SK036切られる。規模は長径0.54m、短径0.39m、深さ0.26mを測る。覆土はオリーブ褐色砂のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK018（図面075）：平面形態は不整形で、南側をSK017に切られる。規模は長径0.83m以上、短径0.31m、深さ0.08mを測る。覆土はオリーブ褐色シルト質砂（やや粘性あり）のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK019（図面075）：平面形態は円形で、規模は径0.69～0.72m、深さ0.15mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト質砂炭化物混、第2層：にぶい黄褐色シルト質砂となる。出土遺物は認められない。

SK020（図面075）：平面形態は不整形で、SK035・SK036を切る。規模は長径0.55m、短径0.51m、深

さ0.16mを測る。覆土はオリーブ褐色シルト質砂（やや粘性あり）のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK021（図面075）：平面形態は楕円形で、SK023に切られる。規模は長径0.87m、短径0.54m、深さ0.49mを測る。土坑内に礫が混入している。覆土は灰黄褐色シルト質砂のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK022（図面075）：平面形態は楕円形で、SK037を切る。規模は長径1.22m、短径0.69m、深さ0.17mを測る。土坑内は拳大の礫が充填される。覆土はオリーブ褐色シルト質砂マンガン・酸化鉄層のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK023（図面075）：平面形態は円形で、SK012・SK021・SK032を切る。規模は径1.1～1.15m、深さ0.8mを測る。土坑内は礫が混入している。覆土はオリーブ褐色砂を基調とする4層から構成される。出土遺物は認められない。

SK024（図面075）：平面形態は円形で、規模は径0.97～1.03m、深さ0.26mを測る。土坑内には礫が混入している。覆土は第1層：オリーブ褐色シルト、第2層：灰オリーブ色シルト質砂となる。出土遺物は認められない。

SK025（図面075）：平面形態は不整形で、SK037を切る。南側は調査区外に広がる。規模は長径1.51m、短径0.71m以上、深さ0.4mを測る。土坑内は拳大の礫が充填される。覆土は灰オリーブ色シルト質砂のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK026（図面075）：集石遺構。平面形態は不整形で、規模は長径2.34m、短径1.63m、深さ0.32mを測る。土坑内には人頭大の礫が分布する。覆土は灰黄褐色シルト炭化物混を基調とする4層から構成される（自然堆積に近い様相を呈す）。出土遺物は認められない。

SK027（図面075）：集石遺構。平面形態は楕円形で、長径2.3m、短径1.61m、深さ0.33mを測る。土坑内には人頭大の円礫が分布している。覆土は第1層：(10YR4/2) 灰黄褐色シルト質砂炭化物混、第2層：(10YR5/2) 灰黄褐色シルト質砂、第3層：オリーブ黒色粘質シルトに分層される（自然堆積に近い様相を呈す）。遺物は白磁皿（596）、中世土師器が出土している。

SK028（図面076）：平面形態は円形で、規模は径0.6～0.62m、深さ0.22を測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK029（図面076）：平面形態は円形で、規模は径0.71～0.76m、深さ0.1mを測る。覆土はオリーブ褐色シルト質砂（やや粘性あり）のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK030（図面076）：平面形態は不整形で、北側は調査区外に広がる。規模は長径2.02m以上、短径1.11m、深さ0.28mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK031（図面076）：平面形態は隅丸方形で、規模は長辺0.99m、短辺0.71m、深さ0.5mを測る。覆土は第1層：(2.5Y4/6) オリーブ褐色シルト、第2層：(2.5Y4/4) オリーブ褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK032（図面076）：平面形態は不整形で、SK12・SK037・SK106を切り、SK023に切られる。規模は長径1.99m、短径1.97m、深さ0.36mを測る。覆土はオリーブ褐色砂を基調とする4層から構成される。出土遺物は認められない。

SK033（図面076）：平面形態は不整形で、北側は調査区外に広がる。規模は長径2.34m、短径1.29m以上、深さ0.14mを測る。覆土は第1層：(2.5Y4/6) オリーブ褐色シルト、第2層：(2.5Y4/4) オリーブ褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK034（図面076）：平面形態は不整形で、北東側をSK026に切られる。規模は長径2.55m以上、短径0.96m、深さ0.18mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト質砂炭化物混、第2層：にぶい黄褐色シルト質砂、第3層：灰オリーブ色砂となる。出土遺物は認められない。

SK035（図面076）：平面形態は不整形で、SD101を切り、SK014・SK020・SK036に切られる。規模は長径2.1m以上、短径2.0m、深さ0.17mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト質砂、第2層：オリーブ褐色砂となる。出土遺物は認められない。

SK036（図面076）：平面形態は不整形で、SK017・SK035・SD101を切り、SK020に切られる。規模は長径2.27m以上、短径1.74m、深さ0.25mを測る。SK035・SK036は重複関係にあり、SK036の方がSK035よりも先行するとみなされる。覆土は第1層：灰黄褐色シルト質砂炭化物多い、第2層：オリーブ褐色砂となる。出土遺物は認められない。

SK037（図面076）：平面形態は不整形で、SK106を切り、SD003・SD101・SK022・SK025・SK032・SP20に切られる。南側は調査区外に広がる。規模は長径6.45m、短径1.48m以上、深さ0.25mを測る。覆土は第1層：灰黄褐色シルト質砂炭化物混、第2層：オリーブ褐色砂となる。出土遺物は認められない。

溝

SD001（図面072・076）：調査区を南北に縦断する直線的な溝で、調査区外に延びている。北側でSK011を切り込む。確認できる長さは11.0m以上、最大幅0.5m、最大深0.2mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションでは第1層：灰色砂、第2層：オリーブ黄色シルト、第3層：灰オリーブ色砂質シルト、b・cセクションとも第1層：オリーブ黄色シルト、第2層：灰オリーブ色砂質シルトからなる。出土遺物は認められない。

SD002（図面072・076）：平面形態は直線的で東西に延びる溝である。東端、西端とも消失している。長さ4.9m、最大幅0.35m、最大深0.14mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD003（図面072・076）：調査区南西端から調査区外に広がるため平面形態は不明瞭である。東端はSK037に切られ、南西端でSK106を切り込んでいる。確認できる長さは1.7m以上、最大幅0.6m、最大深0.19mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は1層：灰黄褐色シルト質砂炭化物混、第2層：黄灰色シルト、第3層：オリーブ褐色砂となる。遺物は中世土師器皿（600）が出土している。

（2）古代の遺構

古代の遺構には竪穴状土坑、土坑、溝を確認した。竪穴状土坑は調査区外に広がっている。8～10世紀の遺物が出土した。

土坑

SK101（図面077）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.36m、短径0.33m、深さ0.2mを測る。覆土は灰黄褐色シルト質砂炭化物混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK102（図面077）：平面形態は不整形で、北側は調査区外に広がる。規模は長径0.42m以上、短径0.41m、深さ0.18mを測る。覆土は褐色シルト質砂のみの単層となる。遺物は土師器杯（613）が出土している。

SK103（図面077）：平面形態は楕円形で、SK104を切る。規模は長径0.34m、短径0.28m、深さ0.2mを測る。覆土は灰黄褐色シルト質砂炭化物混のみの単層となる。遺物は須恵器が出土している。

SK104（図面077）：平面形態は長楕円形で、SK103に切られる。規模は長径0.65m、短径0.29m、深

さ0.1mを測る。覆土は灰黄褐色シルト質砂炭化物混のみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK105（図面077）：平面形態は楕円形で、南側は調査区外に広がる。規模は長径1.85m以上、短径1.2m、深さ0.3mを測る。覆土は第1層：にぶい黄色シルト質砂、第2層：にぶい黄色砂となる。出土遺物は認められない。

SK106（図面077）：平面形態は不整形で、SD003・SK015・SK032・SK037に切られ、西側は調査区外に広がる。規模は長径2.45m、短径1.24m以上、深さ0.4mを測る。覆土は黄褐色砂を基調とする5層から構成される。遺物は須恵器の杯蓋（604）、須恵器杯A（607）、土師器杯（614）、土師器甕（615）が出土している。

溝

SD101（図面076・077）：平面形態は不整形で、調査区を南北に延びる古代の溝である。途中SK035、SK036に切られ途切れ、東側に大きく蛇行しながら南側調査区外に続く。SK010を切りこむ。確認できる長さは19.0m以上、最大幅1.3m、最大深0.37mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションでは第1層：灰黄褐色シルト質砂炭化物混、第2層：にぶい黄褐色砂質シルト、bセクションでは第1層：灰黄褐色シルト質砂炭化物混、第2層：暗灰黄色細砂、cセクションでは第1層：黄褐色細砂、第2層：灰黄褐色砂、第3層：暗灰黄色細砂からなる。出土遺物は土師器、須恵器が認められる。

⑤A7・A8・A9地区の調査

A7・A8・A9地区は現況の水路や道路を切り回すために、便宜的に3地区に分けて調査を行ったが、ここではまとめて報告する。A8・A9地区の西側と東側では基盤礫層が直接露出している。検出した遺構の時期は中近世の遺構が中心となるが、古代の遺構をわずかに確認している。従って以下の遺構の記述についても、おのずと中近世の遺構が中心となる。

（1）中近世の遺構

中近世の遺構はA7地区の全面とA8地区の中心部、A9地区では調査区の一部分でのみ確認した。検出した遺構は溝や土坑状の遺構が中心で、建物跡や井戸など中近世の集落における生活の痕跡を示す遺構は確認していない。また遺物の出土も稀少であり、遺構に伴う遺物は溝出土のものを除き、ほとんど認められなかった。以下主要な遺構について簡単に記述しておく。

土坑

SK001（図面082）：平面形態は楕円形で、SD008を切る。規模は長径0.87m、短径0.63m、深さ0.42mを測る。土坑内は礫が混入している。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK002（図面082）：平面形態は楕円形で、規模は長径2.17m、短径0.9m、深さ0.28mを測る。覆土は第1層：オリーブ褐色シルト炭化物多量に混、第2層：暗オリーブ褐色シルトとなる。遺物は金属製品では棒状鉄製品（074）、近世陶磁器が出土している。

SK003（図面082）：平面形態は不整形で、東側は調査区外に広がる。規模は長径1.52m、短径1.27m以上、深さ0.3mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK004（図面082）：平面形態は不整形で、SD004・SK005に切り込まれる。規模は長径1.65m、短径1.56m、深さ0.15mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK005（図面082）：平面形態は不整形で、SK004・SD004を切り込む。規模は長径2.98m、短径2.05m、

深さ0.38mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK006（図面082）：平面形態は不整形で、規模は長径2.05m、短径1.56m、深さ2.02mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK007（図面082）：平面形態は隅丸長方形で、SD102を切り込む。規模は長辺1.61m、短辺1.37m、深さ0.6mを測る。覆土は第1層：黄褐色シルト、第2層：オリーブ褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK008（図面082）：平面形態は不整形で、西側は調査区外に広がる。規模は長径1.95m、短径0.97m、深さ0.11mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK009（図面083）：平面形態は円形で、規模は径0.3m、深さ0.08mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK010（図面083）：平面形態は楕円形で、SD008を切る。規模は長径0.83m、短径0.56m、深さ0.39mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。遺物は越中瀬戸天目茶碗（667）、近世陶磁器が出土している。

SK011（図面083）：平面形態は楕円形で、SD002に北端を切られる。規模は長径1.49m、短径0.39m、深さ0.04mを測る。土坑内は礫が混入している。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK012（図面083）：平面形態は楕円形で、SK013に切られる。規模は長径0.6m、短径0.32m、深さ0.05mを測る。土坑内には礫が混入している。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK013（図面083）：平面形態は楕円形で、SK012・SD101を切り、SK014に切られる。規模は長径1.03m、短径0.45m、深さ0.15mを測る。土坑内には礫が混入している。覆土は黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK014（図面083）：平面形態は不整形で、SK013を切る。北側は調査区外に広がる。規模は長径1.9m以上、短径1.0m、深さ0.13mを測る。土坑内には礫が混入している。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK015（図面083）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.5m、短径0.45m、深さ0.07mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK016（図面083）：平面形態は円形で、規模は径0.31m、深さ0.12mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK017（図面083）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.37m、短径0.31m、深さ0.07mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK018（図面083）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺2.07m、短辺1.17m、深さ0.22mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK019（図面083）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺1.1m、短辺0.65m、深さ0.55mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK020（図面083）：平面形態は不整形で、規模は長径1.1m、短径0.9m、深さ0.5mを測る。土坑内には礫が混入している。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。遺物は近世陶磁器が出土している。

SK021（図面083）：平面形態は不整形で、西側は調査区外に広がる。規模は長径2.67m、短径1.88m、

深さ0.35mを測る。土坑内には礫が散在している。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK022（図面083）：平面形態は不整形で、規模は長径2.85m、短径2.5m、深さ0.16mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK023（図面084）：平面形態は隅丸方形で、規模は長辺1.72m、短辺1.05m、深さ0.4mを測る。土坑内は小礫が散在している。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は近世淘磁器がある。

SK024（図面084）：平面形態は不整形で、規模は長径1.53m、短径0.8m、深さ0.16mを測る。覆土は黄褐色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は近世陶磁器がある。

SK025（図面084）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.96m、短径0.58m、深さ0.09mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK026（図面084）：平面形態は不整形で、規模は長径0.61m、短径0.47m、深さ0.27mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK027（図面084）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.6m、短径0.45m、深さ0.23mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK028（図面084）：平面形態は不整形で、規模は長径0.75m、短径0.65m、深さ0.28mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK029（図面084）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.77m、短径0.45m、深さ0.27mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK030（図面084）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.07m以上、短径0.76m、深さ0.36mを測る。覆土はオリーブ褐色シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK031（図面084）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.25m、短径0.18m、深さ0.15mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK032（図面084）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.26m、短径0.22m、深さ0.3mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK033（図面084）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.28m、短径0.97m、深さ0.49mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK034（図面084）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.2m、短径0.9m、深さ0.42mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK035（図面084）：平面形態は長楕円形で、規模は長径1.67m、短径0.38m、深さ0.1mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK036（図面084）：平面形態は不整形で、規模は長径2.28m、短径0.9m、深さ0.35mを測る。土坑内は礫が混入している。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK037（図面084）：平面形態は不整形で、規模は長径1.7m、短径1.06m、深さ0.21mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK038（図面084）：平面形態は不整形で、規模は長径2.54m、短径1.4m、深さ0.37mを測る。土坑内は礫が散在している。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

溝

SD001（図面079・085）：SD005の北側に併走する直線的な溝である。北西端は消失し、南東側は調

査区外に続く。確認できる長さは2.6m以上、最大幅0.23m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SD002（図面079・085）：北東から南西方向に延びる直線的な溝であり、両端とも消失している。南西端でSK011を切り込む。長さ4.0m、最大幅0.2m、最大深0.03mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD003（図面079・085）：南西から北東方向に延びる直線的な小溝であり、両端とも消失する。長さ2.2m、最大幅0.32m、最大深0.01mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD004（図面079・085）：南西から北東方向に蛇行しながら延びる。北東端はSK005に切られ、南西端は消失する。長さ8.3m、最大幅0.75m、最大深0.05mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD005（図面079・085）：南東から北西方向に直線的に延びる溝であり、調査区外に続く。北西端は消失し、SD009を切り込む。確認できる長さは5.2m以上、最大幅0.4m、最大深0.09mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD006（図面079・085）：北東側調査区外より南西方向に延び、北西方向に折れる逆L字形の溝である。北西端は消失している。確認できる長さ13.0m以上、最大幅0.9m、最大深0.32mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトの単層である。出土遺物は越中瀬戸天目茶碗（618）、近世陶磁器が認められる。

SD007（図面079・085）：調査区の西側で北東から南西方向に延びる不整形の溝である。北端はSK021に切られ調査区外に広がり、南端は消失してる。SK004を切っている。確認できる長さは14.0m以上、最大幅2.5m、最大深0.75mを測る。断面形態はU字形～逆台形を呈し、覆土はa、bセクションともオリーブ褐色シルトの単層である。出土遺物は近世磁器が認められる。

SD008（図面079・085）：北東から南北方向に軽い円弧を描いて延びる。併走するSD009に切り込まれ、調査区外に続く。SK001・SK010に切られる。確認できる長さは37.3m以上、最大幅5.5m、最大深0.25mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第1層：黄褐色シルト、第2層；オリーブ褐色シルトとなる。出土遺物は越中瀬戸の皿（621）、中世土師器皿（620）、金属製品で釘（069）が認められる。

SD009（図面079・085）：北東から軽い円弧を描いて南北方向に延びる溝で、調査区外に続く。併走するSD008を切りこんでいる。SD005・SK107に切られる。確認できる長さは30.3m、最大幅4.0m、最大深0.43mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第1層：オリーブ褐色シルト、第2層：黄褐色シルトからなる。出土遺物は認められない。

SD010（図面078・085）：南西から北東方向に延びる不整形の溝であり、両端とも消失している。長さは20.8m、最大幅2.2m、最大深0.33mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はa・bセクションともオリーブ褐色シルトの単層からなる。出土遺物は中世土師器皿（624）、伊万里碗（626・628）、伊万里皿（627）、金属製品では釘（072）が認められる。

SD011（図面080・085）：調査区の北側で東西に延びる直線的な溝である。西端は消失し、東端は調査区外に続いている。確認できる長さは9.0m、最大幅0.8m、最大深0.05mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗灰黄色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD012（図面080・085）：北西から南東に直線的に延びる溝である。両端とも消失している。長さ6.7

m、最大幅1.55m、最大深0.07mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗灰黄色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD013（図面080・085）：南北に軽い円弧を描いて延びる溝である。北端、南端とも消失している。途中SK30に切り込まれる。長さは12.8m、最大幅1.7m、最大深0.44mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD014（図面081・085）：調査区を南北に縦断する自然流路であり、調査区外に続く。確認できる長さは20.1m以上、最大深7.8m、最大深0.4mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトの単層である。出土遺物は中世土師器皿（622）、珠洲擂鉢（623）、近代陶磁器、石製品では石臼上（036）、凹石（038）が認められる。

SD015（図面081・085）：SD017の上層にある。東西に延びる不整形の溝であり、両端とも消失している。長さ6.4m以上、最大幅1.9m、最大深0.23mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトの単層となる。出土遺物は伊万里皿（630）、越中瀬戸灯明受皿（629）が認められる。

SD016（図面081・085）：SD017の上層にある。調査区南東端で東西に延び西側で南に折れるL字形の溝で調査区外に続く。確認できる長さは5.8m以上、最大幅1.25m、最大深2.65mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SD017（図面081・085）：調査区東端に広がる谷状遺構である。平面形態は不整形で、南側A8調査区に続くと思われる。確認できる長さは16.4m以上、最大幅15.65m、最大深0.72mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトの単層である。出土遺物は石製品の石臼（037）が認められる。

（2）古代の遺構

古代の遺構は竪穴住居、土坑、溝を各地区で、部分的に確認した。遺物が多数出土した遺構はA8地区の竪穴住居である。竪穴住居の面積は7㎡と、四畳半にも満たない。但しこれは掘り方の大きさであり、住居構造を勘案すれば内部の空間はもっと狭いと考えられる。カマドは南西側のコーナーに位置する。覆土は炭混じりのシルトで構築されており、その存在は調査時によく確認できるほどであった。内部の構造は焚口を住居内におき、燃焼部は住居壁を掘り込んで作り出している。カマドの袖石は左右高さを揃えて、3つ燃焼部に向かって並んでおり、上に平らな面を作り出している。天井石は確認出来なかった。柱穴や周溝はなく、住居の中央によく叩きしめられた貼り床が土坑状に確認できた。また、住居の東側コーナーと南側コーナーに浅い土坑が付随しているが遺構との関係は不明である。遺物は支脚石の上に乗った状態で出土している。これらの土器は支脚の高さ調整に使われたものと思われる。A7、A9地区の古代の遺構は土坑や溝のみで出土遺物も少ない。

以下主要な遺構について簡単に記述しておく。

竪穴住居

SI01（図面088）：平面形態はほぼ正方形を呈し、一辺2.85～3.1m、竪穴掘方までの深さ0.24mを測る。主軸方位はN11°Eとなる。壁面の立ち上がりは傾斜を持つ。竪穴の覆土はオリーブ褐色砂質シルトを基調とする6層から構成される。床面には貼り床が土坑状に確認された。カマドは南西側の西寄りの位置に構築されている。主軸方位はN30°Eとなる。カマドの規模は幅0.4mで、奥行き0.56m、竪穴外へ伸びる煙道は0.85m突出している。燃焼部での袖間の幅は0.4mで、左袖に3個、右袖に3個の長径15～30㎝ほどの自然礫を袖補強材としている。カマドの覆土はオリーブ褐色シルトで、煙道の覆土は第1層：オリーブ褐色シルト、第2層：暗灰黄色シルトとなる。遺物は燃焼部内・カマド周

辺から須恵器の杯蓋(636)、須恵器杯A(639)、土師器杯(642・644～646・652・653)、土師器甕(655・657・659・663・664)、土師器鍋（666）が、竪穴内覆土から須恵器杯A（638)、須恵器杯（640・641)、須恵器杯蓋（634・635・637)、土師器杯（643・647～651・654)、土師器甕（656・658・660～662・665)、金属製品の棒状鉄製品（070・071・073)、コ字状鉄製品（075)、紡績車（077)、鉄滓（078～080)、砥石が出土している。

土坑

SK101（図面089）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.37m、短径0.31m、深さ0.06mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK102（図面089）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.37m、短径0.26m、深さ0.1mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK103（図面089）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.34m、短径0.25m、深さ0.09mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK104（図面089）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.48m、短径0.3m、深さ0.07mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK105（図面089）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺1.11m、短辺0.97m、深さ0.2mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK106（図面089）：平面形態は不整形で、規模は長径1.32m、短径1.17m、深さ0.12mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK107（図面089）：平面形態は楕円形で、SD008・SD009を切る。規模は長径2.45m、短径2.0m、深さ0.5mを測る。土坑内は礫が混入している。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。遺物は土師器、須恵器が出土している。

SK108（図面089）：平面形態は不整形で、規模は長径3.67m、短径2.98m、深さ0.13mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

SK109（図面089）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.32m以上、短径0.2m、深さ0.12mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK110（図面089）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.25m、深さ0.05mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK111（図面089）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.54m、短径0.43m、深さ0.2mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK112（図面089）：平面形態は円形で、規模は径0.24～0.27m、深さ0.18mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK113（図面089）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.27m、短径0.24m、深さ0.11mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。

SK114（図面089）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.31m、短径0.27m、深さ0.24mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK115（図面089）：平面形態は不整形で、規模は長径0.29m、短径0.26m、深さ0.06mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK116（図面089）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.4m、短径0.36m、深さ0.07mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK117（図面089）：平面形態は長楕円形で、規模は長径0.59m、短径0.27m、深さ0.36mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は土師器がある。
SK118（図面089）：平面形態は長楕円形で、規模は長径1.05m、短径0.36m、深さ0.08mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。
SK119（図面089）：平面形態は不整形で、規模は長径2.01m、短径1.15m、深さ0.21mを測る。覆土は暗オリーブ褐色シルト炭化物多量に混のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。
SK120（図面089）：平面形態は不整形で、規模は長径2.35m、短径2.05m、深さ0.14mを測る。覆土は黒褐色シルト炭化物少量混のみの単層となる。出土遺物は土師器がある。
SK121（図面089）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.44m、短径0.4m、深さ0.07mを測る。覆土は黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は土師器、須恵器が出土している。
SK122（図面089）：平面形態は楕円形で、規模は長径5.65m、短径5.1m、深さ0.16mを測る。覆土は黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。
SK123（図面089）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.0m、短径0.91m、深さ0.23mを測る。土坑内には礫が混入している。覆土は暗オリーブ褐色シルトのみの単層となる。遺物は土師器が出土している。

溝

SD101（図面086・089）：南東から北西方向に延びる直線的な溝である。南東端はSK013に切られ、北西端は消失している。長さは3.55m、最大幅0.3m、最大深0.05mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は暗オリーブ褐色シルトの単層である。出土遺物は土師器が認められる。
SD102（図面086・089）：南西から北東方向に延び北西に曲がるL字形の溝であり、両端とも消失している。途中SK007に切られる。長さ7.6m、最大幅0.5m、最大深0.24mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は暗オリーブ褐色シルトの単層となる。出土遺物は須恵器杯（668）が認められる。

⑥ A10・A11地区の調査

A10・A11地区は中近世面のみ確認した。両地区ほ場整備時に削平されている部分が多く、調査区内の大半において耕作土直下は基盤礫層となっている。A11地区の谷地形で落ち込む西側にⅡ層とⅢ層が一部残存が認められた。

（1）中近世の遺構

A10・A11地区の中近世の遺構は土坑、溝で、数が少ない。A10地区のSD01とA11地区のSD01・SD03は旧耕作土と礫の混土を埋土とする落ち込みで、ほ場整備に伴う攪乱と思われる。また遺物の出土も稀少であり、遺構に伴う遺物は溝出土のものを除き、ほとんど認められなかった。以下にこれらの遺構について外述していく。

A10地区

土坑

SK01（図面090）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.65m、短径0.45m、深さ0.12mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。
SK02（図面090）：平面形態は楕円形で、東側は東壁に切り込まれる。規模は長径0.7m、短径0.5m以上、深さ0.45mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。
SK03（図面090）：平面形態は不整形で、南側調査区外に続く。規模は長径4.1m、短径1.5m、深さ0.05mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK04（図面090）：平面形態は不整形で、北東側は調査区外に広がる。規模は長径3.5m以上、短径3.2m以上、深さ0.1mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

溝

SD01（図面090）：調査区の中央を南北に流れる溝である。平面形態は不整形で、この溝の中にSK01・SK03が存在する。確認できる長さは12.0m以上、最大幅8.5m、最大深0.34mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトの単層である。出土遺物は銅銭（103）が認められる。

A11地区

土坑

SK01（図面091）：平面形態は楕円形で、西壁に切られている。規模は長径0.33m、短径0.15m以上、深さ0.22mを測る。覆土は第1層：暗褐色粘質シルト、第2層：黒褐色粘質シルトに分層される。出土遺物は認められない。

溝

SD01（図面091）：南北に延びる不整形の溝である。確認できる長さは15.0m以上、最大幅4.2m、最大深0.33mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色粘質シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD02（図面091）：ほ場整備に伴い廃絶した近世の農業用水路と考えられる。東西に延び、SD03を切って北西側調査区外に軽い円弧を描いて続く。確認できる長さは14.5m以上、最大幅3.5m、最大深0.65mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色粘質シルトを基調とする6層から構成される。出土遺物は越中瀬戸皿（720・721）、越中瀬戸小杯（719）、伊万里皿（728）、伊万里碗（722）、唐津が認められる。

SD03（図面091）：ほ場整備に伴う深い撹乱と考えられる。南北に流れる直線的な溝であり、調査区外に続く。北側はSD02に切り込まれる。確認できる長さは24.2m、最大幅5.5m、最大深0.6mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は褐灰色粘質シルトを基調とする6層から構成される。出土遺物は越中瀬戸皿（723）、伊万里碗（724・725）伊万里大皿（726）、石製品が認められる。

⑦ A12地区の調査

A12地区は用水路取り付けに係る部分の幅1.5m、長さ約220mの南北に細長い調査区で、更に大きく3ヶ所に分割されており旧地形は北側に向かって低く傾斜している。A12地区では中近世面と古代面を確認している。中近世面は、調査区のほぼ全域で広く検出した。これに比べ古代の遺構はA12地区南端を中心に竪穴住居と溝を検出したにすぎない。

（1）中近世の遺構

A12地区で検出された遺構は土坑や溝が中心で、建物跡や井戸など中近世集落における生活の痕跡を示す遺構は確認していない。溝はSD02、SD04、SD05等が南北方向に細長い調査区に対して垂直（東西方向）に延びている。以下これらの遺構について外述していく。

土坑

SK01（図面096）：平面形態は隅丸方形で、西側は調査区外に広がる。規模は長辺1.35m、短辺1.0m以上、深さ0.27mを測る。土坑内は多数の礫が混入している。覆土は黒褐色シルト質砂炭化物混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK02（図面096）：平面形態は楕円形で、東側は調査区外に広がる。規模は長径0.56m、短径0.2m以上、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色シルト質砂炭化物混のみの単層となる。出土遺物は認められな

い。

SK03（図面096）：平面形態は楕円形で、東側は調査区外に広がる。規模は長径0.52m、短径0.31m以上、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色シルト質砂炭化物混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK04（図面096）：平面形態は楕円形で、SD003を切る。規模は長径0.76m、短径0.42m、深さ0.19mを測る。覆土は黒褐色シルト質砂のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK05（図面096）：平面形態は不整形で、東側は調査区外に広がる。規模は長径0.66m以上、短径0.55m、深さ0.23mを測る。土坑内は礫が混入している。覆土は黒褐色シルト質砂のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK06（図面096）：平面形態は楕円形で、東側は調査区外に広がる。規模は長径1.34m、短径0.62m以上、深さ0.18mを測る。覆土は黒褐色シルト質砂炭化物混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK07（図面096）：平面形態は不整形で、東側は調査区外に広がる。規模は長径0.92m、短径0.45m以上、深さ0.26mを測る。土坑内は礫が混入している。覆土は黒褐色シルト質砂炭化物混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK08（図面096）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.99m、短径0.56m、深さ0.23mを測る。土坑内は礫が混入している。覆土は黒褐色砂礫のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK09（図面096）：平面形態は楕円形で、東側は調査区外に広がる。規模は長径1.0m以上、短径0.75m、深さ0.37mを測る。覆土は第1層：褐灰色粘質シルト、第2層：黒褐色砂礫、第3層：暗褐色粗砂となる。出土遺物は認められない。

SK10（図面096）：平面形態は隅丸方形で、東側は調査区外に広がる。規模は長辺1.11m、短辺0.67m以上、深さ0.37mを測る。覆土は第1層：暗オリーブ褐色シルト、第2層：黒褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK11（図面097）：平面形態は不整形で、東西共に調査区外に広がる。規模は長径5.15m、短径1.2m以上、深さ0.71mを測る。土坑内にはφ100～300㎜の巨礫が充填される。覆土は第1層：黒褐色砂炭化物混、第2層：褐灰色砂となる。遺物は越中瀬戸壷（729）が出土している。

溝

SD001（図面095・097）：南北に延びる溝であるが、調査区外に広がるため平面形態は不明である。確認できる長さは1.5m以上、最大幅1.8m、最大深0.12mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は暗褐色シルト炭化物混となる。出土遺物は認められない。

SD002（図面092・097）：東西に延びる直線的な溝であり、調査区外に続く。確認できる長さは1.1m以上、最大幅0.96m、最大深0.19mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は第1層：褐灰色シルト、第2層：暗褐色砂からなる。出土遺物は認められない。

SD003（図面092・097）：SD002の北側に併走している不整形の溝であり、東西に延びて調査区外に続く。SK04に切り込まれる。確認できる長さは1.1m以上、最大幅1.5m、最大深0.42mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色シルトの単層である。出土遺物は、金属製品の棒状鉄製品(081)が認められる。

SD004（図面092・097）：SD003の北側に併走している直線的な溝であり、東西に延び、調査区外に続く。確認できる長さは1.1m以上、最大幅3.0m、最大深0.52mを測る。断面形態は不整形を呈し、

覆土は黒褐色シルト炭化物混の単層である。出土遺物は越中瀬戸皿（730）が認められる。

SD005（図面095・097）：南北に延びる溝である。調査区外に広がるため平面形態は不明である。確認できる長さは1.1m以上、最大幅3.5m、最大深0.59mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第1層：暗褐色シルト、第2層：(2.5Y3/3) 黒褐色シルト、第3層：(5Y3/2) 黒褐色シルトとなる。出土遺物は越中瀬戸が認められる。

SD006（図面095・097）：SD007の東側に南北に延びる溝である。調査区外に広がるため平面形態は不明である。確認できる長さは1.2m以上、最大幅1.0m、最大深0.41mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD007（図面095・097）：南北に延びる溝である。調査区外に広がるため平面形態は不明であるがSD006と併走していると思われる。確認できる長さは1.5m以上、最大幅1.0m、最大深0.45mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第1層：暗オリーブ褐色シルト炭化物混、第2層：暗褐色シルトからなる。出土遺物は認められない。

SD008（図面094・097）：東西に延びる直線的な溝であり、調査区外に続く。確認できる長さは1.12m以上、最大幅0.49m、最大深0.22mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は褐灰色シルトからなる。出土遺物は認められない。

SD009（図面095・097）：調査区北西端に広がる溝であり、平面形態は不明である。確認できる長さは1.3m以上、最大幅3.25m、最大深0.28mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は暗褐色シルト炭化物混の単層である。出土遺物は認められない。

SD010（図面094・097）：東西に延びる直線的な溝であり、調査区外に続く。確認できる長さは1.2m以上、最大幅0.85m、最大深0.11mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黒褐色シルト質砂炭化物混の単層である。出土遺物は認められない。

（2）古代の遺構

A12地区の南端地区で竪穴住居、溝を検出している。これらの遺構は中近世の遺構群とほぼ同一面で重複して検出されているが、切り合い関係や覆土の特徴から、中近世の遺構に先行する時期の遺構と考えられる。このため遺構図化の際にこれらの遺構を古代遺構として一括・分離した。主な遺構として竪穴住居があげられる。SI01は表土直下から部分的に検出されたもので、中央部には攪乱部分がある。このSI01は遺物が比較的多く出土しており、また焼土の集中する部分が確認されたため竪穴住居として扱った。溝内からの出土遺物はほとんど認められない。以下主要な遺構について簡単に記述しておく。

竪穴住居

SI01（図面099）：調査区が幅1.5mの細長い地区のため、規模ははっきりしないが、平面形態は隅丸方形を呈し、確認できる規模は幅2.98m、掘方までの深さ0.12mを測る。壁面の立ち上がりはやや傾斜を持つ。竪穴の覆土は第1層：黒褐色シルト、第2層：褐色シルトとなる。カマドは確認されないが、北東隅には焼土が集中している部分が認められる。焼土部分の覆土は第1層：にぶい赤褐色砂炭化物混、第2層：灰オリーブ色砂となる。遺物は須恵器杯A（747）、土師器甕（740～746）が出土している。

溝

SD101（図面098・099）：東西に延びる溝であるが、調査区外に広がるため平面形態は不明である。確認できる長さは1.0m以上、最大幅4.3m、最大深0.43mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は

暗褐色砂礫となる。出土遺物は須恵器が認められる。

⑧ A13地区の調査

A13地区は水田１枚分の調査区で、一面調査を実施した。地形は調査区両端に向って落ち込んでいる。遺構は調査区の中央部、南北方向に帯状に延びる微高地上に分布する。集落として検出される遺構は中近世の時期に限定される。

（１）中近世の遺構

A13地区で検出した中近世の遺構は、ほぼ調査区全面に広がっている。確認した遺構は掘立柱建物、土坑、溝がある。掘立柱建物は計４棟確認した。SB03とSB02は掘立柱建物の範囲が重複することから、２時期に分離できる。しかし、どの遺構からも遺物の出土はなく柱穴の切り合いもないことから、SB03とSB02の新古を決定することは難しい。SB09、SB10とを含めた掘立柱建物のセット関係については、SB03とSB10、SB02とSB09の主軸がそれぞれ一致することから、同時期に存在していた可能性がある。SK12は遺構内に人頭大の円礫が充填されており、遺構壁面には大小の円礫が不規則に積まれている。

この土坑は上部構造の基礎固めに使用された可能性が考えられる。また、SK12はSB03とSB10の主軸と同一方向に並ぶことから、掘立柱建物に関連する遺構と思われる。以下主要な遺構について簡単に記述しておく。

掘立柱建物

SB01－SP01～SP09（図面102）：建物の規模は、梁行２間（4.0m）、桁行２間（4.1m）の総柱建物で、平面プランは方形を呈す。建物の棟方向はN38°Eで床面積は17.6㎡。柱間距離は、梁行2.0m、桁行2.0～2.1mである。柱穴形態は円～不整形で径0.35～0.83m、深さ0.11～0.36mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂礫～暗オリーブ褐色砂炭化物混を基調とする。遺物はSP06で中世土師器が認められる。

SB02－SP10～SP15（図面102）：建物の規模は、梁行１間（2.4m）、桁行２間（5.0～5.1m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN43°Eで床面積は12.2㎡。柱間距離は、桁行2.3～2.6mである。柱穴形態は円～長楕円形で径0.43～0.56m、深さ0.24～0.35mを数える。柱穴内覆土は暗褐色シルト質砂炭化物混を基調とする。出土遺物は認められない。

SB03－SP16～SP31（図面102）：建物の規模は、梁行３間（5.8～5.9m）、桁行３間（6.0m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN50°Wで床面積は36.0㎡。柱間距離は、梁行1.8～2.1m、桁行1.8～2.2mである。柱穴形態は円～不整形で径0.23～1.1m、深さ0.11～0.48mを数える。柱穴内覆土は黒褐色砂礫炭化物混～黄褐色砂を基調とする。出土遺物はSP21で中世土師器の皿（763）が認められる。

SB04－SP20・SP32～SP37（図面102）：建物の規模は、梁行２間（3.3m）、桁行３間（4.4m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN44°Wで床面積は14.5㎡。柱間距離は、梁行1.6m、桁行1.3～1.6mである。柱穴形態は円～不整形で径0.3～0.6m、深さ0.13～0.44mを数える。柱穴内覆土は黄褐色砂を基調とする。出土遺物は認められない。

土坑

SK01（図面103）：平面形態は不整形で、SK08・SK10を切る。規模は長径2.09m、短径1.54m、深さ0.39mを測る。覆土は第１層：黄褐色砂、第２層：暗オリーブ褐色シルト質砂炭化物混となる。遺物は越中瀬戸、近世陶磁器が出土している。

SK02（図面103）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.96m、短径0.91m、深さ0.63mを測る。覆土は

黒褐色シルト質砂を基調とする４層から構成される。出土遺物は認められない。

SK03（図面103）：平面形態は不整形で、SK11に切られる。規模は長径1.45m 以上、短径0.8m 深さ0.18m を測る。覆土は灰オリーブ色シルト質砂のみの単層となる。遺物は珠洲が出土している。

SK04（図面103）：平面形態は不整形で、規模は長径1.81m、短径1.2m、深さ0.22m を測る。覆土は第１層：暗オリーブ褐色砂質シルト、第２層：暗オリーブ褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK05（図面103）：平面形態は長楕円形で、規模は長径1.81m、短径0.73m、深さ0.2m を測る。覆土は灰黄褐色粘土炭化物混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK06（図面103）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.58m、短径0.46m、深さ0.22m を測る。土坑内は礫が混入している。覆土は黄褐色砂のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK07（図面103）：平面形態は楕円形で、SK08を切る。規模は長径0.75m、短径0.62m、深さ0.27m を測る。覆土は黄褐色砂のみの単層となる。出土遺物は中世土師器の小皿（764）が認められる。

SK08（図面103）：平面形態は不整形で、SK01・SK10に切られる。規模は長径1.77m、短径1.7m 以上、深さ0.45m を測る。覆土は第１層：黄褐色砂、第２層：灰黄褐色シルト質砂炭化物少量混となる。出土遺物は中世土師器の小皿（765）が認められる。

SK09（図面103）：平面形態は長楕円形で、SK10を切る。規模は長径3.0m、短径1.26m、深さ0.31m を測る。覆土は第１層：黄褐色砂、第２層：暗オリーブ褐色シルト質砂炭化物混となる。遺物は珠洲、越前、石製品では瑪瑙が出土している。

SK10（図面103）：平面形態は不整形で、SK01・SK09に切られる。規模は長径3.34m、短径1.62m、深さ0.14m を測る。覆土は黄褐色砂のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK11（図面104）：平面形態は不整形で、SK03を切る。規模は長径3.77m 以上、短径0.59m、深さ0.35m を測る。覆土はａセクションで第１層：黄褐色砂、第２層：暗オリーブ褐色砂炭化物混、第３層：黒褐色砂炭化物混に分層される。ｂセクションでは、黄褐色砂のみの単層となる。遺物は珠洲が出土している。

SK12（図面104）：平面形態は不整形で、SK16を切り、SK13に切られる。規模は長径5.65m 以上、短径4.06m、深さ0.75m を測る。土坑内には人頭大の円礫が充填されており、壁面には大小の円礫が不規則に積まれている。覆土はオリーブ褐色シルトを基調とする４層から構成される。出土遺物は珠洲甕（778）、珠洲擂鉢（779）、八尾甕（780）、越前、石製品では砥石（043）がある。

SK13（図面105）：平面形態は隅丸方形で、SK12・SK16を切る。規模は一辺2.64m、深さ0.55m を測る。覆土は黄灰色シルトを基調とする３層から構成される。遺物は石製品では砥石（042）、金属製品では板状鉄製品（094）、木製品では漆器椀（002）、越中瀬戸、近世陶磁器が出土している。

SK14（図面105）：平面形態は不整形で、SD03・SK15に切られ、SK16を切る。規模は長径8.92m、短径5.92m 以上、深さ0.61m を測る。覆土は暗オリーブ褐色シルト質砂を基調とする９層から構成される。遺物は中世土師器皿（766）、八尾甕（772）、珠洲が出土している。

SK15（図面105）：平面形態は長楕円形で、SK14を切る。規模は長径3.33m、短径0.74m、深さ0.53m を測る。覆土はａセクションで灰黄褐色シルト質砂、ｂセクションで第１層：黄褐色砂、第２層：暗オリーブ褐色砂となる。出土遺物は認められない。

SK16（図面105）：平面形態は不整形で、西側をSD03に切られる大型土坑である。規模は長径11.5m、短径3.5m、深さ0.42m を測る。掘り方が明瞭でなく、堆積物には人頭大の円礫が多く分布している。

円礫には規則性がなく整地跡とみられる。覆土は暗褐色砂礫のみの単層となる。遺物は珠洲甕（777）が出土している。

SK17（図面105）：平面形態は不整形で、規模は長径1.65m、短径1.5m、深さ0.43mを測る。覆土は第1層：暗オリーブ褐色シルト質砂炭化物多量に混、第2層：黄褐色砂、第3層：黒褐色シルト質砂に分層される。遺物は瀬戸美濃合子（774）、珠洲が出土している。

溝

SD01（図面101・105）：SD03とほぼ平行に走る。南西から北東に延びる不整形の溝であり東側調査区外に続く。確認できる長さは31.0m以上、最大幅5.0m以上、最大深0.2mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は第1層：灰オリーブ色シルト、第2層：(2.5Y3/1)黒褐色シルト質砂、第3層：(2.5Y3/2) 黒褐色シルト質砂からなる。出土遺物は近世陶磁器が認められる。

SD02（図面101・105）：SD01の西側を併走する不整形の溝で、北東側調査区外に延びる。南西端は消失する。確認できる長さは24.5m以上、最大幅9.2m、最大深0.25mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は第1層：灰黄褐色砂礫、第2層：暗灰黄色砂礫となる。出土遺物は認められない。

SD03（図面100・105）：南西から北東方向に延びる不整形の溝である。SK14・SK16を切る。確認できる長さは35.0m以上、最大幅9.7m以上、最大深0.48mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はオリーブ黒色シルト質砂を基調とする5層からなる。出土遺物は中世土師器皿（767～771）、珠洲甕（775・776）、八尾甕（773）、白磁、青磁、近世陶磁器、金属製品がみられ、石製品では砥石（044）が認められる。

⑨ A14地区の調査

A14地区では中近世の遺構を確認している。但し主な遺構として検出した遺構は中世の時期にほぼ限定される。これらの遺構はA14地区の全域で広く検出した。確認した遺構は土坑と溝が中心で、建物跡や井戸など中世集落における生活の痕跡を示す遺構は確認されていない。

（1）中近世の遺構

近世の遺構はA14地区では若干検出されているが、中世遺構と重複・混在する状況にある。土坑には明確な建物の並びを持つものは確認できなかった。また遺物の出土も稀少であり、遺構に伴う遺物はほとんど認められなかった。以下これらの遺構について外述していく。

土坑

SK01（図面107）：平面形態は楕円形で、SK25を切る。規模は長径0.27m、短径0.22m、深さ0.1mを測る。覆土は黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK02（図面107）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.29m、短径0.25m、深さ0.2mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK03（図面107）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.42m、短径0.32m、深さ0.11mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK04（図面107）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.41m、短径0.29m、深さ0.17mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK05（図面107）：平面形態は円形で、規模は径0.32m、深さ0.11mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK06（図面107）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.4m、短径0.35m、深さ0.17mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。遺物は中国製青磁碗（799）が出土している。

SK07（図面107）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.71m、短径0.56m、深さ0.1mを測る。覆土は暗灰黄色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK08（図面107）：平面形態は不整形で、南側をトレンチに切られる。規模は長径0.6m、短径0.38m以上、深さ0.13mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK09（図面107）：平面形態は不整形で、南側をトレンチに切られる。規模は長径0.7m以上、短径0.65m、深さ0.33mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK10（図面107）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.72m、短径0.46m、深さ0.24mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK11（図面107）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.68m、短径0.39m、深さ0.4mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK12（図面107）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.79m、短径0.48m、深さ0.21mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK13（図面107）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.78m、短径0.34m、深さ0.21mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。遺物は金属製品の鉄滓（098）が出土している。

SK14（図面107）：平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺0.87m、短辺0.56m深さ0.16mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK15（図面107）：平面形態は楕円形で、北側をトレンチに切られる。規模は長径0.69m以上、短径0.4m、深さ0.15mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK16（図面107）：平面形態は不整形で、規模は長径1.21m、短径0.74m、深さ0.34mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。遺物は珠洲が出土している。

SK17（図面107）：平面形態は不整形で、南側をトレンチに切られる。規模は長径1.6m以上、短径1.3m、深さ0.16mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK18（図面107）：平面形態は不整形で、北側をトレンチに切られる。規模は長径1.42m以上、短径1.39m、深さ0.22mを測る。覆土は暗灰黄色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK19（図面107）：平面形態は楕円形で、SD07を切る。規模は長径1.55m、短径1.35m、深さ0.25mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器皿（800）、珠洲擂鉢（805）、白磁皿（801）が出土している。

SK20（図面108）：平面形態は不整形で、南西側調査区外に広がる。規模は長径1.65m以上、短径0.48m、深さ0.2mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK21（図面108）：平面形態は楕円形で、北側は調査区外に広がる。規模は長径2.02m、短径0.47m以上、深さ0.17mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK22（図面108）：平面形態は不整形で、規模は長径2.48m、短径0.98m、深さ0.13mを測る。覆土は黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は珠洲が出土している。

SK23（図面108）：平面形態は楕円形で、SK24を切る。規模は長径0.87m、短径0.74m、深さ0.37mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK24（図面108）：平面形態は不整形で、SK003に切られる。規模は長径1.19m以上、短径0.82m、深さ0.31mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK25（図面108）：平面形態は不整形で、SK01に切られる。規模は長径1.79m、短径1.66m、深さ0.39mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は珠洲がある。

SK26（図面108）：平面形態は楕円形で、SD07を切り込む。規模は長径1.65m、短径1.44m、深さ0.12mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は中世土師器皿（802）がある。

SK27（図面108）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.12m、短径0.51m、深さ0.2mを測る。覆土は黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK28（図面108）：平面形態は長楕円形で、SD02に切られる。規模は長径2.49m以上、短径0.87m、深さ0.07mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK29（図面108）：平面形態は不整形で、SK30、SD04に切られる。規模は長径1.71m以上、短径0.96m、深さ0.36mを測る。覆土は第1層：オリーブ褐色シルト、第2層：黄褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK30（図面108）：平面形態は不整形でSK29を切り、SD03に切られる。規模は長径2.3m、短径0.8m、深さ0.15mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK31（図面109）：平面形態は楕円形で、SK33・SK34を切る。規模は長径0.42m、短径0.3m、深さ0.05mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK32（図面109）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.28m、短径0.22m、深さ0.13mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK33（図面109）：平面形態は楕円形で、SK31に切られる。規模は長径0.46m、短径0.36m、深さ0.08mを測る。覆土は黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK34（図面109）：平面形態は不整形で、SK31に切られる。規模は長径0.25m、短径0.15m以上、深さ0.15mを測る。覆土は黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK35（図面109）：平面形態は楕円形で、SK44を切る。規模は長径0.34m、短径0.31m、深さ0.14mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK36（図面109）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.42m、短径0.38m、深さ0.07mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK37（図面109）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.31m、短径0.24m、深さ0.19mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK38（図面109）：平面形態は円形で、規模は径0.37m、深さ0.18mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK39（図面109）：平面形態は不整形で、SD06を切る。東側は調査区外に広がる。規模は長径0.7m以上、短径0.24m以上、深さ0.07mを測る。覆土は黄褐色シルトのみの単層となる。遺物は金属製品では鉄滓（099）が出土している。

SK40（図面109）：平面形態は円形で、規模は径0.28m、深さ0.21mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK41（図面109）：平面形態は楕円形で、SK43を切る。規模は長径0.32m、短径0.3m、深さ0.16mを測る。覆土は黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK42（図面109）：平面形態は不整形で、SD07に切られる。南側は調査区外に広がる。規模は長径3.22m、短径0.57m以上、深さ0.13mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK43（図面109）：平面形態は不整形で、SK41に切られる。規模は長径0.64m、短径0.51m、深さ0.14mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK44（図面109）：平面形態は不整形で、SK35に切られる。規模は長径0.27m、短径0.25m以上、深さ0.14mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK45（図面109）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.55m、短径0.3m、深さ0.17mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK46（図面109）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.51m、短径0.46m、深さ0.21mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK47（図面109）：平面形態は楕円形で、東側は調査区外に広がる。規模は長径0.52m、短径0.19m以上、深さ0.22mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK48（図面109）：平面形態は不整形で、東側は調査区外に広がる。規模は長径0.44m、短径0.2m以上、深さ0.39mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

溝

SD01（図面106・109）：東西に延びる不整形の溝である。西端は消失し、東側調査区外に続いている。確認できる長さは3.0m以上、最大幅0.8m、最大深0.12mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黒褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD02（図面106・109）：南北に延びる直線的な溝である。北側は調査区外に続き、南端は消失する。SK05を切り込む。確認できる長さは7.0m以上、最大幅0.45m以上、最大深0.15mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD03（図面106・109）：北西から南東方向に延びる小溝であり、両端とも消失している。SK30、SD06を切り込む。長さは1.6m、最大幅0.5m、最大深0.15mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD04（図面106・109）：北東から南西方向に延びる不整形の溝であり、両端とも消失している。長さ3.2m、最大幅0.8m、最大深0.21mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD05（図面106・109）：調査区の北西端で南西方向に延び、西側調査区外に広がる直線的な溝である。確認できる長さは8.3m以上、最大幅1.0m以上、最大深0.13mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

SD06（図面106・109）：調査区の東壁沿いに北東から南西に走る不整形の溝で、北東端は消失し、東側調査区外に広がる。SD01・SD03に切られる。確認できる長さは10.0m以上、最大幅1.8m以上、最大深0.62mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は第1層：オリーブ褐色シルト、第2層：暗オリーブ褐色シルトからなる。出土遺物は白磁皿（803）、中世土師器皿（804）、珠洲甕（806）が認められる。

SD07（図面106・109）：北東から南西方向に延びる不整形の溝であり、北東端はSK21に切られ、南西端は調査区外に続いている。途中SK26に切られる。確認できる長さは8.0m以上、最大幅1.0m、最大深0.11mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土はaセクションで黄褐色シルト、bセクションでオリーブ褐色シルトの単層となる。出土遺物は認められない。

⑩ A15地区の調査

A15地区はA14地区の北側に位置し、Ⅰ層、Ⅱ層の下に検出面を確認した。主な時期は中近世と古代の遺構が検出されている。但し確認した遺構は土坑と溝が中心である。これらの遺構はA15地区全域で検出されるものの、生活の痕跡を示す集落遺構は確認されていない。

（1）中近世の遺構

A15地区の近世の遺構は若干検出されているが、中世遺構と重複・混在する状況にある。南端はA14地区に接して連なっており、当然検出遺構もA14地区から続く内容のもので、中世遺構が主体となる。検出遺構は土坑、溝といった状況である。遺物の出土も稀少であり、遺構に伴う遺物はほとんど認められなかった。以下これらの遺構について外述していく。

土坑

SK001（図面113）：平面形態は長楕円形で、規模は長径1.02m、短径0.24m、深さ0.04mを測る。覆土は黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK002（図面113）：平面形態は円形で、規模は径0.38m、深さ0.34mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK003（図面113）：平面形態は円形で、規模は径0.38m、深さ0.49mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK004（図面113）：平面形態は長楕円形で、規模は長径6.29m、短径0.97m、深さ0.05mを測る。覆土は黄褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK005（図面113）：平面形態は不整形で、東側は調査区外に広がる。規模は長径3.31m以上、短径1.23m、深さ0.09mを測る。覆土はオリーブ褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK006（図面113）：平面形態は不整形で、西側は調査区外に広がる。規模は長径5.03m以上、短径2.33m、深さ0.39mを測る。覆土は第1層：黄褐色シルト、第2層：オリーブ褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK007（図面113）：平面形態は不整形で、西側は調査区外に広がる。規模は長径3.5m、短径2.28m、深さ0.15mを測る。覆土は第1層：オリーブ褐色シルト、第2層：黄褐色シルトとなる。出土遺物は認められない。

溝

SD001（図面111・113）：北西から南東方向に直線的に延びる溝である。途中調査区外になり途切れるが南東方向に続く。両端とも消失し、途中SD006を切り込む。長さは24.9m以上（調査区外含む）、最大幅0.9m、最大深0.22mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はaセクションで黄褐色シルト、bセクションでオリーブ褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD002（図面111・113）：北西から東方向に軽い円弧を描く小溝である。両端とも消失している。長さ1.8m、最大幅0.3m、最大深0.04mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD003（図面111・113）：北東から南西方向に延び、一度途切れるが同方向に走り、西側に折れるL字形の溝であり、西側調査区外に続く。途中SD007を切っている。長さは29.0m以上、最大幅0.5m、最大深0.05mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は黄褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD004（図面110・113）：調査区東端で東西に延びる小溝であり、調査区外に続く。西端は消失する。確認できる長さは3.5m以上、最大幅0.55m、最大深0.1mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は黄褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD005（図面112・113）：南北に延びる直線的な溝であり、両端とも消失している。長さ5.2m、最大幅0.6m、最大深0.09mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は暗灰黄色シルトの単層である。出

土遺物は認められない。

SD006（図面112・113）：西から南東方向に蛇行しながら延びる不整形の溝であり、途中SD001に切り込まれる。両端とも消失する。長さは11.4m、最大幅1.6m、最大深0.08mを測る。断面形態はU字形～逆台形を呈し、覆土はaセクションで黄褐色シルト、bセクションで暗灰黄色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD007（図面110・113）：北東調査区外から南西方向に蛇行しながら延びる溝であり、途中SD003に切られる。南西端は消失している。確認できる長さは15.0m以上、最大幅1.2m、最大深0.23mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD008（図面112・113）：南西から北東方向に延び、調査区外に続く直線的な溝である。南西端は消失する。確認できる長さは3.5m以上、最大幅0.75m、最大深0.09mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はオリーブ褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD009（図面111・113）：北東から南西方向に延びる直線的な溝で調査区外に続く。北東端は消失している。確認できる長さは7.4m以上、最大幅0.9m、最大深0.12mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD010（図面111・113）：北東から南西方向に延びると思われるが大半が調査区外の為不明瞭である。確認できる長さは13.0m以上、最大幅7.5m、最大深0.23mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は黄褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD011（図面112・113）：東西に延びる不整形の溝であり、両端とも消失している。長さは8.7m、最大幅1.9m、最大深0.1mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は黄褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD012（図面112・113）：調査区の南東端で東西に延びる不整形の溝であり、調査区外に続く。西端は消失する。確認できる長さは4.5m以上、最大幅3.1m、最大深0.34mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は黄褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

（2）古代の遺構

A15地区で確認した古代の遺構は土坑・溝である。これらの遺構は中近世の遺構とほぼ同一面で重複して検出されているが、切り合い関係や覆土の特徴から、中世に先行する時期の遺構群と考えられる。このため遺構図化の際にこれらの遺構群を下層遺構群として一括・分離した。但し時期を推察する遺物の出土はほとんどみられないことから、埋土から古代と推察した。以下にこれらの遺構について外述しておく。

土坑

SK101（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.35m、短径0.34m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK102（図面116）：平面形態は楕円形で、長径0.31m、短径0.28m、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK103（図面116）：平面形態は不整形で、東側は調査区外に広がる。規模は長径0.37m、短径0.3m以上、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK104（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.29m、短径0.24m、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK105（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.42m、短径0.35m、深さ0.19mを測る。覆土

は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK106（図面116）：平面形態は円形で、規模は径0.3m、深さ0.35mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK107（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.38m、短径0.31m、深さ0.22mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK108（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.7m、短径0.44m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK109（図面116）：平面形態は不整形で、SD0037を切る。規模は長径0.66m、短径0.37m、深さ0.12mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK110（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.5m、短径0.3m、深さ0.12mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK111（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.56m、短径0.48m、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK112（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.52m、短径0.27m、深さ0.11mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK113（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.52m、短径0.32m、深さ0.07mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK114（図面116）：平面形態は楕円形で、北西側は調査区外に広がる。規模は長径0.61m以上、短径0.47m、深さ0.05mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK115（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.52m、短径0.43m、深さ0.06mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK116（図面116）：平面形態は楕円形で、トレンチを切る。長径0.55m、短径0.44m、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK117（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.7m、短径0.6m、深さ0.17mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK118（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.65m、短径0.57m、深さ0.11mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK119（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.68m、短径0.5m、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK120（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.83m、短径0.63m、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK121（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.63m、短径0.48m、深さ0.12mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK122（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.8m、短径0.37m、深さ0.11mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK123（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.85m、短径0.39m、深さ0.17mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK124（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.8m、短径0.57m、深さ0.25mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK125（図面116）：平面形態は不整形で、北西側は調査区外に広がる。規模は長径1.23m、短径0.71m以上、深さ0.05mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK126（図面116）：平面形態は不整形で、南側はトレンチに切られ、東側は調査区外に広がる。規模は長径5.35m以上、短径1.25m以上、深さ0.08mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK127（図面116）：平面形態は不整形で、規模は長径2.32m、短径1.06m、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK128（図面116）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.26m、短径0.9m、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK129（図面116）：平面形態は長楕円形で、規模は長径1.52m、短径0.43m、深さ0.2mを測る。覆土は黒褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

溝

SD101（図面115・116）：西端はSD37に切られ、北側に折れて延びるL字形の溝である。北端は消失する。長さは5.0m、最大幅0.78m、最大深0.06mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土は暗オリーブ褐色シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD102（図面114・115・116）：中央部を北東から南方向に蛇行しながら延びる。北西端は消失し、南側はSD101を切り、試掘トレンチに切られる。確認できる長さは39.0m以上、最大幅4.0m、最大深0.11mを測る。断面形態はU字形を呈し、覆土はaセクションで黒褐色シルトの単層、bセクションで第1層：黒褐色シルト、第2層：オリーブ褐色砂質シルトからなる。出土遺物は須恵器杯B（818）が認められる。

⑪ A16地区の調査

A16地区はA14地区の北西側に位置し、調査区北側には富山中部広域農道が隣接する。確認した遺構の主体は中世であり、一部近世の遺構を確認した。主な遺構は掘立柱建物、土坑、溝である。これらの集落遺構は、A16地区のほぼ全域で検出されている。

（1）中近世の遺構

A16地区で確認した近世の遺構は土坑、溝である。そのうち近世の主な遺構はSK12である。SK12は調査区南端にあり、掘り方約8mの大型土坑で深さが1.5mに達する。埋土は粘土層と粗砂が交互に堆積していた。また、底には鉄分が厚く付着しており、漆器椀の破片など木製品は少量だが、自然木などの多くの有機物が出土した。これらのことから水溜などの利水に関連する遺構の可能性が高い。中世の遺構は調査区中央やや東寄りに位置するSD09を境として、東側と西側で様相を異にする。東側は掘立柱建物や土坑があり、遺構密度も高い居住空間的な場所であり、一方西側は土坑や溝が不規則に並んでおり遺構密度も希薄である。またSD09は調査区を南北に北流する溝であるが、途中東側へ張り出すように屈曲する部分があり、区画溝として意識的に造られた可能性が高い。また遺構の状況から調査地の更に東側へ居住域が拡がっていたものと考えられる。掘立柱建物はSB04はSB03とほぼ同位置にあり、建て替えの可能性が高いが両者は重複しておらず前後関係は不明である。SB01は調査区外へと続く建物であり、軸方向が他の建物とやや異なる。以下主要な遺構について簡単に記述しておく。

掘立柱建物

SB01－SP01～SP04（図面118）：東側が調査区外へと続く。建物の規模は、梁行1間（3.1m）、桁行

1間以上（2.7m～）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN11°Eで検出された床面積は8.7㎡。柱間距離は、桁行2.7mである。柱穴形態は楕円形で径0.3～0.53m、深さ0.12～0.42mを数える。柱穴内覆土は暗灰黄色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB02－SP05～SP10（図面118）：建物の規模は、梁行1間（3.1～3.3m）、桁行2間（4.3m）の側柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN21°Eで床面積は14.4㎡。柱間距離は、桁行2.0～2.4mである。柱穴形態は楕円形で径0.18～0.5m、深さ0.16～0.37mを数える。柱穴内覆土はオリーブ褐色粘質シルト～黒褐色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB03－SP11～SP22（図面118）：SB04とほぼ同位置にあり立て替えの可能性が高いが、両者は重複しておらず、前後関係は不明である。建物の規模は、梁行2間（5.0～5.4m）、桁行3間（9.4～9.5m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN24°Eで床面積は52.3㎡。柱間距離は、梁行2.3～2.7m、桁行2.9～3.1mである。柱穴形態は円～不整形で径0.19～0.75m、深さ0.1～0.48mを数える。柱穴内覆土は暗オリーブ褐色粘質シルト～暗灰黄色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

SB04－SP23～SP33（図面118）：建物の規模は、梁行2間（5.8～5.9m）、桁行3間（8.1～8.2m）の総柱建物で、平面プランは長方形を呈す。建物の棟方向はN22°Eで床面積は48.4㎡。柱間距離は、梁行2.8～3.0m、桁行1.9～3.0mである。柱穴形態は円～不整形で径0.2～0.52m、深さ0.32～0.64mを数える。柱穴内覆土は暗オリーブ褐色粘質シルトを基調とする。出土遺物は認められない。

土坑

SK01（図面119）：平面形態は不整形で、規模は長径0.75m、短径0.6m、深さ0.15mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器皿（822）が出土している。

SK02（図面119）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.8m、短径0.6m、深さ0.25mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK03（図面119）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.43m、短径0.3m、深さ0.1mを測る。覆土はオリーブ褐色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK04（図面119）：平面形態は円形で、規模は径0.33m、深さ0.07mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK05（図面119）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.5m、短径0.35m、深さ0.2mを測る。覆土は第1層：暗オリーブ褐色粘質シルト、第2層：暗灰黄色砂質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK06（図面119）：平面形態は円形で、規模は径0.7m、深さ0.3mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK07（図面119）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.85m、短径0.7m、深さ0.35mを測る。覆土は第1層：暗オリーブ褐色粘質シルト、第2層：暗灰黄色砂質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK08（図面119）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.22m、深さ0.08mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK09（図面119）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.45m、短径0.35m、深さ0.2mを測る。覆土は第1層：灰黄色粘質シルト、第2層：暗灰黄色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK10（図面119）：平面形態は円形で、規模は径0.4m、深さ0.17mを測る。覆土は暗灰黄色砂質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK11（図面119）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.3m、短径0.25m、深さ0.1mを測る。覆土は暗

灰黄色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK12（図面119）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.7m、短径0.53m、深さ0.1mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は瀬戸美濃の皿（821）、木製品の漆器椀（004）、石製品の硯（046）がある。

SK13（図面119）：平面形態は円形で、規模は径0.3m、深さ0.27mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK14（図面119）：平面形態は不整形で、北側調査区外に続く。規模は長径1.55m以上、短径1.2m、深さ0.28mを測る。覆土は第1層：（2.5Y4/2）暗灰黄色粘質シルト、第2層：（2.5Y5/2）暗灰黄色粘質シルト、第3層：暗オリーブ褐色粘質シルトとなる。遺物は中世土師器皿（823）が出土している。

SK15（図面119）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.38m、短径0.26m、深さ0.45mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。遺物は中世土師器皿（824）が出土している。

SK16（図面119）：平面形態は不整形で、SK17・溝に切られる。規模は長径1.95m、短径0.55m以上、深さ0.14mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK17（図面119）：平面形態は不整形で、SK16を切り込む。規模は長径1.8m以上、短径1.4m、深さ0.45mを測る。覆土は第1層：暗オリーブ褐色粘質シルト、第2層：黄灰色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK18（図面120）：平面形態は楕円形で、SK19に切られる。規模は長径2.65m以上、短径2.34m、深さ0.21mを測る。覆土は暗灰黄色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK19（図面120）：平面形態は隅丸長方形で、SK18を切り込む。東側は調査区外に続く。規模は長径4.4m、短径1.55m、深さ0.6mを測る。覆土は黄灰色粘質シルトの単層となる。遺物は中世土師器皿（825）が出土している。

SK20（図面120）：平面形態は不整形で、南側調査区外に続く。規模は長径10.3m、短径1.3m以上、深さ0.4mを測る。覆土は第1層：灰黄色粘質シルト、第2層：オリーブ褐色砂質シルトとなる。出土遺物は金属製品の棒状鉄製品（101）、銅銭（104）がある。

SK21（図面121）：平面形態は不整形で、南側調査区外に続く。SD04・SD09を切る。規模は長径8.7m、短径3.2m以上、深さ1.2mを測る。覆土は灰色砂を基調とする11層から構成される。出土遺物は伊万里小瓶（830）が認められる。

溝

SD01（図面117・121）：調査区の西側で南北に蛇行しながら延びる不整形の溝であり、両端とも調査区外に続く。途中SD05を切り込む。確認できる長さは24.0m以上、最大幅3.5m、最大深0.57mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は第1層：黄灰色粘質シルト、第2層：にぶい黄褐色砂質シルト、第3層：黄灰色粗砂となる。出土遺物は越中瀬戸皿（827・829）、伊万里碗（828）、金属製品では煙管吸口（100）が認められる。

SD02（図面117・121）：南東から北西方向に蛇行しながら延びる不整形の溝であり、北側は調査区外に続く。南東端は消失している。確認できる長さは10.0m以上、最大幅1.7m、最大深0.09mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は第1層：暗オリーブ褐色砂質シルト、第2層：にぶい黄色砂となる。出土遺物は認められない。

SD03（図面117・121）：南北に延びる不整形の溝である。南側でSD01に切られる。北側は調査区外

に続く。確認できる長さは18.0m以上、最大幅1.5m、最大深0.17mを測る。断面形態は不整形から逆台形を呈し、覆土は第1層：灰黄色粘質シルト、第2層：暗オリーブ褐色砂質シルトからなる。出土遺物は認められない。

SD04（図面117・121）：南北に延びる直線的な溝であり、北側調査区外に続く。南側はSK21に切られる。途中SD05が分岐して北西方向に延びている。確認できる長さは26.0m以上、最大幅3.8m、最大深0.14mを測る。断面形態は不整形を呈し、第1層：暗灰黄色砂質シルト、第2層：にぶい黄色砂、第3層：黄灰色砂質シルトからなる。出土遺物は珠洲擂鉢（831・832）が認められる。

SD05（図面117・121）：南東側はSD04から分岐して北西方向に延び、北西端はSD01に切られる。長さは28.0m、最大幅2.0m、最大深0.26mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はaセクションで黄灰色砂質シルトの単層、b・cセクションでは第1層：黄灰色砂質シルト、第2層：にぶい黄色砂である。出土遺物は認められない。

SD06（図面117・121）：南側調査区外より北東方向に蛇行しながら延びる不整形の溝であり、SD04・SD05に切られる。確認できる長さは11.5m以上、最大幅1.2m、最大深0.12mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は暗灰黄色粘質シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD07（図面117・121）：調査区東側で南西から北東方向に直線的に延びる溝である。南側は調査区外に続き、北東端は溝に切られる。確認できる長さは30.0m以上、最大幅1.05m、最大深0.32mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はaセクションで第1層：(2.5Y4/2)暗灰黄色粘質シルト、第2層：(2.5Y5/2)暗灰黄色粘質シルト、第3層：黄灰色砂質シルトとなり、bセクションでは第1層：暗灰黄色粘質シルト、第2層：黄灰色砂質シルトとなり、c・dセクションで黄灰色砂の単層となる。出土遺物は認められない。

SD08（図面117・121）：北西端はSD05に切られ北東方向に蛇行しながら延び、調査区外に続く不整形の溝である。確認できる長さは14.0m以上、最大幅1.5m、最大深0.06mを測る。断面形態は逆台形を呈し、覆土は黄灰色砂質シルトの単層である。出土遺物は認められない。

SD09（図面117・121）：調査区を南北に北流する不整形の溝である。途中東側へと張り出すように屈曲する部分があり、区画溝として意識的に造られた可能性が高い。南側でSK21に切られる。確認できる長さは31.0m以上、最大幅1.5m、最大深0.33mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土はa・cセクションで第1層：暗灰黄色粘質シルト、第2層：暗オリーブ褐色粘質シルトとなり、bセクションで第1層：暗灰黄色粘質シルト、第2層：暗オリーブ褐色粘質シルト、第3層：黒褐色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

⑫ A17地区の調査

A17地区はA15地区の南側に位置し、西側は吉倉B遺跡に隣接する。東側は用水路があり、調査区の半分以上がこれに伴う攪乱である。Ⅰ層、床土の下が検出面となり、以下基盤礫層・粗砂層となる。検出面の残る所はX41からX43にかけてのわずかの範囲で、検出した遺構の時期は中世である。

（1）中世の遺構

A17地区で確認した遺構は土坑2基である。埋土は2基とも異なるが、周辺の調査区の例から中世と思われる。遺物は小破片のものが多く、図化可能なものはなかったが古代の土師器・須恵器・中世土師皿・肥前系陶磁器がある。遺構に伴う遺物は認められなかった。

土坑

SK01（図面122）：平面形態は円形で、規模は径0.35m、深さ0.15mを測る。覆土は黒褐色粘質シル

トのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK02（図面122）：平面形態は楕円形で、西側は調査区外に広がる。規模は長径0.45m以上、短径0.5m、深さ0.08mを測る。覆土はにぶい黄褐色シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

⑬ A18地区の調査

A地区全体の調査は平成12年度に終了していたが、その後ほ場整備計画の一部が変更された結果、新たに調査を要する地区が生じたため、A18地区が平成13年度調査に加わることになった。A18地区はA12地区に西側に隣接しており、中近世の遺構が確認された。

（1）中近世の遺構

A18地区の調査面積は85㎡ときわめて小規模である。Ⅰ層を除去した段階で、ほ場整備時の盛り土となっており、現地表面からおよそ0.4m～0.6mの深さで、地山の基盤礫層が直接露出している。遺構はこの礫層中に掘り込まれている。遺構には土坑7基、溝1条がある。このうちSK01から比較的多くの近世遺物が出土した。また、SK02でも若干の近世遺物の出土がみられるが相対的に遺構に伴う遺物の出土量は少ない。以下これらの遺構について外述していく。

土坑

SK01（図面123）：平面形態は不整形で、SK07を切り込む。南北は調査区外に広がる。規模は長径5.25m、短径2.72m以上、深さ0.43mを測る。覆土は黒褐色シルトを基調とする4層からなる。出土遺物は中国陶磁青磁坏（836）、越中瀬戸の皿（837～841・843）越中瀬戸鉢（847）、越中瀬戸擂鉢（844・845）、越中瀬戸壷（846）、石製品の砥石（047）、石鉢（048）、石臼（049）、不明石製品（050）、五輪塔の火輪（051・052）、五輪塔の地輪（053）がある。

SK02（図面123）：平面形態は不整形で、SK06を切り込み、北西側は調査区外に続く。規模は長径4.97m以上、短径3.1m以上、深さ0.85mを測る。覆土は黒褐色シルトを基調とする4層からなる。出土遺物は越中瀬戸皿（842）がある。

SK03（図面123）：平面形態は楕円形で、規模は長径1.1m、短径0.85m、深さ0.5mを測る。覆土は第1層：にぶい黄褐色シルト質砂礫、第2層黄褐色砂となる。出土遺物は認められない。

SK04（図面123）：平面形態は楕円形で、規模は長径0.55m、短径0.47m、深さ0.5mを測る。覆土は第1層：黒褐色砂礫、第2層：暗褐色粘質シルトとなる。出土遺物は認められない。

SK05（図面123）：平面形態は不整形で、南側は調査区外に広がる。規模は長径0.7m以上、短径0.6m、深さ0.5mを測る。覆土は暗褐色粘質シルトのみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK06（図面123）：平面形態は不整形で、SK02に切られる。規模は長径1.4m以上、短径1.2m、深さ0.5mを測る。覆土は黒褐色砂礫炭化物混のみの単層となる。出土遺物は認められない。

SK07（図面123）：平面形態は不整形で、SK01に切られる。規模は長径1.95m以上、短径1.35m以上、深さ0.9mを測る。覆土は暗褐色粗砂のみの単層となる。出土遺物は認められない。

溝

SD01（図面123）：調査区を南北に縦断する不整形の溝である。確認できる長さは2.0m以上、最大幅1.6m、最大深0.42mを測る。断面形態は不整形を呈し、覆土は第1層：オリーブ黒色シルト、第2層：オリーブ黒色シルト質砂である。出土遺物は認められない。

3　遺　　物

任海宮田遺跡Ａ地区は合計18地区（Ａ２地区は未調査地区）もの調査区に分かれている。それらのうち比較的まとまりのある調査区としてはＡ１・Ａ４地区やＡ７・Ａ８・Ａ９地区であり、それ以外のほとんどが分散している調査区である。そのため、遺物の記載については基本的にＡ１・Ａ４地区、Ａ７・Ａ８・Ａ９地区以外は各調査区単位で行うこととし、Ａ１・Ａ４地区、Ａ７・Ａ８・Ａ９地区についてはまとめて記述する。まずはじめに土器・陶磁器類の記述をＡ１・Ａ４地区、Ａ３地区、Ａ５地区、Ａ６地区、Ａ７・Ａ８・Ａ９地区、A10地区、A11地区、A12地区、A13地区、A14地区、A15地区、A16地区、A17地区、A18地区の順に行っていく。次に、木製品、金属製品、石製品の順で各地区ごとに記述をしていく。個々の遺物の記述は、各地区毎で遺構出土と包含層出土に分けておこなう。

出土遺物の種類別で見ると土器・陶磁器類が最も多く、次いで石製品、金属製品がつづく。木製品の出土は任海宮田遺跡の他地区をとおして希少で、遺存しにくい土壌条件であったためと考えられる。今回の調査では古代・中世の土器・陶磁器類が多く出土している。とりわけＡ１・Ａ４地区から古代の須恵器・土師器が多量に出土している。概ね９世紀から10世紀代の遺物が主体で、竪穴住居など遺構内、遺構周辺の包含層から出土している。中世の土器・陶磁器類は古代に比べて少ない。中世土師器・珠洲・八尾・中国陶磁器・瀬戸美濃施釉陶器等が出土している。

Ａ　土器・陶磁器（図面124～144）

出土遺物は遺跡の各地区で検出された遺構の時期にもよるが、遺跡全体でとらえた場合に須恵器、土師器などの古代の遺物で多く占められている。とりわけ任海宮田遺跡Ａ１・Ａ４地区では古代の竪穴住居が多数検出され、必然的に古代の遺物も多く出土している。器種としては須恵器よりも土師器が多い傾向にあり、杯や煮炊用の甕・鍋類などの日常雑器が多く出土している。中世の土器・陶磁器類は古代に比べて少ない。中世土師器・珠洲・八尾・中国陶磁器・瀬戸美濃施釉陶器などが出土し、13世紀以降中世を通じて遺物が出土する。

古代の遺物について須恵器の杯では、無高台のものを杯Ａ、有高台のものを杯Ｂとする。土師器については、奈良時代は煮炊器が主体となるが、平安時代以降になると供膳形態のものが増加する。部分名称は須恵器杯・皿に準拠する。赤彩土師器や黒色土器は記述のなかで言及し、実測図ではスクリーン・トーンなどで特に表示していない。

中世の出土遺物については、土師器皿、瀬戸美濃施釉陶器、中国陶磁、珠洲、八尾などの土器・陶磁器類がある。これら中世の土器・陶磁器類はこれまでにも精力的に研究が進められてきており、各々の型式分類と編年が明らかにされているものも多い。本書でもこれらの研究成果を準用しながら記述していく。記述に際して用いた分類・編年研究としては、まず土師器皿では、森分類・編年案を準用した。器種については便宜的に口径10cm以下は小皿、10cm以上は大皿とする。また中皿という定義の確定が難しい為、今回分類を避けた。瀬戸美濃施釉陶器については藤澤分類・編年案に基づいた。中国陶磁全般については主に山本による大宰府分類・編年案を、さらに中世後期の中国青磁については上田分類・編年案を、白磁については森田分類・編年案をそれぞれ用いた。珠洲については吉岡分類・編年案を基準とした。八尾については「道場Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告」で示した森の分類案を用いた。

古代の遺物は多いが遺構に伴わないような、例えば中世遺構から出土した古代の遺物については包含層扱いとし、遺構時期を決定する遺物とは区別して記述していく。

①Ａ１・Ａ４地区（図面124～137－001～528）

－古代－

〈竪穴住居〉

SI01（図面124－001～009・017・018）：001は須恵器の杯Ａである。回転糸切りの平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径13.0cm、器高は3.8cmである。高台内にヘラ状工具による「成」の線刻が施されている。002は須恵器の壷である。法量は底径8.2cmの小壷である。003は内面を黒色処理した黒色土器の椀で、内面にはヘラミガキ、外面には赤彩が施される。やや内湾気味に立ち上がる体部から口縁端部は丸くおさめる。法量は口径11.6cmである。004～009は土師器の甕である。004は小型甕の口縁部小片で、口縁部は「く」字状に屈曲し、上端部がわずかに引き上げられ丸くおさめる。外面は摩耗がひどく調整は不明。体部内面にカキメが見られる。復元口径12.5cmである。005は小型甕の底部で、静止糸切り後外面にはヘラケズリ調整が見られる。底径は4.2cmである。006～009の口縁部は「く」字状に屈曲し、006は上端部がわずかに引き上げられ、丸くおさめる。法量は復元口径16.6cmである。007の口縁端部は方形を呈す。008の口縁端部は方形を呈し、上端部が肥厚し上下方向に拡張する。法量はおおよそ復元口径22.0cmである。009は口縁上端部が屈曲し、端部が内傾する。復元口径は19.6cmで、体部外面にヘラケズリとカキメの調整が見られる。017・018は土師器の鍋である。口縁部は「く」字状に屈曲している。017の口縁端部は方形を呈し、上端部が肥厚し上下方向に拡張する。018の口縁端部は方形を呈する。017は外面に、018は内外面にカキメが施され、法量は復元口径32～35cm程度である。

SI02（図面124－010～016・019～029）：010～012は須恵器の杯蓋である。つまみの有無は不明で、天井部は笠型で器高のあるタイプである。天井部外面には1/2程度回転ヘラケズリが施され、010・011の口縁部は折り返して丸くおさめ、012の口縁部は下方に短く折り曲げる。法量は010・011で口径11～12cm程度、012で口径16.0cmである。013～016は須恵器の杯Ａで、013・014はヘラ切りの平坦な底部から、015・016は回転糸切りの平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。013～015の口縁端部は丸くおさめる。法量は概ね口径11.0～11.9cm、器高3.1～3.5cm程度である。019～029は土師器の甕である。019～022は復元口径10～13cm程度の小型の甕で、底部の残る022は底径6.0cmを測る。019の口縁部は「く」字状に屈曲し、端部を丸くおさめ、上端部が肥厚し上下方向に拡張する。020～022は口縁の上端部が屈曲し、端部が直立する。022はさらに内傾する。019は外面にカキメの調整を施し、022は底部にヘラケズリが見られる。023～024は復元口径19cm程度の中型の甕、025～029は復元口径21～23cm程度の大型の甕である。023の口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は丸くおさめる。底部は平底で、外面はヘラケズリ調整である。024・025は口縁上端部が屈曲し、端部が内傾し丸くおさめる。026・027の口縁部は「く」字状に屈曲し、肥厚した口縁端部が内側に折り返され、丸く成形される。028は肥厚した口縁端部が丸みをもって内屈し、内側に段を有する。029の口縁は上端部が屈曲し、端部が丸みを持ち、外面に沈線が入る。024は内面に、028・029は内外面にカキメが施される。

SI03（図面124・125－030～036）：030は須恵器の長頸壷の頸部である。内外面はヨコナデ調整である。031・032は土師器の杯である。031は杯Aで回転糸切りの平坦な底部から内湾気味立ち上がる体部を有する。口縁端部は短く外反する。法量は口径12.1cm、器高4.6cmである。032は杯Bの底部のみの残存で、「ハ」字状に踏ん張る高台が底部から体部に屈曲する位置に貼り付けられている。033～036は土師器の甕である。033の口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は丸くおさめる。法量は口径13.8cmで

ある。034の底部は平底で静止糸切りによる切り離し、ヘラケズリが施される。法量は底径4.0cmである。035の口縁部は「く」字状に屈曲し、肥厚した端部が内傾しているが丸みを持って内屈し、内側に段を有する。法量は口径17.7cmである。036は復元口径21.4cmで、口縁部は上端部が屈曲し、端部が丸みを持ち、外面に沈線が入る。内外面にカキメを施す。

SI04（図面125－037～045）：037～040は須恵器の杯で、037は体部が浅く開く形態で、復元口径は12.75cmである。038～040は有高台のタイプで平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。角状を呈する高台が　底部のやや内側に貼り付けられている。口縁端部は丸くおさめる。法量は038が口径10.9cm、器高4.1cm、039・040がおおよそ口径12cm、器高4.0～4.5cmである。041～045は土師器の杯である。回転糸切りの平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は041・042は短く外反、043～045は丸くおさめる。法量はおおよそ口径12.0～13.5cm、器高4.1～4.9cmである。

SI05（図面125－055～059）：055～058は土師器の甕である。055の口縁部は「く」字状に屈曲し、縁端部は丸くおさめ、上端部が肥厚し、上下方向に拡張する。法量は口径13.6cmと小型である。056～058は口径14.7～21.0cmの中型の甕で、056は口縁部は「く」字状に屈曲し、端部を丸くおさめ、上端部が肥厚し、上下方向に拡張する。057は口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈し、上端部は引き上げられる。058は口縁上端部が屈曲し、端部が直立する。055は内面に、057は外面にカキメ調整が見られる。058は内外面にカキメ、外面にハケメの調整が見られる。059は須恵器の甕の体部で、底部は丸底を呈するとみられる。外面は平行タタキ調整後カキメが施され、内面は同心円状の当具痕がみられる。体部の最大径は35.0cmである。

SI07（図面125－046～054）：046・047は須恵器の杯で、斜め方向に直線的に開く体部を有する。口縁部は丸くおさめる。法量は046で口径9.5cm、047で口径11.0cmである。048～053は土師器の甕である。048・049は口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は丸くおさめ、上端部が肥厚し上下方向に拡張する。050・052は口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈し、上端部が引き上げられる。051は口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈する。法量は口径13.5～20.6cmと中型（13～23cm）である。053は回転糸切りの底部のみの残存で、底径は3.9cmの小型の甕となる。048は内面に、052は外面に、050・051は内外面にカキメが施されている。054は須恵器の甕である。あまり肩の張らない体部から、「く」字状に屈曲し、頸部は直線的に斜方向に開く。口縁端部は水平に仕上げる。復元口径は26.0cmである。外面には平行タタキ調整後カキメが施され、内面は同心円状の当具痕がみられる。

SI08（図面125・126－060～081）：060・066～081は土師器の甕で、060・072・074～081は口径14～20cm程度の中型の甕、066～071・073は口径11～13cm程度の小型の甕である。060・077は口縁部は「く」字状に屈曲し、上端部が肥厚して上下方向に拡張し、060の口縁端部は丸くおさめ、077の口縁端部は方形を呈す。066・069・070・072・074・075は口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は丸くおさめる。067・068・071・073・080の口縁部は、上端部が屈曲し、端部が直立する。076・078・079・081は口縁上端部が屈曲し、端部が内傾する。調整は、060・079は内面に、071・074は外面に、076・077・080・081は内外面にカキメが施されている。さらに071・080にはヘラケズリ調整も見られる。また、068は外面にハケメ調整が施される。061は土師器の鍋である。口径は42.8cmで、口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈し、上端部が引き上げられる。内面にカキメ調整を施す。062は須恵器の小型の長頸壷である。頸部は外反しながら立ち上がり、口縁端部は上方に引き上げるタイプとみられる。頸部には２条の沈線が巡る。復元口径は6.0cmである。063～065は須恵器の杯蓋である。063・064は

擬宝珠状のつまみがつく。063～065ともに天井部は扁平で、外面には063・065では1/2程度、064で2/3程度の回転ヘラケズリが施されている。口縁端部は下方に短く折り曲げる。法量は口径12.2～14.2cm、器高1.9～2.9cmである。

SI09（図面126－082～094）：082～084は須恵器の杯蓋である。天井部は扁平で、外面には082で2/3、083・084は1/2程度のヘラケズリが施されている。082・083には擬宝珠状のつまみがつく。口縁部は082は丸くおさめ、083・084は下方に短く折り曲げる。法量は口径12.0～13.6cmである。085・086・088・089は須恵器の杯である。085は斜め方向に直線的に開く体部を有し、復元口径は14.0cmである。086・088・089はヘラ切りの平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径10.8～11.6cm、器高3.0～3.5cmである。087は土師器の杯である。平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径11.4cmである。090は須恵器の小型の壷で、短頸壷とみられる。体部が内湾気味に立ち上がり、上位1/3程度で肩部となる。肩部は緩やかに強く張り、頸部はほぼ直立する。頸部外面には2条一単位の沈線が巡る。体部の最大径は16.5cmを測る。091～093は土師器の甕である。口径は091が21.2cm、092が20.7cm、093が22.2cmである。口縁部は091は上端部が屈曲し端部が内傾、092は上端部が屈曲し「S」字状を呈する。093の口縁端部は方形を呈し、上端部は肥厚し上下方向に拡張する。091は外面に、093は内外面にカキメ調整が見られる。094は土師器の鍋である。復元口径は36.1cmで、口縁部は、上端部が屈曲し端部が内傾する。

SI10（図面126・127－095～098・112・113）：095は須恵器の杯である。斜め方向に直線的に開く体部を有し、復元口径は13.6cmである。096～098は土師器の甕の口縁部小片である。口縁上端部が屈曲し、096・098の端部は内傾、097の端部は直立する。096・097は復元口径12～13cm程度の小型の甕で、098の復元口径は23.7cmである。112・113は黒色土器の椀で内面は黒色処理され、ヘラミガキが施されている。112は回転糸切りの平坦な底部から屈曲して斜め方向へ直線的に開く体部を有し、口縁端部はやや外反する。113は回転糸切りの平坦な底部から屈曲してやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。法量は残りのよい112で口径13.2cm、器高3.8cmである。

SI11（図面127－099～111）：099～101は須恵器の杯蓋である。099の天井部は扁平で、擬宝珠状のつまみが付く。天井部外面には2/3程度回転ヘラケズリが施され、口縁部は下方に短く折り曲げる。法量は口径13.1cm、器高3.45cmとなる。100・101は天井部が笠型で器高のあるタイプである。天井部外面には1/2程度回転ヘラケズリが施され、口縁部は折り返して丸くおさめる。法量は口径12.2～12.8cmである。102～105・108は須恵器の杯である。102・103・108は斜方向へ直線的に開く体部を有し、口縁端部は丸くおさめる。104は平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。105は平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。角状を呈する高台が底部のやや内側に貼り付けられている。口縁端部はやや外反する。法量はおおよそ口径12～13cm、器高は3～4cm程度である。106・107は須恵器壷の口縁部破片である。頸部は斜方向へ直線的に開き、口縁端部は丸くおさめる。口径は106で13.65cm、107で16.2cmである。109は土師器の杯で、回転糸切りの平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径12.2cm、器高3.9cmである。110・111は土師器の甕である。110は復元口径9.8cmの小型の甕で、口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は丸くおさめる。111は復元口径24.4cmで、口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈し、上端部が引き上げられる。

SI12（図面127－114～119）：114・115は須恵器の杯蓋である。どちらも擬宝珠状のつまみを持つが、

114の天井部は笠型で器高があるタイプで外面に2/3程度のヘラケズリが施され、115は扁平なタイプで外面に1/2程度のヘラケズリが施されている。口縁部は下方に短く折り曲げ、端部は丸くおさめる。法量は114が口径13.0cm、器高3.4cm。115が口径17.4cm、器高3.6cmとなる。116～119は須恵器の杯である。116はヘラ切りの平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。117～119はヘラ切りの平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。「ハ」字状に踏ん張る高台が底部のやや内側に貼り付けられている。口縁端部は117は短く外反し、その他は丸くおさめる。法量は口径11.0～12.8cm、器高3.9～4.2cmである。

SI13（図面127・128－120～132・156）：120は須恵器の小型の壷である。無高台の平坦な底部から体部はわずかに内湾気味に開き、肩部の張りは緩やかである。底径8.4cm、肩部の径は15.5cmである。121は黒色土器の椀である。内面が黒色処理され、内外面にヘラミガキが施されている。器壁は肉厚で、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径14.6cm、器高5.1cmである。122～129は土師器の甕である。122～126は口径12～14cm前後の小型の甕で、122は口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形で上端部が引き上げられる。底部は平底である。123の口縁部は「く」字状に屈曲し、上端部は屈曲し、端部は内傾する。124～126の口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は丸くおさめる。124の底部は平底で、ヘラケズリが施される。127は底部のみの残存で、底径7.0cmである。底面は不調整で、外面にヘラケズリ調整が見られる。128・129は口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈する。内外面はカキメとヘラケズリ調整を施す。法量は口径19.7～20.0cmである。130～132・156は土師器の鍋である。口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈し、上端部が引き上げられる。内外面にカキメを施し、132・156では内面にハケメ、外面にヘラケズリ調整が見られる。法量は口径35.5～37.8cmである。

SI14（図面128－157）：157は土師器の鍋である。内湾気味に立ち上がる体部から、口縁部は「く」字状に屈曲し、上端部が引き上げられ内傾する。体部外面と口縁部内面にはカキメを施す。復元口径は36.8cmである。

SI15（図面128－142～145）：142～145は土師器の甕で、142・143は小型、144・145は中型のものである。142は体部と頸部は緩やかに屈曲し、口縁部の上端部が引き上げられ、端部が内傾する。143は体部と口縁部との境は緩やかで、口縁端部は丸くおさめる。体部外面にはカキメが施される。144・145は口縁部が「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈し、上端部がわずかに肥厚し上下に拡張する。外面にカキメを施す。復元口径はそれぞれ142で14.5cm、143で15.5cm、144で20.6cm、145で21.2cmである。

SI16（図面128－133・158）：133は須恵器の杯蓋で、天井部が扁平で、つまみを有するかどうかは不明である。外面は無調整で、口縁部は下方に短く折り、端部は丸くおさめる。法量は口径15.0cmである。158は土師器の鍋である。口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈する。外面はカキメ調整で口径は36.4cmである。

SI17（図面128－134・140・141・149）：134は須恵器の杯Bである。平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。「ハ」字状に踏ん張る高台が　底部のやや内側に貼り付けられている。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径10.7cm、器高4.1cmである。140は土師器の鍋である。口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は丸くおさめる。141・149は土師器の甕である。141の口縁部は上端部が屈曲し、端部が直立する。149は口縁上端部は屈曲し、端部が内傾する。法量は19.3cmである。

SI18（図面128－159）：159は土師器の鍋である。口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈する。内外面にカキメ、外面にヘラケズリ調整が見られる。口径は34.9cmである。

SI19（図面128－150）：150は土師器の甕である。口縁上端部が屈曲し、端部が丸みを持ち、外面に沈線が入る。口径は21.8cmである。

SI20（図面128－151・152）：151は須恵器の甕である。口縁部は水平に引き出し、平坦な端部を持つ。口径は18.0cmである。152は土師器の甕で、口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈する。外面はカキメ調整である。法量は口径21.0cmである。

SI21（図面128－146～148）：146～148は土師器の甕である。146は口縁部が「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈し、147はさらに上端部がわずかに肥厚し上下に拡張する。147の外面にはカキメが施される。復元口径は147で20.0cmである。148は口縁部が「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈する。上端部はさらにわずかに引き上げられる。体部外面にはカキメ調整で、下位はケズリを施す。復元口径18.4cmである。

SI22（図面128－135・136）：135は須恵器の杯である。斜方向へ直線的に開く体部を有し、口縁端部は丸くおさめる。法量は口径11.4cmである。136は緑釉陶器の椀で、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部はわずかに外反気味であり、端部は丸くおさめる。法量は口径12.0cmである。

SI24（図面128－137～139・153～155）：137・138は須恵器の杯である。137の底部は残存していないが、回転ヘラ切りの平坦な底部から斜方向へ直線的に開く体部を有し、口縁端部は丸くおさめる。法量は残りの良い138で口径13.2cm、器高3.5cmである。139・153～155は土師器の甕である。139は、口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は丸くおさめる。法量は口径10.0cmと小型である。153は口縁上端部が屈曲し、「S」字状を呈する。口径は23.3cmである。154は口縁上端部が屈曲し、端部が丸みを持ち、外面に沈線が入る。外面にはカキメ調整が見られ、口径は21.2cmである。155は口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈し、上端部が引き上げられる。内外面にカキメ、内面にハケメ、外面にヘラケズリ調整が見られる。口径は22.2cmである。

〈土坑〉

SK209（図面129－160）：160は須恵器の杯Bである。平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。「ハ」字状に踏ん張る高台が底部のやや内側に貼り付けられている。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径9.5cm、器高4.0cmである。

SK218（図面129－165）：165は土師器の甕である。口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形で上端部が引き上げられる。底部は丸底で、法量は口径12.6cmと小型である。

SK224（図面129－178）：178は土師器の甕である。口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈する。内外面はカキメ調整が施され、口径18.8cmである。

SK235（図面129－166）：166は土師器の甕である。口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は外反気味である。法量は口径12.8cmと小型である。

SK236（図面129－162）：162は須恵器の杯Bである。平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。角状を呈する高台が底部のやや内側に貼り付けられている。口縁端部は丸くおさめる。高台内に判読不明の線刻が施されている。法量は口径9.7cm、器高4.0cmである。

SK239（図面129－161・163・164）：161・163は須恵器の杯B、164は須恵器の杯Aである。161・163は平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。161は角状を呈する高台が、163は「ハ」字状に踏ん張る高台が底部のやや内側に貼り付けられおり、口縁端部は丸くおさめる。法量は161で口径12.0cm、器高4.5cm、163で口径13.2cm、器高5.7cmである。164は平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径12.3cm、器高3.2cmである。

〈溝〉

SD102（図面129－167）：167は須恵器の杯Aである。平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径11.3cm、器高2.8cmである。

SD104（図面129－179）：179は須恵器の甕の口縁部破片である。頸部は直線的に開き、口縁端部はわずかに水平に仕上げる。復元口径20.0cmである。

SD106（図面129－168～171）：168は須恵器の杯蓋である。天井部は笠型で器高のあるタイプである。口縁部は面取りして丸くおさめる。法量は口径12.3cmである。169～171は須恵器の杯である。169は斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は丸くおさめ、口径12.2cmである。170は平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径11.8cm、器高3.25cmである。171は回転糸切りの平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径12.6cm、器高3.6cmである。

SD108（図面129－182）：182は須恵器の短頸壷の口縁部破片である。肩の張る体部から垂直気味に立ち上がる口縁部を有する。口縁端部は丸くおさめる。復元口径15.5cmである。

SD112（図面129－183）：183は土師器の杯Aである。平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径11.8cm、器高3.2cmである。

SD116（図面129－172・173）：172・173は須恵器の杯Aである。平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。172の口縁端部は短く外反し、口径は13.4cmである。

SD118（図面129－174・175・180）：174・175は須恵器の杯である。174は平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は短く外反し、法量は口径9.7cmである。175は平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。「ハ」字状に踏ん張る高台が底部のやや内側に貼り付けられている。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径10.7cm、器高3.3cmである。180は土師器の甕である。口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈し、上端部が肥厚し上下方向に拡張する。内外面はカキメ、内面にハケメ調整がある。法量は口径20.8cmである。

SD121（図面129－176）：176は須恵器の杯Bである。平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。「ハ」字状に踏ん張る高台が底部から体部に屈曲する位置に貼り付けられている。底径7.8cmである。

SD143（図面129－177・181）：177は須恵器の杯蓋である。天井部は扁平で、外面には2/3程度回転ヘラケズリが施される。口縁部は下方に短く折り曲げる。法量は口径13.8cmである。181は土師器の杯である。やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径14.6cmである。

SD157（図面129－186）：186は須恵器の杯である。やや内湾気味に立ち上がる体部を持つ。法量は口径12.7cmである。

SD159（図面129－184）：184は須恵器の杯Bである。平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。「ハ」字状に踏ん張る高台が底部のやや内側に貼り付けられている。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径14.8cm、器高3.9cmである。

SD161（図面129－185）：185は須恵器の杯蓋である。天井部は扁平で、口縁部は下方に短く折り曲げる。法量は口径17.8cmである。

SD162（図面129－187）：187は須恵器の短頸壷で、口縁部破片である。肩のあまり張らない体部から垂直気味に立ち上がる口縁部を有し、口縁端部は丸くおさめる。復元口径10.6cmである。

SD163（図面129・130－188～214）：188～194は須恵器の杯である。188は杯Aで、平坦な底部から緩やかに立ち上がる体部を持つ。口縁端部は短く外反する。189・193・194も杯Aで、平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。189・194の口縁部は丸くおさめる。法量はおおむね口径11～12cm、器高3～3.5cm程度である。190は杯Bである。平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。角状を呈する高台が底部から体部に屈曲する位置に貼り付けられている。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径11.4cm、器高4.0cmである。191・192は口縁部小片で、192は斜方向へ直線的に開く体部を有する。どちらも口縁部は丸くおさめ、口径は12.6～12.7cmである。195～198は土師器の杯である。底部の残る195・197は平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。195の口縁端部は丸くおさめ、法量は口径11.9cm、器高4.15cmである。197の口縁端部は短く外反し、法量は口径11.6cm、器高3.7cmである。196・198は赤彩土師器の杯でやや内湾気味に立ち上がる体部を有し、口縁端部は丸くおさめる。法量は196で口径14.7cm、198は口径12.7cmである。199は黒色土器の椀である。内面が黒色処理され、ヘラミガキが見られる。回転糸切りの平坦な底部を持つが、摩滅のため不明瞭である。200・201・203は土師器の甕である。200・201の口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈する。内外面はカキメ調整である。法量は200が口径17.6cm、201が20.1cmとなる。203は口径が24.4cmの大型の甕で、口縁部は「く」字状に屈曲し、丸くおさめた端部が内傾する。内面はカキメ調整である。202は須恵器の甕である。「ハ」字状に直線的に立ち上がる頸部を有し、口縁端部は丸くおさめる。口径は21.6cmである。204～210は須恵器の杯蓋である。204は天井部は扁平で、擬宝珠状のつまみが付く。天井部外面には1/2程度回転ヘラケズリが施される。口縁部は下方に短く折り曲げる。法量は口径13.7cm、器高3.1cmである。205・208～210の天井部は扁平で、外面には蓋1/2～2/3程度回転ヘラケズリが施される。口縁部は205・209は下方に短く折り曲げ、208・210は折り返して丸くおさめる。法量は口径12～14cm程度である。206・207は天井部は笠型で器高のあるタイプである。天井部外面には1/2～2/3程度回転ヘラケズリが施されている。206の口縁部は下方に短く折り曲げやや方頭になり、207は折り返して丸くおさめる。法量は206は口径15.7cm、207は口径12.6cmである。211～214は須恵器の杯Bである。211は平坦な底部から屈曲して、斜方向へやや外反気味に開く体部を有する。角状を呈する高台が底部のやや内側に貼り付けられている。口縁端部は丸くおさめる。口径12.7cm、器高3.8cmである。212は平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。「ハ」字状に踏ん張る高台が底部のやや内側に貼り付けられている。口縁端部は短く外反する。口径14.7cm、器高6.5cmである。213は平坦な底部から屈曲して外反気味に開き、稜を持つタイプの杯である。「ハ」字状に踏ん張る高台が底部から体部に屈曲する位置に貼り付けられている。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径11.8cm、器高3.1cmである。214は平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。「ハ」字状に踏ん張る高台が底部から体部に屈曲する位置に貼り付けられている。口縁端部は短く外反する。法量は口径11.6cm、器高4.5cmである。

SD164（図面130・131－215～277）：215～229は須恵器の杯蓋である。215・222・226は天井部は笠型で器高のあるタイプである。215の天井部外面は2/3程度回転ヘラケズリが施されボタン状のつまみが付く。222・226は天井部外面には1/2程度回転ヘラケズリが施され、222は擬宝珠状のつまみが、226はつまみの痕跡が残る。法量は残りのよい222で、口径12.5cm、器高2.8cmである。216～218・220・221・224・225・227・229は、天井部は笠型で器高のあるタイプである。219・223・228は天井部は扁平で器高のないタイプである。つまみの有無は不明。天井部外面には1/2～2/3程度回転ヘラケズリが施される。これら杯蓋の口縁部の形態は、下方に折り曲げやや方頭になるもの(216・217・221・222・

227)、下方に短く折り曲げるもの（218・219・223～225・228・229)、丸くおさめるもの（220)、折り曲げるがやや丸く仕上げるもの（226）がある。法量は小さい216で口径11.0cm、大きい229が口径19.0cmとなる。230～240・259～269は須恵器の杯である。230～232・236～239は斜方向へ直線的に開く体部を有する。231・232の口縁端部は短く外反するが、それ以外は丸くおさめる。233～235・240は平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。233～235の口縁端部は丸くおさめ、240の口縁端部は短く外反する。法量は口径11.0～12.5cm、器高2.6～3.3cmである。259・262はやや尖る底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁部のみの残存となる260・261・263は斜方向から直線的に開く体部を有する。264は斜方向にやや外反しながら開く体部を有する。259・263の口縁端部は短く外反し、260・262・264の口縁端部は丸くおさめる。261はやや尖り気味の口縁端部を持つ。法量は残りのよい262で口径11.4cm、器高3.5cmである。また大きい264では口径は15.0cmとなる。265は底部は残存していないが、高台を持つ器高の深いタイプで斜方向から直線的に開く体部を有する。266～269は平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。266は角状を呈する高台が、267～269は「ハ」字状に踏ん張る高台が底部のやや内側に貼り付けられている。口縁端部はどれも丸くおさめる。267は高台内に墨書が見られる。法量は265で口径15.0cmと大きく、267で口径12.8cm、器高4.5cm、小振りな268で口径10.0cm、器高3.6cmである。底部の残る241～244は土師器の杯である。241・242には赤彩が施されている。杯Aである241・243は平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。241の口縁端部は丸くおさめ、243は外反気味になる。法量は口径12.0cm、器高3.7cm程度である。242はやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめ、法量は口径11.4cmである。244は斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は短く外反する。法量は口径13.0cmである。245～258・270～273は土師器の甕である。基本的には「く」字状に短く開く口縁部を有する。245・248・249は法量の小さい小型の甕で、245・248で口径10.0～11.0cm、底部の残る249で底径5.2cmとなる。口縁部は上端部が屈曲し、丸くなる端部が内傾する245、上端部が屈曲し、「S」字状を呈する248がある。246は、端部は丸くおさめる。247は上端部が屈曲し、端部が内傾する。250・251・253は上端部が屈曲し、端部が直立する。252・256・270は肥厚した端部が内側に折り返され、丸くおさめる。254・257は肥厚した端部が丸みをもって内屈し、内側に段を有する。255は上端部が屈曲し、端部が丸みをもち、外面に沈線が走る。258の端部は方形を呈し、上端部が引き上げられる。271～273は口縁部の「く」字状の屈曲が緩いが上端部が屈曲し、端部が内傾する。調整は251・271～273で内外面に、254・257で外面にカキメがみられる。法量は、246・247・250～255・258・271～273は口径13～23cmの中型の甕、256・257・270は口径23cm以上の大型の甕である。274・275は土師器の鍋である。274は口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形で上端部が引き上げられる。外面には横方向のハケメ調整が見られ、法量は口径36.0cmである。275は口縁上端部が屈曲し、端部が丸みを持ち、外面に沈線が入る。内外面にカキメ調整が見られる。法量は38.0cmである。276・277は土錘の破片である。276は樽型で幅3.2cm、長さ4.4cm、孔径1.0cmであるが、先端を欠失する。277は寸胴型で幅1.7cm、長さ3.2cm、孔径0.5cmとなるが、先端は欠失する。

〈包含層〉（図面131～136－278～494）

278～287・300～337は須恵器の杯蓋である。天井部は笠型で器高のあるタイプ(278・279・282・284・287・300～302・305・307・310・312～316・320～324・327～331・333・335～337）と、天井部は扁平なタイプがあり、そのほとんどの天井部外面には1/2～2/3程度回転ヘラケズリが施されている。279・280・286・301・305・308・310・320・325・326・332・334・335・337には擬宝珠状のつまみが

付く。口縁部は下方に短く折り曲げるもの（279～287・300・301・303～306・308～317・319～327・329・330・333～337）と、折り返して丸くおさめるもの（278・302・307・318・328・331・332）がある。法量は口径11～15cm程度のものがほとんどである。288～294・338～343・345～391・419・421は須恵器の杯である。289～294・338～343・345～369・419は無高台の杯Aで、平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開くタイプと、平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有するタイプ（293・345・347・354・361）がある。口縁端部は丸くおさめるもの、短く外反するもの（292・294・345・354・361）がある。法量は口径10～13cm程度、器高は3～4cm程度である。419の底部には墨書が見られる。288・370～391・421は有高台の杯Bである。288・370・371・373・375～377・379・380・382～384・387・388は平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。372・374・378・381・385・386・390は平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。「ハ」字状に踏ん張る高台が底部のやや内側に貼り付けられているもの（370・373・377・378・381・382・385・387）、角状を呈する高台が底部のやや内側に貼り付けられているもの（371・372・374～376・379・380・383・384・386・388～391）がある。口縁端部は丸くおさめるタイプが多いが、378・379・386はやや外反している。389・391は残りが悪く、体部の形態は不明。法量は浅いタイプの288・370～385で口径11～14cm、器高4cm前後、深いタイプの386～388で口径14～16cm、器高6～6.5cmである。392～396は須恵器の皿である。392・394は皿Aで、平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径13.4～13.5cm、器高1.8cmである。393・395は須恵器の有高台の皿Bの底部である。396は底部回転糸切りの皿Aで、底径は5.0cmである。397は須恵器の鉢である。直線的に開く体部を有する。口縁部は内側が肥厚し、端部は水平に仕上げる。法量は口径27.4cmである。398～400・403～412・417は須恵器の壷・瓶類である。398は小型の長頸壷で、頸部から口縁部が残存する個体である。口縁部は水平で、端部は上方につまみ上げる。復元口径8.6cmである。399は横瓶と思われる口縁部破片で、端部は肥厚し内外面に拡張し、外傾する端部を有する。400は直立に立ち上がる頸部に、端部は丸くおさめる。器壁はやや肉厚である。403・405はなで肩なタイプの短頸壷で、底部が欠失している。直立気味の頸部に、端部は丸くおさめる。405は体部に2条の沈線が走る。体部の最大径は16.9cmである。404はやや肩の張る体部から口縁部にかけて「く」字状に屈曲する短頸壷である。肩部には2条一単位の沈線が巡り、頸部に近い部位には一条の粘土帯を貼り付けた突帯が巡る。406は頸部が直線的に立ち上がり、端部の外側を上方へつまみ上げる。復元口径13.6cmである。407は壷の口縁部で、直線的に開く頸部に、口縁端部の内側をややつまみ上げる。408は有高台の底部から体部が直線的に開き、肩部の張りが強い。肩部外面に沈線が一条巡る。高台見込みにはヘラ状工具による「×」が線刻されている。底径8.5cm、肩部の直径13.6cmである。409は肩部が張りの弱いややなで肩を呈する個体である。調整は外面が平行タタキ、内面は同心円状の当具痕がみられる。410は有高台の底部から体部は緩やかに立ち上がり、肩がやや張る肩部を有する。体部と頸部との境は明瞭で、直線的に立ち上がる頸部に口縁端部は丸くおさめる。体部外面はカキメ状の調整の後上方から下方に向けてケズリを施す。一部タタキ調整が残る。内面はヨコナデ調整である。法量は口径9.6cm、器高は20.5cmである。肩部の直径は19.5cmである。411は短頸壷で、直立する頸部を有し口縁部はわずかに外反気味である。端部は丸くおさめる。復元口径10.5cmである。412は緩やかに開く口縁部に、端部は肥厚し、上下方向に拡張する。復元口径21.3cmである。401・402・413～416は須恵器の甕で、概ね体部から口縁部にかけて「く」字状に屈曲する口縁部端面は水平で側方に拡張するもの（401・402・413・414・416）、外側が引き出され外傾

するもの（415）がある。調整は外面が平行タタキ、内面は同心円状の当具痕がみられる。418は緑釉陶器の椀である。344・420・422～428は回転台成形の土師器の杯である。344・423・428は赤彩土師器の杯Aである。それぞれ平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。344の口縁端部は短く外反し、423は外面にヘラケズリ調整がみられる。428の口縁端部は欠失している。420は底部に「城長」と墨書の残る杯Aの底部である。422は体部下方に墨書が残り、回転糸切りの底部からやや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。424～427は平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。425は底部のみの残存である。法量は概ね口径12～14cm、底径５～８cm程度である。429～435は内面を黒化処理し、ヘラミガキ調整を施した黒色土器で、429以外はすべて椀である。429は皿、430～432・435は椀Aとなる。口縁部の残る429は斜方向へ直線的に立ち上がる体部を有し、433・434はやや内湾気味の体部を有する。口縁端部は429・433は丸くおさめ、434は外反気味である。295～299・436～470・475～485は土師器の甕である。そのほとんどが口縁部小片で、「く」字状に屈曲し、端部を丸くおさめるもの（440・443・445・447・466・482）、端部が方形を呈するもの（295・444・449・453～455・480・483）、端部が方形を呈し、上端部が引き上げられるもの（437・441・442・446・450・451・457・458・463～465・469・470・476・479・484）、端部は方形を呈し上端部が肥厚し上下方向に拡張するもの（475・485）、上端部が屈曲し端部が直立するもの（468）、上端部が屈曲し端部が内傾するもの（298・299・436）、上端部が屈曲し「S」字状を呈するもの（297・478）、上端部が屈曲し端部が丸みを持ち、外面に沈線が走るもの（438・439・452・456・460・481）、肥厚した端部が丸みを持って内屈し、内側に段を有するもの（296）、肥厚した端部が内側に折り返され丸くおさめるもの（459・462・477）がある。448は底部のみが残る。調整は内外面にカキメを施すもの（437・447・449・451・454・463・466・467・468・475・476・478・480・483～485）、内外面にハケメを施すもの（461・479）、外面体部下位にヘラケズリ調整がみられるもの（468）がある。法量は436～446・448が口径13cm以下の小型の甕で、477・478・485は口径23cm以上の大型の甕、他は口径14～20cm程度である。471～474・486～494は土師器の鍋の口縁部小片である。494を除くすべての口縁部は「く」字状に屈曲している。471～473・488の口縁端部は方形を呈し、上端部が引き上げられる。474・489～491・493は端部は方形を呈し、上端部が肥厚し上下方向に拡張する。486の端部は方形を呈す。487・492は肥厚した端部が内側に折り返され、丸くおさめる。494は口縁部と体部の境は「く」字状にはならない。端部は肥厚し、内側に折り返され丸くおさめる。ほとんどにカキメ調整が施され、472・489・491には外面にヘラケズリ調整が、472・487・488・491・494は内面にハケメ調整が見られる。

－中近世－

〈土坑〉

SK83（図面137－499）：499は珠洲擂鉢の口縁部破片である。直線的に開く体部に口縁部はやや内傾し、端部は外側に突出する。口縁部は櫛状工具による波状文が巡る。吉岡編年のⅤ期に相当する。

SK84（図面137－501）：501は龍泉窯系青磁碗の口縁部破片である。大宰府分類のⅤ－４－a・４－b類もしくはⅤ・Ⅲ－１類に相当する。

SK94（図面137－500）：500は珠洲擂鉢の口縁部破片である。やや直線的に立ち上がる口縁部に、口縁端部は角状に突出する。法量は口径33.4cmで、擂目は12本が確認できる。吉岡編年のⅣ２期に相当する。

〈溝〉

SD14（図面137－495・502）：495は白磁碗の口縁部破片で、いわゆる玉縁状の口縁を有するタイプである。大宰府分類のⅣ類に相当する。法量は口径16.8cmである。502は珠洲甕の口縁部破片である。口縁部に向かって弧を描くように立ち上がり、端部は嘴頭を呈する。吉岡編年のⅠ３期に相当する。

SD15（図面137－496）：496は中世土師器で、いわゆる「ロクロ土師器」の皿である。森分類のＫ類に相当する。法量は口径9.8cm、器高は2.75cmである。

SD17（図面137－497）：497は越中瀬戸の皿である。口縁部破片で内外面に灰釉が施される。

SD18（図面137－498）：498は越中瀬戸の鉄釉天目茶碗である。直線的に体部が開き、口縁部は「S」字状を呈する。高台付近は露胎である。法量は口径10.6cmである。

〈包含層〉（図面137－503～528）

504～508は中世土師器である。504～506は小皿で、丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。507は体部が明確でなく、丸底ないしは丸底気味の扁平な底部から口縁部が外傾気味に短く直線的に開く形態。端部は鋭く仕上げるものが多い。508は平底気味の平坦な底部から、体部が外傾気味に深く立ち上がり、口縁部は軽く外傾するか内湾する。端部は押しナデにより面を有する。口縁部一段ナデ手法で、京都系模倣と考えられる特徴を有す。森分類・編年では、504～506で森分類・編年のＢ１類、前Ⅸ～後Ⅰ期に、507でＢ３類、前Ⅵ期、508でＡ１類、前Ⅶ期にそれぞれ相当する。503・509～514は珠洲である。503・509～512は擂鉢で、口径24.0～27.0cmの標準的な法量であるが、503のみ約35.0cmと大振りである。503は外端が突き出る口縁部で、端面はわずかに内傾する。口縁の端面に波状文が施されている。吉岡編年のⅤ期に相当する。509は内湾気味に緩やかに立ち上がる体部に口縁部はやや直立気味である。口縁端部は方頭に近いが、口縁端部外端を側方に強くつまみ出している。法量は口径26.0cmである。吉岡編年のⅡ期に相当する。510は直線的に立ち上がる口縁部に、口縁端部は外傾気味に角状に突出する。擂目は８本程度施される。法量は口径26.6cmである。吉岡編年のⅣ２期に相当する。511は内湾気味の体部から口縁部は直立気味である。口縁端部は方頭で、内端を内側にわずかにつまみ上げぎみに仕上げている。吉岡編年のⅡ２期に相当する。512は体部がわずかに内湾しながら開き、口縁部は単純方頭を呈する。吉岡編年のⅡ期に相当する。513は壷の口縁部破片で、緩やかな弧を描く頸部を有する。口縁部は方頭で、口縁端部は外端を側方につまみ出す。吉岡編年のⅡ期に相当する。514は甕の口縁部破片で、口縁部は嘴頭を有する。口縁端部は外方に引きだし尖頭状を呈する。吉岡編年のⅡ２期に相当する。515～518は八尾である。515・516は壷の底部破片で、515は小型製品である。515は平坦な底部から緩やかに内湾しながら立ち上がる体部を有する。外面はヨコナデ調整である。底径は6.4cmである。516は515とほぼ同様な形態を有しているが、外面調整で縦方向の削りが施される。底径は13.4cmである。517・518は甕の口縁部である。口縁部が受け口状に屈曲するが、受け口部は低く未発達である。外面の顎部も丸みを帯びてゆるやかに屈曲している。森分類のⅡａ類に相当する。519・520は白磁の碗である。口縁部を外反させ端部を水平に仕上げる。体部内面には櫛状工具による施文がみられる。どちらも大宰府分類のⅤ類に比定される。521は龍泉窯系青磁碗の底部である。高台断面は四角形を呈し、にぶい面取りで仕上げている。高台内は輪状に釉剥ぎしている。上田分類のⅡ形式以降に比定される。底径6.5cmを測る。522は中世土師器の小皿で、ロクロ成形の森分類でいうＺ類に相当する。回転糸切りの底部からやや内湾気味に斜方向へ開く口縁部を有する。口縁端部は、面取り気味に成形する。胎土はやや硬質であり、焼成も良い。法量は口径8.2

cm、器高は1.9cmである。中世後期の所産か。523・524は越中瀬戸の丸皿で、削り出し高台を有する。523は丸味を持つ体部に口縁端部は丸くおさめ、内面見込みには菊の印花がみられる。灰釉が施されるが、発色は不良である。法量は口径10.0cm、器高は2.5cmである。524は外反気味の口縁部に、丸くおさめる端部を有する。口縁部から体部内外面に灰釉が施される。高台内には「井」の墨書がみられる。525・526は瀬戸美濃である。525は鉄釉天目茶碗で、やや直線的な体部に口唇部は外反する。藤澤編年の後Ⅲ期に比定される。526は灰釉端反皿の底部破片である。底径6.0cmである。藤澤編年の大窯Ⅰ期に比定される。527は唐津の皿である。削り出し高台に、大きく開く体部を有する。内外面には白化粧土に灰釉がかかり、内面見込みには鉄釉を用いて草花文とみられる絵付けが施される。底径5.0cmである。528は八尾の陶錘とみられるもので、外面はやや面取り気味に仕上げている。ほぼ完形品である。法量は長さ5.8cm、幅は1.4cm、孔の内径0.9cmである。

②A3地区（図面138－529～558）

－中世－

〈井戸〉

SE01（図面138－539）：539は白磁碗の底部であり、細高い直立気味の高台を有するタイプとみられる。内面見込みには沈線状の浅い段が巡り、櫛状工具による施文がみられる。底径は7.3cmである。大宰府分類のⅤ類に比定される。

SE03（図面138－532・538）：532は中世土師器で、いわゆる「ロクロ土師器」である。高台形態は柱状を呈している。法量は口径8.95cm、底径4.6cm、器高は2.4cmである。538は珠洲擂鉢の口縁部破片である。直線的に開く体部から口縁端部は方頭に近いが、口縁端部外端を側方に小さくつまみ出している。吉岡編年のⅡ期に相当する。

〈土坑〉

SK01（図面138－529）：529は中世土師器で、いわゆる「ロクロ土師器」である。出土量は全体の土師器皿の中できわめて少ない。森分類のK類、前Ⅶ期に相当する。法量は口径6.8cm、器高は1.7cmである。

SK09（図面138－534）：534は白磁皿の口縁部破片で、端部は面取し、外傾する。大宰府分類のⅣ類に比定される。

SK10（図面138－530）：530は中世土師器で、いわゆる「ロクロ土師器」である。森分類・編年のK類、前Ⅵ～Ⅶ期に相当する。

SK29（図面138－533）：533は中世土師器である。口径11.6cmの大皿である。

SK32（図面138－535）：535は白磁の碗で、大きめの玉縁状の口縁を有する。大宰府分類のⅣ類に比定される。口径は16.8cmである。

SK33（図面138－531）：531は中世土師器である。丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。森分類・編年のB1類、前Ⅴ期に相当する。法量は口径7.8cmである。

SK36（図面138－537）：537は珠洲擂鉢の口縁部小片である。吉岡編年のⅡ期に比定される。

SK50（図面138－536）：536は白磁碗の口縁部小片で、口径15.6cmとなる。

〈包含層〉（図面138－540～558）

540は古代の土師器杯で、回転糸切りの底部から内湾気味の体部を有する。口縁部は外反気味で端部は丸くおさめる。541～551は中世土師器である。549・550は、口径13～14cm程度の大皿で、その他は

口径８～10cm程度の小皿になる。544・546・551・548は、いわゆる「ロクロ土師器」である。法量は比較的残存率が高い551で口径9.9cm、底径6.4cm、器高は2.3cmであり、545で口径7.9cm、器高は1.5cmである。森分類のＫ類で、544は前Ⅵ～Ⅶ期に、546・551は前Ⅶ期に、548は前Ⅵ期にそれぞれ相当する。542・543は平底気味の平坦な底部から体部・口縁部が屈曲・外反し、口縁端部は丸くおさめる。森分類・編年のＡ３類、前Ⅵ期に相当する。541は器高が低く平底気味の平坦な底部から、口縁部が直接浅い角度で短く内湾する。口縁端部は押しナデされ面を有する。森分類・編年のＡ２類、前Ⅵ期に相当する。545・547は扁平な丸底の底部から、口縁部を短くつまむように内側に屈曲させる。口縁端部は丸く納める。森分類・編年のＢ４類、前Ⅵ期に相当する。549・550は平底気味の平坦な底部から、体部が外傾気味に深く立ち上がり、口縁部は軽く外傾するか内湾する。端部は押しナデにより面を有する。口縁部一段ナデを施し、京都系模倣の特徴を有す。法量は549で口径12.9cm、器高は1.8cm、550で口径14.0cm、器高は2.1cmである。いずれも森分類・編年のＡ１類、前Ⅵ期に相当する。552は白磁の碗で、大きめの玉縁状の口縁を有する。大宰府分類のⅣ類に比定される。口径は15.8cmである。553は珠洲擂鉢の口縁部である。やや内湾気味の口縁部から端部は方頭に近いが、口縁端部外端を側方につまみ出している。吉岡編年のⅡ期に相当する。554・555は越中瀬戸の鉄釉皿で、回転糸切りの底部から、直線的に開く体部を有する。口縁部は丸くおさめる。法量は554で口径9.0cm、器高は2.4cm、555で口径9.8cm、器高は2.5cmである。556は越中瀬戸の鉄釉碗で、口縁部破片である。復元口径11.6cmである。557は唐津で、三島手の碗である。外面には刷毛目模様が施されている。復元口径8.4cmである。558は伊万里の皿で、断面三角状の高台を有する。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。内面見込みには蛇の目釉剥ぎが施され、体部にはくずし唐草文が描かれている。復元口径13.4cmである。

③Ａ５地区（図面138・139－559～594）

－中世－

〈井戸〉

SE02（図面138－559）：559は伊万里の皿で、断面三角状の高台を有する。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。内面見込みには蛇の目釉剥ぎが施され、体部にはくずし唐草文が描かれている。復元口径14.1cmである。

〈土坑〉

SK03（図面138－564）：564は瀬戸美濃の鉄釉天目茶碗で、底部破片である。削り出し輪高台で、外面は錆釉がかかる。

SK04（図面138－560）：560は瀬戸美濃の鉄釉天目茶碗で、口縁部破片である。口唇部にはくびれがある。藤澤編年の後Ⅲ期に比定される。

SK12（図面138－569）：569は珠洲擂鉢の口縁部破片で、片口部分である。やや内湾気味の口縁部から端部は方頭に近いが、口縁端部外端を側方につまみ出している。吉岡編年のⅢ期に相当する。

〈溝〉

SD03（図面138－561～563・571）：561・563は中世土師器である。丸底もしくは丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。森分類・編年のＢ１類で、561で後Ⅲ～Ⅳ期に、563で前Ⅸ～後Ⅰ期にそれぞれ相当する。562は瀬戸美濃鉄釉丸皿である。低く小さい高台から体部は内湾気味であるが立ち上がりは弱い。復元口径11.6cmである。藤澤編年の大窯Ⅳ期に比定される。571は越中瀬戸擂鉢の底部破片である。擂目は

14条一単位で、内外面に錆釉が施される。底径12.9cmである。

SD05（図面138－565～567）：565は瀬戸美濃の鉄釉天目茶碗で、口縁部破片である。565は口縁部がわずかに直立し、外反気味の口唇部を有する。復元口径10.6cmである。藤澤編年の大窯Ⅰ期に比定される。566は瀬戸美濃灰釉端反皿で、口縁部がわずかに外反する。復元口径10.8cmである。藤澤編年の大窯Ⅳ期前半に比定される。567は珠洲甕の口縁部破片である。短頸で、口縁部が方頭を呈する。吉岡編年のⅣ期に相当する。

SD08（図面138－570）：570は珠洲擂鉢の口縁部破片で、やや内湾気味の口縁部から端部は方頭に近い。擂目は11条一単位である。吉岡編年のⅣ２期に相当する。

SD11（図面138－568）：568は中世土師器皿で、径の小さな底部から体部・口縁部が「S」字状に屈曲するが、屈曲の度合いは弱く直線的で、端部のつまみあげも弱い。法量は口径9.2cm、器高は2.1cmである。森分類・編年のＤ２類、後Ⅲ期に相当する。

〈包含層〉（図面138・139－572～594）

572～577は中世土師器である。572・573・576は径の小さな平坦な底部の底端を強く折り曲げ、体部から口縁部にかけて「S」字状に屈曲する。端部は上方に丸くつまみあげる。法量は572で口径9.4cm、器高は2.2cmである。森分類・編年のＤ１類で、572・573は後Ⅲ期に、576は後Ⅳ～Ⅴ期にそれぞれ相当する。574は森分類のＺ８類で、器高は浅く、口縁部が直接外反・側方へ突出し、口縁部は鋭く仕上げる。後Ⅱ～Ⅲ期に相当する。574は丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。法量は口径8.0cm、器高は1.95cmである。577は底部がやや扁平な丸底で、体部との境界は明瞭でない。体部は緩やかに内湾して開き、口縁部は短く強く外反させる。口縁端部は鋭く仕上げる。法量は復元口径9.1cmである。578～580は瀬戸美濃の製品である。578・579は鉄釉天目茶碗で、直線的に開く体部に、口縁部はくびれを持って立ち上がる。口唇部は外反する。復元口径は578で10.5cm、579で11.0cmである。580は瀬戸美濃灰釉丸皿である。体部内面には丸彫りを施され、見込みには草花文が押印される。法量は口径11.6cm、器高は2.8cmである。581～589は越中瀬戸である。581～588は灰釉丸皿である。581は底部は削り出し高台で、断面は三角形を呈する。体部の立ち上がりは強く、口縁端部は丸くおさめる。復元口径13.1cmである。582は口縁部破片で、器壁はやや肉厚である。復元口径10.4cmである。583は削り出し高台で、内面見込みに菊の印花文が施される。584～588は概ね削り出し高台で、口縁端部は丸くおさめる。585・587の内面見込みには菊が押印されている。589は鉄釉碗で、削る出し高台に、丸味を持って立ち上がる体部を有する。口縁部はわずかに外反する。法量は口径10.5cm、器高は6.5cmである。590は瀬戸美濃鉄釉天目茶碗の底部である。高台は輪高台で、外面には錆釉が施される。底径4.3cmである。591は須恵器の杯蓋である。天井部は扁平で、擬宝珠状のつまみが付く。天井部外面には1/2程度回転ヘラケズリが施される。口縁部は下方に短く折り曲げる。法量は口径15.4cm、器高は2.8cmである。592・593は須恵器の杯である。592は斜方向に開く体部を有する。593は平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。「ハ」字状に踏ん張る高台が底部のやや内側に貼り付けられている。どちらも口縁端部は丸くおさめる。592の法量は口径10.7cm、593は口径11.9cm、器高は4.0cmである。594は土師器の甕の口縁部小片である。口縁部は肩部との境で稜を持って外傾し、上端部が屈曲し、端部が直立する。口径17.5cmである。

④Ａ６地区（図面139－595～617）

－中近世－

〈土坑〉

SK007（図面139－595）：595は唐津皿の口縁部破片で、内面には刷毛目模様が施されている三島手の製品である。

SK027（図面139－596）：596は白磁の皿で、口縁端部が口禿げである。施釉陶器は器壁全面に施されている。大宰府分類のⅨ類に比定される。

〈溝〉

SD03（図面139－600）：600は中世土師器の皿で、器高が低く平底気味の平坦な底部から、口縁部が直接浅い角度で短く内湾する。口縁端部は押しナデされ面を有する。森分類・編年のＡ２類、前Ⅵ期に相当する。

〈包含層〉（図面139－597～599・601）

597・598は珠洲擂鉢である。597は体部から口縁部が直線的に開き、口縁部の端面は上端が上方に軽く摘み上げ、下端は側方に突出する。器壁は薄手である。法量は口径22.2cmである。吉岡編年のⅡ期に相当する。598は底部で、静止糸切りの平坦な底部から、内湾気味に立ち上がる体部を有する。擂目は11条一単位である。底径14.0cmである。吉岡編年のⅣ期に相当する。599・601は中世土師器である。599は扁平な丸底の底部から、口縁部を短くつまむように内側に屈曲させる。口縁端部は丸く納める。法量は口径6.5cm、器高は1.1cmである。森分類・編年のＢ４類、前Ⅵ期に相当する。601は器高が低く平底気味の平坦な底部から、口縁部が直接浅い角度で短く内湾する。口縁端部は押しナデされ面を有する。森分類・編年のＡ２類、前Ⅵ期に相当する。

－古代－

〈土坑〉

SK102（図面139－613）：613は土師器の杯である。回転糸切りの平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は短く外反する。法量は口径15.5cm、器高は5.6cmである。

SK106（図面139－604・607・614・615）：604は須恵器の杯蓋である。天井部は扁平なタイプで、口縁部は下方に短く折り曲げる。法量は口径14.0cmである。607は須恵器の杯である。平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は短く外反する。法量は口径13.1cm、器高3.4cmとなる。614は土師器の杯である。平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は短く外反する。口径14.5cmである。615は土師器の甕である。口縁上端部が屈曲し、端部が丸みを持ち、外面に沈線が走る。復元口径は20.6cmとなる。

〈包含層〉（図面139－602・603・605・606・608～612・616・617）

602・603・605・606は須恵器の杯蓋である。602は天井部は笠型で器高のあるタイプである。天井部外面には1/2程度回転ヘラケズリが施され、擬宝珠状のつまみが付く。口縁部は下方に短く折り曲げる。法量は口径11.9cm、器高は2.7cmである。603・605は天井部は笠型で器高のあるタイプである。605は天井部外面に1/2程度のヘラケズリが施される。603・605・606の口縁端部は短く折り曲げる。法量は口径12～13cm程度である。608～611は須恵器の杯である。608～610は杯Ａで平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は短く外反する。法量は概ね口径12～13cm、器高は3.6cmである。611は杯Ｂで、平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。「ハ」字状に踏ん張る高台が底部のやや内側に貼り付けられている。口縁端部は短く外反する。法量

は口径14.8cm、器高は4.2cmである。612は須恵器の横瓶の口縁部小片である。外反気味の頸部を持ち、口縁端部は水平である。口径15.5cmとなる。616は土師器の甕の口縁部小片である。口縁上端部が屈曲し、端部は丸くおさめる。内面にハケメ調整が見られ、復元口径は23.3cmとなる。617は土師器の鍋の口縁部小片である。口縁端部は方形を呈し、上端部が肥厚し上下方向に拡張する。外面にはカキメが施され、口径は40.2cmとなる。

⑤Ａ７・Ａ８・Ａ９地区（図面139～142－618～718）

－中世－

〈土坑〉

SK010（図面139－667）：667は越中瀬戸天目茶碗の口縁部である。復元口径9.7cmである。

〈溝〉

SD006（図面139－618）：618は越中瀬戸の鉄釉碗である。削り出し高台の底部から内湾気味に直立する体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径8.5cm、器高は6.5cmである。

SD008（図面139－620・621）：620は中世土師器で、丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。法量は口径7.8cm、器高は1.6cmである。森分類・編年のＢ１類、前Ⅶ期に相当する。621は越中瀬戸の丸皿で、口縁部内外には鉄釉がかかる。復元口径11.7cmである。

SD010（図面139・140－624・626～628）：624は中世土師器で、丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。法量は口径8.8cm、器高は1.8cmである。森分類・編年のＢ１類、前Ⅶ期に相当する。626～628は伊万里である。626と628は染付の碗で、626は外面に草花文、628は外面に笹が描かれている。627は皿で、内面は蛇の目釉剥ぎが施され、体部内面に二重格子文が描かれている。

SD014（図面139－622・623）：622は中世土師器で、森分類のＫ類に相当する、ロクロ成形の製品である。回転糸切りの底部から、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は面取される。法量は口径10.5cm、器高は2.55cmである。中世後期に比定される。623は珠洲の擂鉢で、内湾気味に立ち上がる体部に、口縁部は三角頭、端面は幅広で内傾する。幅広の端面には波状文が巡る。法量は口径32.0cm、器高は9.2cmである。粗い擂目が密に施されている。吉岡編年のⅣ２期に相当する。

SD015（図面140－629・630）：629は越中瀬戸の灯明受皿で、底部は回転糸切りによる切り離しである。630は伊万里の染付皿である。高台の断面は三角形で、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。内面見込みには蛇の目釉剥ぎが施され、見込み部分には五弁花、体部内面にはくずし唐草文が描かれている。法量は口径13.1cm、器高は3.2cmである。

〈包含層〉（図面139・140－619・625・631～633）

619は越中瀬戸の鉄釉碗である。削り出し角高台を有し、体部は内湾気味に開く。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径9.8cm、器高は5.7cmである。625は土師器皿で、森分類・編年のＣ６類、後Ⅰ期に相当する。口径13.1cmである。631は伊万里の皿で、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。内面見込みには蛇の目釉剥ぎが施され、見込み部分には五弁花、体部内面にはくずし唐草文が描かれている。法量は口径12.4cm、器高は3.05cmである。632は京都信楽系の蓋である。底部はヘラケズリを施し、内面に灰釉がかかる。中央につまみが付くと考えられる。法量は口径10.8cm、器高は2.3cmである。近世・近代の所産か。633は伊万里の白磁小杯である。細高い高台に、わずかに内湾しながら立ち上がる体部を有する。法量は口径7.9cm、器高は3.4cmである。近世・近代の所産か。

―古代―

〈竪穴住居〉

SI01（図面140－634～666）：634～637は須恵器の杯蓋である。634は天井部は笠型で器高のあるタイプである。天井部外面には1/2程度回転ヘラケズリが施され、ボタン状のつまみが付く。635は天井部は扁平で、擬宝珠状のつまみが付く。口縁部は下方に短く折り曲げる。法量は口径12.1cm、器高は2.2cmである。636・637は天井部は笠型で器高のあるタイプである。口縁部は斜めに折り曲げる。法量は口径16～17cm程度である。638～641は須恵器の杯である。638は無高台の杯Aで平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径11.8cm、器高は3.9cmである。639は無高台の杯Aで平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。640・641は斜方向に開く体部を有し、口縁端部はやや尖り気味である。639の法量は口径12.7cm、器高は4.1cm、その他は口径17～18cm程度である。645・646・647～649・651～654は杯Aとなる。642・643・650はやや内湾気味に立ち上がる体部をもつ。642・643の口縁端部は外反し、650は丸くおさめる。644～649・651～654は平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は短く外反する。643・644・646・653は赤彩される。649は底部に「山」の墨書が見られ、法量は口径11.8cm、器高は4.2cmである。655～665は土師器の甕である。655～659は口径12～14cm程度の小型の甕の口縁部小片で、口縁部は「く」字状に屈曲し、655の端部は方形を呈し、上端部が引き上げられる。656・657・659は肥厚した端部が丸みを持って内屈し、内側に段を有する。660は口縁部は「く」字状に屈曲し、肥厚した端部が丸みを持って内屈し、内側に段がつく。底部は平底で回転糸切りによる切り離しが、底部外面下位にはヘラケズリ調整が施される。法量は口径11.9cm、底径5.6cm、器高13.4cmと小型である。661～665は口径21cm以下の中型の甕の口縁部小片である。口縁部は「く」字状に屈曲し、661・662・664は肥厚した端部が内側に折り返され、丸くおさめる。663・664は上端部が屈曲し、「S」字状を呈する。662は内面に、663～665は外面にカキメ調整が施され、663の体部下位にはわずかにハケメ調整が残る。666は土師器の鍋の口縁部小片である。口縁端部は屈曲し、「S」字状を呈する。口径34.1cmである。

〈溝〉

SD102（図面141－668）：668は須恵器の杯である。底部は残存していないが、高台が付く器高の深いタイプと考えられる。斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径15.6cmである。

〈包含層〉（図面141～142－669～718）

669～675は須恵器の杯蓋である。669・670・673・675は天井部は笠型で器高のあるタイプである。669・675は天井部が回転糸切りされたつまみのないタイプの杯蓋である。671・672・674は天井部は扁平で、天井部外面には1/2程度回転ヘラケズリが施される。口縁部は下方に短く折り曲げるもの（669・672・673）、折り返して丸くおさめるもの（670・671・674・675）がある。法量は残りのよい669で口径11.9cm、器高は2.0cmである。676～678・680～688は須恵器の杯である。678・684は口縁部小片であるが、676・677・680～683・685は無高台の杯A、686～688は有高台の杯Bである。676・677・682・683は平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。680・681・686～688は平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。686・688の高台は「ハ」字状に踏ん張り、687の高台は角状を呈し、底部のやや内側に貼り付けられている。口縁端部は丸くおさめるもの（676～678・680・681・683・685・687・688）、短く外反するもの（682・684・686）がある。

法量は681で口径11.4cm、器高は3.5cm、688で口径14.7cm、底径8.0cm、器高6.65cmとなる。679・689は須恵器の皿である。679は平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有し、689は平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は679が口径11.7cm、器高は1.55cm、689が口径15.7cm、器高が2.55cmである。690～692は須恵器の甕の口縁部である。690は体部から口縁部にかけて「く」字状に屈曲し、口縁端部は水平におさめる。外面はタタキ調整が施される。691は口縁端部が肥厚し上下方向に拡張している。復元口径22.7cmである。692は体部から口縁部にかけては「く」字状に屈曲し、頸部は直線的である。端部は外側を引き上げ気味に仕上げ、内面が沈線状となる。693は須恵器の突帯付四耳壷である。丸底の底部に体部は緩やかに立ち上がる。体部と口縁部との境は「く」字状に屈曲する。肩部には断面方形の耳を有する。肩部付近には粘土帯を貼り付けた突帯が2条巡り、沈線も3条ほどみられる。底部には貼付け高台の痕跡が残る。内外面はヨコナデ調整で、底部内面には不規則なナデ調整である。694～701は土師器の杯で、696・698・700は杯Aである。やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。694・697・698・700の口縁端部は短く外反し、695・696・699・701の口縁端部は丸くおさめる。696の底部は静止糸切りで、墨書が残る。法量は口径12～13cm程度、器高はおおよそ3～4cmである。702・703は内面を黒色処理し、ヘラミガキを施した黒色土器の椀で、703は椀Aである。口縁部のみの702はやや内湾する体部を有し、口縁端部は外反気味である。口径は11.6cm。703は底部のみの残存で、底径は5.0cmである。704～713は土師器の甕である。口縁部は「く」字状に屈曲し、端部は方形を呈し、上端部が引き上げられる（704・709・713）、上端部が屈曲し端部が直立する（705・706・711）、上端部が屈曲し端部が丸みを持ち、外面に沈線が入る（707・710）、上端部が屈曲し、端部が内傾する（708）、端部は丸くおさめる（712）に分けられる。706・708・709・713の外面にはカキメが施され、713はその上にヘラケズリが見られる。712は内外面にカキメ調整が施される。法量は704～706が口径11～13cmの小型、707～711は口径16～22cmの中型、712・713は口径24cm以上の大型である。714・715は土師器の鍋である。口縁部は上端部が屈曲し、714は肥厚した端部が内側に折り返され丸くおさめ、715は端部が方形を呈し、上端部が肥厚し上下方向に拡張する。どちらも内面にカキメ調整を施す。法量は714が口径35.3cm、715が口径38.0cmである。716～718は土製品の土錘である。716は3/4を欠失しているが、幅2.7cm、孔径1.2cm。717・718は樽型の完形で、幅4.0～4.1cm、長さ6.6～6.8cm、孔径1.2～1.3cmとほぼ同じ法量をもつ。

⑥ A11地区（図面142－719～728）

－近世－

〈溝〉

SD02（図面142－719～722・728）：719～721は越中瀬戸である。719は小杯で、ほぼ完形品である。底部は柱状高台で、回転糸切りによる切り離しである。口縁端部は丁寧に面取りされている。内面と外面上位まで鉄釉が施される。法量は口径6.4cm、器高は1.8cmである。720・721は灰釉丸皿で、720には見込みに押印が施される。722・728は伊万里である。722は染付碗で、外面には松のコンニャク印判が施される。728は皿で、内面には二重格子文が施される。復元口径12.3cmである。

SD03（図面142－723～726）：723は越中瀬戸の皿の底部である。削り出し高台を有する。726は伊万里の皿である。724・725は伊万里白磁碗の底部で、内面に蛇の目釉剥ぎが施される。726は底部破片で、内面には草花文が施される。

〈包含層〉（図面142－727）

727は伊万里の皿で、内面にはくずし唐草文が施される。法量は口径9.5cm、器高は2.45cmである。

⑦ A12地区（図面142・143－729～762）

－中・近世－

〈土坑〉

SK11（図面142－729）：729は越中瀬戸鉄釉壷の完形品である。回転糸切りの底部から直線的に立ち上がる体部を有する。体部上位3/4で肩が緩やかに張り、頸部は内径気味で、口縁部は丸くおさめる。法量は口径12.7cm、器高は13.65cmである。

〈溝〉

SD004（図面142－730）：730は越中瀬戸の鉄釉丸皿で、高台を三角形に削りだしている。法量は口径11.9cm、器高は2.7cmである。

〈包含層〉（図面142－731～739）

731は中世土師器で、平底気味の平坦な底部から、体部が外傾気味に深く立ち上がり、口縁部は軽く外傾するか内湾する。端部は押しナデにより面を有し、京都系模倣とみられる特徴を有す。法量は復元口径15.1cmである。森分類・編年のＡ１類、前Ⅵ期に相当する。732～734は珠洲である。732は擂鉢で、口縁部端面の両端が角状に内・外方へ突き出している。また端面の幅も広く水平よりわずかに外傾する。法量は口径29.5cm、器高は4.7cmである。吉岡編年のⅣ２期に相当する。733・734は口縁部が概ね短頸で、方頭を呈する。733は法量は口径45.2cmである。733は吉岡編年のⅤ期、734はⅣ期に相当する。735～738は越中瀬戸である。735は鉄釉碗で、復元口径9.5cmである。736・737は皿の底部破片で、削り出し高台を有する。736の内面見込みには菊が押印されている。738は鉄釉天目茶碗の底部破片で、高台は輪高台である。復元底径5.2cmである。739は伊万里の染付皿で、体部内面には二重格子文が施される。復元口径12.5cmである。

－古代－

〈竪穴住居〉

SI01（図面142－740～747）：740～746は土師器の甕の口縁部小片である。口縁端部は屈曲し、端部が直立するもの（740・742～744）、口縁端部は方形を呈し、上端部が引き上げられるもの（741・745・746）がある。調整は741は内面にカキメとハケメが、742・744・745は内面にカキメが、746は内外面にカキメが施される。法量は740が口径12.9cmと小型である。747は須恵器の杯Ａである。平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は口径11.9cm、器高は2.6cmである。

〈包含層〉（図面143－748～762）

748～750は須恵器の杯蓋である。748・750は天井部は笠型で器高のあるタイプで、749は扁平なタイプである。天井部外面には1/2～2/3程度回転ヘラケズリが施される。口縁部は748は折り返して丸くおさめ、749・750は下方に短く折り曲げる。法量は748が口径11.5cm、749が口径14.7cm、750が口径16.0cmとなる。751～756は須恵器の杯である。751～753は無高台の杯Ａで、平坦な底部から屈曲して、斜方向へ直線的に開く体部を有する。口縁端部は丸くおさめる。法量は751が10.7cm、752が12.0cm、753が12.4cmとなる。754・755は有高台の杯Ｂで、底部のみの残存である。「ハ」字状に踏ん張る高台が底部のやや内側に貼り付けられている。底径は７cm程度である。756は器高の深い有高台のタイプの杯Ｂと見られる。口径は13.5cmである。757は須恵器の壷である。外反気味の口頸部を持ち、口縁端部は平坦である。758～761は土師器の甕の口縁部小片である。口縁部は「く」字状に屈曲し、

端部は方形を呈し、上端部が肥厚し上下方向に拡張するもの（758・761）、端部は方形を呈し、上端部が引き上げられるもの（759）、上端部が屈曲し、端部が直立するもの（760）がある。どれも復元口径16cm～23cm程度の中型の甕である。762は土師器の杯Aである。平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。法量は底径6.1cmである。

⑧ A13地区（図面143－763～798）

－中・近世－

〈柱穴〉

SP21（図面143－763）：763は中世土師器で、丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。法量は口径7.4cm、器高は2.0cmである。森分類・編年のB1類、前Ⅴ期に相当する。

〈土坑〉

SK07（図面143－764）：764は中世土師器で、体部が明確でなく、丸底ないしは丸底気味の扁平な底部から口縁部が外傾気味に短く直線的に開く形態。端部は鋭く仕上げるものが多い。法量は口径6.7cm、器高は1.6cmである。森編年のB3類、前Ⅴ期に相当する。

SK08（図面143－765）：765は中世土師器で、体部が明確でなく、丸底ないしは丸底気味の扁平な底部から口縁部が外傾気味に短く直線的に開く形態。端部は鋭く仕上げるものが多い。法量は口径7.9cm、器高は1.5cmである。森編年のB3類、前Ⅵ期に相当する。

SK12（図面143－778～780）：778は珠洲の甕の口縁部小片である。短頸で口縁部は方頭を呈する。吉岡編年のⅣ1期に相当する。779は珠洲の擂鉢である。復元口径は26.3cmとなる。吉岡編年のⅢ期に相当する。780は八尾甕の底部破片である。体部は外側に直線的に開き、外面には縦方向のケズリ調整が施される。

SK14（図面143－766・772）：766は中世土師器で、体部が内湾しながら開き、端部は肥厚気味に丸く納める。肥厚は厚めである。森分類・編年のZ7類、前Ⅷ期に相当する。772は八尾の甕で、口縁部の小破片である。口縁部は受け口状に屈曲し、口縁端部に内傾する端面がある。口縁外面の顎部が斜外方に鋭く拡張する。森分類のⅢb類に相当する。

SK16（図面143－777）：777は珠洲甕の短頸で口縁部は方頭を呈し、端部は側方に引き出す。吉岡編年のⅢ期に相当する。

SK17（図面143－774）：774は瀬戸美濃の灰釉合子で、底部は回転糸切り痕がみられる。底部は露胎である。藤澤編年の古瀬戸中期Ⅰ～Ⅱに比定される。

〈溝〉

SD03（図面143－767～771・773・775・776）：767～771は中世土師器である。767・770は丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。法量は770で口径7.4cm、器高は1.3cmである。森分類・編年のB1類で、767で前Ⅶ期に、770は前Ⅶ～Ⅷ期にそれぞれ相当する。768・769は器高は浅く、平坦な底部から口縁部が直接外反・側方へ突出し、口縁端部は鋭く仕上げる。森分類・編年のZ8類、後Ⅰ～Ⅱ期に相当する。771は扁平な丸底の底部から、口縁部を短くつまむように内側に屈曲させる。口縁端部は丸く納める。法量は口径8.8cm、器高は1.4cmである。森分類・編年のB4類、前Ⅴ期に相当する。773は八尾の甕で、口縁部の小破片である。口縁部は受け口状に屈曲し、口縁端部に内傾する端面がある。口縁外面の顎部が斜外方に鋭く拡張する。森分類のⅢb類に相当する。775・776は珠洲甕の口縁部破

片である。775は短頸で口縁部は円頭を呈し、端部は側方に引き出す。吉岡編年のⅢ期に相当する。776は短頸で口縁部は方頭を呈し、端部は側方に引き出す。吉岡編年のⅢ期に相当する。

〈包含層〉（図面143－781～798）

781～788は中世土師器である。781・782・785・787・788は丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。森分類・編年のＢ１類で、781・782・787で前Ⅵ～Ⅶ期に、785は前Ⅸ～後Ⅰ期に、788は後Ⅲ～Ⅳ期にそれぞれ相当する。783は扁平で、体部が内湾気味に開く。口縁部との境界はあまり明瞭でない。口縁部は短く外傾する。端部は鋭く仕上げる。森分類・編年のＢ２類、前Ⅵ期に相当する。784は器高は低く扁平で、平底の底部で体部はなく、底端部から口縁部を短く折り曲げ上方につまみ上げる。端部は鋭く仕上げる。森分類・編年のＺ１類、前Ⅳ～Ⅴ期に相当する。786は器高は浅く、平坦な底部から口縁部が直接外反・側方へ突出し、口縁端部は鋭く仕上げる。森分類・編年のＺ８類、後Ⅰ～Ⅱ期に相当する。789・790は瀬戸美濃である。789は灰釉皿で、底部が低い削り出し高台である。藤澤編年の古瀬戸後期Ⅰ～Ⅱに比定される。790は灰釉の瓶子である。藤澤編年の古瀬戸中期Ⅰ～Ⅱに比定される。791～793は越中瀬戸の皿で、いずれも底部破片である。791・793は灰釉が、792は鉄釉がそれぞれかかる。791の内面見込みには印花が施される。794～798は珠洲である。794～795は擂鉢の口縁部破片である。794は口縁部の外端は張り出さず、逆に内端側が突き出る形態で、幅の広い端面は内傾する。口縁の端面に波状文が施される。吉岡編年のⅤ期に相当する。795は内湾気味に立ち上がる体部から、幅の広い水平な口縁部端面を有し、僅かに外端が側方へ突出する。擂目は６条一単位である。吉岡編年のⅣ３期に相当する。796～798は甕の口縁部破片である。796は短頸で、口縁部は円頭を呈する。797・798は短頸で、口縁部は方頭で、端部をやや尖る。796は吉岡編年のⅣ１期に、797・798はⅢ期にそれぞれ相当する。

⑨ A14地区（図面143・144－799～817）

－中世－

〈土坑〉

SK06（図面143－799）：799は龍泉窯系青磁碗で、口縁部は外反気味におさめる。大宰府分類のⅠ類２～３に比定される。

SK19（図面143－800・801・805）：800は中世土師器で、丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。森分類・編年のＢ１類、前Ⅴ期に相当する。801は白磁の皿で、口縁部は口禿げである。大宰府分類のⅨ－１類に比定される。805は珠洲擂鉢の口縁部で、口縁部端面の両端が角状に内・外方へ突き出している。また端面の幅も広く水平よりわずかに外傾する。内面の擂目は11条一単位であり、ややシャープに施されている。復元口径33.0cmである。吉岡編年のⅢ期に相当する。

SK26（図面143－802）：802は中世土師器で、丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は不明瞭である。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。復元口径7.2cmである。森分類・編年のＢ１類、前Ⅴ期に相当する。

〈溝〉

SD06（図面143－803・804・806）：803は白磁皿の底部で、底部外面は無釉である。大宰府分類のⅨ－２類に比定される。804は中世土師器で、森分類のＢ１類に相当する。体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は不明瞭である。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。復元口径9.7cmで

ある。前Ⅳ～Ⅴ期に相当する。806は珠洲甕で、口縁部破片である。長い頸部に口縁部は外反する。端部は弱い嘴頭を呈する。口縁部内面に棒状器具による押圧溝がみられる。吉岡編年のⅠ３期に相当する。

〈包含層〉（図面143－807）

807は中世土師器で、扁平な丸底の底部から、口縁部を短くつまむように内側に屈曲させる。口縁端部は丸く納めるものが多い。森分類・編年のＢ４類、前Ⅴ～Ⅵ期に相当する。

－古代－

〈包含層〉（図面143・144－808～817）

808～810は須恵器の杯蓋である。808・809は天井部は笠型で器高のあるタイプである。809の天井部外面には1/2程度回転ヘラケズリが施される。口縁部は折り返して丸くおさめる。810は天井部は扁平なタイプで、口縁部は下方に短く折り曲げる。811～814は須恵器の杯で、813・814は杯Ａとなる。811・812は斜方向に直線的に開く体部を持ち、813・814は平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。813の口縁端部は短く外反し、他は丸くおさめる。法量は口径10～12cm程度である。815は土師器の杯Ａで、回転糸切りの平坦な底部に墨書が見られる。底径は6.0cmである。816・817は土師器の甕である。816の口縁部は「く」字状に屈曲し、肥厚した端部が内側に折り返され、丸くおさめる。817の口縁部は上端部が屈曲し、端部が内傾する。

⑩ A15地区（図面144－818～820）

－古代－

〈溝〉

SD102（図面144－818）：須恵器杯Ｂである。平坦な底部のやや内側に、角状を呈する高台が貼り付けられている。底径9.4cmである。

〈包含層〉（図面144－819・820）

819は須恵器の杯蓋である。天井部は扁平で、擬宝珠状のつまみが付く。天井部外面には2/3程度回転ヘラケズリが施される。口縁部は下方に短く折り曲げる。法量は口径13.6cm、器高は2.9cmである。820は土師器の杯Ａである。平坦な底部から屈曲して、やや内湾気味に立ち上がる体部を有する。口縁端部は短く外反する。法量は口径12.5cm、器高は4.5cmである。

⑪ A16地区（図面144－821～835）

－中・近世－

〈土坑〉

SK01（図面144－822）：822は中世土師器で体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。森分類・編年のＢ１類、前Ⅶ期に相当する。

SK12（図面144－821）：821は伊万里の皿で、底部は蛇の目凹高台である。内外面には染付されており、内面には草花とみられる文様が、外面にはくずし唐草文が施される。法量は口径13.3cm、器高は3.2cmである。

SK14（図面144－823）：823は中世土師器で、扁平な丸底の底部から、口縁部を短くつまむように内側に屈曲させる。口縁端部は丸く納める。法量は口径7.8cm、器高は1.2cmである。森分類・編年のＢ４類、前Ⅵ期に相当する。

SK15（図面144－824）：824は中世土師器で、扁平な丸底の底部から、口縁部を短くつまむように内側に屈曲させる。口縁端部は丸く納める。法量は口径7.6cm、器高は0.9cmである。森分類・編年のＢ

4類、前Ⅷ期に相当する。

SK19（図面144－825）：825は中世土師器で扁平だが、丸底ないしは丸底風の底部から体部が内湾気味に開く。口縁部との境界はあまり明瞭でない。口縁部は短く外傾するか、ないしは軽く外反する。端部は鋭く仕上げる。森分類・編年のＢ２類、前Ⅵ期に相当する。

SK21（図面144－830）：830は伊万里の小瓶で、外面には梅文が散らされている。底径2.8cm、現存高4.0cmである。

〈溝〉

SD01（図面144－827～829）：827・829は越中瀬戸の鉄釉丸皿で、827は口縁部破片である。828は伊万里の碗で、外面には唐草文、口縁部内面には格子文が施される。

SD04（図面144－831・832）：831・832は珠洲で、小型の擂鉢である。831は内湾気味の体部から口縁部が直線的に開き、口縁の端面に丸味を持たせる。吉岡編年のⅠ３期～Ⅱ２期に相当する。832は回転糸切りによる切り離しの底部から、体部が内湾しながら立ち上がる。口縁部は幅の狭い面を持ち、内端を軽く摘み上げるようにおさめる。吉岡編年のⅠ３期に相当する。

〈包含層〉（図面144－826・833～835）

826は中世土師器で丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。森分類・編年のＢ１類、前Ⅶ期に相当する。833は龍泉窯系青磁碗の口縁部破片である。外面には蓮弁文が巡る。大宰府分類のⅡ－ｂ類（旧Ⅰ－５－ｂ類）に比定される。834は龍泉窯系青磁の稜花皿で、内面は片彫りによる文様が施されている。835は珠洲の擂鉢で、体部から口縁部が直線的に外傾し、口縁端部に面を有し、内端を内側につまみ上げる。復元口径33.1cmである。吉岡編年のⅡ２期に相当する。

⑫ A18地区（図面144－836～866）

－中・近世－

〈土坑〉

SK01（図面144－836～841・843～847）：836は龍泉窯系青磁坏で、口縁部は折縁状を呈する。体部内面には丸彫りが施される。837～841・843～847は越中瀬戸である。837～841・843は皿で、概ね削り出し高台から、体部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。釉薬は鉄釉と灰釉があり、鉄釉が837・840・841・843、灰釉が838・839である。839と843の高台見込みにはそれぞれ「一」「十」と墨書されている。844・845は鉄釉擂鉢の底部である。底部は回転糸切り痕が残り、内面の擂目は844で７条一単位、845で15条一単位である。846は有耳の鉄釉壷で、短い頸部を有し、端部はやや水平に仕上げる。復元口径13.8cmである。847は体部が円筒状の鉄釉壷である。短い頸部に口縁端部はやや水平に仕上げる。底部は回転糸切りによる切り離しである。法量は口径15.0cm、器高は8.4cmである。

SK02（図面144－842）：842は越中瀬戸の鉄釉丸皿で、露胎の削り出し高台を有する。法量は口径10.8cm、器高は2.5cmである。

〈包含層〉（図面144－848～860・863～866）

848～852は中世土師器である。848・850・851は森分類のＢ１類で、丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。前Ⅸ～後Ⅰ期に相当する。849は狭い丸底基調の底部と体部を有するが、器高が低く扁平である。口縁部も浅く斜外方へ大きく開く。口縁部は端部に向かい鋭く仕上げる。森分類・編年のＣ３類、後Ⅰ期に相当する。852は器高が低く底部は丸みを帯びる。底部から口縁部にかけての屈曲は弱

く、浅い角度で側方に大きく開く。端部のつまみあげは弱い。森分類・編年のD4類、後Ⅳ期に相当する。853～860は越中瀬戸の製品である。853～857は灰釉皿で、概ね底部は露胎で、削り出し高台を有する。853～856の高台見込みには、墨書が描かれ854・856では「十」と読める。法量は857で口径10.6cm、器高は2.5cmである。858・859は鉄釉碗で、858は体部から口縁部、859は底部が残存している。858はやや垂直気味に立ち上がる体部に、口縁部はわずかに外反する。復元口径11.6cmである。859は削り出し高台で、外面は露胎である。860は鉄釉天目茶碗の底部である。底部外面は露胎である。底径5.0cmである。863は珠洲擂鉢の口縁部で、口縁部端面の両端が角状を呈する。端面の幅も広く、水平よりわずかに外傾する。端面には波状文を施す。復元口径35.4cmである。吉岡編年のⅤ期に相当する。864・865は越前の擂鉢である。864は片口の口縁部破片で、直線的に開く体部に、口縁部はわずかに立ち上がり、口縁部の内面には沈線状に一条巡る。端部は内傾する端面を有する。内面の擂目は9条一単位である。復元口径30.0cmである。865は底部破片で、内面には9条一単位の擂目が施される。底径15.0cmである。866は約1/2程度残存する土鈴で、紐通しの孔がみられる。長さ4.3cm、幅3.4cmである。

－古代－

〈包含層〉（図面144－861・862）

861は須恵器の杯蓋で、天井部は扁平である。口縁端部は下方に短く折り曲げる。862は須恵器の杯Bである。底部のみの残存で、「ハ」字状に踏ん張る高台が平坦な底部のやや内側に貼り付けられる。高台内には墨書が見られる。

B　木製品（図面145）

任海宮田遺跡では有機物が分解されやすい土壌であるせいか、木製品は全地区を通してほとんど遺存していない。任海宮田遺跡A地区では合計4点の木製品が出土している。器種が判別できるものとしては漆器がある。また、器種が判別できないものについては板状・棒状とした。以下に各地区毎に記述していく。

①A5地区

SE01（図面145－001）：001は板状木製品で、現存している法量は長さ21.3cm、幅7.3cm、厚さ2.2cmを測る。

②A13地区

SK13（図面145－002）・**包含層**（図面145－003）：002は漆器の蓋である。口縁部とつまみが欠失している。内外面には黒漆が塗布されており、内面見込みには赤漆で「シ」と描かれている。全体として保存状態は悪い。現存している法量は径13.4cm、厚さ1.0cmを測る。003は棒状木製品で外面には刀子痕がみられる。1/2ほど欠失しており、半裁されたような遺存状態を呈している。長さ13.2cm、幅1.8cmである。

③A16地区

SK12（図面145－004）：004は漆器の椀で口縁部と底部を欠失している。内面は赤漆、外面は黒漆が塗布されている。厚さ0.8cmである。

C　金属製品（図面145～149）

任海宮田遺跡A地区では金属製品も出土しており、とりわけ鉄製品が多く出土している。種類が判別できるものとしては、釘、刀子、鍋、鋏、飾り金具、鏃、紡錘車、袋状鉄斧、鎌、馬鍬、耳環、銅銭、煙管が出土している。また、器種が判別できないものについては板状、棒状などと形状で分類

した。種類が判別できる金属製品の種類毎の出土点数をみると、釘がもっとも多く、次に刀子が続く。金属製品の記述は各地区毎に行う。以下に簡単に記述していく。

①Ａ１・Ａ４地区（図面145～147－001～061）

〈竪穴住居〉

SI02（図面145・147－013・019・054）：013は棒状鉄製品で、断面は円形を呈する。長さ2.1cm、幅0.5cmである。019は刀子で、切先と茎部の先端が欠失している。現存長13.6cm、残存する刃部の長さは6.5cm、幅1.1cmである。054は鉄滓で長さ2.2cm、幅2.7cm、重量7.8gである。

SI07（図面145・146－020・022）：020は刀子で、茎部の一部と考えられる。断面は楔形を呈し、現存長5.2cm、幅0.7cmである。022は棒状鉄製品で、断面は方形に近い楕円形を呈する。長さ8.9cm、幅1.1cmである。

SI09（図面147－057）：057は鉄滓である。長さ6.0cm、幅8.9cm、重量211gである。

SI11（図面145－015・017・018）：015は棒状鉄製品で、断面は方形に近い形状を有する。現存長1.7cm、幅0.5cmである。017は柳葉式の鉄鏃で、茎部は一部欠失している。現存長7.7cm、刃部長6.3cm、幅3.1cm、厚さ0.7cmである。018は刀子の完形品である。全長18.1cmで、刃部長9.7cm、幅1.1cm、厚さ0.4cmである。茎部の長さ8.4cm、幅0.9cm、厚さ0.3cmである。

SI12（図面145－014）：014は鉄鏃で、刃部の平面形は方頭を呈する。篦被は斜関を呈し、茎部は欠失している。刃部長は5.8cm、幅1.3cmである。

SI22（図面146－021）：021は金環で、表面に金メッキが施される。長さ2.5cm、幅2.75cm、厚さ0.6cmである。

SI24（図面147－055・056）：055・056は鉄滓である。055は長さ3.5cm、幅3.7cm、重量26.8gである。056は長さ3.95cm、幅4.6cm、重量23.2gである。

〈土坑〉

SK023（図面145－009）：009は棒状鉄製品で、断面は扁平である。現存長4.7cm、幅0.8cm、厚さ0.3cmである。刀子の茎部の可能性がある。

SK054（図面145－012）：012は刀子で、両端が欠失している。刃部の現存長12.4cm、幅2.4cm、茎部の現存長5.3cm、幅1.2cmである。

SK060（図面145－004）：004は釘で、ほぼ完形品である。頭部は小さく逆「L」字状に折り曲げた形状で、断面は方形を呈する。長さ5.2cm、厚さ0.5cmを測る。

SK079（図面145－003）：003は釘とみられるもので、両端は欠失している。断面は方形を呈し、現存長は4.9cmを測る。

SK107（図面146－032）：032は鉄滓である。長さ2.5cm、幅1.2cm、重量3.2gである。

SK113（図面145－011）：011は板状鉄製品で、、断面は扁平である。長さ3.9cm、幅1.5cm、厚さ0.2cmである。金具類の可能性がある。

SK116（図面145－005）：005は釘で、断面は方形を呈する。長さ8.0cm、幅0.55cmである。

〈柱穴〉

SP047（図面145－002）：002は釘で、一端は欠失している。頭部は逆「L」字状に折り曲げた形状で、断面は方形を呈する。

〈溝〉

SD003（図面145－006）：006は棒状鉄製品で、断面は方形を呈する。中央部で折れ曲がっている。

SD020（図面145－007・008）：007・008は棒状鉄製品で、断面は円形を呈する。007は長さ14.4cm、厚さ0.3cmである。

SD022（図面146－033・034）：033・034は鉄滓である。033は長さ4.2cm、幅6.2cm、重量64.0gである。034は長さ4.4cm、幅5.4cm、重量48.2gである。

SD023（図面146－035）：035は鉄滓である。長さは3.9cm、幅5.2cm、重量33.2gである。

SD030（図面145－001）：001は棒状銅製品で、断面は円形を呈する。表面に緑青が付着している。長さ3.1cm、幅0.35cmを測る。

SD106（図面145・147－016・051・052）：016は棒状鉄製品で、断面は方形を呈する。長さ6.5cm、厚さ0.5cmである。051・052は鉄滓で、051は長さ3.0cm、幅2.4cm、重量12.9g、052は長さ3.3cm、幅2.0cm、重量11.3gである。

SD111（図面147－053）：053は鉄滓である。長さ2.9cm、幅3.1cm、重量28.1gである。

SD163（図面145－010）：010は棒状鉄製品で、断面は楕円形を呈する。長さ5.5cm、幅1.0cmである。錆が著しく、断面は中空になっている。

SD164（図面146・147－023・036～050）：023は棒状鉄製品で、断面は方形に近い形状を有する。長さ13.3cm、幅0.6cmである。036～050は鉄滓で、036はいわゆる椀形滓と呼ばれるものである。036の法量は長さ10.3cm、幅12.4cm、重量306.9gである。

〈包含層〉（図面146・147－024～031・058～061）

024・025は釘である。024は頭部が欠損している個体であり、断面は方形を呈する。現存長は4.9cmである。025は完形品で、断面は方形を呈する。長さ5.9cm、幅0.75cm、厚さ0.4cmである。026・027は棒状鉄製品である。026は断面が長方形を呈し、両端が欠失している。027は断面が長方形を呈する。現存長5.3cm、幅0.9cm、厚さ0.35cmである。028は「L」字状を呈する鉄製品で、断面は方形を呈する。029は棒状鉄製品である。断面が円形の棒状のものが２本重なり合う。030は袋状鉄斧で、柄が入る袋状には一部木質が残存する。長さ8.9cm、刃部の幅は4.5cm、袋部分の厚さは2.0cmである。058～061は鉄滓である。058で長さ3.9cm、幅5.1cm、重量96.0g、059は長さ3.8cm、幅5.4cm、重量56.0g、061で長さ2.8cm、幅4.6cm、重量25.8cmである。

②Ａ３地区（図面147・148－062～068）

〈土坑〉

SK41（図面147－063）：063は棒状鉄製品で、断面は円形を呈する。両端は欠失している。現存する長さは11.7cm、幅0.6cm、厚さ0.15cmである。

〈溝〉

SD08（図面147－062）：062は鉄滓で、長さ3.0cm、幅4.7cm、重量38.8gである。

〈包含層〉（図面147・148－064～068）

064は棒状鉄製品で、現存する長さは6.1cm、幅0.7cm、厚さ0.2cmである。065は鋏で、刃先は欠失している。現存する長さは5.3cm、幅1.8cmである。類例は婦中町の持田Ⅰ遺跡から中世後期のものが知られている。066は鎌である。断面は楔形を呈しており、一端は欠失している。現存している長さは7.2cm、幅2.4cm、厚さ0.6cmである。067は板状鉄製品で、一端は欠失している。平面は倒卵形、断面は楔形を呈している。形態や大きさから片刃の鉄鏃の可能性がある。現存している長さ8.6cm、幅1.8cm、厚さ0.25cmである。068は馬鍬である。長さ18.7cm、頭部の幅は3.8cmである。

③ A５地区（図面148－076）

〈土坑〉

SK19（図面148－076）：076は鉄製鍋の完形品である。弦を取り付けるために耳がつくタイプで、口径40.1cm、器高15.8cmとなる。

④ A７・A８・A９地区（図面148－069～075・077～080）

〈竪穴住居〉

SI01（図面148－070・071・073・075・077～080）：070・071は棒状鉄製品で、断面は円形を呈する。両端は欠失している。070は現存長2.5cm、幅0.4cm、厚さ0.4cm、071は現存長3.3cm、幅0.45cm、厚さ0.45cmである。073は棒状鉄製品で、断面は方形を呈する。一端は欠失している。現存長は8.1cm、幅0.4cm、厚さ0.3cmである。075は「コ」字状鉄製品で、断面は方形を呈する。現存する長さ5.5cm、厚さ0.5cmである。用途不明であるが金具類の一種とも考えられる。077は紡錘車である。円盤部分と軸の一部が残る。円盤部分の直径は5.8cm、厚さ1.35cmである。078～080は鉄滓で、長さ1.9～3.8cm、幅2.9～3.7cm、重量6.5～27.1gである。

〈土坑〉

SK002（図面148－074）：074は棒状鉄製品で、断面は方形を呈する。現存する長さは9.2cm、厚さ0.35cmである。

〈溝〉

SD010（図面148－072）：072は釘で、下端は欠損している。断面は方形で、法量は現存長6.4cm、幅0.5cm、厚さ0.45cm、頭部の幅は0.7cmである。

SD008（図面148－069）：069は釘で、断面は長方形を呈する。一端は欠失している。現存する長さは5.8cm、幅0.8cm、厚さ0.3cmで、頭部の幅は0.8cmである。

⑤ A10地区（図面149－103）

〈包含層〉（図面149－103）

103は銅銭である。寛永通寶と判読できる。

⑥ A12地区（図面148・149－081～089）

〈溝〉

SD003（図面148－081）：081は棒状鉄製品である。現存する長さは5.2cm、幅0.85cm、厚さは0.15cmである。

〈包含層〉（図面148・149－082～089）

082はキセルの吸口部分である。銅板を丸めて、直径0.8cmの円筒をつくり、口の部分は直径0.5cmとなる。長さ4.7cmである。083は板状鉄製品で、長さ7.4cm、幅5.5cm、厚さ1.4cmとなる。084・085は棒状鉄製品で、084の断面は円形に近い形状を呈する。長さ5.3cm、幅・厚さ1.3cmとなる。085の断面は方形に近い形状と呈する。現存する長さ7.3cm、幅1.2cm、厚さ0.6cmで、刀子の可能性も考えられる。086は鉄鎌で、両端は欠失している。断面は針形に近い楔形を呈する。現存する長さは3.7cm、刃部の幅は3.6cmである。087は釘で、頭部は円形で、断面も円形であるため、近代の工業製品と考えられる。088は袋状鉄斧の完形品である。柄の入る袋部分の断面は円形を呈する。長さは15.6cm、刃部の幅6.2cm、袋部分の厚さは4.7cmである。089は鉄鍋のほぼ完形品である。弦を取り付けるための耳が口縁に付くタイプで、耳には弦を通す２つの孔が見られる。口径33.0cm、底径23.3cm、器高15.2cmである。弦は欠失している。

⑦ A13地区（図面149－090～097）

〈土坑〉

SK13（図面149－094）：094は板状鉄製品で、断面は線形を呈する。長さ8.0cm、幅1.5cm、厚さ0.25cmである。

〈包含層〉（図面149－090～093・095～097）

090～093は釘で、頭部は円形を呈する。断面は円形を有する形状で、近代の工業製品と考えられる。長さ7.3～10.0cm、幅・厚さ0.3cmである。095は板状鉄製品で、断面は下端で両凸レンズ形に近い形状を呈する。長さは19.2cm、幅0.3cm、厚さ0.55cmである。096は鉄鎌で、一端は欠失している。平面は30°ほど屈曲して「へ」字状を呈し、断面は針形に近い楔形である。現存する長さは10.3cm、幅3.1cm、厚さ0.3cmである。097は板状鉄製品である。六角レンチとみられるもので近代の工業製品である。長さ9.8cm、幅2.8cm、厚さ0.65cmである。

⑧ A14地区（図面149－098・099）

〈土坑〉

SK13（図面149－098）：098は鉄滓で、長さ3.2cm、幅4.5cm、重量11.0gである。

SK39（図面149－099）：099は鉄滓で、長さ3.5cm、幅5.8cm、重量41.9gである。

⑨ A16地区（図面149－100・101）

〈土坑〉

SK20（図面149－101）：101は棒状鉄製品で、断面は方形を呈する。一端は短く折り曲げる。長さ10.9cm、幅1.5cm、厚さ0.6cmである。馬鍬とも考えられる個体である。

〈溝〉

SD01（図面149－100）：100はキセルの吸口である。銅板を丸めて直径1.15cmの円筒をつくり、口の部分は直径0.5cmとなる。長さは5.6cmである。

〈包含層〉

104は銅銭である。表面摩滅のため判読できない。

⑩ A18地区（図面149－102）

〈包含層〉（図面149－102）

102は刀子で、断面は楔形を呈するため、刃部とみられる。現存する長さは6.3cm、幅1.5cm、厚さ1.3cmである。

D　石製品（図面150～153）

任海宮田遺跡A地区からは石製品も多く出土しており、今回図示されたもので合計53点がある。種類は、砥石、五輪塔、板碑、石臼、石鉢、硯、凹石、が出土している。また、出土点数をみると、五輪塔が24点ともっとも多く、次に砥石が12点となっている。他に石臼5点や石鉢1点、硯1点と日常品が多い傾向にある。以下に石製品を各地区毎に記述していく。

①A1・A4地区（図面150－001・002）

〈溝〉

SD164（図面150－001）：001は砥石の破片で、3面に使用痕跡が確認できる。石材は砂岩で、残存する長さは6.4cm、幅6.5cm、厚さ3.4cmである。

〈包含層〉（図面150－002）

002は砥石の破片で、中砥もしくは仕上砥とみられる。５面に使用痕跡が確認できる。石材は泥岩で、残存する長さは5.7cm、幅3.1cm、厚さ0.7cmである。

②Ａ３地区（図面150・152－003～006・033）

〈包含層〉（図面150・152－003～006・033）

003～006は砥石の破片で、いずれも中砥もしくは仕上砥とみられる。003は４面に使用痕跡が確認でき、残存する長さは4.3cm、幅3.3cm、厚さ0.9cmである。石材は泥岩である。004は一端が欠損しているものの、平面は長方形を呈すると推定される。４面に使用痕跡が確認できる。残存する長さは9.1cm、幅3.8cm、厚さ3.0cmである。石材は凝灰岩である。005は一端は欠損しているが、平面形は正方形から長方形を呈すると考えられる。５面に使用痕跡が確認できる。残存する長さは5.7cm、幅5.3cm、厚さ3.6cmである。石材は凝灰岩である。006は両端は欠損しているものの、平面は長方形を呈すると考えられる。４面に使用痕跡が確認できる。残存する長さは8.0cm、幅2.3cm、厚さ1.7cmである。石材は凝灰岩である。033は五輪塔の火輪で、厚み（高さ）のあるタイプである。水輪と接する面が曲面となっている。法量は天井部の一辺が約9.0cm、軒の一辺は20.9cmである。石材は泥岩である。

③Ａ５地区（図面150～152－007～032・034）

〈井戸〉

SE02（図面152－028）：028は凹石で、円形に近い自然石に上下面のほぼ中央に直径4.0cmほどの凹みを有する。類例としては中名Ⅴ・Ⅵ遺跡から数点出土している。石材は安山岩で、長径19.5cm、短径17.1cm、厚さ6.5cmである。

〈土坑〉

SK06（図面150－007）：007は砥石の破片で、一端は欠損している。４面に使用痕跡が確認できる。残存する長さは5.0cm、幅4.2cm、厚さ1.4cmである。石材は安山岩である。

〈溝〉

SD02（図面150・151－008～025）：SD02出土の石製品のほとんどは溝の護岸に転用された五輪塔や板碑である。008～021は五輪塔である。008～011は火輪で、やや厚み（高さ）のあるもの（008～010）とないもの（011）がある。天井部の空風輪が接合する部分は深く抉り込まれている。法量は天井部の一辺が11.0～12.0cm、軒の一辺25.0～28.0cmである。012～021が地輪で、厚さ（高さ）に比して幅のあるものばかりである。平面形は正方形、断面は長方形を呈し、012のみ上下二辺で大きく曲線を描く。法量は一辺23.0～28.0cm、厚さ（高さ）17.0～22.0cmである。022～025は板碑である。やや扁平な方錐形に大日如来の種子（バーン）が線刻されている。法量はやや小型の022・023で、長さ44.0～44.5cm、幅18.0～19.0cm、厚さ14.0～16.0cm。やや大型の024・025で、長さ51.0～53.0cm、幅17.0～23.0cm、厚さ11.0～17.0cmである。石材は011・025が溶結凝灰岩で、その他は安山岩で、024は角せん石がないタイプの安山岩である。

SD04（図面151－026・027）：026は五輪塔の地輪である。平面形は正方形、断面は長方形を呈する。法量は一辺約26.0cm、厚さ21.2cmである。石材は石灰質片麻岩である。027はすり石である。下面はやや摩滅しているため、すり石のような使用方法が考えられる。石材は砂岩である。

SD05（図面152－029）：029は五輪塔の火輪である。厚さ（高さ）のないタイプで、天井部の空風輪を接合する部分は深く抉れている。法量は天井部の一辺が約12.0cm、軒の一辺約25.0cmである。石材は安山岩である。

〈包含層〉（図面152－030～032・034）

030～032は五輪塔である。030は空風輪で、宝珠を表す空輪と受花を表す風輪が一石で仕上げられている。法量は長さ16.3cm、空輪と風輪の直径は11.7cmである。031は水輪で、やや片の貼る球形を呈し、地輪と火輪が接する部分は平坦に仕上げている。大日如来の種子（バーン）が線刻されている。032は火輪で、厚さ（高さ）のないタイプである。法量は天井部の一辺が約11.0cm、軒の一辺約24.0cmである。石材は030・032が溶結凝灰岩、031が安山岩である。034は安山岩製の石臼で、下臼である。中心軸の芯棒受けの部分で欠損している。六分画で、臼目はやや密に施されており、14～15本の溝が刻まれる。法量は直径31.7cm、厚さ13.9cmである。

④ A 6 地区（図面152－041）

〈包含層〉（図面152－041）

041は砥石の破片で、２面に使用痕跡が確認できる。石材は安山岩で、残存する長さは8.7cm、幅4.1cm、厚さ2.9cmである。

⑤ A 7 ・A 8 ・A 9 地区（図面152－035～039）

〈溝〉

SD14（図面152－036・038）：036は安山岩製の石臼で、上臼である。中心軸の芯棒受けの部分で欠損している。基本的には六分画で、臼目の間隔はやや荒く８本程度の溝が刻まれる。法量は直径約29.1cm、厚さ14.9cmである。038は凹石で、円形に近い自然石に上下面のほぼ中央に直径5.0cmほどの凹みを有する。石材は安山岩である。

SD17（図面152－037）：037は砂岩製の石臼で、上臼に相当する。臼目は著しく磨り減っているため消失しかけている。法量は直径が推定で30.0cm、供給口の直径は3.3cmである。

〈包含層〉（図面152－035・039）

035は五輪塔の火輪である。厚み（高さ）のあるタイプで、天井部の空風輪を接合する部分は深く抉れている。法量は天井部の一辺が約10.0cm、軒の一辺約20.0cmである。石材は安山岩である。039は安山岩製の石臼で上臼に相当する。臼目は剥離している。上面に供給口があり、側面には挽木を打ち込むための長方形の孔が２カ所穿たれている。法量は直径が推定で33.6cm、厚さ24.8cmである。

⑥ A12地区（図面152－040）

〈包含層〉（図面152－040）

040は五輪塔の火輪である。厚み（高さ）のないタイプで、天井部の空風輪を接合する部分は深く抉れている。法量は天井部の一辺が約10.0cm、軒の一辺約25.0cmである。石材は凝灰岩である。

⑦ A13地区（図面153－042～044）

〈土坑〉

SK12（図面153－043）：043は用途不明石製品で、両端は欠失している。平面は概ね長方形とみられる。断面は正方形に近い形態とみられるが、下端が欠損している。２面は丁寧に調整され、それ以外の面は粗い調整である。残存する長さは36.6cm、幅8.3cm、厚さ4.7cmである。石材は安山岩である。大きさや形態などから、建物の基礎や雨落ち溝の縁堅などに使用された可能性が考えられる。

SK13（図面153－042）：042は硯の破片で、中砥もしくは仕上砥の砥石として転用されたと考えられる。石材は泥岩で、残存する長さは6.8cm、幅3.7cm、厚さ1.8cmである。

〈溝〉

SD03（図面153－044）：044は中砥もしくは仕上砥とみられる砥石破片である。少なくとも２面に使

用痕跡が確認できる。残存する長さは5.4cm、幅2.7cm、厚さ5.0cmである。石材は砂岩である。

⑧ A16地区（図面153－045・046）

〈土坑〉

SK12（図面153－046）：046は硯である。全体の上位1/3ほどが海部、下位2/3ほどが陸部を形成している。石材は泥岩で、長さ12.1cm、幅7.7cm、厚さ1.8cmである。裏面には線刻されており、「森」や「本」などど読める。近世・近代の所産か。

〈包含層〉（図面153－045）

045は中砥もしくは仕上砥とみられる砥石で、両端が欠失している。平面は概ね長方形と推定される。断面は正方形に近い形態とみられるが、下端は欠損している。３面に使用痕跡が確認できる。残存する長さは9.9cm、幅7.1cm、厚さ1.6cmである。石材は凝灰岩である。

⑨ A18地区（図面153－047～053）

〈土坑〉

SK01（図面153－047～053）：047は砥石である。一端は欠失している。残存する長さは17.7cm、幅10.0cm、厚さ5.8cmである。石材は砂岩である。048は石鉢で、片口を有する。口径31.1cm、体部の厚さ5.0cm、底部の厚さ6.8cmである。石材は溶結凝灰岩である。049は花崗岩製の石臼の上臼であり、2/3ほど残存している。中心軸の芯棒受けと供給口がみられる。芯棒受けの直径は2.2cm、供給口の長径は4.0cm、短径3.0cmである。基本的には６分画で、臼目の間隔はやや粗く30本程度の溝が刻まれる。法量は直径28.0cm、厚さ10.0cmである。050は用途不明の石製品である。扁平な自然石の上面がやや磨り減っており、台として利用されていたと考えられる。石材は安山岩である。051～053は五輪塔である。051・052は火輪で、052は厚さ（高さ）を有するタイプ、051はないタイプである。天井部の空風輪が接合する部分は深く抉り込まれている。法量は051で天井部の一辺は約16.0cm、軒の一辺は約20.0cmで、052で天井部の一辺が10.0cm、軒の一辺約28.0cmである。053は地輪である。台座を呈しており、厚さ（高さ）に比して幅のあるタイプである。平面形は正方形を呈する。法量は一辺27.6cm、厚さ（高さ）21.7cmである。石材はどれも安山岩である。

掘立柱建物一覧

地区	建物番号	図面番号	写真番号	梁行（m）	桁行（m）	面積（㎡）	棟方位	柱間距離梁（m）	柱間距離桁（m）	出土遺物	備考
A1・A4地区	SB01	008	005－1,2	5.15～5.2	5.1～5.15	27.0	N－2°－E	2.4	2.55～2.6		2×2
	SB02	008		9.35	(4.4～)	－	N－8°－E	2.1～2.9	3.1		4×2～
	SB03	009	006－2 007－1	4.7～4.8	8.25～8.3	39.8	N－3°－W	2.2～2.4	2.5～3.0		2×3
	SB04	009	006－1	4.6	8.0～8.1	37.2	N－5°－W	2.2～2.4	2.6～2.8		2×3
	SB05	010	007－1	5.25～5.3	13.6	72.0	N－6°－W	2.5～2.8	2.6～2.9	金属－釘(002)	2×5
	SB06	010		3.05	3.7～3.8	11.6	N－9°－E	1.5	1.8～1.9		2×2
	SB07	011		6.5～6.65	10.0～10.25	68.2	N－5°－W	2.0～2.4	2.1～2.6		3×4
	SB08	012	035－2	6.0～6.1	13.3	81.1	N－13°－W	2.8～3.2	2.8～3.4		2×4
	SB09	013		3.6	7.4	26.6	N－5°－E	－	2.1～2.7		1×3
	SB10	024		4.9	6.8	33.3	N－69°－E	2.1～2.4	2.2～2.3		2×3
A3地区	SB01	048	043－1,2 046－2	6.4～6.48	7.1～7.2	46.7	N－2°W	3.1～3.3	3.5～3.6	中世土師器	2×2
	SB02	048	046－1	5.9～6.1	7.1～7.3	44.5	N－7°－W	3.2～3.3	3.8～3.9		2×2
	SB03	049	046－1	6.0	9.7	58.2	N－6°－W	2.9～3.0	3.2～3.3		2×3
	SB04	050	045－1	11.9	(10.2)	121.4	N－8°－W	2.6～2.9	3.4		4×3～ SB05・SB06より古い
	SB05	050	045－1,2	9.0	(7.6)	68.4	N－7°－W	3.0	3.4～3.9		3×2～ SB06より古い
	SB06	050	045－1,2	9.0	(7.7)	－	N－8°－W	2.8～3.3	3.8～3.9		3×2～ SB04・SB05より新しい
	SB07	051	043－1,2 044－1,2	8.5	13.0～13.2	112.2	N－7°－W	2.9	2.9～3.0		3×4 SB07より古い
	SB08	051	043－1,2	10.9～11.2	12.7～12.8	143.3	N－3°－W	3.5～3.8	3.0～3.4		3×4 SB06より新しい
	SB09	052	046－2	3.7	6.4	23.7	N－87°－W	－	3.2～3.3		1×2
	SB10	052	046－2	6.4～6.5	6.5	42.3	N－4°－E	3.2～3.3	3.2～3.4		2×2
A6地区	SB01	073		9.25	(6.15)	56.9	N－5°－W	2.1～2.3	2.5～2.7		4×3～
	SB02	073		4.6～4.7	7.3～7.4	34.8	N－88°－W	2.3～2.5	2.3～2.5		2×3
	SB03	073		6.9	7.0～7.2	49.0	N－11°－W	2.2～2.3	2.2～2.7		3×3
A13地区	SB01	102	067－1,2	4.0	4.1	17.6	N－38°－E	2.0	2.0～2.1	中世土師器	2×2
	SB02	102	066－2	2.4	5.0～5.1	12.2	N－43°－E	－	2.3～2.6		1×2
	SB03	102	067－2	5.8～5.9	6.0	36.0	N－50°－W	1.8～2.1	1.8～2.2	中世土師器－皿(763)	3×3
	SB04	102	067－2	3.3	4.4	14.5	N－44°－W	1.6	1.3～1.6		2×3
A16地区	SB01	118		3.1	2.7～2.8	8.7	N－11°－E	－	2.7		1×1
	SB02	118	072－2 073－2	3.1～3.3	4.3	14.4	N－21°－E	－	2.0～2.4		1×2
	SB03	118	072－2 073－1	5.0～5.4	9.4～9.5	52.3	N－24°－E	2.3～2.7	2.9～3.1		2×3
	SB04	118	073－1	5.8～5.9	8.1～8.2	48.4	N－22°－E	2.8～3.0	1.9～3.0		2×3

井戸一覧

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	種別	平面形	横断面形態	長さ(長径) m	幅(短径) m	深さ m	井筒内径 m	井筒底径 m	残存深 m	出土遺物	時期	特記事項
A1・A4地区	SE01	013		石組	不整形	逆台形	1.71	(1.10)	1.30	0.85	0.52		珠洲	中世	SD13を切る 西側調査区外
	SE02	013		石組	隅丸長方形	擂鉢型	1.90	(1.20)	0.83			0.8		中世	
A3地区	SE01	053		不明	円形	擂鉢型	4.0		1.70			1.44	白磁(539)越前	中世	
	SE02	054		不明	隅丸方形	擂鉢型	2.80		1.20			0.95		中世	
	SE03	054		不明	円形	擂鉢型	2.94		1.60			1.25	中世土師器－皿(531) 珠洲－擂鉢(538)	中世	
A5地区	SE01	062	050 －1,2	石組	円形	擂鉢型	2.65		1.10	0.90	0.35	1.10	木製品－板材(001) 中世土師器　珠洲 越中瀬戸　伊万里	中・近世	SD03を切る
	SE02	062		石組	不整形	擂鉢型	3.10		0.80	0.85	0.63	1.10	伊万里－皿(559) 石製品－凹石(028) 珠洲	中世	

柱穴一覧(1)

地区	遺構番号	掘立No.	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径) m	幅(短径) m	深さ・m	出土遺物	特記事項
A1・A4地区	SP001	SB01	008	005－1，2	不整形	0.31	(0.30)	0.24		北側調査区外
	SP002	SB01	008	005－1，2	円形	0.36		0.41		
	SP003	SB01	008	005－1，2	円形	0.37		0.33		
	SP004	SB01	008	005－1，2	楕円形	0.30	0.24	0.31		
	SP005	SB01	008	005－1，2	円形	0.35		0.43		
	SP006	SB01	008	005－1，2	楕円形	0.64	0.49	0.38		
	SP007	SB01	008	005－1，2	楕円形	0.44	0.33	0.44		
	SP008	SB01	008	005－1，2	楕円形	0.54	0.42	0.17		
	SP009	SB01	008	005－1，2	円形	0.35		0.53		
	SP010	SB02	008		円形	0.27		0.28		
	SP011	SB02	008		楕円形	0.30	0.25	0.25		
	SP012	SB02	008		楕円形	0.37	0.29	0.29		
	SP013	SB02	008		円形	0.27		0.36		
	SP014	SB02	008		楕円形	0.59	0.43	0.34		
	SP015	SB02	008		楕円形	0.33	0.30	0.35		
	SP016	SB02	008		円形	0.31		0.34		
	SP017	SB02	008		楕円形	0.33	0.31	0.44		
	SP018	SB02	008		円形	0.30	0.30	0.29		SD012の中に位置する
	SP019	SB02	008		楕円形	0.34	0.28	0.45		
	SP020	SB03	009	006－2・007－1	楕円形	0.69	0.52	0.13		
	SP021	SB03	009	006－2・007－1	楕円形	0.29	0.24	0.27		
	SP022	SB03	009	006－2・007－1	楕円形	0.29	0.24	0.22		
	SP023	SB03	009	006－2・007－1	楕円形	0.34	0.24	0.19		
	SP024	SB03	009	006－2・007－1	楕円形	0.24	0.21	0.21		
	SP025	SB03	009	006－2・007－1	円形	0.30		0.35		
	SP026	SB03	009	006－2・007－1	楕円形	(0.29)	0.26	0.29		
	SP027	SB03	009	006－2・007－1	楕円形	0.36	0.31	0.24		
	SP028	SB03	009	006－2・007－1	円形	0.25		0.33		
	SP029	SB03	009	006－2・007－1	隅丸方形	0.30		0.31		
	SP030	SB03	009	006－2・007－1	円形	0.25		0.32		
	SP031	SB04	009	006－1	円形	0.44	0.40	0.28		
	SP032	SB04	009	006－1	円形	0.43		0.32		SD013を切る
	SP033	SB04	009	006－1	長楕円形	0.91	0.44	0.39		
	SP034	SB04	009	006－1	円形	0.40	0.30	0.27		
	SP035	SB04	009	006－1	楕円形	0.56	0.45	0.26		
	SP036	SB04	009	006－1	楕円形	0.41	0.29	0.31		
	SP037	SB04	009	006－1	楕円形	0.69	0.59	0.29		
	SP038	SB04	009	006－1	楕円形	0.42	0.36	0.31		
	SP039	SB04	009	006－1	円形	0.46	0.42	0.40		SD013を切る
	SP040	SB04	009	006－1	円形	0.38	0.30	0.30		
	SP041	SB05	010	007－1	円形	0.30		0.37		
	SP042	SB05	010	007－1	楕円形	0.36	0.32	0.34		
	SP043	SB05	010	007－1	円形	0.30		0.20		
	SP044	SB05	010	007－1	楕円形	0.49	0.32	0.32		
	SP045	SB05	010	007－1	楕円形	0.37	0.31	0.67		
	SP046	SB05	010	007－1	円形	0.27		0.20		
	SP047	SB05	010	007－1	円形	0.32		0.27	金属－釘(002)	
	SP048	SB05	010	007－1	楕円形	0.53	0.31	0.34		
	SP049	SB05	010	007－1	円形	0.31		0.28		
	SP050	SB05	010	007－1	隅丸方形	0.27		0.37		
	SP051	SB05	010	007－1	楕円形	0.35	0.28	0.23		
	SP052	SB05・SB06	010	007－1	円形	0.35		0.27		
	SP053	SB05	010	007－1	円形	0.30		0.22		
	SP054	SB05	010	007－1	円形	0.27		0.38		
	SP055	SB05	010	007－1	円形	0.35		0.53		SK038を切る
	SP056	SB05	010	007－1	円形	0.30		0.29		
	SP057	SB05	010	007－1	円形	0.31		0.29		

柱穴一覧(2)

地区	遺構番号	掘立No.	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径) m	幅(短径) m	深さ・m	出土遺物	特記事項
A1・A4地区	SP058	SB05	010	007－1	楕円形	0.32	0.27	0.28		
	SP059	SB06	010		楕円形	0.25	0.21	0.25		
	SP060	SB06	010		円形	0.25		0.20		
	SP061	SB06	010		楕円形	0.25	0.11	0.18		
	SP062	SB06	010		楕円形	0.29	0.22	0.30		
	SP063	SB06	010		円形	0.21		0.16		
	SP064	SB06	010		円形	0.20		0.21		
	SP065	SB06	010		楕円形	0.31	0.25	0.22		
	SP066	SB06	010		楕円形	0.28	0.20	0.35		
	SP067	SB07	011		楕円形	0.40	0.33	0.32		
	SP068	SB07	011		楕円形	0.35	0.29	0.22		
	SP069	SB07	011		円形	0.34	0.30	0.29		
	SP070	SB07	011		楕円形	0.35	0.30	0.34		
	SP071	SB07	011		楕円形	0.39	0.36	0.19		
	SP072	SB07	011		隅丸長方形	0.87	0.63	0.37		
	SP073	SB07	011		不整形	(0.41)	0.39	0.20		
	SP074	SB07	011		楕円形	0.37	0.33	0.22		
	SP075	SB07	011		円形	0.30		0.23		
	SP076	SB07	011		楕円形	0.46	0.38	0.22		
	SP077	SB07	011		楕円形	0.57	0.39	0.16		
	SP078	SB07	011		楕円形	0.48	0.41	0.20		
	SP079	SB07	011		楕円形	0.52	0.43	0.20		
	SP080	SB07	011		不整形	0.27	(0.26)	0.10		南側SK220に切られる
	SP081	SB07	011		円形	0.43		0.21		
	SP082	SB07	011		楕円形	0.42	0.37	0.20		
	SP083	SB07	011		円形	0.42		0.18		
	SP084	SB08	012	035－2	不整形	0.42	(0.36)	0.24		SD021に切られる
	SP085	SB08	012	035－2	楕円形	0.55	0.50	0.17		
	SP086	SB08	012	035－2	楕円形	0.48	0.38	0.27		
	SP087	SB08	012	035－2	円形	0.50	0.46	0.24		
	SP088	SB08	012	035－2	楕円形	0.54	0.46	0.25		
	SP089	SB08	012	035－2	不整形	0.47	(0.33)	0.18		SD021に切られる
	SP090	SB08	012	035－2	楕円形	0.51	0.42	0.17		
	SP091	SB08	012	035－2	隅丸長方形	0.50	0.41	0.12		
	SP092	SB08	012	035－2	楕円形	0.49	0.43	0.20		
	SP093	SB08	012	035－2	楕円形	0.47	0.42	0.29		
	SP094	SB08	012	035－2	円形	0.35		0.15		
	SP095	SB08	012	035－2	不整形	0.45	(0.42)	0.30		SD027を切る SD021に切られる
	SP096	SB08	012	035－2	不整形	0.46	(0.45)	0.39		SK096を切る
	SP097	SB09	013		円形	0.21		0.06		
	SP098	SB09	013		円形	0.35		0.33		
	SP099	SB09	013		楕円形	0.39	0.25	0.14		
	SP100	SB09	013		円形	0.28	0.26	0.11		
	SP101	SB09	013		円形	0.25		0.15		
	SP102	SB09	013		楕円形	0.39	0.31	0.14		
	SP103	SB09	013		円形	0.27		0.13		
	SP104	SB10	024		楕円形	0.85	0.57	0.5		
	SP105	SB10	024		楕円形	0.68	0.52	0.35		
	SP106	SB10	024		円形	0.60		0.19		
	SP107	SB10	024		楕円形	0.63	0.49	0.19		
	SP108	SB10	024		楕円形	0.62	0.53	0.25		
	SP109	SB10	024		楕円形	0.80	0.52	0.32		
	SP110	SB10	024		楕円形	0.72	0.39	0.06		
	SP111	SB10	024		楕円形	0.70	0.52	0.12		
	SP112	SB10	024		楕円形	0.61	0.41	0.30		
A3地区	SP001	SB01	048	043－1，2・046－2	隅丸長方形	0.54	0.42	0.38		
	SP002	SB01	048	043－1，2・046－2	長楕円形	0.58	0.31	0.19		

柱穴一覧(3)

地区	遺構番号	掘立No.	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径) m	幅(短径) m	深さ・m	出土遺物	特記事項
A3地区	SP003	SB01	048	043－1，2・046－2	楕円形	0.47	0.38	0.30		
	SP004	SB01	048	043－1，2・046－2	不整形	0.30	0.28	0.33		
	SP005	SB01	048	043－1，2・046－2	楕円形	0.37	0.32	0.24		
	SP006	SB01	048	043－1，2・046－2	不整形	0.44	0.40	0.12	中世土師器	
	SP008	SB01	048	043－1，2・046－2	円形	0.31		0.28		
	SP009	SB01	048	043－1，2・046－2	楕円形	0.40	0.35	0.39		
	SP010	SB02	048	046－1	楕円形	0.35	0.34	0.24		
	SP011	SB02	048	046－1	不整形	0.40	0.32	0.27		
	SP012	SB02	048	046－1	楕円形	0.25	0.20	0.23		
	SP013	SB02	048	046－1	円形	0.35	0.32	0.23		
	SP014	SB02	048	046－1	不整形	0.42	0.32	0.19		
	SP015	SB02	048	046－1	楕円形	0.25	0.24	0.15		
	SP016	SB02	048	046－1	円形	0.35		0.27		
	SP017	SB02	048	046－1	楕円形	0.30	0.25	0.20		
	SP018	SB02	048	046－1	円形	0.30	0.28	0.17		
	SP019	SB03	049	046－1	円形	0.28		0.30		
	SP020	SB03	049	046－1	円形	0.34	0.32	0.44		
	SP021	SB03	049	046－1	楕円形	0.46	0.32	0.37		
	SP022	SB03	049	046－1	不整形	0.56	0.44	0.51		
	SP023	SB03	049	046－1	楕円形	0.3	0.29	0.25		
	SP024	SB03	049	046－1	楕円形	0.46	0.41	0.46		
	SP025	SB03	049	046－1	楕円形	0.38	0.33	0.52		
	SP026	SB03	049	046－1	楕円形	0.35	0.31	0.50		
	SP027	SB03	049	046－1	楕円形	(0.29)	0.27	0.27		
	SP028	SB03	049	046－1	楕円形	0.39	0.35	0.39		
	SP029	SB03	049	046－1	楕円形	(0.39)	(0.37)	0.35		
	SP030	SB04	050	045－1	楕円形	0.43	0.37	0.22		
	SP031	SB04	050	045－1	楕円形	0.40	0.34	0.32		
	SP032	SB04	050	045－1	円形	0.32		0.22		
	SP033	SB04	050	045－1	不整形	0.30	(0.13)	0.27		南側調査区外
	SP034	SB04	050	045－1	円形	0.41		0.30		
	SP035	SB04	050	045－1	円形	0.39		0.38		
	SP036	SB04	050	045－1	楕円形	0.44	0.39	0.44		
	SP037	SB04	050	045－1	不整形	0.29	(0.07)	0.25		南側調査区外
	SP038	SB04	050	045－1	楕円形	0.47	0.42	0.31		
	SP039	SB04	050	045－1	楕円形	0.51	0.48	0.28		
	SP040	SB04	050	045－1	楕円形	0.45	0.41	0.44		
	SP041	SB04	050	045－1	不整形	0.46	0.41	0.28		
	SP042	SB04	050	045－1	不整形	0.47	0.42	0.34		
	SP043	SB04	050	045－1	楕円形	0.46	0.42	0.66		SP061を切る
	SP044	SB04	050	045－1	楕円形	0.51	0.41	0.23		
	SP045	SB04	050	045－1	楕円形	0.53	0.47	0.32		
	SP046	SB05	050	045－1，2	楕円形	0.39	0.35	0.15		
	SP047	SB05	050	045－1，2	楕円形	0.42	0.34	0.30		
	SP048	SB05	050	045－1，2	円形	0.36		0.28		SP033を切る
	SP049	SB05	050	045－1，2	円形	0.36		0.32		SP056を切る
	SP050	SB05	050	045－1，2	楕円形	0.43	0.39	0.34		SP057に切られる
	SP051	SB05・SB06	050	045－1，2	楕円形	0.43	0.34	0.25		
	SP052	SB05	050	045－1，2	楕円形	0.47	0.39	0.28		
	SP053	SB05	050	045－1，2	楕円形	0.52	0.41	0.26		
	SP054	SB05	050	045－1，2	楕円形	0.44	0.40	0.34		
	SP055	SB05	050	045－1，2	不整形	0.44	0.39	0.46		
	SP056	SB06	050	045－1，2	不整形	0.50	(0.46)	0.14		SP049に切られる
	SP057	SB06	050	045－1，2	楕円形	0.40	0.35	0.27		SP050を切る
	SP058	SB06	050	045－1，2	楕円形	0.49	0.44	0.20		

柱穴一覧(4)

地区	遺構番号	掘立No.	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径) m	幅(短径) m	深さ・m	出土遺物	特記事項
A3地区	SP059	SB06	050	045－1，2	円形	0.37		0.28		
	SP060	SB06	050	045－1，2	不整形	0.37	0.35	0.34		SP054を切る
	SP061	SB06	050	045－1，2	不整形	(0.40)	0.34	0.21		SP043に切られる
	SP062	SB06	050	045－1，2	楕円形	0.48	0.40	0.36		
	SP063	SB06	050	045－1，2	楕円形	(0.37)	0.33	0.36		
	SP064	SB07・SB08	051	043－1，2・044－1，2	不整形	0.35	(0.23)	0.30		
	SP065	SB07・SB08	051	043－1，2・044－1，2	楕円形	0.37	0.30	0.21		SP066を切る
	SP066	SB07・SB08	051	043－1，2・044－1，2	不整形	0.54	(0.30)	0.33		SP065に切られる
	SP067	SB07	051	043－1，2・044－1，2	楕円形	0.56	0.40	0.38		
	SP068	SB07	051	043－1，2・044－1，2	不整形	0.50	0.39	0.40		南側SD02に切られる
	SP069	SB07	051	043－1，2・044－1，2	楕円形	0.47	0.33	0.36		
	SP070	SB07	051	043－1，2・044－1，2	楕円形	0.40	0.35	0.36		
	SP071	SB07	051	043－1，2・044－1，2	楕円形	0.57	0.46	0.40		
	SP072	SB07	051	043－1，2・044－1，2	楕円形	0.40	0.35	0.45		
	SP073	SB07	051	043－1，2・044－1，2	不整形	0.74	(0.39)	0.45		南側をSD02に切られ、SP091を切る
	SP074	SB07	051	043－1，2・044－1，2	円形	0.40		0.34		
	SP075	SB07	051	043－1，2・044－1，2	楕円形	0.41	0.28	0.29		
	SP076	SB07	051	043－1，2・044－1，2	不整形	0.45	0.34	0.34		
	SP077	SB07	051	043－1，2・044－1，2	楕円形	0.40	0.36	0.32		
	SP077	SB07	051	043－1，2・044－1，2	楕円形	0.36	0.31	0.33		
	SP078	SB07	051	043－1，2・044－1，2	不整形	0.53	(0.42)	0.42		
	SP079	SB07	051	043－1，2・044－1，2	楕円形	0.58	0.43	0.48		
	SP080	SB07	051	043－1，2・044－1，2	楕円形	0.40	0.30	0.27		
	SP081	SB07	051	043－1，2・044－1，2	楕円形	0.48	0.45	0.38		
	SP082	SB07	051	043－1，2・044－1，2	楕円形	0.52	0.47	0.31		
	SP083	SB07	051	043－1，2・044－1，2	楕円形	0.50	0.39	0.31		SP084を切る
	SP084	SB07	051	043－1，2・044－1，2	楕円形	0.51	0.49	0.56		
	SP085	SB08	051	043－1，2	楕円形	0.37	0.29	0.34		
	SP086	SB08	051	043－1，2	楕円形	0.45	0.34	0.36		
	SP087	SB08	051	043－1，2	楕円形	0.42	0.33	0.26		
	SP088	SB08	051	043－1，2	楕円形	0.37	0.31	0.31		
	SP089	SB08	051	043－1，2	不整形	0.39	(0.35)	0.44		
	SP090	SB08	051	043－1，2	楕円形	0.44	0.32	0.23		
	SP091	SB08	051	043－1，2	不整形	(0.28)	0.27	0.37		
	SP092	SB08	051	043－1，2	楕円形	0.59	0.39	0.32		
	SP093	SB08	051	043－1，2	楕円形	0.31	0.27	0.33		
	SP094	SB08	051	043－1，2	不整形	0.80	0.60	0.30		
	SP095	SB08	051	043－1，2	円形	0.36		0.31		
	SP096	SB08	051	043－1，2	楕円形	0.39	0.36	0.50		
	SP097	SB08	051	043－1，2	楕円形	0.32	0.27	0.39		
	SP098	SB08	051	043－1，2	楕円形	0.35	0.29	0.30		
	SP099	SB08	051	043－1，2	楕円形	0.41	0.33	0.36		
	SP100	SB08	051	043－1，2	楕円形	0.45	0.34	0.30		
	SP101	SB08	051	043－1，2	不整形	0.53	0.41	0.26		
	SP102	SB09	052	046－2	楕円形	0.61	0.47	0.27		

柱穴一覧(5)

地区	遺構番号	掘立No	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径) m	幅(短径) m	深さ・m	出土遺物	特記事項
A3地区	SP103	SB09	052	046－2	楕円形	0.35	0.32	0.12		
	SP104	SB09	052	046－2	円形	0.34		0.21		
	SP105	SB09	052	046－2	楕円形	0.29	0.25	0.15		
	SP106	SB09	052	046－2	円形	0.36		0.20		
	SP107	SB09	052	046－2	円形	0.37		0.30		
	SP108	SB10	052	046－2	楕円形	0.52	0.40	0.29		
	SP109	SB10	052	046－2	円形	0.35		0.21		
	SP110	SB10	052	046－2	円形	0.34	0.30	0.26		
	SP111	SB10	052	046－2	楕円形	0.3	0.35	0.24		
	SP112	SB10	052	046－2	円形	0.34		0.25		
	SP113	SB10	052	046－2	円形	0.38		0.25		
	SP114	SB10	052	046－2	楕円形	0.46	0.38	0.29		
	SP115	SB10	052	046－2	楕円形	0.42	0.36	0.25		
	SP116	SB10	052	046－2	楕円形	0.30	0.26	0.28		
A6地区	SP01	SB01	073		楕円形	0.40	0.32	0.25		
	SP02	SB01	073		楕円形	0.34	0.27	0.28		
	SP03	SB01	073		楕円形	0.30	0.26	0.26		
	SP04	SB01・SB02	073		不整形	0.52	0.40	0.18		
	SP05	SB01	073		楕円形	0.42	0.33	0.27		
	SP06	SB01	073		楕円形	0.43	0.34	0.38		
	SP07	SB01	073		楕円形	0.36	0.34	0.19		
	SP08	SB01	073		楕円形	0.40	0.30	0.39		
	SP09	SB01・SB02	073		楕円形	0.40	0.36	0.15		
	SP10	SB01	073		円形	0.30		0.24		
	SP11	SB01	073		楕円形	0.44	0.40	0.31		
	SP12	SB01	073		不整形	0,70	0.52	0.43		
	SP13	SB02	073		楕円形	0.30	0.24	0.14		
	SP14	SB02	073		隅丸長方形	0.42	0.36	0.1		
	SP15	SB02	073		楕円形	0.64	0.32	0.36		
	SP16	SB02	073		楕円形	0.42	0.32	0.21		
	SP17	SB02	073		楕円形	0.30	0.26	0.16		
	SP18	SB02	073		楕円形	0.38	0.32	0.15		
	SP19	SB02・SB03	073		楕円形	(0.32)	0.28	0.18		
	SP20	SB03	073		不整形	0.50	0.22	0.35		SK0004を切る
	SP21	SB03	073		不整形	0.31	(0.24)	0.27		SK023・SK032に切られる
	SP22	SB03	073		楕円形	0.48	0.34	0.38		
	SP23	SB03	073		楕円形	0.41	0.32	0.22		
	SP24	SB03	073		楕円形	0.54	0.43	0.15		
	SP25	SB03	073		楕円形	0.41	0.32	0.24		
	SP26	SB03	073		楕円形	0.40	0.34	0.20		
	SP27	SB03	073		円形	0.38	0.32	0.21		
	SP28	SB03	073		円形	0.34	0.32	0.20		
	SP29	SB03	073		円形	0.30		0.20		
A13地区	SP01	SB01	102	067－1，2	不整形	0.58	(0.32)	0.20		
	SP02	SB01	102	067－1，2	楕円形	0.48	0.43	0.29		
	SP03	SB01	102	067－1，2	円形	0.35		0.21		
	SP04	SB01	102	067－1，2	楕円形	0.58	0.50	0.20		
	SP05	SB01	102	067－1，2	円形	0.45		0.24		
	SP06	SB01	102	067－1，2	楕円形	0.83	0.54	0.36	中世土師器	
	SP07	SB01	102	067－1，2	円形	0.54		0.25		
	SP08	SB01	102	067－1，2	楕円形	0.60	0.43	0.24		
	SP09	SB01	102	067－1，2	楕円形	0.45	0.40	0.11		
	SP10	SB02	102	066－2	楕円形	0.56	0.54	0.35		
	SP11	SB02	102	066－2	長楕円形	0.98	0.52	0.26		
	SP12	SB02	102	066－2	円形	0.48		0.33		
	SP13	SB02	102	066－2	円形	0.53		0.26		
	SP14	SB02	102	066－2	楕円形	0.50	0.43	0.24		
	SP15	SB02	102	066－2	円形	0.49		0.30		
	SP16	SB03	102	067－2	不整形	(0.90)	0.65	0.48		SK04を切る

柱穴一覧(6)

地区	遺構番号	掘立No	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径) m	幅(短径) m	深さ・m	出土遺物	特記事項
A13地区	SP17	SB03	102	067－2	楕円形	0.55	0.50	0.22		
	SP18	SB03	102	067－2	楕円形	0.60	0.56	0.28		SK11を切る
	SP19	SB03	102	067－2	円形	0.23		0.11		
	SP20	SB03・SB04	102	067－2	楕円形	0.59	0.45	0.37		
	SP21	SB03	102	067－2	楕円形	0.56	0.50	0.39	中世土師器－皿（763）	
	SP22	SB03	102	067－2	不整形	0.82	0.63	0.24		SK11に切られる
	SP23	SB03	102	067－2	楕円形	0.61	0.50	0.35		
	SP24	SB03	102	067－2	楕円形	0.71	0.64	0.47		
	SP25	SB03	102	067－2	楕円形	0.80	0.58	0.44		
	SP26	SB03	102	067－2	楕円形	0.57	0.49	0.35		
	SP27	SB03	102	067－2	楕円形	0.54	0.49	0.27		SK08を切る
	SP28	SB03	102	067－2	不整形	1.01	0.92	0.11		
	SP29	SB03	102	067－2	楕円形	0.51	0.41	0.27		SK09・SK10に切られる
	SP30	SB03	102	067－2	楕円形	0.42	0.35	0.26		SK09を切る
	SP31	SB03	102	067－2	不整形	(0.60)	0.48	0.22		SK01に切られる
	SP32	SB04	102	067－2	楕円形	0.37	0.30	0.13		
	SP33	SB04	102	067－2	楕円形	0.59	0.51	0.44		
	SP34	SB04	102	067－2	楕円形	0.57	0.42	0.14		
	SP35	SB04	102	067－2	円形	0.60		0.22		
	SP36	SB04	102	067－2	楕円形	0.52	0.46	0.16		
	SP37	SB04	102	067－2	楕円形	0.46	0.42	0.33		
A16地区	SP01	SB01	118		楕円形	0.53	0.39	0.42		
	SP02	SB01	118		楕円形	0.42	0.32	0.23		
	SP03	SB01	118		楕円形	0.39	0.30	0.12		
	SP04	SB01	118		楕円形	0.32	0.30	0.29		
	SP05	SB02	118	072－2・073－2	楕円形	0.30	0.25	0.16		
	SP06	SB02	118	072－2・073－2	楕円形	0.30	0.27	0.37		
	SP07	SB02	118	072－2・073－2	楕円形	0.27	0.18	0.21		
	SP08	SB02	118	072－2・073－2	楕円形	0.30	0.27	0.17		
	SP09	SB02	118	072－2・073－2	楕円形	(0.50)	(0.44)	0.22		
	SP10	SB02	118	072－2・073－2	楕円形	0.30	0.22	0.27		
	SP11	SB03	118	072－2・073－1	楕円形	0.24	0.19	0.14		SD07を切る
	SP12	SB03	118	072－2・073－1	楕円形	0.31	0.23	0.16		
	SP13	SB03	118	072－2・073－1	楕円形	0.46	0.34	0.33		SD07を切る
	SP14	SB03	118	072－2・073－1	円形	0.34	0.30	0.40		SD07を切る
	SP15	SB03	118	072－2・073－1	楕円形	0.50	0.31	0.25		
	SP16	SB03	118	072－2・073－1	楕円形	0.75	0.31	0.33		
	SP17	SB03	118	072－2・073－1	楕円形	0.35	0.28	0.18		
	SP18	SB03	118	072－2・073－1	楕円形	0.53	0.24	0.11		
	SP19	SB03	118	072－2・073－1	楕円形	0.35	0.26	0.10		
	SP20	SB03	118	072－2・073－1	円形	0.37		0.48		
	SP21	SB03	118	072－2・073－1	楕円形	0.35	0.35	0.45		
	SP22	SB03	118	072－2・073－1	不整形	0.38	0.30	0.42		
	SP23	SB04	118	073－1	楕円形	0.35	0.30	0.36		
	SP24	SB04	118	073－1	楕円形	0.46	0.32	0.64		
	SP25	SB04	118	073－1	楕円形	0.40	0.35	0.47		
	SP26	SB04	118	073－1	円形	0.25		0.34		
	SP27	SB04	118	073－1	楕円形	0.38	0.34	0.34		
	SP28	SB04	118	073－1	楕円形	0.52	0.46	0.50		
	SP29	SB04	118	073－1	円形	0.36		0.40		
	SP30	SB04	118	073－1	円形	0.30		0.36		
	SP31	SB04	118	073－1	不整形	0.38	0.20	0.32		SK19を切る
	SP32	SB04	118	073－1	楕円形	0.30	0.26	0.37		
	SP33	SB04	118	073－1	楕円形	0.35	0.32	0.32		

土坑一覧(1)

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径)・m	幅(短径)・m	深さ・m	出土遺物	時期
A1・A4地区	SK001	014		円形	0.30	0.25	0.10		中世
	SK002	014		楕円形	0.70	0.42	0.13		中世
	SK003	014		円形	0.65	0.62	0.05		中世
	SK004	014		隅丸方形	0.93	0.85	0.16		中世
	SK005	014		楕円形	(0.50)	0.40	0.03		中世
	SK006	014		楕円形	1.20	0.60	0.09		中世
	SK007	014		楕円形	0.40	0.35	0.07		中世
	SK008	014		楕円形	0.83	0.55	0.16		中世
	SK009	014		楕円形	0.70	0.40	0.21		中世
	SK010	014		楕円形	0.65	0.45	0.16		中世
	SK011	014		不整形	0.25	(0.15)	0.18		中世
	SK012	014		楕円形	0.90	0.40	0.07		中世
	SK013	014		楕円形	0.50	0.42	0.15		中世
	SK014	014		円形	0.45		0.20		中世
	SK015	014		楕円形	(0.55)	0.45	0.13		中世
	SK016	014		不整形	1.00	0.85	0.21		中世
	SK017	014		不整形	0.55	0.38	0.40		中世
	SK018	014		楕円形	0.65	0.45	0.25		中世
	SK019	014		楕円形	0.26	0.20	0.08		中世
	SK020	014		隅丸長方形	0.70	0.38	0.16		中世
	SK021	014		隅丸方形	1.10	0.90	0.08		中世
	SK022	014		隅丸方形	(1.60)	(1.03)	0.15		中世
	SK023	014		不整形	1.70	1.50	0.08	金属製品－棒状鉄製品 (009)	中世
	SK024	015		不整形	0.95	0.75	0.45		中世
	SK025	015		楕円形	0.28	0.20	0.45		中世
	SK026	015		楕円形	0.28	0.21	0.36		中世
	SK027	015		不整形	1.00	0.85	0.20		中世
	SK028	015		楕円形	0.95	0.65	0.28		中世
	SK029	015		楕円形	0.57	0.47	0.20		中世
	SK030	015		円形	0.50		0.20		中世
	SK031	015		楕円形	0.60	0.30	0.08		中世
	SK032	015		楕円形	0.55	0.45	0.15		中世
	SK033	015		楕円形	0.45	0.30	0.15		中世
	SK034	015		楕円形	0.85	0.75	0.13		中世
	SK035	015		楕円形	(1.10)	0.85	0.20		中世
	SK036	015		不整形	1.10	(0.30)	0.05		中世
	SK037	015		不整形	(0.49)	0.37	0.17		中世
	SK038	015		楕円形	1.05	0.60	0.32		中世
	SK039	015		不整形	(0.40)	(0.23)	0.11		中世
	SK040	015		円形	0.45		0.09		中世
	SK041	015		楕円形	0.80	0.62	0.39		中世
	SK042	015		楕円形	(0.64)	0.44	0.30		中世
	SK043	015		楕円形	0.35	0.28	0.13		中世
	SK044	015		不整形	2.20	(1.25)	0.12		中世
	SK045	015		楕円形	(0.75)	0.45	0.26		中世
	SK046	015		円形	2.05		0.29		中世
	SK047	016		楕円形	0.75	0.55	0.27		中世
	SK048	016		楕円形	0.20	0.15	0.40		中世
	SK049	016		隅丸長方形	1.11	0.84	0.39		中世
	SK050	016		不整形	1.42	0.85	0.43	中世土師器　珠洲	中世
	SK051	016		楕円形	0.89	0.38	0.38	白磁	中世
	SK052	016		不整形	1.41	1.25	0.17		中世
	SK053	016		不整形	1.62	(0.53)	0.38		中世
	SK054	016		隅丸方形	2.80	2.69	0.32	金属製品－刀子 (012)	中世
	SK055	016		隅丸長方形	(1.91)	1.14	0.19		中世
	SK056	016		不整形	1.32	1.16	0.33		中世
	SK057	017		不整形	1.53	1.40	0.27	珠洲	中世
	SK058	017		不整形	1.62	1.13	0.21	珠洲	中世
	SK059	017		不整形	1.04	(0.79)	0.36		中世

土坑一覧(2)

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径)・m	幅(短径)・m	深さ・m	出土遺物	時期
A1・A4地区	SK060	017		隅丸方形	1.74	1.72	0.28	金属製品－釘 (004)	中世
	SK061	017		楕円形	(1.45)	1.17	0.05		中世
	SK062	017		円形	0.79	0.75	0.20		中世
	SK063	017		楕円形	(0.62)	0.38	0.10		中世
	SK064	017·021		不整形	0.66	0.35	0.17		中世
	SK065	017·021		楕円形	2.02	1.34	0.44		中世
	SK066	017·021	009－2	長楕円形	(6.87)	2.32	0.41	八尾　白磁	中世
	SK067	017		不整形	0.82	0.80	0.36		中世
	SK068	017		隅丸長方形	0.87	0.63	0.37		中世
	SK069	018		楕円形	0.36	0.33	0.16		中世
	SK070	018		楕円形	0.82	0.70	0.09		中世
	SK071	018		楕円形	0.41	0.34	0.14		中世
	SK072	018		円形	0.34		0.26		中世
	SK073	018		円形	0.41		0.06		中世
	SK074	018		楕円形	0.34	0.29	0.31		中世
	SK075	018		楕円形	0.78	0.69	0.06		中世
	SK076	018		楕円形	0.81	0.59	0.06		中世
	SK077	018		楕円形	0.85	0.61	0.41		中世
	SK078	018		隅丸長方形	1.30	1.11	0.12		中世
	SK079	018		不整形	1.51	0.54	0.07	金属製品－釘 (003)	中世
	SK080	018		隅丸長方形	1.71	(1.28)	0.22	中世土師器	中世
	SK081	018		隅丸長方形	0.98	0.89	0.16		中世
	SK082	018		不整形	2.37	(0.72)	0.39	中世土師器	中世
	SK083	018		隅丸長方形	1.30	1.14	0.26	珠洲－擂鉢 (499)	中世
	SK084	018		不整形	(1.49)	1.35	0.27	青磁－碗 (501)	中世
	SK085	019		不整形	1.01	(0.76)	0.23		中世
	SK086	019		楕円形	0.54	0.43	0.10		中世
	SK087	019		円形	(0.50)		0.34		中世
	SK088	019		楕円形	0.30	0.22	0.12		中世
	SK089	019		楕円形	0.46	0.37	0.06		中世
	SK090	019		不整形	(1.20)	(0.52)	0.16		中世
	SK091	019		不整形	1.47	(0.49)	0.17		中世
	SK092	019		楕円形	0.44	0.38	0.22		中世
	SK093	019		長楕円形	0.94	0.42	0.23		中世
	SK094	019		不整形	(2.00)	(1.18)	0.47	珠洲－擂鉢 (500)	中世
	SK095	019		不整形	(2.44)	1.39	0.56	瀬戸美濃	中世
	SK096	019		不整形	(1.04)	0.71	0.60		中世
	SK097	019		隅丸長方形	1.93	1.20	0.29		中世
	SK098	019		長楕円形	1.00	0.48	0.19		中世
	SK099	019		円形	0.97		1.00		中世
	SK100	020		円形	0.29		0.29		中世
	SK101	020		楕円形	0.55	0.43	0.07		中世
	SK102	020		不整形	(0.84)	0.57	0.11		中世
	SK103	020		円形	1.00	0.92	0.18		中世
	SK104	020		不整形	1.24	0.97	0.17		中世
	SK105	020		不整形	2.47	0.80	0.15		中世
	SK106	020		楕円形	0.30	0.26	0.19		中世
	SK107	020		楕円形	0.45	0.39	0.17	金属製品－鉄滓 (032)	中世
	SK108	020		不整形	2.05	(1.96)	0.25	中世土師器	中世
	SK109	020		不整形	2.60	(0.89)	0.46	中世土師器	中世
	SK110	020		不整形	1.73	(0.49)	0.41	中世土師器	中世
	SK111	020		不整形	2.19	1.71	0.23	中世土師器	中世
	SK112	021		不整形	2.67	2.12	0.50	中世土師器	中世
	SK113	021	009－2	隅丸方形	4.54	4.40	0.63	金属製品－板状鉄製品 (011) 中世土師器	中世
	SK114	021		不整形	3.34	2.66	0.06		中世
	SK115	011		不整形	2.82	1.77	0.18	金属製品－釘 (005)	中世
	SK201	041		楕円形	0.73	0.53	0.02	土師器	古代
	SK202	041		不整形	0.85	0.60	0.20	土師器　須恵器	古代
	SK203	041		楕円形	0.92	0.70	0.48	土師器　須恵器	古代
	SK204	041		隅丸長方形	0.99	0.80	0.26	土師器	古代

土坑一覧(3)

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径)・m	幅(短径)・m	深さ・m	出土遺物	時期
A1・A4地区	SK205	041		楕円形	0.48	0.32	0.10		古代
	SK206	041		円形	0.87		0.08	土師器　須恵器	古代
	SK207	041		楕円形	0.80	0.38	0.09	須恵器	古代
	SK208	041		楕円形	0.86	0.68	0.12	土師器	古代
	SK209	041		円形	0.69		0.23	須恵器－杯B（160）　土師器	古代
	SK210	041		円形	0.42		0.13	土師器	古代
	SK211	041		楕円形	0.70	0.25	0.10	土師器	古代
	SK212	041		楕円形	0.65	0.35	0.15	土師器	古代
	SK213	041		楕円形	0.62	0.27	0.08	土師器	古代
	SK214	041		楕円形	(0.45)	0.40	0.10	土師器	古代
	SK215	041		不整形	(0.56)	0.27	0.11	土師器	古代
	SK216	041		楕円形	0.47	0.32	0.10	土師器	古代
	SK217	041		楕円形	0.65	0.55	0.18	土師器	古代
	SK218	041		楕円形	0.62	0.22	0.18	土師器－甕（165）	古代
	SK219	041		不整形	(0.56)	0.50	0.14	土師器	古代
	SK220	041		不整形	0.78	(0.36)	0.10	土師器	古代
	SK221	041	034－2	不整形	1.48	1.14	0.22	土師器	古代
	SK222	041		楕円形	0.78	(0.62)	0.31	土師器	古代
	SK223	041		楕円形	0.91	0.72	0.34	土師器	古代
	SK224	042		楕円形	0.46	0.40	0.21	土師器－甕（178）	古代
	SK225	042		楕円形	0.49	0.35	0.18	須恵器	古代
	SK226	042		不整形	0.45	0.36	0.16	土師器	古代
	SK227	042		楕円形	0.34	0.21	0.27	土師器	古代
	SK228	042		円形	0.31		0.15	土師器	古代
	SK229	042		楕円形	0.40	0.35	0.21	須恵器	古代
	SK230	042		不整形	0.60	0.35	0.22	土師器	古代
	SK231	042		楕円形	(0.40)	0.35	0.24	土師器	古代
	SK232	042		楕円形	0.60	0.50	0.36	土師器	古代
	SK233	042		不整形	0.40	0.30	0.09	土師器	古代
	SK234	042		楕円形	0.95	0.55	0.30	土師器　須恵器	古代
	SK235	042		楕円形	(0.75)	0.70	0.08	土師器－甕（166）	古代
	SK236	042		楕円形	1.65	0.75	0.25	須恵器－杯B（162）　土師器	古代
	SK237	042		楕円形	0.95	0.80	0.15	土師器	古代
	SK238	042		不整形	2.70	0.85	0.17	土師器	古代
	SK239	042	034－1	不整形	1.90	(1.60)	0.40	須恵器－杯B(161,163) 杯A(164)　土師器	古代
	SK240	042		円形	0.70		0.11	土師器	古代
A3地区	SK01	055		楕円形	0.30	0.25	0.06	中世土師器－皿(529)　越中瀬戸	中･近世
	SK02	055		円形	0.30		0.15	近世磁器（白磁）	中･近世
	SK03	055		不整形	0.86	0.82	0.16	珠洲　越中瀬戸	中･近世
	SK04	055		不整形	(1.10)	1.04	0.15	唐津　伊万里	中･近世
	SK05	055		不整形	1.70	1.10	0.15	越中瀬戸	中･近世
	SK06	055		不整形	2.60	1.60	0.34	珠洲	中･近世
	SK07	055		不整形	2.48	(1.03)	0.63		中･近世
	SK08	055		楕円形	1.04	0.95	0.23	中世土師器	中･近世
	SK09	055		不整形	2.03	1.12	0.14	白磁－皿（534）　中世土師器 青磁　唐津	中･近世
	SK10	056		円形	0.25		0.15	中世土師器－皿（530）	中世
	SK11	056		円形	0.24		0.33	中世土師器	中世
	SK12	056		楕円形	0.30	0.25	0.20		中世
	SK13	056		楕円形	0.30	0.22	0.16		中世
	SK14	056		楕円形	0.29	0.22	0.28		中世
	SK15	056		楕円形	0.23	0.20	0.15		中世
	SK16	056		楕円形	0.23	0.20	0.12		中世
	SK17	056		楕円形	0.44	0.31	0.36		中世
	SK18	056		不整形	0.31	(0.17)	0.24		中世
	SK19	056		楕円形	0.35	0.30	0.28	中世土師器	中世
	SK20	056		楕円形	0.46	0.38	0.15		中世
	SK21	056		不整形	0.45	0.30	0.12		中世
	SK22	056		楕円形	0.32	0.28	0.33	中世土師器　越中瀬戸	中世
	SK23	056		楕円形	0.23	0.20	0.13		中世

土坑一覧(4)

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径)・m	幅(短径)・m	深さ・m	出土遺物	時期
A3地区	SK24	056		楕円形	0.58	0.31	0.11		中世
	SK25	056		円形	0.38		0.15		中世
	SK26	056		楕円形	0.30	0.25	0.05		中世
	SK27	056		楕円形	0.45	0.32	0.07		中世
	SK28	056		不整形	0.45	0.40	0.08		中世
	SK29	056		円形	0.38		0.26	中世土師器－皿(533)	中世
	SK30	056		楕円形	0.61	0.47	0.27		中世
	SK31	056		不整形	(0.65)	0.40	0.10		中世
	SK32	056		不整形	0.53	0.40	0.30	白磁－碗(535)	中世
	SK33	056		不整形	0.87	0.55	0.35	中世土師器	中世
	SK34	056		楕円形	(0.75)	0.90	0.17		中世
	SK35	056		不整形	1.13	0.93	0.11		中世
	SK36	056		楕円形	1.20	0.91	0.42	珠洲－擂鉢(537)　中世土師器	中世
	SK37	056		不整形	(1.47)	1.09	0.40		中世
	SK38	056		楕円形	1.10	0.97	0.15		中世
	SK39	057		隅丸方形	0.95		0.24		中世
	SK40	057	047-1,2	楕円形	0.99	0.71	0.24	中世土師器　珠洲	
	SK41	057		楕円形	1.95	1.07	0.31	金属製品－棒状鉄製品(063)	中世
	SK42	057		楕円形	3.28	2.23	0.45		中世
	SK43	058		不整形	(7.15)	(2.15)	0.50		中世
	SK44	059		楕円形	0.35	0.30	0.17		中世
	SK45	059		楕円形	0.36	0.30	0.14		中世
	SK46	059		円形	0.46	0.44	0.10		中世
	SK47	059		楕円形	0.30	0.19	0.09		中世
	SK48	059		不整形	0.47	(0.24)	0.08		中世
	SK49	059		不整形	0.55	0.35	0.18		中世
	SK50	059		不整形	(0.55)	0.50	0.35	白磁－碗(536)　中世土師器	中世
	SK51	059		楕円形	0.27	0.25	0.22		中世
	SK52	059		楕円形	0.38	0.30	0.14		中世
	SK53	059		円形	0.25		0.30		中世
	SK54	059		円形	0.30		0.20		中世
	SK55	059		隅丸長方形	3.84	(0.70)	0.14		中世
	SK56	059		円形	0.35		0.28		中世
	SK57	059		楕円形	0.46	0.33	0.13		中世
	SK58	059		楕円形	0.35	0.22	0.28		中世
	SK59	059		不整形	0.37	0.27	0.15		中世
	SK60	059		楕円形	(0.35)	(0.25)	0.12		中世
	SK61	059		楕円形	0.40	0.28	0.10		中世
	SK62	059		楕円形	0.38	0.28	0.08		中世
	SK63	059		不整形	0.33	0.25	0.05		中世
	SK64	059		楕円形	0.40	0.23	0.07		中世
A5地区	SK01	063·068		楕円形	2.40	2.00	0.47	越中瀬戸	中世
	SK02	063	049－1	楕円形	1.22	1.01	0.32		中世
	SK03	063		不整形	0.44	(0.40)	0.15	瀬戸美濃－天目茶碗(564)	中世
	SK04	063		不整形	2.35	2.05	0.66	瀬戸美濃－天目茶碗(560) 越中瀬戸	中世
	SK05	063		不整形	1.22	0.82	0.20	中世土師器　珠洲	中世
	SK06	063		楕円形	(2.00)	1.15	0.28	石製品－砥石(007)	中世
	SK07	063		不整形	2.91	1.75	0.52	珠洲	中世
	SK08	064		不整形	(2.07)	(1.60)	0.64	珠洲	中世
	SK09	064		不整形	3.30	2.00	0.32		中世
	SK10	065		隅丸長方形	(2.80)	2.00	0.23		中世
	SK11	065·070		不整形	4.00	(1.67)	0.90		中世
	SK12	066		不整形	3.25	2.27	0.60	珠洲－片口擂鉢(569) 中世土師器	中世
	SK13	066		不整形	3.70	2.10	0.35		中世
	SK14	067		不整形	3.30	3.05	0.47		中世
	SK15	067		方形	2.90	2.35	0.35		中世
	SK16	068		不整形	(4.30)	3.05	0.71		中世
	SK17	068		不整形	2.54	(2.08)	0.75	越中瀬戸	中世
	SK18	069		不整形	6.10	4.50	0.89		中世

土坑一覧(5)

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径)・m	幅(短径)・m	深さ・m	出土遺物	時期
A5地区	SK19	070	049−2	不整形	4.30	4.00	0.74	金属製品−鉄鍋(076)　中世土師器	中世
A6地区	SK001	074		不整形	(0.61)	0.22	0.21		近世
	SK002	074		楕円形	0.54	0.40	0.26	唐津	近世
	SK003	074		不整形	1.09	0.34	0.31	唐津	近世
	SK004	074		不整形	1.08	0.84	0.46		近世
	SK005	074		不整形	1.32	(1.06)	0.40	唐津	近世
	SK006	074		不整形	1.99	(1.32)	0.65	唐津　伊万里	近世
	SK007	074		不整形	(1.65)	0.96	0.70	唐津−三島手皿(595)　近世陶磁器	近世
	SK008	074		楕円形	1.32	1.20	0.32	近世陶磁器	近世
	SK009	074		円形	0.82	0.78	0.32	越中瀬戸	近世
	SK010	074		不整形	(1.39)	1.26	0.78	唐津	近世
	SK011	074		不整形	(2.86)	(1.94)	0.81	越中瀬戸　伊万里	近世
	SK012	075		楕円形	0.31	(0.24)	0.27		中世
	SK013	075		円形	0.38	0.32	0.15		中世
	SK014	075		楕円形	0.43	0.35	0.30		中世
	SK015	075		楕円形	0.47	0.36	0.50		中世
	SK016	075		不整形	0.61	0.58	0.41		中世
	SK017	075		楕円形	0.54	0.39	0.26		中世
	SK018	075		不整形	(0.83)	0.31	0.08		中世
	SK019	075		円形	0.72	0.69	0.15		中世
	SK020	075		不整形	0.55	0.51	0.16		中世
	SK021	075		楕円形	0.87	0.54	0.49		中世
	SK022	075	054−2	楕円形	1.22	0.69	0.17		中世
	SK023	075		円形	1.15	1.10	0.80		中世
	SK024	075		円形	1.03	0.97	0.26		中世
	SK025	075		不整形	1.51	(0.71)	0.40		中世
	SK026	075		不整形	2.34	1.63	0.32		中世
	SK027	075		楕円形	2.30	1.61	0.33	白磁−皿(596)　中世土師器	中世
	SK028	076		円形	0.62	0.60	0.22		中世
	SK029	076		円形	0.76	0.71	0.10		中世
	SK030	076		不整形	(2.02)	1.11	0.28		中世
	SK031	076		隅丸方形	0.99	0.71	0.50		中世
	SK032	076		不整形	1.99	1.97	0.36		中世
	SK033	076		不整形	2.34	(1.29)	0.14		中世
	SK034	076		不整形	(2.55)	0.96	0.18		中世
	SK035	076		不整形	(2.10)	2.00	0.17		中世
	SK036	076		不整形	(2.27)	1.74	0.25		中世
	SK037	076		不整形	6.45	(1.48)	0.25		中世
	SK101	077		楕円形	0.36	0.33	0.20	土師器	古代
	SK102	077		不整形	(0.42)	0.41	0.18	土師器−杯(613)	古代
	SK103	077		楕円形	0.34	0.28	0.20	須恵器	古代
	SK104	077		長楕円形	0.65	0.29	0.10	土師器	古代
	SK105	077		楕円形	(1.85)	1.20	0.30		古代
	SK106	077	054−1	不整形	2.45	(1.24)	0.40	須恵器−杯蓋(604)、杯A(607)　土師器−杯(614)、甕(615)	古代
A7・A8・A9地区	SK001	082		楕円形	0.87	0.63	0.42		中・近世
	SK002	082		楕円形	2.17	0.90	0.28	金属製品−棒状鉄製品(074) 近世陶磁器	中・近世
	SK003	082		不整形	1.52	(1.27)	0.30		中・近世
	SK004	082		不整形	1.65	1.56	0.15		中・近世
	SK005	082		不整形	2.98	2.05	0.38		中・近世
	SK006	082		不整形	2.05	1.56	2.02		中・近世
	SK007	082		隅丸長方形	1.61	1.37	0.60		中・近世
	SK008	082		不整形	1.95	0.97	0.11		中・近世
	SK009	083		円形	0.30		0.08		中・近世
	SK010	083		楕円形	0.83	0.56	0.39	越中瀬戸−天目茶碗(667)　近世陶磁器	中・近世
	SK011	083		楕円形	1.49	0.39	0.04		中・近世
	SK012	083		楕円形	0.60	0.32	0.05		中・近世
	SK013	083		楕円形	1.03	0.45	0.15		中・近世
	SK014	083		不整形	(1.90)	1.00	0.13		中・近世

土坑一覧(6)

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径)・m	幅(短径)・m	深さ・m	出土遺物	時期
A7・A8・A9地区	SK015	083		楕円形	0.50	0.45	0.07		中・近世
	SK016	083		円形	0.31		0.12		中・近世
	SK017	083		楕円形	0.37	0.31	0.07		中・近世
	SK018	083		隅丸長方形	2.07	1.17	0.22		中・近世
	SK019	083		隅丸長方形	1.10	0.65	0.55		中・近世
	SK020	083		不整形	1.10	0.90	0.50	近世陶磁器	中・近世
	SK021	083		不整形	2.67	1.88	0.35		中・近世
	SK022	083		不整形	2.85	2.50	0.16		中・近世
	SK023	084		隅丸方形	1.72	1.05	0.40	近世陶磁器	中・近世
	SK024	084		不整形	1.53	0.80	0.16	近世陶磁器	中・近世
	SK025	084		楕円形	0.96	0.58	0.09		中・近世
	SK026	084		不整形	0.61	0.47	0.27		中・近世
	SK027	084		楕円形	0.60	0.45	0.23		中・近世
	SK028	084		不整形	0.75	0.65	0.28		中・近世
	SK029	084		楕円形	0.77	0.45	0.27		中・近世
	SK030	084		楕円形	(1.07)	0.76	0.36		中・近世
	SK031	084		楕円形	0.25	0.18	0.15		中・近世
	SK032	084		楕円形	0.26	0.22	0.30		中・近世
	SK033	084		楕円形	1.28	0.97	0.49		中・近世
	SK034	084		楕円形	1.20	0.90	0.42		中・近世
	SK035	084		長楕円形	1.67	0.38	0.10		中・近世
	SK036	084		不整形	2.28	0.90	0.35		中・近世
	SK037	084		不整形	1.70	1.06	0.21		中・近世
	SK038	084		不整形	2.54	1.40	0.37		中・近世
	SK101	089		楕円形	0.37	0.31	0.06		古代
	SK102	089		楕円形	0.37	0.26	0.10		古代
	SK103	089		楕円形	0.34	0.25	0.09		古代
	SK104	089		楕円形	0.48	0.30	0.07		古代
	SK105	089		隅丸長方形	1.11	0.97	0.20		古代
	SK106	089		不整形	1.32	1.17	0.12	土師器	古代
	SK107	089		楕円形	2.45	2.00	0.50	土師器　須恵器	古代
	SK108	089		不整形	3.67	2.98	0.13	土師器	古代
	SK109	089		楕円形	(0.32)	0.20	0.12		古代
	SK110	089		楕円形	0.30	0.25	0.05	土師器	古代
	SK111	089		楕円形	0.54	0.43	0.20	土師器	古代
	SK112	089		円形	0.27	0.24	0.18	土師器	古代
	SK113	089		楕円形	0.27	0.24	0.11	土師器	古代
	SK114	089		楕円形	0.31	0.27	0.24		古代
	SK115	089		不整形	0.29	0.26	0.06		古代
	SK116	089		楕円形	0.40	0.36	0.07		古代
	SK117	089		長楕円形	0.59	0.27	0.36	土師器	古代
	SK118	089		長楕円形	1.05	0.36	0.08		古代
	SK119	089		不整形	2.01	1.15	0.21	土師器	古代
	SK120	089		不整形	2.35	2.05	0.14	土師器	古代
	SK121	089		楕円形	0.44	0.40	0.07	土師器　須恵器	古代
	SK122	089		楕円形	5.65	5.10	0.16		古代
	SK123	089		楕円形	1.00	0.91	0.23	土師器	古代
A10地区	SK01	090		楕円形	0.65	0.45	0.12		中・近世
	SK02	090		楕円形	0.70	(0.50)	0.45		中・近世
	SK03	090		不整形	(4.10)	1.50	0.05		中・近世
	SK04	090		不整形	(3.50)	(3.20)	0.10		中・近世
A11地区	SK01	091		楕円形	0.33	(0.15)	0.22		中・近世
A12地区	SK01	096		隅丸方形	1.35	(1.00)	0.27		中・近世
	SK02	096		楕円形	0.56	(0.20)	0.10		中・近世
	SK03	096		楕円形	0.52	(0.31)	0.10		中・近世
	SK04	096		楕円形	0.76	0.42	0.19		中・近世
	SK05	096		不整形	(0.66)	0.55	0.23		中・近世
	SK06	096		楕円形	1.34	(0.62)	0.18		中・近世
	SK07	096		不整形	0.92	(0.45)	0.26		中・近世
	SK08	096		楕円形	0.99	0.56	0.23		中・近世

土坑一覧(7)

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径)・m	幅(短径)・m	深さ・m	出土遺物	時期
A12地区	SK09	096		楕円形	(1.00)	0.75	0.37		中·近世
	SK10	096	063－2	隅丸方形	1.11	(0.67)	0.37		中·近世
	SK11	097		不整形	5.15	(1.20)	0.71	越中瀬戸－壷（729）	中·近世
A13地区	SK01	103		不整形	2.09	1.54	0.39	越中瀬戸　近世陶磁器	近世
	SK02	103		楕円形	0.96	0.91	0.63		中世
	SK03	103		不整形	(1.45)	0.80	0.18	珠洲	中世
	SK04	103		不整形	1.81	1.20	0.22		中世
	SK05	103		長楕円形	1.81	0.73	0.20		中世
	SK06	103		楕円形	0.58	0.46	0.22		中世
	SK07	103		楕円形	0.75	0.62	0.27	中世土師器－小皿（764）	中世
	SK08	103		不整形	1.77	(1.70)	0.45	中世土師器－小皿（765）	中世
	SK09	103		長楕円形	3.00	1.26	0.31	珠洲　越前　石製品（めのう）	中世
	SK10	103		不整形	3.34	1.62	0.14		中世
	SK11	104		不整形	(3.77)	0.59	0.35	珠洲	中世
	SK12	104	068－1,2	不整形	(5.65)	4.06	0.75	珠洲－擂鉢(779)甕(778)　八尾－甕(780)　石製品－砥石(043)　越前	中世
	SK13	105		隅丸方形	2.64		0.55	石製品－砥石(042)　金属製品－棒状鉄製品(094)　木製品－漆器椀(002)　越中瀬戸　近世陶磁器	近世～近代
	SK14	105		不整形	8.92	(5.92)	0.61	中世土師器－中皿(766)　八尾－甕(772)　珠洲	中世
	SK15	105		長楕円形	3.33	0.74	0.53		中·近世
	SK16	105		不整形	11.50	3.50	0.42	珠洲－甕（777）	中世
	SK17	105		不整形	1.65	1.50	0.43	瀬戸美濃－合子（774）　珠洲	中世
A14地区	SK01	107		楕円形	0.27	0.22	0.10		中·近世
	SK02	107		楕円形	0.29	0.25	0.20		中世
	SK03	107		楕円形	0.42	0.32	0.11		中世
	SK04	107		楕円形	0.41	0.29	0.17		中世
	SK05	107		円形	0.32		0.11		中世
	SK06	107		楕円形	0.40	0.35	0.17	青磁－碗（799）	中世
	SK07	107		楕円形	0.71	0.56	0.10		中世
	SK08	107		不整形	0.60	(0.38)	0.13		中世
	SK09	107		不整形	(0.70)	0.65	0.33		中世
	SK10	107		楕円形	0.72	0.46	0.24		中世
	SK11	107		楕円形	0.68	0.39	0.40		中世
	SK12	107		楕円形	0.79	0.48	0.21		中世
	SK13	107		楕円形	0.78	0.34	0.21	金属製品－鉄滓（098）	中世
	SK14	107		隅丸長方形	0.87	0.56	0.16		中世
	SK15	107		楕円形	(0.69)	0.40	0.15		中世
	SK16	107		不整形	1.21	0.74	0.34	珠洲	中世
	SK17	107		不整形	(1.60)	1.30	0.16		中世
	SK18	107		不整形	(1.42)	1.39	0.22		中世
	SK19	107		楕円形	1.55	1.35	0.25	中世土師器－皿（800）　珠洲－擂鉢（805）　白磁－皿（801）	中世
	SK20	108		不整形	(1.65)	0.48	0.20		中世
	SK21	108		楕円形	2.02	(0.47)	0.17		中世
	SK22	108		不整形	2.48	0.98	0.13	珠洲	中世
	SK23	108		楕円形	0.87	0.74	0.37		中世
	SK24	108		不整形	(1.19)	0.82	0.31		中世
	SK25	108		不整形	1.79	1.66	0.39	珠洲	中世
	SK26	108		楕円形	1.65	1.44	0.12	中世土師器－皿（802）	中世
	SK27	108		楕円形	1.12	0.51	0.20		中世
	SK28	108		長楕円形	(2.49)	0.87	0.07		中世
	SK29	108		不整形	(1.71)	0.96	0.36		中世
	SK30	108		不整形	2.30	0.80	0.15		中世
	SK31	109		楕円形	0.42	0.30	0.05		中世
	SK32	109		楕円形	0.28	0.22	0.13		中世
	SK33	109		楕円形	0.46	0.36	0.08		中世
	SK34	109		不整形	0.25	(0.15)	0.15		中世
	SK35	109		楕円形	0.34	0.31	0.14		中世
	SK36	109		楕円形	0.42	0.38	0.07		中世

土坑一覧(8)

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径)・m	幅(短径)・m	深さ・m	出土遺物	時期
A14地区	SK37	109		楕円形	0.31	0.24	0.19		中世
	SK38	109		円形	0.37		0.18		中世
	SK39	109		不整形	(0.70)	(0.24)	0.07	金属製品－鉄滓 (099)	中世
	SK40	109		円形	0.28		0.21		中世
	SK41	109		楕円形	0.32	0.30	0.16		中世
	SK42	109		不整形	3.22	(0.57)	0.13		中世
	SK43	109		不整形	0.64	0.51	0.14		中世
	SK44	109		不整形	0.27	(0.25)	0.14		中世
	SK45	109		楕円形	0.55	0.30	0.17		中世
	SK46	109		楕円形	0.51	0.46	0.21		中世
	SK47	109		楕円形	0.52	(0.19)	0.22		中世
	SK48	109		不整形	0.44	(0.20)	0.39		中世
A15地区	SK001	113		長楕円形	1.02	0.24	0.04		中世
	SK002	113		円形	0.38		0.34		中世
	SK003	113		円形	0.38		0.49		中世
	SK004	113		長楕円形	6.29	0.97	0.05		中世
	SK005	113		不整形	(3.31)	1.23	0.09		中世
	SK006	113		不整形	(5.03)	2.33	0.39		中世
	SK007	113		不整形	3.50	2.28	0.15		中·近世
	SK101	116		楕円形	0.35	0.34	0.15		古代
	SK102	116		楕円形	0.31	0.28	0.10		古代
	SK103	116		不整形	0.37	(0.30)	0.10		古代
	SK104	116		楕円形	0.29	0.24	0.10		古代
	SK105	116		楕円形	0.42	0.35	0.19		古代
	SK106	116		円形	0.30		0.35		古代
	SK107	116		楕円形	0.38	0.31	0.22		古代
	SK108	116		楕円形	0.70	0.44	0.15		古代
	SK109	116		不整形	0.66	0.37	0.12		古代
	SK110	116		楕円形	0.50	0.30	0.12		古代
	SK111	116		楕円形	0.56	0.48	0.10		古代
	SK112	116		楕円形	0.52	0.27	0.11		古代
	SK113	116		楕円形	0.52	0.32	0.07		古代
	SK114	116		楕円形	(0.61)	0.47	0.05		古代
	SK115	116		楕円形	0.52	0.43	0.06		古代
	SK116	116		楕円形	0.55	0.44	0.10		古代
	SK117	116		楕円形	0.70	0.60	0.17		古代
	SK118	116		楕円形	0.65	0.57	0.11		古代
	SK119	116		楕円形	0.68	0.50	0.10		古代
	SK120	116		楕円形	0.83	0.63	0.10		古代
	SK121	116		楕円形	0.63	0.48	0.12		古代
	SK122	116		楕円形	0.80	0.37	0.11		古代
	SK123	116		楕円形	0.85	0.39	0.17		古代
	SK124	116		楕円形	0.80	0.57	0.25		古代
	SK125	116		不整形	1.23	(0.71)	0.05		古代
	SK126	116		不整形	(5.35)	(1.25)	0.08		古代
	SK127	116		不整形	2.32	1.06	0.10		古代
	SK128	116		楕円形	1.26	0.90	0.10		古代
	SK129	116		長楕円形	1.52	0.43	0.20		古代
A16地区	SK01	119		不整形	0.75	0.60	0.15	中世土師器－皿 (822)	中世
	SK02	119		楕円形	0.80	0.60	0.25		中世
	SK03	119		楕円形	0.43	0.30	0.10		中世
	SK04	119		円形	0.33		0.07		中世
	SK05	119		楕円形	0.50	0.35	0.20		中世
	SK06	119		円形	0.70		0.30		中世
	SK07	119		楕円形	0.85	0.70	0.35		中世
	SK08	119		楕円形	0.30	0.22	0.08		中世
	SK09	119		楕円形	0.45	0.35	0.20		中世
	SK10	119		円形	0.40		0.17		中世
	SK11	119		楕円形	0.30	0.25	0.10		中世

土坑一覧(9)

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径)・m	幅(短径)・m	深さ・m	出土遺物	時期
	SK12	119		楕円形	0.70	0.53	0.10	瀬戸美濃－皿(821)　木製品－漆器椀(004)　石製品－硯(046)	中･近世
	SK13	119		円形	0.30		0.27		中世
	SK14	119		不整形	(1.55)	1.20	0.28	中世土師器－皿(823)	中世
	SK15	119		楕円形	0.38	0.26	0.45	中世土師器－皿(824)	中世
	SK16	119		不整形	1.95	(0.55)	0.14		中世
	SK17	119		不整形	(1.80)	1.40	0.45		中世
	SK18	120		楕円形	2.65	2.34	0.21		中世
	SK19	120		隅丸長方形	4.40	1.55	0.60	中世土師器－皿(825)	中世
	SK20	120		不整形	10.30	(1.30)	0.40	金属製品－棒状鉄製品(101) 銅銭(104)	近代
	SK21	121		不整形	8.70	(3.20)	1.20	磁器－伊万里(830)	中世
A17地区	SK01	122		円形	0.35		0.15		中世
	SK02	122		楕円形	(0.45)	0.50	0.08		中世
A18地区	SK01	123	075－2	不整形	5.25	(2.72)	0.43	青磁－坏(836)　越中瀬戸－皿(837～841, 843)、擂鉢(844, 845)、壷(846)、鉢(847)　石製品－砥石(047)、石鉢(048)、石臼上(049)、不明石製品(050)、五輪塔火輪(051, 052)、五輪塔地輪(053)	中･近世
	SK02	123		不整形	(4.97)	(3.10)	0.85	越中瀬戸－皿(842)	中･近世
	SK03	123		楕円形	1.10	0.85	0.50		中世
	SK04	123		楕円形	0.55	0.47	0.50		中世
	SK05	123		不整形	(0.70)	0.60	0.50		中世
	SK06	123		不整形	(1.40)	1.20	0.50		中世
	SK07	123		不整形	(1.95)	(1.35)	0.90		中世

溝一覧(1)

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形態	断面形態	長さ・m	幅・m	深さ・m	出土遺物	時期
A1・A4地区	SD001	004・022		不整形	不整形	(47.0)	1.00	0.22		中世
	SD002	004・022	008－1	不整形	不整形	(40.0)	2.20	0.18		中世
	SD003	004・022		直線	逆台形	5.60	0.80	0.09	金属製品－棒状鉄製品（006）	中世
	SD004	004・022		直線	逆台形	1.90	0.30	0.15		中世
	SD005	004・022		直線	逆台形	1.65	0.35	0.15		中世
	SD006	004・022		直線	逆台形	1.10	0.30	0.16		中世
	SD007	004・022		直線	逆台形	1.55	0.35	0.16		中世
	SD008	004・022		直線	U字形	5.70	0.50	0.20		中世
	SD009	004・022		不整形	U字形	1.40	0.50	0.11		中世
	SD010	006・022		不整形	不整形	(6.30)	1.20	0.07		中世
	SD011	006・022		直線	逆台形	0.80	0.30	0.34		中世
	SD012	006・022		不整形	逆台形	(4.20)	0.80	0.29		中世
	SD013	004・022	008－2	長方形	U字形	(73.00)	2.50	0.18		中世
	SD014	005・022		直線	不整形	(23.00)	1.20	0.11	白磁－碗（495）　珠洲－壷（502）	中世
	SD015	005・022		不整形	不整形	(22.00)	3.50	0.72	中世土師器－皿（496） 陶磁器　珠洲　八尾	中世
	SD016	005・022	009－1	不整形	不整形	(21.20)	1.60	0.35		中世
	SD017	007・023		不整形	逆台形	(32.8)	0.60	0.13	越中瀬戸－皿（497） 中世土師器　珠洲	中・近世
	SD018	007・023		不整形	不整形	(36.0)	(1.70)	0.84	越中瀬戸－天目茶碗（498） 中世土師器　珠洲　瀬戸美濃 八尾	中世
	SD019	007・023		不整形	不整形	5.00	1.80	0.18	白磁	中世
	SD020	007・023		不整形	不整形	(14.50)	(1.10)	0.19	金属製品－棒状鉄製品（007，008） 中世土師器　珠洲　越中瀬戸	中世
	SD021	007・023		L字形	U字形	36.50	0.60	0.33	珠洲	中世
	SD022	007・023		L字形	不整形	25.50	0.50	0.15	金属製品－鉄滓（033，034）	中世
	SD023	007・023		L字形	不整形	18.50	0.40	0.17	金属製品－鉄滓（035）	中世
	SD024	007・023		直線	不整形	5.00	0.50	0.19		中世
	SD025	007・023		直線	U字形	8.20	0.30	0.10		中世
	SD026	007・023		直線	逆台形	8.60	0.35	0.09		中世
	SD027	007・023		不整形	U字形	10.20	1.60	0.14		中世
	SD028	007・023		直線	U字形	12.00	0.40	0.14	珠洲	中世
	SD029	007・023		不整形	逆台形	2.40	0.80	0.08		中世
	SD030	007・023		L字形	不整形	18.50	0.40	0.13	金属製品－棒状銅製品（001）	中世
	SD031	007・023		L字形	不整形	(28.00)	1.80	0.70	中世土師器　珠洲　八尾	中世
	SD101	026・043		直線	U字形	(2.80)	0.35	0.12		古代
	SD102	026・043		直線	U字形	(5.30)	0.60	0.16	須恵器－杯A（167）　土師器	古代
	SD103	026・043		直線	U字形	(7.40)	0.4	0.17		古代
	SD104	026・043		直線	逆台形	(14.40)	0.60	0.27	須恵器－甕（179）　土師器	古代
	SD105	026・043		直線	U字形	7.40	0.40	0.13	土師器　須恵器	古代
	SD106	026・043		不整形	不整形	(16.00)	3.00	0.25	須恵器－杯蓋（168）、杯（169）、 杯A（170，171） 金属製品－棒状鉄製品（016）、 鉄滓（051，052）　土師器	古代
	SD107	026・043		直線	U字形	(10.80)	0.60	0.22	土師器　須恵器	古代
	SD108	026・043		直線	U字形	2.40	0.50	0.14	須恵器－壷（182）　土師器	古代
	SD109	026・043		不整形	U字形	4.40	0.90	0.11	土師器　須恵器	古代
	SD110	026・043		不整形	U字形	1.30	0.35	0.11		古代
	SD111	026・043		不整形 途切れ	U字形	4.50	0.60	0.18	金属製品－鉄滓（053） 土師器　須恵器	古代
	SD112	026・043		不整形	U字形	3.80	0.60	0.14	土師器－杯A（183）	古代
	SD113	026・043		不整形	U字形	(4.00)	0.60	0.04		古代
	SD114	026・043		直線	不整形	5.80	0.40	0.12		古代
	SD115	026・043		不整形	逆台形	4.30	1.00	0.11		古代
	SD116	026・043		不整形	U字形	(11.50)	0.13	0.21	須恵器－杯A（172，173） 土師器	古代
	SD117	026・043		不整形	U字形	5.30	0.90	0.29	須恵器　土師器	古代
	SD118	026・043		不整形	a－U字形 b－不整形	(7.80)	0.70	0.17	須恵器－杯B（175）、杯（174） 土師器－甕（180）	古代
	SD119	026・043		直線	U字形	(2.50)	0.40	0.15	土師器	古代

溝一覧(2)

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形態	断面形態	長さ・m	幅・m	深さ・m	出土遺物	時期
A1・A4地区	SD120	026・043		直線	U字形	2.50	0.60	0.19		古代
	SD121	026・043		直線	U字形	(6.70)	0.50	0.32	須恵器－杯B(176)　土師器	古代
	SD122	026・043		直線	U字形	2.50	0.50	0.01		古代
	SD123	026・043		直線	U字形	6.50	0.55	0.28		古代
	SD124	026・043		直線	逆台形	(5.40)	0.40	0.11	土師器	古代
	SD125	026・043		直線	U字形	(4.50)	0.50	0.15		古代
	SD126	024・043		直線	逆台形	2.40	0.30	0.08		古代
	SD127	024・043		直線	不整形	7.80	0.50	0.08		古代
	SD128	024・043		直線	逆台形	6.50	0.40	0.13		古代
	SD129	024・043		直線	逆台形	5.80	0.35	0.13		古代
	SD130	024・043		不整形	不整形	5.50	0.40	0.09		古代
	SD131	024・043		直線	U字形	2.80	0.50	0.09		古代
	SD132	024・043		直線	U字形	1.40	0.30	0.08		古代
	SD133	024・043		直線	逆台形	2.80	0.40	0.15		古代
	SD134	024・043		不整形	不整形	8.30	0.70	0.07	土師器　須恵器	古代
	SD135	024・043		直線	U字形	4.50	0.70	0.07	須恵器	古代
	SD136	026・043		直線	U字形	(2.50)	0.30	0.09		古代
	SD137	026・043		不整形	V字形	7.00	0.60	0.13		古代
	SD138	026・043		直線	U字形	2.20	0.30	0.16	土師器　須恵器	古代
	SD139	026・043		不整形	U字形	(5.00)	0.40	0.19	土師器　須恵器	古代
	SD140	026・043		直線	U字形	1.70	0.30	0.16	土師器　須恵器	古代
	SD141	026・044		不連続	逆台形	3.40	0.50	0.23	土師器　須恵器	古代
	SD142	026・044		不整形	U字形	3.30	0.40	0.21	土師器　須恵器	古代
	SD143	026・044		不整形	U字形	3.30	0.65	0.17	須恵器－杯蓋(177)　土師器－杯(181)	古代
	SD144	026・044		不整形	逆台形	2.20	0.50	0.10	土師器　須恵器	古代
	SD145	024・044		直線	V字形	5.00	0.40	0.22		古代
	SD146	024・044		不整形	不整形	8.70	0.70	0.11		古代
	SD147	024・044		直線	U字形	3.60	0.30	0.09		古代
	SD148	024・044		直線	逆台形	5.80	0.25	0.05		古代
	SD149	024・044		直線	U字形	3.00	0.30	0.06		古代
	SD150	024・044		直線	逆台形	7.00	0.35	0.05		古代
	SD151	024・044		直線	逆台形	1.30	0.30	0.07		古代
	SD152	024・044		不整形	U字形	(3.80)	0.55	0.12	須恵器	古代
	SD153	024・044		不整形	U字形	4.40	0.80	0.11		古代
	SD154	024・044		直線	逆台形	1.50	0.25	0.14	土師器	古代
	SD155	024・044		直線	U字形	5.00	0.45	0.16	須恵器	古代
	SD156	024・044		L字形	逆台形	15.50	4.30	0.15		古代
	SD157	024・044		不整形	U字形	(0.80)	0.30	0.10	須恵器－杯(186)	古代
	SD158	024・044		直線	U字形	3.20	0.50	0.07	土師器	古代
	SD159	026・044		不整形	不整形	2.80	0.50	0.13	須恵器－杯B(184)	古代
	SD160	024・044		不整形	U字形	1.20	0.60	0.48	土師器	古代
	SD161	024・044		不整形	逆台形	5.00	1.40	0.14	須恵器－杯蓋(185)	古代
	SD162	025・044		軽い円弧	U字形	(12.50)	0.50	0.15	須恵器－壷(187)	古代
	SD163	026・044		不整形	不整形	(21.00)	12.50	0.32	須恵器－杯蓋(204～210)、杯B(190,211～214)、杯A(188,189,193,194)、杯(191,192)　土師器－杯(195～198)、甕(200～203)黒色土器－椀(199)　金属製品－棒状鉄製品(010)	古代
	SD164	027・044		不整形	不整形	(26.00)	4.30	0.69	須恵器－杯蓋(215～299)、杯(230,236～239,260,261,263,264)、杯A(231～235,240,259,262)、杯B(265～269)土師器－甕(245～258,270～273)、鍋(274,275)、杯(241～244)　土製品－土錘(276,277)　金属製品－棒状鉄製品(023)、鉄滓(036～050)石製品－砥石	古代
A3地区	SD01	047・059		不整形	U字形	(15.00)	1.20	0.20		中世
	SD02	046・059		逆L字形	U字形	(26.00)	0.70	0.25	中世土師器　珠洲　瀬戸美濃	中世
	SD03	045・059		不整形	不整形	3.10	0.65	0.10		中世
	SD04	045・059		直線	不整形	(1.10)	0.10	0.10		中世

溝一覧(3)

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形態	断面形態	長さ・m	幅・m	深さ・m	出土遺物	時期
A3地区	SD05	047・059		直線	逆台形	4.30	0.60	0.09		中世
	SD06	047・059		直線	不整形	(1.20)	0.55	0.10		中世
	SD07	047・059		直線	不整形	4.30	0.72	0.19		中世
	SD08	047・059		直線	U字形	(24.00)	1.30	0.30	金属製品－鉄滓(062)	中世
	SD09	047・059		直線	U字形	(14.50)	1.60	0.51	越中瀬戸　唐津　伊万里	中・近世
	SD10	047・059		不整形	逆台形	0.33	1.10	0.15		中世
A5地区	SD01	060・071		直線	U字形	2.30	0.50	0.12		近世
	SD02	061・071	051－1,2	不整形	V字形	3.50	0.87	0.25	石製品－五輪塔火輪（008～011）、五輪塔地輪(012～021)、板碑(022～025)	近世
	SD03	060・071		直線 軽い円弧	逆台形～ 不整形	29.40	1.78	0.47	中世土師器－皿（561，563）　越中瀬戸－擂鉢（571）、皿（562） 珠洲　越前　瀬戸美濃　唐津	中・近世
	SD04	060・071		直線	U字形	(13.70)	2.50	0.70	石製品－五輪塔地輪（026）、 すり石（027）越中瀬戸	近世
	SD05	061・071		不整形	U字形	(18.50)	3.70	0.54	珠洲－甕（567）　瀬戸美濃－端反皿（566）、天目茶碗（565） 石製品－五輪塔火輪（029）　中世土師器　越中瀬戸　八尾	中・近世
	SD06	060・061・071		不整形	不整形	(26.10)	3.30	0.20	珠洲	中・近世
	SD07	061・071		直線	不整形	17.00	1.60	0.23	珠洲　八尾　近世陶磁器	中・近世
	SD08	061・071		不整形	不整形	(30.50)	1.60	0.25	珠洲－擂鉢（570）	中・近世
	SD09	061・071		直線	U字形	(2.90)	0.60	0.15		中世
	SD10	060・071		直線	U字形	1.70	0.50	0.12	中世土師器	中・近世
	SD11	060・071		不整形	U字形	14.20	2.80	0.52	中世土師器－小皿（568） 珠洲　八尾　瀬戸美濃	中・近世
A6地区	SD001	072・076		直線	U字形	(11.00)	0.50	0.20		近世
	SD002	072・076		直線	逆台形	4.90	0.35	0.14		中・近世
	SD003	072・076		不整形	U字形	(1.70)	0.60	0.19	中世土師器－皿（600）	中世
	SD101	076・077		不整形	U字形	(19.00)	1.30	0.37	土師器　須恵器	古代
A7・A8・A9地区	SD001	079・085		直線	U字形	(2.60)	0.23	0.08		近世
	SD002	079・085		直線	逆台形	4.00	0.20	0.03		近世
	SD003	079・085		直線	U字形	2.20	0.32	0.01		中・近世
	SD004	079・085		蛇行	逆台形	8.30	0.75	0.05		近世
	SD005	079・085		直線	U字形	(5.20)	0.40	0.09		近世
	SD006	079・085		逆L字形	逆台形	(13.00)	0.90	0.32	越中瀬戸－天目茶碗（618）　近世陶磁器	近世
	SD007	079・085		不整形	U字形～ 逆台形	(14.00)	2.50	0.75	近世陶磁器	近世
	SD008	079・085		軽い円弧	U字形	(37.30)	5.50	0.25	越中瀬戸－皿（621） 中世土師器－皿（620） 金属製品－釘（069）	中・近世
	SD009	079・085		軽い円弧	U字形	30.30	4.00	0.43		近世
	SD010	078・085		不整形	U字形	20.80	2.20	0.33	中世土師器－皿（624） 伊万里－碗（626，628）、皿（627） 金属製品－釘（072）	中・近世
	SD011	080・085		直線	逆台形	9.00	0.80	0.05		中・近世
	SD012	080・085		直線	逆台形	6.70	1.55	0.07		中・近世
	SD013	080・085		軽い円弧	不整形	12.80	1.70	0.44		中・近世
	SD014	081・085		自然流路	不整形	(20.10)	7.80	0.40	中世土師器－皿(622)　珠洲－擂鉢(623)　石製品－凹石(038)、石臼上(036)　近代陶磁器	中・近世
	SD015	081・085		不整形	不整形	(6.40)	1.90	0.23	伊万里－皿（630）　越中瀬戸－灯明受皿（629）	近世
	SD016	081・085		L字形	U字形	(5.80)	1.25	2.65		近世
	SD017	081・085		不整形	不整形	(16.40)	15.65	0.72	石製品－石臼上（037）	中・近世
	SD101	086・089		直線	U字形	3.55	0.30	0.05	土師器	古代
	SD102	086・089		L字形	U字形	7.60	0.50	0.24	須恵器－杯（668）	古代
A10地区	SD01	090		不整形	不整形	(12.00)	8.50	0.34	銅銭（103）	中・近世
A11地区	SD01	091		不整形	U字形	(15.00)	4.20	0.33		近世
	SD02	091		軽い円弧	U字形	(14.50)	3.50	0.65	越中瀬戸－皿（720，721）、 小杯（719）伊万里－皿（728）、 碗（722）唐津	近世
	SD03	091		直線	不整形	(24.20)	5.50	0.60	伊万里－大皿(726)、碗(724，725) 越中瀬戸－皿（723） 石製品	近世

溝一覧(4)

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形態	断面形態	長さ・m	幅・m	深さ・m	出土遺物	時期
A12地区	SD001	095・097		不明	不整形	(1.50)	1.80	0.12		近世
	SD002	092・097		直線	不整形	(1.10)	0.96	0.19		近世
	SD003	092・097		不整形	U字形	(1.10)	1.50	0.42	金属製品－棒状鉄製品 (081)	近世～近代
	SD004	092・097		直線	不整形	(1.10)	3.00	0.52	越中瀬戸－皿 (730)	近世
	SD005	095・097		不明	U字形	(1.10)	3.50	0.59	越中瀬戸	近世
	SD006	095・097		不明	逆台形	(1.20)	1.00	0.41		近世
	SD007	095・097		不明	U字形	(1.50)	1.00	0.45		中・近世
	SD008	094・097		直線	逆台形	(1.12)	0.49	0.22		中・近世
	SD009	095・097		不明	不整形	(1.30)	(3.25)	0.28		近世～近代
	SD010	094・097		直線	U字形	(1.20)	0.85	0.11		中・近世
	SD101	098・099		不明	不整形	(1.00)	4.30	0.43	須恵器	古代
A13地区	SD01	101・105		不整形	不整形	(31.00)	(5.00)	0.20	近世陶磁器	近世
	SD02	101・105		不整形	U字形	(24.50)	9.20	0.25		中世
	SD03	100・105		不整形	不整形	(35.00)	(9.70)	0.48	中世土師器－皿 (767～771) 八尾－甕 (773) 珠洲－甕 (775, 776) 石製品－砥石(044) 白磁 青磁 近世陶磁器 金属製品	中・近世
A14地区	SD01	106・109		不整形	逆台形	(3.00)	0.80	0.12		近世
	SD02	106・109		直線	逆台形	(7.00)	(0.45)	0.15		中世
	SD03	106・109		直線	U字形	1.60	0.50	0.15		中～近世
	SD04	106・109		不整形	不整形	3.20	0.80	0.21		中世
	SD05	106・109		直線	不整形	(8.30)	(1.00)	0.13		中世
	SD06	106・109		不整形	不整形	(10.00)	(1.80)	0.62	中世土師器－皿 (804) 珠洲－甕 (806) 白磁－皿 (803)	中世
	SD07	106・109		不整形	逆台形	(8.00)	1.00	0.11		中世
A15地区	SD001	111・113		直線	不整形	(24.90)	0.90	0.22		中世
	SD002	111・113		軽い円弧	U字形	1.80	0.30	0.04		中世
	SD003	111・113		L字形 途切れ	U字形	(29.00)	0.50	0.05		中世
	SD004	110・113		直線	不整形	(3.50)	0.55	0.10		中世
	SD005	112・113		直線	不整形	5.20	0.60	0.09		中世
	SD006	112・113		不整形	U字形～逆台形	11.40	1.60	0.08		中世
	SD007	111・113		蛇行	U字形	(15.00)	1.20	0.23		中世
	SD008	112・113		直線	U字形	(3.50)	0.75	0.09		中世
	SD009	111・113		直線	逆台形	(7.40)	0.90	0.12		中世
	SD010	111・113		不整形	不整形	(13.00)	7.50	0.23		中世
	SD011	112・113		不整形	不整形	8.70	1.90	0.10		中世
	SD012	112・113		不整形	不整形	(4.50)	3.10	0.34		中世
	SD101	114・116		L字形	U字形	5.00	0.78	0.06		古代
	SD102	115・116		蛇行	U字形	(39.0)	4.00	0.11	須恵器－杯B (818)	古代
A16地区	SD01	117・121		不整形	不整形	(24.00)	3.50	0.57	越中瀬戸－皿 (827, 829)、伊万里－碗 (828) 金属製品－煙管吸口 (100)	近世
	SD02	117・121		不整形	不整形	(10.00)	1.70	0.09		中世
	SD03	117・121		不整形	不整形～逆台形	(18.00)	1.50	0.17		中世
	SD04	117・121		直線	不整形	(26.00)	3.80	0.14	珠洲－擂鉢 (831, 832)	中世
	SD05	117・121		不整形	不整形	28.00	2.00	0.26		中世
	SD06	117・121		不整形	逆台形	(11.50)	1.20	0.12		中世
	SD07	117・121		直線	不整形	(30.00)	1.05	0.32		中世
	SD08	117・121		不整形	逆台形	(14.00)	1.50	0.06		中世
	SD09	117・121		不整形	不整形	(31.00)	1.50	0.33		中世
A18地区	SD01	123		不整形	不整形	(2.00)	1.60	0.42		中世

竪穴住居一覧

地区	遺構番号	図面番号	写真番号	平面形	長さ(長径)m	幅(短径)m	深さ・m	出土遺物	特記事項
A1・A4地区	SI01	028	018－1,2 033－1,2	方形	5.85	(1.20)	0.40	須恵器－壷(002)、杯(001) 土師器－甕(004～009)、鍋(017,018) 黒色土器－椀(003)	床面積7.02㎡～　SI02・SD101に切られる
	SI02	028	014－2 018－1,2 028－2	隅丸方形	3.45～3.75		0.18～0.30	須恵器－杯蓋(010～012)、杯A(013～016)　土師器－甕(019～029) 金属製品－棒状鉄製品(013)、 刀子(019)、鉄滓(054)	床面積(11.5)㎡　SI01を切る　SD101・SD103・SD104に切られる
	SI03	029	014－1 025－1,2 026－1,2	隅丸方形	2.63	(2.45)	0.15～0.25	須恵器－壷(030) 土師器－杯(031,032)、甕(033～036)	床面積4.97㎡～　カマドは確認できない
	SI04	029	014－1 025－1,2 027－1,2 028－1	隅丸方形	2.9～		0.10～0.20	須恵器－杯B(038～040)、杯(037) 土師器－杯(041～045)	床面積10.7㎡～　SD116に切られる　カマドは確認できないが袖石と思われる石が出土
	SI05	030	020－1,2	隅丸方形	(2.75)	2.20	0.17～0.46	須恵器－甕(059) 土師器－甕(055～058)	床面積5.0㎡～ SI06・SD118・SD121・SD152に切られる
	SI06	030	020－1 021－1,2	隅丸方形	3.20	2.65	0.25～0.35	土師器	床面積(7.9)㎡　SI04・SI05を切る
	SI07	031	029－1,2 030－1	隅丸長方形	4.20	3.60	0.25～0.45	須恵器－杯(046,047)、甕(054) 土師器－甕(048～053)　金属製品－刀子(020)、棒状鉄製品(022)	床面積16.1㎡　SI08・SD114に切られる
	SI08	032	013－1 015－2 022－1,2	隅丸方形	3.70		0.20～0.40	須恵器－杯蓋(063～065)、壷(062) 土師器－甕(060,066～081)、鍋(061)	床面積11.2㎡　SI07を切る　SI09・SD120に切られる
	SI09	033	013－1 017－1,2	隅丸方形	4.50	4.30	0.30	須恵器－杯蓋(082～084)、壷(090)、 杯A(086,088,089)、杯(085) 土師器－甕(091～093)、杯(087)、 鍋(094)　金属製品－鉄滓(057)	床面積13.0㎡
	SI10	034	015－1	不明	－	－	0.08～0.28	須恵器－杯(095)　土師器－甕(096～098)　黒色土器－椀(112,113)	床面積3.7㎡～
	SI11	034	004－1 013－2 023－1,2 024－1,2 032－1	隅丸方形	3.20～3.40		0.14～0.35	須恵器－杯蓋(099～101)、杯(102)、 杯A(103, 104, 108)、杯B(105)、 壷(106, 107)　土師器－杯(109)、 甕(110, 111)　金属製品－棒状鉄製品(015)、鉄鏃(017)、刀子(018)	床面積10.6㎡　カマド
	SI12	035	030－1 031－1,2	隅丸方形	3.70	(2.50)	0.35～0.70	須恵器－杯蓋(114,115)、杯A(116)、 杯B(117～119) 金属製品－鉄鏃(014)　土師器	床面積8.8㎡～　SI13・SI14に切られる
	SI13	035	019－1,2 030－1 031－1	隅丸方形	3.55	3.20	0.29～0.47	須恵器－壷(120) 土師器－鍋(130～132,156)、 甕(122～129)　黒色土器－椀(121)	床面積11.2㎡　SI12を切る
	SI14	036		方形	3.10		0.18	土師器－鍋(157)	床面積8.5㎡　カマドは確認できない
	SI15	036	032－2	方形	3.40	3.00	0.14～0.30	土師器－甕(142～145)　須恵器	床面積7.2㎡
	SI16	037	037－1,2	隅丸方形	3.00		0.06	須恵器－杯蓋(133)　土師器－鍋(158)	床面積9.8㎡
	SI17	037	037－1	不明	－		0.20	須恵器－杯B(134) 土師器－甕(141,149)、鍋(140)	
	SI18	038	037－1	不明	－	－	0.14	土師器－鍋(159)　須恵器	
	SI19	038	038－1 039－2	隅丸方形	2.45		0.25	土師器－甕(150)　須恵器	床面積6.9㎡
	SI20	039	041－2	隅丸方形	3.40		0.25	須恵器－甕(151)　土師器－甕(152)	床面積13.2㎡
	SI21	039	040－1,2	隅丸方形	3.30	3.10	0.07	土師器－甕(146～148)　須恵器	床面積8.3㎡
	SI22	040	038－1,2	不明	－		0.20	須恵器－杯(135)　陶磁器－緑釉椀(136)　金属製品－金環(021)　土師器	床面積(4.9)㎡　SD163に切られる
	SI23	040	038－1 039－1	不明	－	－	0.22	土師器　須恵器	
	SI24	040	041－1	不明	－	－	0.21	須恵器－杯(137)、杯A(138) 土師器－甕(139,153～155) 金属製品－鉄滓(055,056)	
A7・A8・A9地区	SI01	088	057－1,2 058－1,2 059－1,2	隅丸方形	3.10	2.85	0.24	須恵器－杯(640,641)、杯蓋(634～637)、 杯A(638,639)　土師器－杯(642～654)、 甕(655～665)、鍋(666)　金属製品－紡績車(077)、棒状鉄製品(070,071,073)、 コ字状鉄製品(075)、鉄滓(078～080)	カマド、袖石、貼り床確認
A12地区	SI01	099	064－1,2 065－1,2	隅丸方形	2.98	(1.45)	0.12	土師器－甕(740～746) 須恵器－杯A(747)	床面積4.28㎡　北東隅焼土確認　南・北調査区外に続く

土器・陶磁器一覧(1)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A1・A4地区	001	124	078	須恵器	杯A	SI01	13.0	3.8	6.1	0.35	0.65	3/4	古代	高台内ヘラ文字「成」	5BG6/1	青灰色	良	砂粒含－白色粒
	002	124	086－1	須恵器	壷	SI01		7.8	8.2	0.8	1.0	1/8	古代		N7/	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	003	124	097－2	黒色土器	椀	SI01	11.6	3.2		0.5		小片口縁部	古代	外面赤彩2.5YR5/8明赤褐色内外口縁端部にスス付着	2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白色粒
	004	124	093－1	土師器	甕	SI01	12.5	4.7		0.35(口縁部)		小片口縁部	古代	内面口縁端部にスス付着	10YR6/4	にぶい黄橙色	不良	砂粒含－白・灰・黒色粒
	005	124	093－1	土師器	甕	SI01		5.5	4.2	0.65		完形底部	古代	内外面一部スス付着	2.5Y7/1	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	006	124	093－1	土師器	甕	SI01	16.6	5.4		0.5(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR5/2	灰黄褐色	不良	砂粒含－白色粒
	007	124	093－1	土師器	甕	SI01	21.8	2.45		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR8/2	灰白色	良	微砂粒含－白色粒
	008	124	093－1	土師器	甕	SI01	22.0	3.4		0.7(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR8/3	浅黄橙色	不良	砂粒含－灰色粒
	009	124	093－1	土師器	甕	SI01	19.6	17.9		0.7		1/7口縁部	古代		10YR7/4	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	010	124	086－1	須恵器	杯蓋	SI02	11.4	2.1		0.85		1/3	古代	1群Ⅱb類	5Y8/1	灰白色	不良	砂粒含－白色粒
	011	124	086－1	須恵器	杯蓋	SI02	12.7	2.1		0.7		1/8	古代		5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	012	124	086－1	須恵器	杯蓋	SI02	16.0	2.7		0.8		1/4	古代	1群Ⅱb類	N7/	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	013	124	086－1	須恵器	杯A	SI02	11.9	3.15		0.6	0.4	1/6	古代		2.5Y8/2	灰白色	普通	微砂粒含－白色粒
	014	124	086－1	須恵器	杯A	SI02	11.0	3.5	6.0	0.6		1/8	古代		5Y7/2	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	015	124	077	須恵器	杯A	SI02	11.6	3.1	6.8	0.45	0.6	ほぼ完形	古代	口縁端部一部にスス付着	2.5Y7/2	灰黄色	普通	砂粒含－白色粒
	016	124	086－1	須恵器	杯A	SI02		1.85	6.4	0.5(下位)	0.8	1/4底部	古代		7.5Y5/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	017	124	093－1	土師器	鍋	SI01	31.8	5.5		0.9(口縁部)		小片口縁部	古代	外面口縁端部と内面口縁部にスス付着	10YR8/2	灰白色	良	砂粒含－白・透明色粒
	018	124	093－1	土師器	鍋	SI01	35.0	5.9		0.7(口縁部)		小片口縁部	古代	内面口縁部スス付着	2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	019	124	094－1	土師器	甕	SI02	11.5	3.6		0.4(口縁部)		1/3口縁部	古代	内外面にスス付着	10YR8/2	灰白色	良	砂粒含－黒色粒
	020	124	094－1	土師器	甕	SI02	13.8	3.2		0.4(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR7/2	明褐灰色	良	砂粒含－白色粒
	021	124	094－1	土師器	甕	SI02	13.6	5.1		0.5(口縁部)		1/8口縁部	古代	内外面口縁端部にスス付着	2.5Y8/2	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	022	124	079	土師器	甕	SI02	10.4	9.35	6.0	0.4	0.9	1/2	古代	内外面スス付着	10YR5/3	にぶい黄褐色	良	砂粒含－白色粒
	023	124	094－1	土師器	甕	SI02	18.9	3.0		0.7(口縁部)		小片口縁部	古代		5YR8/1	灰白色	良	微砂粒含－透明色粒
	024	124	094－1	土師器	甕	SI02	19.3	3.3		0.6(口縁部)		1/8口縁部	古代	外面口縁一部スス付着	2.5Y8/3	淡黄色	良	砂粒含－透明色粒
	025	124	094－1	土師器	甕	SI02	21.8	3.9		0.7(口縁部)		小片口縁部	古代	内面口縁部全体と外面口縁端部の一部にスス付着	5YR7/2	明褐灰色	良	砂粒含－灰色粒
	026	124	094－1	土師器	甕	SI02	23.6	4.65		0.6(口縁部)		1/4口縁部	古代		2.5Y8/2	灰白色	普通	砂粒含－白・灰・赤色粒
	027	124	094－1	土師器	甕	SI02	21.4	2.3		0.65(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR7/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白・黒色粒
	028	124	094－1	土師器	甕	SI02	21.0	9.6		0.65(口縁部)		1/3	古代	内外面一部スス付着	5YR8/2	灰白色	良	砂粒含－白・灰・茶色粒
	029	124	094－1	土師器	甕	SI02	21.4	7.85		0.7(口縁部)		1/8口縁部	古代	外面一部スス付着	5YR8/2	灰白色	普通	砂粒含－灰色粒
	030	124	088－1	須恵器	壷	SI03		6.3		1.2(口頸部)		小片口頸部	古代		N7/	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	031	124	091－2	土師器	杯	SI03	12.1	4.6	5.6	0.5	0.9	1/3	古代		10YR8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－白・黒色粒
	032	124	097－2	土師器	杯B	SI03		2.6	8.7	0.8(下位)	0.85	約1/2底部	古代	内面一部スス付着	5YR7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	033	124	091－2	土師器	甕	SI03	13.8	5.1		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代	内面口縁部にスス付着	2.5Y8/1	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	034	124	091－2	土師器	甕	SI03		7.1	4.0	0.5	0.9	1/2底部	古代	内外面にスス付着	2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	035	125	091－2	土師器	甕	SI03	17.7	2.2		0.8(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	036	125	091－2	土師器	甕	SI03	21.4	7.8		0.7(口縁部)		1/8口縁部	古代		10YR7/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	037	125	088－1	須恵器	杯	SI04	12.75	3.5		0.6		1/6	古代		2.5Y8/2	灰白色	不良	砂粒含－白色粒
	038	125	088－1	須恵器	杯B	SI04	10.9	4.1	7.6	0.4	0.6	2/3	古代		10Y8/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒

土器・陶磁器一覧(2)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A1・A4地区	039	125	088－1	須恵器	杯B	SI04	12.1	4.55	9.0	0.5	0.7	1/4	古代		N7/	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	040	125	088－1	須恵器	杯B	SI04	12.6	3.95	9.0	0.6	0.9	約1/8	古代		7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	041	125	078	土師器	杯	SI04	12.0	4.75	5.8	0.5	1.0	3/5	古代		10YR8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	042	125	078	土師器	杯	SI04	12.7	4.1	6.0	0.4	0.4	3/4	古代	内面全体にスス付着	2.5Y7/2	灰黄色	不良	砂粒含－白色粒
	043	125	097－2	土師器	杯	SI04	13.5	4.1	6.0	0.5	0.6	1/4	古代	内面全体にスス付着	2.5Y7/1	灰白色	普通	砂粒含－灰色粒
	044	125	078	土師器	杯	SI04	12.1	4.3	5.8	0.3	0.8	3/4	古代	内外面口縁部スス付着	7.5YR8/4	浅黄橙色	不良	砂粒含－白・赤色粒
	045	125	078	土師器	杯	SI04	12.0	4.9	5.0	0.4	0.8	2/3	古代		2.5Y8/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	046	125	086－1	須恵器	杯	SI07	9.5	2.4		0.5(口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y7/2	灰黄色	普通	微砂粒含－白色粒
	047	125	086－1	須恵器	杯	SI07	11.0	3.8		0.45		小片口縁部	古代		5YR5/2	灰褐色	良	砂粒含－白色粒
	048	125	093－1	土師器	甕	SI07	13.5	5.8		0.5(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR6/2	灰黄褐色	不良	砂粒含－白・灰・黒色粒
	049	125	093－1	土師器	甕	SI07	19.0	2.1		0.7(口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y7/2	灰黄色	不良	砂粒含－白色粒
	050	125	093－1	土師器	甕	SI07	17.8	10.0		0.65		小片口縁部	古代		5YR6/6	橙色	良	砂粒含－白・灰色粒
	051	125	093－1	土師器	甕	SI07	20.6	6.3		0.75(口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y8/2	灰白色	不良	砂粒含－白・灰・黒色粒
	052	125	093－1	土師器	甕	SI07	18.7	5.65		0.65(口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y8/2	灰白色	普通	砂粒含－白・灰・黒色粒
	053	125	094－1	土師器	甕	SI07		3.9	6.5	0.65(下位)	0.8	完形底部	古代		2.5Y8/2	灰白色	普通	砂粒含－白・灰・黒色粒
	054	125	090－1	須恵器	甕	SI07	26.0	11.8		1.1(口縁部)		1/5口縁部	古代	外面全体に自然釉.内面に当て具痕	10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	055	125	090－2	土師器	甕	SI05	13.6	4.65		0.5(口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y8/1	灰白色	不良	砂粒含－白・灰・赤色粒
	056	125	090－2	土師器	甕	SI05	14.7	6.1				小片口縁部	古代		2.5Y8/2	灰白色	不良	砂粒含－白・灰色粒
	057	125	090－2	土師器	甕	SI05	18.0	4.35		0.65(口縁部)		小片口縁部	古代	内外面全体にスス付着	7.5YR7/6	橙色	良	精良
	058	125	095－2	土師器	甕	SI05	21.0	14.6		0.5(口縁部)		1/8胴部＋口縁部	古代		2.5Y8/1	灰白色	不良	砂粒含－白・灰・黒・赤・透明色粒
	059	125	090－1	須恵器	甕	SI05		21.1		0.7		1/8胴部	古代	内面に当て具痕	7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白・灰色粒
	060	125	095－1	土師器	甕	SI08	19.1	3.1		0.8(口縁部)		1/8口縁部	古代		2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	061	125	095－1	土師器	鍋	SI08	42.8	2.0		0.7(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR7/3	にぶい橙色	良	微砂粒含－白色粒
	062	126	087－1	須恵器	壷	SI08	6.0			0.4(口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y5/1	黄灰色	良	砂粒含－白色粒
	063	126	077	須恵器	杯蓋	SI08	12.2	2.0		0.8		3/4	古代	1群Ⅰ類.自然釉	2.5Y6/1	黄灰色	良	砂粒含－白色粒
	064	126	086－1	須恵器	杯蓋	SI08	14.0	2.9		0.7		2/3	古代		2.5Y6/2	灰黄色	良	砂粒含－白色粒
	065	126	087－1	須恵器	杯蓋	SI08	14.2	1.9		1.0		約1/8	古代	2群Ⅱb類	7.5Y5/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	066	126	095－1	土師器	甕	SI08	10.7	4.45		0.7(口縁部)		1/6口縁部	古代	外面口縁一部スス付着	5YR7/8	橙色	不良	砂粒含－白色粒
	067	126	095－1	土師器	甕	SI08	12.6	3.1		0.6(口縁部)		1/5口縁部	古代	内外面口縁部にスス付着	7.5YR7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	068	126	079	土師器	甕	SI08	11.7	9.95	5.5	0.5	0.8	2/3	古代	内外面一部スス付着	7.5YR5/4	にぶい褐色	良	砂粒含－白・赤・灰色粒
	069	126	095－1	土師器	甕	SI08	12.8	3.25		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代	内外面口縁部にスス付着	5YR8/3	淡橙色	良	砂粒含－白・赤色粒
	070	126	095－1	土師器	甕	SI08	12.4	6.05		0.6(上位)		1/8口縁部	古代	内外面一部にスス付着	5YR7/4	にぶい橙色	良	微砂粒含－透明色粒
	071	126	079	土師器	甕	SI08	12.6	12.4		0.7	0.9	ほぼ完形	古代	内外面一部スス付着	10YR7/2	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白・灰・黒色粒
	072	126	095－1	土師器	甕	SI08	14.3	3.3		0.4(口縁部)		1/8口縁部	古代	内外面口縁部にスス付着	10YR5/3	にぶい黄褐色	良	砂粒含－灰色粒
	073	126	095－1	土師器	甕	SI08	12.3	6.9		0.4(口縁部)		1/8口縁部	古代	内外面にスス付着	5YR7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	074	126	095－1	土師器	甕	SI08	14.5	4.75		0.4(口縁部)		1/8口縁部	古代	内面口縁端部と外面一部にスス付着	10YR8/1	灰白色	良	微砂粒含－透明色粒
	075	126	095－1	土師器	甕	SI08	16.4	4.5		0.55(口縁部)		1/8口縁部	古代	外面にスス付着	7.5YR7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白・橙色粒
	076	126	095－2	土師器	甕	SI08	17.8	10.2		0.7		1/4胴部	古代	内外面にスス付着	10YR8/4	浅黄橙色	良	砂粒含－灰・茶・黒色粒
	077	126	095－2	土師器	甕	SI08	20.0	10.9		0.85		1/8口縁部胴部上位	古代	外面スス付着	5YR8/2	灰白色	良	砂粒含－白・灰・黒色粒

土器・陶磁器一覧(3)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A1・A4地区	078	126	095－1	土師器	甕	SI08	20.4	7.3		0.55(口縁部)		小片口縁部	古代	内外面スス付着	2.5Y8/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	079	126	095－1	土師器	甕	SI08	19.6	2.05		0.45(口縁部)		小片口縁部	古代	内外面口縁部にスス付着	2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	080	126	095－1	土師器	甕	SI08	19.0	12.55		0.65		1/8胴部上位	古代	外面5YR7/3にぶい橙色.内面一部と外面口縁端部にスス付着	7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－白・灰・茶・黒色粒
	081	126	095－2	土師器	甕	SI08	18.4	9.45		0.5		1/3口縁胴部上位	古代	内面全体に二次焼成時と思われる媒が付着 外面口縁端部と胴部にスス付着	7.5YR 7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白・黒色粒
	082	126	077	須恵器	杯蓋	SI09	12.0	2.3		0.5		2/3	古代	1群Ⅱb類	7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	083	126	077	須恵器	杯蓋	SI09	13.6	3.9		0.8		4/5	古代	1群Ⅱb類	N7/	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	084	126	087－1	須恵器	杯蓋	SI09	13.6	1.9		0.6		1/8	古代	詳細時期1群Ⅰ類	N7/0	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	085	126	087－1	須恵器	杯	SI09	14.0	3.0		0.4(口縁部)		小片口縁部	古代		N5/	灰色	良	微砂粒含－白・透明色粒
	086	126	087－1	須恵器	杯A	SI09	11.6	3.5		0.7	0.6	3/4	古代	外面全体スス付着	2.5Y8/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	087	126	087－1	土師器	杯	SI09	11.4	3.0		0.75	0.9	約1/2	古代		2.5Y8/3	淡黄色	不良	砂粒含－灰色粒
	088	126	087－1	須恵器	杯A	SI09	11.0	3.2		0.65	0.6	3/4	古代		N7/0	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	089	126	086－1	須恵器	杯A	SI09	10.8	3.2	7.6	0.5	0.5	1/5	古代		5Y6/2	灰オリーブ色	良	砂粒含－白色粒
	090	126	090－1	須恵器	壷	SI09		12.1		0.7		1/4胴部	古代	肩部に自然釉	10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	091	126	090－2	土師器	甕	SI09	21.2	5.05		0.6(口縁部)		1/8口縁部	古代	外面口縁部スス付着	2.5Y8/3	淡黄色	不良	砂粒含－白色粒
	092	126	090－2	土師器	甕	SI09	20.7	2.3		0.7(口縁部)		小片口縁部	古代	外面口縁部スス付着	10YR7/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	093	126	097－1	土師器	甕	SI09	22.2	7.7		0.5(口縁部)		1/6口縁部	古代		7.5YR 7/6	橙色	良	微砂粒含－白色粒
	094	126	090－2	土師器	鍋	SI09	36.1	6.7		0.8(口縁部)		小片口縁部	古代	内面一部と外面全体にスス付着	10YR8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－赤色粒
	095	126	086－1	須恵器	杯	SI10	13.6	2.9		0.45(口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y7/1	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	096	126	090－2	土師器	甕	SI10	12.4	6.55		0.5(口縁部)		1/8口縁部	古代	内面口縁端部一部スス付着	10YR8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	097	126	095－2	土師器	甕	SI10	13.2	5.0		0.7(口縁部)		1/2口縁部	古代	内面口縁端部スス付着.外面口縁端部一部スス付着	2.5YR 5/3	にぶい赤褐色	良	微砂粒含－透明色粒
	098	126	095－2	土師器	甕	SI10	23.7	3.1		0.8(口縁部)		1/3口縁部	古代	内外面口縁部にスス付着	7.5YR 6/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白・茶色粒
	099	127	087－2	須恵器	杯蓋	SI11	13.1	3.45		0.8		1/4	古代	1群Ⅱb類	5Y7/1	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	100	127	088－1	須恵器	杯蓋	SI11	12.8	1.9		0.9		1/8	古代	外面全体にスス付着 4群Ⅲ類	2.5Y8/2	灰白色	不良	砂粒含－黒色粒
	101	127	088－1	須恵器	杯蓋	SI11	12.2	1.8		0.6		1/3	古代	1群Ⅰ類	10Y7/1	灰白色	良	微砂粒含－白・透明色粒
	102	127	088－1	須恵器	杯	SI11	11.9	2.4		0.35		1/8	古代		5Y7/1	灰白色	不良	砂粒含－白色粒
	103	127	087－2	須恵器	杯A	SI11	11.6	3.0	8.4	0.35	0.4	1/8	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	104	127	087－2	須恵器	杯A	SI11		3.65	7.0	0.6(下位)	0.9	完形底部	古代		2.5Y8/1	灰白色	不良	砂粒含－白・黒色粒
	105	127	087－2	須恵器	杯B	SI11	12.2	4.0	8.6	0.6	0.8	1/3	古代		10Y8/1	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	106	127	087－2	須恵器	壷	SI11	13.65	4.7		0.4(口縁部)		小片口縁部	古代	内面口縁部スス付着	10Y7/1	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	107	127	088－1	須恵器	壷	SI11	16.2	3.7		0.4(口縁部)		小片口縁部	古代		N7/	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	108	127	087－2	須恵器	杯A	SI11	11.8	3.3		0.45		約1/8	古代		7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	109	127	078	土師器	杯	SI11	12..2	3.9	5.0	0.45	0.9	完形	古代		5YR8/3	淡橙色	良	砂粒含－白・赤色粒
	110	127	091－2	土師器	甕	SI11	9.8	3.75		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代	内外面口縁部スス付着	7.5YR 6/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	111	127	091－2	土師器	甕	SI11	24.4	3.35		0.7(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	112	127	097－2	黒色土器	椀	SI10	13.2	3.8	6.6	0.25	0.5	約1/8	古代	内黒7.5YR4/1褐灰色	7.5YR 8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	113	127	097－2	黒色土器	椀	SI10	12.0	3.5	5.0	0.4	0.5	2/3	古代	外面一部黒斑状の黒色化.内面5～6分割のミガキ黒色化	10YR7/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白・透明色粒
	114	127	087－1	須恵器	杯蓋	SI12	13.0	3.4		0.7		約1/2	古代		N6/	灰色	良	砂粒含－白色粒
	115	127	087－2	須恵器	杯蓋	SI12	17.4	3.6		1.0		2/3	古代	5群Ⅱb類	N7/	灰白色	良	砂粒含－白色粒

土器・陶磁器一覧(4)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A1・A4地区	116	127	087－1	須恵器	杯A	SI12	11.8	3.9		0.5	0.7	1/4	古代	内外面底部にスス付着	7.5Y8/1	灰白色	不良	微砂粒含－白色粒
	117	127	078	須恵器	杯B	SI12	11.0	4.0	7.8	0.5	0.8	ほぼ完形	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	118	127	087－1	須恵器	杯B	SI12	11.8	4.2	7.0	0.5	0.4	約1/2	古代		5BG7/1	明青灰色	良	砂粒含－白色粒
	119	127	078	須恵器	杯B	SI12	12.8	4.1	8.0	0.45	0.95	4/5	古代		5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	120	127	079	須恵器	壷	SI13		9.0	8.4	1.1	1.0	完形胴・底部	古代	外面に自然釉	7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白・黒色粒
	121	127	097－2	黒色土器	椀(内黒)	SI13	14.6	5.1		0.8		1/8	古代	外面赤彩5Y6/8橙色	2.5Y8/2	灰白色	良	微砂粒含－白色粒
	122	127	079	土師器	甕	SI13	12.9	10.25	5.2	0.4	0.5	1/2	古代	内面全面と外面一部にスス付着	7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－白・灰色粒
	123	127	097－1	土師器	甕	SI13	12.5	9.1		0.7		小片口縁部	古代		10YR7/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白・黒色粒
	124	127	079	土師器	甕	SI13	12.8	11.8	6.0	0.55	0.4	1/2	古代	内外面部分的にスス付着	2.5Y8/1	灰白色	良	砂粒含－白・黒色粒
	125	127	097－1	土師器	甕	SI13	14.2	2.1		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y8/2	灰白色	普通	砂粒含－灰白粒
	126	127	097－1	土師器	甕	SI13	13.8	7.7		0.7(口縁部)		1/6口縁部	古代	内外面全体にスス付着	10YR7/2	にぶい黄橙色	良	砂粒含－茶色粒
	127	127	097－1	土師器	甕	SI13		4.8	7.0	0.6	0.9	完形底部	古代		10YR8/4	浅黄橙色	良	砂粒含－白・灰・黒色粒
	128	127	096－2	土師器	甕	SI13	20.0	9.1		0.8		1/8口縁部	古代	内面口縁部スス付着	10YR7/4	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	129	127	097－1	土師器	甕	SI13	19.7	13.3		0.7		小片口縁部	古代		2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含－白・赤・灰色粒
	130	127	096－2	土師器	鍋	SI13	37.8	10.2		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 7/6	橙色	良	砂粒含－白色粒
	131	127	096－2	土師器	鍋	SI13	36.0	9.0		0.9(口縁部)		1/6口縁部	古代		10YR8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－白・赤・灰色粒
	132	127	090－2	土師器	鍋	SI13	35.6	17.5		0.8(口縁部)		1/8	古代	内外面一部スス付着	2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含－灰色粒
	133	128	101－2	須恵器	杯蓋	SI16	15.0	1.5		0.5		2/3	古代		N7/	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	134	128	101－2	須恵器	杯B	SI17	10.7	4.1	6.5	0.4	0.4	3/4	古代		7.5Y4/1	灰色	良	砂粒含－白・灰色粒
	135	128	101－2	須恵器	杯	SI22	11.4	2.6		0.6		1/8	古代		2.5Y8/1	灰白色	不良	砂粒含－白色粒
	136	128	080	緑釉陶器	椀	SI22	12.0	2.3		0.2(口縁部)		1/8口縁部	古代	緑釉7.5Y8/3淡黄色	2.5Y8/2	灰白色	良	精良
	137	128	101－1	須恵器	杯	SI24	14.0	2.6		0.3(口縁部)		小片口縁部	不明	内外面口縁部スス付着	2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白色粒
	138	128	101－1	須恵器	杯A	SI24	13.2	3.5	5.0	0.3	0.4	1/4口縁部	古代	内外面口縁部スス付着	2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白・灰色粒
	139	128	102－2	土師器	甕	SI24	10.0	3.9		0.4(口縁部)		小片口縁部	古代		2.5YR 6/6	橙色	良	砂粒含－白色粒
	140	128	102－2	土師器	鍋	SI17		3.2		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	141	128	102－2	土師器	甕	SI17		1.5		0.5(口縁部)		小片口縁部	古代	外面スス付着	7.5YR 8/2	灰白色	良	砂粒含－赤色粒
	142	128	091－2	土師器	甕	SI15	14.5	2.65		0.55(口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y8/2	灰白色	良	微砂粒含－白色粒
	143	128	091－2	土師器	甕	SI15	15.5	10.6		0.6		1/6口縁部	古代	内外面スス付着	7.5YR 6/3	にぶい褐色	良	砂粒含－白・灰色粒
	144	128	091－2	土師器	甕	SI15	20.6	4.0		0.7(口縁部)		小片口縁部	古代	内外面口縁部スス付着	7.5YR 7/6	橙色	良	砂粒含－灰色粒
	145	128	091－2	土師器	甕	SI15	21.2	9.4		0.7(口縁部)		1/8口縁部	古代	内外面スス付着	7.5YR 6/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白・灰色粒
	146	128	104－2	土師器	甕	SI21	17.5	2.6		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 8/2	灰白色	良	微砂粒含－白色粒
	147	128	104－2	土師器	甕	SI21	20.0	5.5		0.7(口縁部)		1/4口縁部	古代		7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－灰・黒色粒
	148	128	104－2	土師器	甕	SI21	18.4	13.6		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 8/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	149	128	102－2	土師器	甕	SI17	19.3	2.6		0.65(口縁部)		1/8	古代	外面スス付着	7.5YR 8/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	150	128	102－2	土師器	甕	SI19	21.8	2.5		0.75(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR8/4	浅黄橙色	良	砂粒含－白・灰色粒
	151	128	101－2	須恵器	甕	SI20	18.0	3.5		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y7/2	灰黄色	不良	微砂粒含－白色粒
	152	128	102－2	土師器	甕	SI20	21.0	6.4		0.8(口縁部)		小片口縁部	古代	外面スス付着	7.5YR 7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－灰色粒
	153	128	102－2	土師器	甕	SI24	23.3	4.2		0.5(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR7/2	にぶい黄橙色	良	微砂粒含－透明色粒
	154	128	102－2	土師器	甕	SI24	21.2	6.0		0.5(口縁部)		1/6口縁部	古代	外面一部スス付着	10YR8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒

土器・陶磁器一覧(5)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A1・A4地区	155	128	102－2	土師器	甕	SI24	22.2	25.3		0.7		1/8 口縁部	古代	外面一部ススト付着	7.5YR 8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	156	128	097－1	土師器	鍋	SI13	35.5	15.7		0.75		1/8	古代	内外面ススト付着	10YR7/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白・灰・茶色粒
	157	128	096－2	土師器	鍋	SI14	36.8	9.2		0.75 (口縁部)		1/6 口縁部	古代	外面ススト付着	10YR8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－白・灰・茶色粒
	158	128	102－2	土師器	鍋	SI16	36.4	5.5		0.9 (口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含－赤・灰色粒
	159	128	102－2	土師器	鍋	SI18	34.9	10.8		0.7 (口縁部)		小片口縁部	古代	外面ススト付着	10YR6/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白・灰色粒
	160	129	084－2	須恵器	杯B	SK209	9.5	4.0	5.5	0.4	0.45	1/5	古代	外面自然釉	N5/	灰色	良	砂粒含－白色粒
	161	129	084－1	須恵器	杯B	SK239	12.0	4.5	7.8	0.55	0.75	2/3	古代		5Y7/1	灰白色	普通	砂粒含－白・灰色粒
	162	129	084－1	須恵器	杯B	SK236	9.7	4.0	6.4	0.55	0.6	1/2	古代	高台内に線刻	5Y7/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	163	129	078	須恵器	杯B	SK239	13.2	5.7	7.4	0.5	0.7	1/2	古代		10Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	164	129	084－1	須恵器	杯A	SK239	12.3	3.2	8.8	0.5	0.55	1/6	古代		2.5Y8/2	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	165	129	094－2	土師器	甕	SK218	12.6	5.7		0.65		1/8 口縁部	古代	内面ススト付着	10YR6/4	にぶい黄橙色	良	微砂粒含－白色粒
	166	129	094－2	土師器	甕	SK235	12.8	4.4		0.6 (口縁部)		1/8	古代		7.5YR 5/3	にぶい褐色	普通	砂粒含－白・黒色粒
	167	129	083－1	須恵器	杯A	SD102	11.3	2.8	7.6	0.7	0.6	1/8	古代		2.5Y8/2	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	168	129	086－2	須恵器	杯蓋	SD106	12.3	1.95		0.5 (口縁部)		小片口縁部	古代	1群Ⅱb類.内外面口縁端部に自然釉	7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	169	129	086－2	須恵器	杯	SD106	12.2	2.9		0.4 (口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y6/1	黄灰色	普通	砂粒含－白色粒
	170	129	086－2	須恵器	杯A	SD106	11.8	3.25		0.5	0.7	1/6	古代		5Y7/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	171	129	086－2	須恵器	杯A	SD106	12.6	3.6	7.6	0.5	0.6	1/3	古代		N5/	灰色	良	砂粒含－白・灰色粒
	172	129	077	須恵器	杯A	SD116	13.4	3.05	5.2	0.5	0.6	3/5	古代		2.5Y6/1	黄灰色	良	砂粒含－白色粒
	173	129	088－2	須恵器	杯A	SD116		2.6	8.6	0.5	0.5	1/8 底部	古代		2.5Y8/1	灰白色	不良	砂粒含－灰色粒
	174	129	088－2	須恵器	杯	SD118	9.7	3.1	6.0	0.45	0.7	1/7	古代	内外面に自然釉	N7/	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	175	129	088－2	須恵器	杯B	SD118	10.7	3.3	7.1	0.35	0.7	2/3	古代		N7/	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	176	129	088－2	須恵器	杯B	SD121		2.7	7.8	0.65	0.6	1/5 底部	古代		2.5Y8/2	灰白色	不良	砂粒含－白・灰色粒
	177	129	088－2	須恵器	杯蓋	SD143	13.8	1.6		0.7		1/4	古代	1群Ⅰ類　外面一部自然釉	10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	178	129	090－2	土師器	甕	SK224	18.8	4.4		0.6 (口縁部)		小片口縁部	古代	内面口縁部ススト付着	7.5YR 8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	179	129	086－2	須恵器	甕	SD104	20.0	3.7		0.7 (口縁部)		小片口縁部	古代	外面口縁部一部に自然釉	10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	180	129	092－1	土師器	甕	SD118	20.8	8.8		0.8 (口縁部)		1/8	古代		7.5YR 8/2	灰白色	良	砂粒含－白・灰色粒
	181	129	092－1	土師器	杯	SD143	14.6	5.3		0.4 (口縁部)		1/8 口縁部	古代	内面赤彩2.5YR5/6明赤褐色	2.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	182	129	089－2	須恵器	壷	SD108	15.5	6.45		0.8 (口縁部)		小片口縁部	古代	内面口縁部自然釉	2.5Y7/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	183	129	088－2	土師器	杯A	SD112	11.8	3.2	6.8	0.7	1.1	1/3	古代		2.5Y8/2	灰白色	不良	砂粒含－白色粒
	184	129	083－1	須恵器	杯B	SD159	14.8	3.9	11.2	0.6	0.5	1/8	古代		5Y7/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	185	129	083－1	須恵器	杯蓋	SD161	17.8	1.9		0.45 (口縁部)		1/8	古代	1群Ⅰ類	10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	186	129	083－1	須恵器	杯	SD157	12.7	3.65		0.5		1/8 口縁部＋胴部	古代		2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白・灰色粒
	187	129	089－2	須恵器	壷	SD162	10.6	5.4		0.7 (口縁部)		小片口縁部	古代		7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	188	129	086－2	須恵器	杯A	SD163	11.65	3.25		0.5	0.5	1/8	古代		5Y7/2	灰白色	普通	微砂粒含－白色粒
	189	129	086－2	須恵器	杯A	SD163	11.5	2.8		0.5	0.8	1/5	古代		7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	190	129	085－1	須恵器	杯B	SD163	11.4	4.0	7.65	0.5	0.65	2/3	古代		7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	191	129	085－1	須恵器	杯	SD163	12.6	1.9		0.45 (口縁部)		小片口縁部	古代		7.5Y8/3	浅黄橙色	不良	砂粒含－白色粒
	192	129	085－1	須恵器	杯	SD163	12.7	3.3		0.5		1/8 口縁部	古代		5B6/1	青灰色	良	砂粒含－白色粒
	193	129	086－2	須恵器	杯A	SD163		2.75	7.8	0.6 (下位)	0.7	3/4 底部	古代		5Y7/1	灰白色	普通	砂粒含－白色粒

土器・陶磁器一覧(6)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A1・A4地区	194	129	086－2	須恵器	杯A	SD163	11.75	3.55		0.4	0.4	1/8	古代		7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	195	129	093－2	土師器	杯	SD163	11.9	4.15	6.2	0.4	0.5	1/3	古代		2.5Y8/2	灰白色	普通	砂粒含－白・灰・黒・赤色粒
	196	129	093－2	土師器	杯	SD163	14.7	4.2		0.5(口縁部)		1/8口縁部	古代	内面赤彩2.5YR5/6明赤褐色	2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	197	129	093－2	土師器	杯	SD163	11.6	3.7	5.6	0.6	0.7	1/2	古代	外面一部スス付着	2.5Y8/2	灰白色	普通	砂粒含－白・灰色粒
	198	129	093－2	土師器	杯	SD163	12.7	3.7		0.5		1/8	古代	赤彩2.5YR4/6赤褐色.内外面スス付着	2.5Y7/3	浅黄色	良	砂粒含－白色粒
	199	129	093－2	黒色土器	椀	SD163		2.2	5.0	0.55(下位)	0.8	1/8底部	古代	外面に一部黒斑.内面.内黒2.5Y2/1黒色	2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	200	129	093－2	土師器	甕	SD163	17.6	5.7		0.55(口縁部)		1/8口縁部	古代	外面口縁部一部スス付着	2.5Y8/1	灰白色	普通	砂粒含－灰色粒
	201	129	093－2	土師器	甕	SD163	20.1	6.05		0.75(口縁部)		1/8口縁部	古代		7.5YR 7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白・黒色粒
	202	129	088－2	須恵器	甕	SD163	21.6	5.2		0.6(口縁部)		1/8口縁部	古代		2.5Y7/1	灰白色	不良	微砂粒含－灰色粒
	203	129	093－2	土師器	甕	SD163	24.4	3.2		0.8(口縁部)		小片口縁部	古代	内面口縁部スス付着	7.5YR 8/4	浅黄橙色	良	砂粒含－白・灰色粒
	204	130	077	須恵器	杯蓋	SD163	13.7	3.1		1.0		約3/4	古代		2.5Y6/2	灰黄色	不良	砂粒含－白色粒
	205	130	085－1	須恵器	杯蓋	SD163	12.9	1.3		0.7		1/8	古代	1群Ⅰ類	2.5Y5/3	黄褐色	良	砂粒含－白色粒
	206	130	085－1	須恵器	杯蓋	SD163	15.7	2.4		0.8		1/8	古代	1群Ⅰ類	N7/	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	207	130	085－1	須恵器	杯蓋	SD163	12.6	1.7		0.7		1/4	古代	1群Ⅰ類　外面自然釉	5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	208	130	085－1	須恵器	杯蓋	SD163	12.9	1.25		0.7		1/8	古代	5群Ⅱb類	N8/	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	209	130	085－1	須恵器	杯蓋	SD163	13.9	1.7		0.4(口縁部)		約1/8	古代	2群Ⅰ類	N6/	灰色	良	砂粒含－白色粒
	210	130	085－1	須恵器	杯蓋	SD163	14.2	1.3		0.5		1/4	古代	1群Ⅰ類	7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	211	130	085－1	須恵器	杯B	SD163	12.7	3.8	8.2	0.5	0.5	1/2	古代	外面自然釉	N7/	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	212	130	078	須恵器	杯B	SD163	14.7	6.5	9.1	0.7	0.8	1/3	古代		7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	213	130	078	須恵器	杯B	SD163	11.8	3.1	8.0	0.4	0.9	1/2	古代		10YR6/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	214	130	085－1	須恵器	杯B	SD163	11.6	4.5	9.2	0.7	0.7	1/3	古代		N6/	灰色	良	砂粒含－白色粒
	215	130	100－1	須恵器	杯蓋	SD164				0.4		1/3	古代		2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白・黒色粒
	216	130	100－1	須恵器	杯蓋	SD164	11.0	1.4		0.4		1/5	古代	重ね焼A－2類だがD類の一番上か？　外面自然釉	7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白・黒色粒
	217	130	100－1	須恵器	杯蓋	SD164	12.0	1.7		0.5		1/8	古代	焼A2－a類	10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	218	130	100－1	須恵器	杯蓋	SD164	13.0	1.3		0.4(口縁部)		小片口縁部	古代	焼成B3－C3	5Y7/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	219	130	100－1	須恵器	杯蓋	SD164	13.0	1.6		0.7		小片口縁部	古代	重焼不明	5B6/1	青灰色	良	精良
	220	130	100－1	須恵器	杯蓋	SD164	13.0	1.6		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代		5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白・黒色粒
	221	130	100－1	須恵器	杯蓋	SD164	16.0	2.0		0.7		1/8	古代	重ね焼A類	7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白・黒色粒
	222	130	100－1	須恵器	杯蓋	SD164	12.5	2.8		0.8		1/4	古代	焼A類2a　外面自然釉	2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白・灰色粒
	223	130	100－1	須恵器	杯蓋	SD164	13.0	1.4		0.8		1/5	古代	焼不明	5B7/1	明青灰色	良	砂粒含－白色粒
	224	130	100－1	須恵器	杯蓋	SD164	14.0	1.6		0.5(口縁部)		1/8	古代	焼成A－2	7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	225	130	100－1	須恵器	杯蓋	SD164	14.0	1.7		0.5		1/8	古代	重ね焼A類2a	10Y8/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	226	130	080	須恵器	杯蓋	SD164	15.1	3.0		1.0		1/2	古代	重ね焼痕	N4/	灰色	良	砂粒含－白色粒
	227	130	100－1	須恵器	杯蓋	SD164	15.0	1.2		0.4(口縁部)		小片口縁部	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	228	130	101－1	須恵器	杯蓋	SD164	15.2	1.6		0.6		1/6	古代	重ね焼痕	7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	229	130	100－1	須恵器	杯蓋	SD164	19.0	2.3		0.7		1/8	古代	焼B3類－C3類	2.5Y7/2	灰黄色	普通	砂粒含－白・黒色粒
	230	130	100－1	須恵器	杯	SD164	11.6	2.9		0.4		1/8	古代		2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白色粒
	231	130	100－1	須恵器	杯A	SD164	10.6	2.8		0.35		1/6	古代	口縁重ね焼黒化	10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	232	130	100－1	須恵器	杯A	SD164	12.4	2.6		0.35		1/8	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白・黒色粒
	233	130	101－1	須恵器	杯A	SD164	11.9	3.2	7.2	0.3	0.5	1/2	古代		2.5Y7/1	灰白色	不良	砂粒含－白色粒

土器・陶磁器一覧(7)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A1・A4地区	234	130	100－1	須恵器	杯A	SD164	12.2	3.3	7.5	0.4	0.6	1/5	古代		2.5Y8/2	灰白色	不良	微砂粒含－白・透明色粒
	235	130	100－1	須恵器	杯A	SD164	11.3	3.1	8.45	0.4	0.3	1/8	古代		2.5Y7/1	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	236	130	100－1	須恵器	杯	SD164	11.0	2.7		0.4		1/8	古代		5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	237	130	100－1	須恵器	杯	SD164	12.0	2.8		0.4		1/8	古代		2.5Y7/2	灰黄色	普通	砂粒含－白色粒
	238	130	100－1	須恵器	杯	SD164	12.3	2.6		0.45		1/8	古代		5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	239	130	100－1	須恵器	杯	SD164	12.5	2.8		0.4		1/8	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	240	130	080	須恵器	杯A	SD164	12.0	3.2	6.0	0.4	0.6	ほぼ完形	古代		2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白・灰色粒
	241	130	103－1	土師器	杯	SD164	12.0	3.8	4.4	0.4	0.3	1/8	古代	両面赤彩2.5YR5/8明赤褐色	7.5YR 8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－灰色粒
	242	130	101－1	土師器	杯	SD164	11.4	3.5		0.35(口縁部)		小片口縁部	古代	内外面赤彩5YR6/8橙色	2.5Y7/2	灰黄色	良	微砂粒含－白色粒
	243	130	101－1	土師器	杯A	SD164	12.0	3.7	5.4	0.5	0.6	1/4	古代		5YR7/8	橙色	良	砂粒含－灰・赤色粒
	244	130	103－1	土師器	杯	SD164	13.0	3.1		0.35(口縁部)		1/8口縁部	古代		7.5YR 8/8	黄橙色	不良	砂粒含－白・赤色粒
	245	130	103－1	土師器	甕	SD164	10.0	2.3		0.45(口縁部)		1/8口縁部	古代	内面口縁外面全体スス付着	10YR7/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白・赤色粒
	246	130	103－1	土師器	甕	SD164	13.6	3.7		0.4(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR8/2	灰白色	不良	砂粒含－灰色粒
	247	130	102－2	土師器	甕	SD164	13.7	3.0		0.3(口縁部)		1/7口縁部	古代		7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－灰色粒
	248	130	103－1	土師器	甕	SD164	11.0	5.0		0.4(口縁部)		1/3口縁部	古代	内面口縁端部から外面全体にスス付着	2.5Y8/3	浅黄色	不良	砂粒含－白色粒
	249	130	103－1	土師器	甕	SD164		3.6	5.2	0.55(下位)	0.6	1/4底部	?		10YR7/1	灰白色	不良	砂粒含－白色粒
	250	130	103－1	土師器	甕	SD164	15.8	3.5		0.4(口縁部)		小片口縁部	古代	内外口縁一部スス付着	5YR7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－黒色粒
	251	130	102－2	土師器	甕	SD164	16.3	6.6		0.4(口縁部)		1/7口縁部	古代		10YR8/2	灰白色	良	砂粒含－灰・黒色粒
	252	130	102－2	土師器	甕	SD164	18.3	3.1		0.5(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－白・黒色粒
	253	130	102－2	土師器	甕	SD164	19.7	5.1		0.6(口縁部)		1/6口縁部	古代		7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－白・赤色粒
	254	130	103－1	土師器	甕	SD164	21.0	5.3		0.5(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	255	130	102－2	土師器	甕	SD164	21.0	2.1		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	256	130	102－2	土師器	甕	SD164	23.6	3.1		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 8/4	浅黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	257	130	103－1	土師器	甕	SD164	24.0	4.0		0.5(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 8/3	浅黄橙色	不良	砂粒含－白・灰色粒
	258	130	102－2	土師器	甕	SD164	22.5	4.3		0.7(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－黒色粒
	259	131	100－1	須恵器	杯A	SD164	10.7	2.8		0.3	0.5	1/8	古代		2.5Y7/1	灰白色	良	微砂粒含－白色粒
	260	131	100－1	須恵器	杯	SD164	11.4	3.3		0.4		1/8	古代	内外面口縁部にスス付着	2.5Y7/1	灰白色	不良	砂粒含－白・灰色粒
	261	131	100－1	須恵器	杯	SD164	14.0	3.7		0.35		1/8	古代		2.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白・灰・黒色粒
	262	131	101－1	須恵器	杯A	SD164	11.4	3.5	4.6	0.5	0.4	約1/3	古代	内外面口縁部スス付着	2.5Y7/1	灰白色	不良	砂粒含－白・灰色粒
	263	131	100－1	須恵器	杯	SD164	13.6	3.2		0.5		1/8	古代	外面に自然釉	5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	264	131	100－1	須恵器	杯	SD164	15.0	4.2		0.4		1/8	古代		7.5YR 6/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白・灰・黒色粒
	265	131	100－1	須恵器	杯	SD164	15.0	5.3		0.5		1/8口縁部	古代		2.5Y8/2	灰白色	不良	砂粒含－白・灰色粒
	266	131	100－1	須恵器	杯B	SD164	11.1	3.05	8.2	0.6	0.7	1/3	古代	内外面全体に自然釉	7.5YR 6/2	灰褐色	良	砂粒含－白色粒
	267	131	080	須恵器	杯B	SD164	12.8	4.5	8.0	0.7	0.8	2/3	古代	墨書土器高台内(墨書「長？」)	7.5Y7/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	268	131	100－1	須恵器	杯B	SD164	10.0	3.6	5.8	0.4	0.6	1/8	古代		5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	269	131	101－1	須恵器	杯B	SD164	10.3	4.2	5.4	0.5	0.45	1/4	古代	重ね焼き痕	7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	270	131	102－2	土師器	甕	SD164	23.2	2.3		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	271	131	103－1	土師器	甕	SD164	21.0	3.3		0.6(口縁部)		1/8口縁部	古代		10YR7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	272	131	103－1	土師器	甕	SD164	22.0	9.5		0.6(口縁部)		1/8口縁部	古代		7.5YR 8/2	灰白色	良	砂粒含－白・灰・赤色粒
	273	131	103－1	土師器	甕	SD164	22.8	10.3		0.4(口縁部)		1/4口縁部	古代		7.5YR 8/2	灰白色	良	砂粒含－白・灰・黒色粒

土器・陶磁器一覧(8)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A1・A4地区	274	131	103−1	土師器	鍋	SD164	36.0	6.0		0.7(口縁部)		小片口縁部	古代		5YR7/4	にぶい橙色	良	砂粒含−白･灰･赤色粒
	275	131	102−2	土師器	鍋	SD164	38.0	5.8		0.8(口縁部)		小片口縁部	古代	内面口縁部ス ス付着	7.5YR 8/4	浅黄橙色	良	砂粒含−白色粒
	276	131		土製品	土錘	SD164	1.0(孔径)	4.4(長)		3.2(幅)		2/3欠	古代	たるb？重量17.06g	2.5Y8/3	淡黄色	好	砂粒含−白・灰色粒
	277	131		土製品	土錘	SD164	0.5(孔径)	3.2(長)		1.7(幅)		1/4欠	古代	重量8.86g	2.5Y6/2	灰黄色	不良	砂粒含−白色粒
	278	131	084−2	須恵器	杯蓋		11.3	2.0		0.6		1/4	古代	5群Ⅱb類	7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含−白色粒
	279	131	084−2	須恵器	杯蓋		11.8	2.9		0.6		1/3	古代	1群Ⅱb類	5Y7/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	280	131	084−1	須恵器	杯蓋		12.7	2.35		0.7		1/4	古代	4群Ⅱb類	2.5Y7/1	灰白色	不良	砂粒含−白・黒色粒
	281	131	083−1	須恵器	杯蓋		12.5	1.7		0.6		小片口縁部	古代	1群Ⅰ類	7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	282	131	084−2	須恵器	杯蓋		14.8	2.2		0.6		1/4	古代	2群Ⅱb類	N5/	灰色	良	砂粒含−白色粒
	283	131	088−2	須恵器	杯蓋		14.8	1.8		0.75		1/4	古代	2群Ⅰ類	N6/	灰色	良	砂粒含−白色粒
	284	131	088−2	須恵器	杯蓋		15.8	2.5		0.9		1/3	古代	4群Ⅰ類	2.5Y7/2	灰黄色	普通	砂粒含−白色粒
	285	131	084−2	須恵器	杯蓋		16.4	1.4		0.45(口縁部)		小片口縁部	古代	3群Ⅱb類	7.5YR 5/2	灰褐色	良	砂粒含−白色粒
	286	131	077	須恵器	杯蓋		16.9	3.4		0.75		1/2	古代	1群Ⅱb類	2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含−白・黒色粒
	287	131	099−2	須恵器	杯蓋		19.5	2.9		0.9		1/6	古代		2.5Y6/2	灰黄色	良	砂粒含−白色粒
	288	131	083−1	須恵器	杯B		10.7	3.7		0.4		小片口縁部＋胴部	古代		2.5Y6/1	黄灰色	良	砂粒含−白色粒
	289	131	083−1	須恵器	杯A		10.6	3.1	6.4	0.4	0.6	1/4強	古代		N7/	灰色	良	砂粒含−白色粒
	290	131	084−2	須恵器	杯A		10.6	2.75	6.0	0.6	0.85	1/8	古代		10Y7/1	灰白色	普通	砂粒含−白色粒
	291	131	084−1	須恵器	杯A		11.4	3.05	6.9	0.5	0.55	1/3	古代		N7/	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	292	131	083−1	須恵器	杯A		12.1	3.15	8.4	0.6	0.7	1/4	古代		2.5Y7/1	灰白色	普通	砂粒含−灰色粒
	293	131	083−1	須恵器	杯A		12.0	3.5	7.7	0.5	0.6	1/4	古代		2.5Y6/1	黄灰色	良	砂粒含−白色粒
	294	131	077	須恵器	杯A		12.5	3.6	7.7	0.6	0.3	完形	古代	内面全体ス ス付着	2.5Y6/2	灰黄色	普通	砂粒含−白色粒
	295	131	094−2	土師器	甕		22.8	5.7		0.75(口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y8/3	淡黄色	良	砂粒含−白・黒色粒
	296	131	092−1	土師器	甕		22.0	2.8		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代	外面口縁部一部ス ス付着	5YR7/2	明褐灰色	良	砂粒含−白色粒
	297	131	092−1	土師器	甕		24.4	1.9		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 7/6	橙色	良	砂粒含−白･灰･黒色粒
	298	131	094−2	土師器	甕		23.7	6.8		0.75(口縁部)		小片口縁部	古代	外面一部ス ス付着	7.5YR 7/2	明褐灰色	良	砂粒含−白色粒
	299	131	092−1	土師器	甕		22.0	7.3		0.8(口縁部)		1/8口縁部	古代	内外面一部ス ス付着	7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含−白･灰･赤･透明色粒
	300	132	100−2	須恵器	杯蓋		11.0	2.0		0.5		1/8	古代	焼B−3類＋C−3類	N7/	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	301	132	102−1	須恵器	杯蓋		12.0	2.9	6.2	0.5		1/2	古代	重ね焼不明	5Y7/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	302	132	080	須恵器	杯蓋		12.8	2.3		0.7		4/5	古代	つまみは付かない	10Y6/1	灰色	良	砂粒含−白色粒
	303	132	099−2	須恵器	杯蓋		13.0	1.4		0.5(口縁部)		1/8口縁部	古代	焼不明	2.5Y7/1	灰白色	不良	砂粒含−白色粒
	304	132	100−2	須恵器	杯蓋		12.6	1.6		0.5		1/4	古代	重ね焼B1類.内外面口縁部自然釉,焼ぶくれなどが目立つ	2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含−白色粒
	305	132	077	須恵器	杯蓋		13.5	3.3		0.7		4/5	古代	1群Ⅰ類	N5/	灰色	良	砂粒含−白色粒
	306	132	100−1	須恵器	杯蓋		14.0	2.5		0.5(口縁部)		小片口縁部	古代	重ね焼B3類　外面口縁端部に自然釉	7.5Y7/1	灰白色	良	微砂粒含−白色粒
	307	132	100−1	須恵器	杯蓋		14.0	2.0		0.6		1/8	古代	重ね焼D類	10Y7/1	灰白色	良	微砂粒含−白・透明色粒
	308	132	080	須恵器	杯蓋		14.7	2.6		0.9		1/2	古代		N6/	灰色	良	砂粒含−白色粒
	309	132	100−2	須恵器	杯蓋		15.0	1.8		0.7		1/8	古代	重ね焼B3類	5B5/1	青灰色	良	砂粒含−白色粒
	310	132	102−1	須恵器	杯蓋		12.6	2.3		0.4		1/2	古代	重ね焼C類−2	10Y7/1	灰白色	良	砂粒含−黒色粒
	311	132	100−2	須恵器	杯蓋		11.7	1.1		0.5		1/8	古代		N7/	灰白色	不良	砂粒含−白色粒
	312	132	100−1	須恵器	杯蓋		11.8	2.0		0.6		1/8	古代	重ね焼B4類	5YR5/4	にぶい赤褐色	普通	砂粒含−白色粒

土器・陶磁器一覧(9)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A1・A4地区	313	132	099－2	須恵器	杯蓋		12.0	1.6		0.4		1/8	古代	重ね焼B類3・C類3.外面口縁端部に自然釉	N6/	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	314	132	100－2	須恵器	杯蓋		12.8	2.0		0.8		1/8	古代	外面口縁部に自然釉	2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白色粒
	315	132	100－2	須恵器	杯蓋		13.3	1.8		0.7		1/8	古代	焼B3類－C3類	7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	316	132	100－1	須恵器	杯蓋		14.0	1.8		0.6		1/8	古代	焼B3類・C3類	2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白・灰色粒
	317	132	100－2	須恵器	杯蓋		15.0	1.9		0.7		1/3	古代	重ね焼不明	2.5Y7/1	灰白色	不良	砂粒含－白・灰色粒
	318	132	100－2	須恵器	杯蓋		13.8	0.9		0.5		1/8	古代	重ね焼不明	7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	319	132	086－2	須恵器	杯蓋		14.9	2.0		0.9		3/4	古代	1群Ⅰ類.外面一部自然釉	2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白色粒
	320	132	102－1	須恵器	杯蓋		15.0	3.0		0.9		3/4	古代	重ね焼不明	2.5Y7/1	灰白色	不良	砂粒含－白色粒
	321	132	082－1	須恵器	杯蓋		12.1	2.3		0.8		約1/2	古代	5群Ⅱa類	2.5Y7/1	灰白色	不良	砂粒含－白色粒
	322	132	085－2	須恵器	杯蓋		12.0	2.5		0.5		1/8	古代	重ね焼D類	2.5Y8/2	灰白色	不良	砂粒含－白・赤色粒
	323	132	085－2	須恵器	杯蓋		13.3	2.1		0.8		約1/2	古代	1群Ⅰ類	7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	324	132	082－1	須恵器	杯蓋		13.4	1.35		0.9		1/5	古代	1群Ⅰ類	7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	325	132	082－1	須恵器	杯蓋			2.5		0.8		1/2	古代	2群Ⅱ,Ⅲ類.外面一部に自然釉	N7/	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	326	132	082－1	須恵器	杯蓋		13.3	2.1		0.7		1/6	古代	1群Ⅰ類	10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	327	132	082－1	須恵器	杯蓋		13.7	3.0		0.65		1/8	古代		2.5Y8/1	灰白色	不良	砂粒含－白色粒
	328	132	085－2	須恵器	杯蓋		11.7	2.75		0.8		1/3	古代	1群Ⅱa類　内面口縁部に自然釉	N8/	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	329	132	085－2	須恵器	杯蓋		12.3	2.5		0.6		1/3	古代	1群Ⅱa類.つまみ部分欠損	5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	330	132	082－1	須恵器	杯蓋		13.4	2.2		0.9		1/8	古代	1群Ⅱa類	2.5Y7/2	灰黄色	普通	砂粒含－灰色粒
	331	132	082－1	須恵器	杯蓋		13.1	2.3		0.6		1/8	古代	1群Ⅰ類	10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	332	132	082－1	須恵器	杯蓋		13.0	2.2		0.7		1/6	古代	2群Ⅰ類	7.5Y7/1	灰白色	良	微砂粒含－白色粒
	333	132	082－1	須恵器	杯蓋		13.0	2.1		0.8		1/2	古代	2群Ⅰ類	7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	334	132	082－1	須恵器	杯蓋		13.2	1.9		0.8		約1/4	古代		5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白・灰色粒
	335	132	082－1	須恵器	杯蓋		14.1	3.0		0.8		1/6	古代	2群Ⅲ類	10Y7/1	灰白色	良	微砂粒含－白色粒
	336	132	085－2	須恵器	杯蓋		14.2	2.2		0.5		1/3	古代	2群Ⅰ類	10Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	337	132	077	須恵器	杯蓋		15.2	3.6		0.7		ほぼ完形	古代	自然釉	2.5Y6/1	黄灰色	良	砂粒含－白色粒
	338	132	083－1	須恵器	杯A		11.7	3.1	7.7	0.6	0.5	約1/2	古代		2.5Y7/2	灰黄色	普通	砂粒含－白色粒
	339	132	077	須恵器	杯A		12.0	3.4	9.0	0.5	0.5	1/2	古代		N6/	灰色	良	砂粒含－白色粒
	340	132	082－2	須恵器	杯A		11.4	3.3		0.55	0.6	1/3	古代		5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	341	132	089－1	須恵器	杯A		11.6	3.3		0.5	0.5	1/3	古代		2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白色粒
	342	132	082－2	須恵器	杯A		12.0	3.2	8.8	0.4	0.55	1/8	古代		2.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	343	132	082－2	須恵器	杯A		11.6	3.1	8.0	0.5	0.5	1/3	古代		7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	344	134	103－2	土師器	杯		12.2	3.9	6.0	0.5	0.6	1/5	古代	底・体部外面赤彩5YR6/8橙色	10YR7/2	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	345	132	100－2	須恵器	杯A		10.7	2.9	6.8	0.5	0.6	1/3	古代		7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	346	132	101－1	須恵器	杯A		11.6	3.1	7.2	0.4	0.5	1/5	古代	重ね焼痕	7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	347	132	082－2	須恵器	杯A		11.4	3.1	6.7	0.4	0.5	1/2	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	348	132	087－2	須恵器	杯A		11.9	3.2	8.2	0.4	0.5	1/4	古代		5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	349	132	077	須恵器	杯A		12.9	3.1	8.2	0.6	0.7	4/5	古代		2.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	350	132	082－2	須恵器	杯A		11.7	3.1		0.4	0.4	1/2	古代		2.5Y6/2	灰黄色	普通	砂粒含－白色粒
	351	132	089－1	須恵器	杯A		11.35	3.3		0.5		1/8	古代		2.5Y7/1	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	352	132	084－1	須恵器	杯		12.0	2.25		0.4(口縁部)		小片口縁部	古代		5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒

土器・陶磁器一覧(10)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A1・A4地区	353	132	077	須恵器	杯A		11.7	3.2	8.0	0.6	0.5	1/2	古代		10Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	354	132	082－2	須恵器	杯A		11.6	3.0	7.5	0.6	0.7	1/3	古代		10Y8/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	355	132	077	須恵器	杯A		11.7	4.0	7.4	0.4	0.6	ほぼ完形	古代		N7/	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	356	132	082－2	須恵器	杯A		12.8	3.5		0.55	0.9	1/3	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	357	132	100－2	須恵器	杯A		11.7	3.6	7.0	0.4	0.7	1/4	古代		2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白・灰色粒
	358	132	089－1	須恵器	杯A		11.7	3.3		0.5	0.6	1/3	古代		2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白色粒
	359	132	100－2	須恵器	杯A		12.3	3.1		0.45		1/5	古代		2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白色粒
	360	132	082－2	須恵器	杯		11.4	3.4		0.65		1/7	古代		2.5Y7/2	灰黄色	普通	微砂粒含－白色粒
	361	132	089－1	須恵器	杯A		11.0	3.3	6.0	0.5	0.6	1/2	古代		2.5Y7/1	灰白色	普通	砂粒含－白・灰色粒
	362	132	082－2	須恵器	杯A		11.2	3.1	7.0	0.5	0.6	1/3	古代		7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	363	132	077	須恵器	杯A		11.4	3.2	7.0	0.4	0.5	3/4	古代		2.5Y6/2	灰黄色	良	砂粒含－白色粒
	364	132	082－2	須恵器	杯A		11.0	3.5	7.5	0.8	0.6	1/8	古代		2.5Y8/2	灰白色	不良	砂粒含－灰色粒
	365	132	080	須恵器	杯A		11.8	3.1	7.9	0.5	0.5	2/3	古代	重ね焼痕	N7/	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	366	132	082－2	須恵器	杯A		11.6	2.9	7.4	0.5	0.4	1/4	古代		5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	367	132	100－2	須恵器	杯A		11.7	3.85	8.0	0.4	0.7	1/6	古代		7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	368	132	084－1	須恵器	杯A			1.9	8.0	0.8(下位)	0.6	小片底部	古代		2.5Y7/1	灰白色	不良	砂粒含－白色粒
	369	132	082－2	須恵器	杯A			1.9	8.2		0.7	小片底部	古代		2.5Y7/1	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	370	133	078	須恵器	杯B		10.8	3.4	6.7	0.45	0.5	3/4	古代		5B6/1	青灰色	良	砂粒含－白色粒
	371	133	100－2	須恵器	杯B		11.6	3.6	5.3	0.7	0.9	1/3	古代		7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白・灰色粒
	372	133	084－2	須恵器	杯B		11.8	4.0	8.2	0.6	0.9	2/3	古代	内外面に自然釉	5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	373	133	083－2	須恵器	杯B		13.7	3.8	9.8	0.7	0.7	1/6	古代		2.5Y7/2	灰黄色	不良	砂粒含－白色粒
	374	133	083－2	須恵器	杯B		11.3	3.9	7.7	0.5	0.5	1/2	古代		7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	375	133	083－2	須恵器	杯B		11.2	3.9	7.1	0.6	0.6	約1/2	古代		2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	376	133	083－1	須恵器	杯B		11.8	3.5	8.0	0.6	0.6	1/8	古代		N6/	灰色	良	砂粒含－白色粒
	377	133	083－2	須恵器	杯B		12.7	4.1	8.0	0.4	0.8	1/3	古代		2.5Y7/2	灰黄色	普通	砂粒含－白・灰色粒
	378	133	083－2	須恵器	杯B		10.3	4.4	7.2	0.5	0.6	1/3	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	379	133	100－2	須恵器	杯B		11.2	4.4	6.2	0.4	0.7	1/3底部	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	380	133	083－2	須恵器	杯B		11.2	4.0	7.0	0.4	0.6	1/5	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	381	133	083－2	須恵器	杯B		13.6	3.6	9.5	0.6		1/4	古代		5Y7/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	382	133	078	須恵器	杯B		11.0	3.6	7.4	0.3	0.45	3/4	古代	内外面に自然釉.重ね焼痕	2.5Y6/1	黄灰色	良	砂粒含－白・黒色粒
	383	133	099－2	須恵器	杯B			4.2	7.2	0.5(下位)	0.65	1/4	古代		10Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	384	133	100－2	須恵器	杯B		12.0	3.8	7.6	0.4	1.0	ほぼ完形	古代		2.5Y7/2	灰黄色	普通	砂粒含－白色粒
	385	133	078	須恵器	杯B		14.4	4.7	9.8	0.4	0.5	7/8	古代	ヘラ記号「×」のある須恵器瓶の下から重なって出土	N6/	灰色	良	砂粒含－白色粒
	386	133	085－2	須恵器	杯B		14.0	6.3	9.5	0.6	0.8	1/2	古代	外面高台付近と内面一部にスス付着	2.5Y7/1	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	387	133	078	須恵器	杯B		14.8	5.9	10.0	0.55	0.7	3/4	古代		5B5/1	青灰色	良	砂粒含－白色粒
	388	133	085－2	須恵器	杯B		16.2	6.4	10.2	0.5	0.8	1/3	古代		5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	389	133	083－2	須恵器	杯B			2.1	8.2		0.75	2/3底部	古代		10YR8/4	浅黄橙色	不良	砂粒含－白色粒
	390	133	083－2	須恵器	杯B			3.0	7.8	0.6		1/8底部	古代		2.5Y7/1	灰白色	不良	砂粒含－白色粒
	391	133	083－2	須恵器	杯B			2.25	8.0		0.6	1/2底部	古代		2.5Y7/2	灰黄色	普通	砂粒含－白・黒色粒
	392	133	089－1	須恵器	皿		13.4	1.8		0.4	0.6	小片口縁部	古代		10R5/4	赤褐色	良	砂粒含－白色粒

土器・陶磁器一覧(11)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A1・A4地区	393	133	085－2	須恵器	皿			2.7			0.5	1/4 底部	古代		7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	394	133	082－2	須恵器	皿		13.5	1.6	10.1	0.4	0.5	約1/8	古代		5YR4/4	にぶい赤褐色	良	砂粒含－白色粒
	395	133	085－2	須恵器	皿			2.7	7.0		0.6	完形底部	古代		5Y8/1	灰白色	不良	砂粒含－白・灰色粒
	396	133	089－1	須恵器	皿			1.5	5.0	0.5 (下位)	0.9	1/2 底部	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白・黒色粒
	397	133	084－2	須恵器	鉢		27.4	6.5		0.8 (口縁部)		1/8 口縁部	古代		2.5Y8/2	灰白色	不良	微砂粒含－白色粒
	398	133	089－1	須恵器	壷		8.6	3.5		0.5 (口縁部)		2/3 口縁部	古代	内外面口縁部に自然釉	10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白・黒色粒
	399	133	089－1	須恵器	横瓶		8.2	2.65		0.5 (口縁部)		小片口縁部	古代	外面口縁端部と内面口縁部に自然釉	5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	400	133	089－1	須恵器	壷		9.5	2.0		0.65 (口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y6/2	灰黄色	良	砂粒含－白色粒
	401	133	100－2	須恵器	甕		19.8	3.8		1.1 (口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y8/1	灰白色	不良	微砂粒含－白色粒
	402	133	084－1	須恵器	甕		24.2	2.9		0.75 (口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y6/1	黄灰色	良	砂粒含－白・灰色粒
	403	133	089－2	須恵器	壷		8.5	9.7		0.6		1/4 口縁部	古代	外面に自然釉	2.5Y6/1	黄灰色	良	砂粒含－白色粒
	404	133	089－1	須恵器	壷		9.4	4.1		0.5 (口縁部)		1/6 口縁部	古代	外面自然釉	10Y8/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	405	133	084－2	須恵器	壷			6.6		0.4 (口縁部) 1.1 (肩部)		1/5 肩部	古代	外面自然釉	2.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	406	133	089－1	須恵器	壷		13.6	4.8		1.0 (口縁部)		1/8 口縁部	古代	内面口縁端部に自然釉	5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	407	133	084－1	須恵器	壷		10.4	6.9		0.7 (口頸部)		小片口頸部	古代		2.5Y7/1	灰白色	普通	微砂粒含－白・灰色粒
	408	133	079	須恵器	壷			7.5	8.5	0.6	1.2	3/4	古代	高台内ヘラ記号「×」 内外面一部に自然釉	10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白・黒色粒
	409	133	089－2	須恵器	壷			11.5		0.8		小片胴部	古代	外面全体に自然釉 内面に当て具痕	N7/	灰白色	良	精良
	410	133	079	須恵器	壷		9.6	20.5	12.0	0.7	0.5	4/5	古代	外面自然釉	7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	411	134	089－1	須恵器	壷		10.5	7.1		0.45 (口縁部)		1/8 口縁部	古代	外面口縁部に自然釉	7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	412	134	101－1	須恵器	壷		21.3	4.2		0.5 (口縁部)		小片口縁部	古代		7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	413	134	102－1	須恵器	甕		18.4	10.9		1.2 (口縁部)		1/4 口縁部	古代		2.5Y7/1	灰白色	不良	砂粒含－灰白粒
	414	134	089－2	須恵器	甕		22.6	5.4		1.15 (口縁部)		1/2 口縁部	古代	内面に当て具痕	2.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	415	134	102－1	須恵器	甕		21.2	7.9		1.0 (口縁部)		1/4 口縁部	古代	内外面口縁部に自然釉	7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白・灰色粒
	416	134	089－2	須恵器	甕		24.0	6.1		1.3 (口縁部)		1/4 口縁部	古代	内面口縁部に当て具痕	2.5Y8/1	灰白色	不良	砂粒含－白色粒
	417	134	083－1	須恵器	壷			5.0	12.0	1.2 (下位)	1.0	小片底部	古代	内面自然釉	2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白色粒
	418	134	080	緑釉陶器	椀			1.6	9.0	0.6 (下位)	0.7	2/3 底部	古代	京都系軟陶 緑釉淡緑色	2.5Y8/3	淡黄色	良	砂粒含－白色粒
	419	134	077	須恵器	杯A		11.9	2.8	7.0	0.4	0.6	2/3	古代	墨書土器高台内(墨書判読不明)	2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	420	134	098－1	土師器	杯			1.4	5.0	0.5 (下位)	0.5	完形底部	古代	墨書土器高台内(墨書「城長」)	7.5YR 8/6	浅黄橙色	不良	砂粒含－白・透明色粒
	421	134	098－1	須恵器	杯B			2.05	7.2	0.6 (下位)	0.6	1/2 底部	古代	墨書土器高台内(墨書判読不明)	2.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	422	134	078	土師器	杯		11.65	4.4	4.7	0,4	0.65	2/3	古代	墨書土器(墨書判読不明)	7.5YR 8/1	灰白色	良	砂粒含－白･灰･赤色粒
	423	134	103－2	土師器	杯		12.0	2.9	5.6	0.3	0.2	1/3	古代	内外面全体赤彩2.5YR4/6赤褐色	2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	424	134	094－2	土師器	杯		13.4	3.7	5.8	0.6		1/8	古代		7.5YR 8/3	浅黄橙色	不良	砂粒含－白・灰色粒
	425	134	096－1	土師器	杯			1.7	6.1	0.7 (下位)	0.6	小片底部	古代		10YR8/3	浅黄橙色	不良	砂粒含－白色粒
	426	134	096－1	土師器	杯		12.5	3.85		0.5	0.75	1/3	古代		5YR8/4	淡橙色	良	砂粒含－白･灰･赤色粒
	427	134	092－1	土師器	杯		13.7	3.7		0.4 (口縁部)		小片口縁部	古代	内 黒？2.5Y4/1黄 灰 色 (摩擦してミガキなし)	2.5Y8/2	灰白色	普通	砂粒含－白・灰色粒
	428	134	096－1	土師器	杯			2.0	7.0	0.5 (下位)	0.6	1/4 底部	古代	赤彩2.5YR5/8明赤褐色	10YR7/2	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	429	134	096－1	黒色土器	皿		12.4	2.5		0.65		小片口縁部	古代	内黒10YR3/1黒褐色	10YR8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	430	134	094－2	黒色土器	椀			1.5	8.8		1.1	1/4 底部	古代	内黒7.5Y3/1黒褐色	7.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含－灰色粒
	431	134	098－2	黒色土器	椀			1.5	5.0	0.65 (下位)	0.5	1/8 底部	古代	内黒5Y2/1黒色	5YR8/3	淡橙色	良	精良

土器・陶磁器一覧(12)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A1・A4地区	432	134	096－1	黒色土器	椀			2.15	5.0	0.4(下位)	0.6	2/3底部	古代	内黒10YR2/1黒色	10YR8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	433	134	098－2	黒色土器	椀		14.8	3.9		0.75(口縁部)		約1/8	古代	内外面口縁部黒化処理.内黒2.5Y2/1黒色.外面赤彩2.5YR5/8明赤褐色	2.5Y8/2	灰白色	良	微砂粒含－白色粒
	434	134	098－2	黒色土器	椀		17.8	3.2		0.4(口縁部)		小片口縁部	古代	内黒2.5Y2/1黒色	2.5Y7/2	灰黄色	良	微砂粒含－透明色粒
	435	134	098－2	黒色土器	椀			1.7	5.9	0.6(下位)	0.7	小片底部	古代	内黒10YR3/1黒褐色	10YR8/2	灰白色	良	砂粒含－透明色粒
	436	134	096－1	土師器	甕		10.6	3.8		0.45(口縁部)		小片口縁部	古代		2.5YR 6/8	橙色	不良	砂粒含－白・赤・黒色粒
	437	134	096－1	土師器	甕		11.6	7.6		0.4		1/8口縁部	古代	外面全体と内面一部スス付着	10YR8/2	灰白色	良	砂粒含－灰色粒
	438	134	092－1	土師器	甕		13.7	3.4		0.4(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR5/3	にぶい黄褐色	良	微砂粒含－透明色粒
	439	134	103－1	土師器	甕		14.0	3.8		0.4(口縁部)		1/6(口縁部)	古代		7.5YR 8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	440	134	092－2	土師器	甕		10.8	3.8		0.5(口縁部)		1/8口縁部	古代	内面口縁端部と外面全体スス付着	7.5YR 8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－白・灰色粒
	441	134	103－1	土師器	甕		13.0	7.5		0.4(口縁部)		約1/2口縁部	古代	口縁部一部スス付着	7.5YR 8/6	浅黄橙色	良	砂粒含－白・灰・黒色粒
	442	134	103－2	土師器	甕		14.6	6.6		0.5(口縁部)		1/4口縁部	古代		10YR7/4	にぶい黄褐色	良	砂粒含－白色粒
	443	134	103－2	土師器	甕		11.4	4.5		0.4(口縁部)		1/4口縁部	古代		2.5Y6/1	黄灰色	不良	砂粒含－白・黒色粒
	444	134	103－1	土師器	甕		13.0	4.8		0.4(口縁部)		1/8口縁部	古代		7.5YR 8/4	浅黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	445	134	096－1	土師器	甕		11.5	9.85		0.55(口縁部)		1/8	古代	外面全体と内面口縁端部にスス付着	10YR8/2	灰白色	良	砂粒含－白・灰色粒
	446	134	092－2	土師器	甕		12.8	4.8		0.6(口縁部)		1/8口縁部	古代		10YR8/2	灰白色	不良	砂粒含－白・灰色粒
	447	134	103－2	土師器	甕		14.6	5.6		0.6(口縁部)		1/8口縁部	古代		7.5YR 8/1	灰白色	普通	砂粒含－灰・赤色粒
	448	134	096－1	土師器	甕			4.2	5.4	0.6(下位)	0.7	完形底部	古代		5YR6/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白・灰色粒
	449	135	091－1	土師器	甕		15.6	2.15		0.65(口縁部)		小片口縁部	古代	内面口縁部スス付着	7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	450	135	091－1	土師器	甕		16.8	3.0		0.75(口縁部)		小片口縁部	古代	内外面口縁部一部スス付着	7.5YR 7/2	明褐灰色	良	砂粒含－白色粒
	451	135	091－1	土師器	甕		18.1	3.85		0.85(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR8/1	灰白色	普通	砂粒含－白・灰色粒
	452	135	103－2	土師器	甕		17.2	2.6		0.5(口縁部)		1/8口縁部	古代		10YR5/3	にぶい黄褐色	不良	砂粒含－白色粒
	453	135	104－1	土師器	甕		16.4	6.9		0.7(口縁部)		1/4口縁部	古代		10YR7/4	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白・赤色粒
	454	135	091－1	土師器	甕		18.9	4.4		0.75(口縁部)		1/4口縁部	古代		7.5YR 8/2	灰白色	良	砂粒含－茶色粒
	455	135	103－2	土師器	甕		19.2	5.0		0.6(口縁部)		1/8	古代		5YR7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白・灰色粒
	456	135	103－2	土師器	甕		19.2	2.8		0.6(口縁部)		1/8口縁部	古代		10YR6/4	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	457	135	103－2	土師器	甕		17.6	4.7		0.7(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR7/3	にぶい黄橙色	普通	砂粒含－白・赤色粒
	458	135	094－2	土師器	甕		18.6	4.8		0.8(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	459	135	104－1	土師器	甕		20.0	4.7		0.5(口縁部)		1/4口縁部	古代		7.5YR 8/6	浅黄橙色	良	砂粒含－黒色粒
	460	135	104－2	土師器	甕		18.0	4.7		0.5(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 5/4	にぶい褐色	良	砂粒含－白色粒
	461	135	104－1	土師器	甕		19.2	7.6		0.5(口縁部)		1/5口縁部	古代		2.5YR 6/6	橙色	不良	砂粒含－白・灰・黒色粒
	462	135	091－1	土師器	甕		20.3	2.6		0.85(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 6/4	にぶい橙色	良	微砂粒含－白・透明色粒
	463	135	091－1	土師器	甕		20.9	5.9		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代	内外面一部スス付着	10YR8/2	灰白色	普通	砂粒含－白・灰色粒
	464	135	103－2	土師器	甕		18.0	5.0		0.5(口縁部)		1/8口縁部	古代		10YR8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－白・灰・赤・透明色粒
	465	135	092－2	土師器	甕		18.0	2.7		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 6/3	にぶい褐色	良	砂粒含－白色粒
	466	135	091－1	土師器	甕		19.4	5.2		0.7(口縁部)		1/4口縁部	古代	内外面一部スス付着	7.5YR 7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白・灰・透明色粒
	467	135	103－1	土師器	甕		16.8	3.2		0.5(口縁部)		1/8口縁部	古代		7.5YR 7/6	橙色	良	砂粒含－白・灰・黒色粒
	468	135	103－2	土師器	甕		17.7	10.3		0.8(口縁部)		1/8口縁部	古代		7.5YR 8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－白・灰色粒
	469	135	092－2	土師器	甕		20.3	1.6		0.7(口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y8/2	灰白色	良	微砂粒含－透明色粒

土器・陶磁器一覧(13)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A1・A4地区	470	135	103－1	土師器	甕		20.0	3.6		0.5(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR8/2	灰白色	良	砂粒含－白・灰・黒色粒
	471	135	102－2	土師器	鍋		40.8	6.2		0.75(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－白・灰色粒
	472	135	104－1	土師器	鍋		41.0	12.5		0.7		1/8	古代		7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－白・灰・黒色粒
	473	135	091－1	土師器	鍋		37.9	6.6		0.8(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白・黒色粒
	474	135	091－1	土師器	鍋		39.3	6.9		0.8(口縁部)		小片口縁部	古代	外面口縁部スス付着	10YR8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－白・灰色粒
	475	136	091－1	土師器	甕		20.5	5.4		0.75(口縁部)		小片口縁部	古代	内面口縁部一部スス付着	10YR8/1	灰白色	良	微砂粒含－透明色粒
	476	136	091－1	土師器	甕		20.0	8.85		0.75(口縁部)		1/8口縁部	古代		5YR7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白・灰色粒
	477	136	104－1	土師器	甕		23.5	5.6		0.5(口縁部)		1/8	古代		10YR8/4	浅黄橙色	不良	砂粒含－黒色粒
	478	136	092－2	土師器	甕		24.3	2.6		0.7(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	479	136	103－1	土師器	甕		23.0	7.2		0.5(口縁部)		1/8口縁部	古代		7.5Y8/1	灰白色	良	砂粒含－白・黒色粒
	480	136	092－2	土師器	甕		21.7	2.2		0.9(口縁部)		小片口縁部	古代		2.5YR 6/8	橙色	良	砂粒含－白・灰・赤・黒・透明色粒
	481	136	096－1	土師器	甕		20.9	2.3		0.75(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 7/2	明褐灰色	良	砂粒含－灰色粒
	482	136	091－1	土師器	甕		21.7	4.8		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	483	136	091－1	土師器	甕		21.4	7.0		0.7(口縁部)		小片口縁部	古代	外面全と内面所々にスス付着	10YR7/2	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	484	136	091－1	土師器	甕		23.0	3.2		1.0(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR8/2	灰白色	普通	砂粒含－灰・赤色粒
	485	136	091－1	土師器	甕		26.2	7.3		0.5(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 8/4	浅黄橙色	普通	砂粒含－白・灰・赤色粒
	486	136	092－2	土師器	鍋		31.6	7.7		0.6(口縁部)		1/8口縁部	古代	内外面スス付着	7.5YR 7/6	橙色	普通	砂粒含－白・灰・黒・赤・透明色粒
	487	136	091－1	土師器	鍋		33.1	10.1		0.8(口縁部)		1/8口縁部	古代	外面スス付着	10YR7/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	488	136	092－1	土師器	鍋		33.9	10.85		0.8(口縁部)		小片口縁部	古代	外面一部スス付着	7.5YR 8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	489	136	104－1	土師器	鍋		33.8	8.5		1.0(口縁部)		小片口縁部	古代	内外面一部スス付着	7.5YR 5/3	にぶい褐色	良	微砂粒含－透明色粒
	490	136	092－2	土師器	鍋		34.6	6.4		0.6(口縁部)		1/5口縁部	古代	外面コゲ付着	10YR8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	491	136	104－1	土師器	鍋		35.4	8.7		0.8(口縁部)		1/8口縁部	古代	内面口縁部と外面一部にスス付着	7.5YR 7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	492	136	102－2	土師器	鍋		38.3	7.15		0.8(口縁部)		小片口縁部	古代		5YR7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－白・灰・黒色粒
	493	136	096－1	土師器	鍋		34.1	3.9		0.8(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－白・黒色粒
	494	136	104－1	土師器	鍋		40.0	5.8		0.8(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 8/2	灰白色	良	砂粒含－白・灰・黒色粒
	495	137	099－1	白磁	碗	SD014	16.8	2.9		0.4(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅳ類　白磁釉2.5Y7/2灰黄色	2.5Y8/1	灰白色	良	精良
	496	137	092－1	中世土師器	皿	SD015	9.8	2.75	4.4	0.4	1.0	3/4	中世	K類	10YR8/1	灰白色	不良	砂粒含－白・灰・赤色粒
	497	137	105－1	越中瀬戸	皿	SD017	10.2	2.35		0.5		1/3	近世	灰釉7.5Y5/3灰オリーブ色	7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	498	137	105－1	越中瀬戸	天目茶碗	SD018	10.6	5.8		0.6		1/5	近世	鉄釉7.5YR3/4暗褐色	7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	499	137	105－2	珠洲	スリ鉢	SK083		5.0		1.0(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅴ期　口縁端部櫛目波状文　卸目5条一単位	7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	500	137	099－2	珠洲	スリ鉢	SK094	33.4	5.9		1.4(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅳ2期	10Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	501	137	105－1	青磁	碗	SK084	14.6	2.0		0.35(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅴ類4a4b又　はⅤⅢ・1青磁釉7.5Y7/2灰白色	7.5Y7/1	灰白色	良	精良
	502	137	099－1	珠洲	甕	SD014	39.2	7.3		1.5(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅱ2期　内面に当て具痕	N7/	灰白色	良	砂粒含－白・灰色粒
	503	137		珠洲	スリ鉢		35.0			1.1(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅴ期	N6/	灰色	良	微砂粒含－白色粒
	504	137	105－1	中世土師器	皿		7.0	1.2	2.2	0.4(口縁部)	0.3	1/4	中世	B1類　前Ⅸ～後Ⅰ期	2.5YR 6/6	橙色	良	砂粒含－白・灰・赤・透明色
	505	137	105－1	中世土師器	皿		9.0	1.6		0.5(口縁部)	0.4	1月4日	中世	B1類　前Ⅸ～後Ⅰ期	7.5YR 6/6	橙色	良	砂粒含－白・透明色粒
	506	137	105－1	中世土師器	皿		7.5	1.5		0.4(口縁部)	0.3	完形	中世	B1類　前Ⅸ～後Ⅰ期　口縁端部スス付着	10YR8/2	灰白色	良	精良
	507	137	099－1	中世土師器	皿		12.2	2.1		0.4(口縁部)		小片口縁部	中世	B3類　前Ⅵ期	10YR8/2	灰白色	良	精良
	508	137	099－1	中世土師器	皿		11.5	1.9	7.6	0.55(口縁部)		小片口縁部	中世	A1類　前Ⅶ期	10YR8/2	灰白色	良	微砂粒含－透明色粒

土器・陶磁器一覧(14)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A1・A4地区	509	137	099－1	珠洲	スリ鉢		26.0	5.0		0.9(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅱ期	5B6/1	青灰色	良	砂粒含－白色粒
	510	137	099－1	珠洲	スリ鉢		26.6	6.3		1.1(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅳ2期　卸目8条一単位	2.5Y7/3	浅黄色	普通	砂粒含－白色粒
	511	137	099－1	珠洲	スリ鉢		26.3	6.7		1.0(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅱ2期　内面卸目あり	7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白・灰・黒色粒
	512	137	099－1	珠洲	スリ鉢		24.0	6.25		0.9(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅱ期　内面卸目あり	10Y7/1	灰白色	普通	砂粒含－白・灰色粒
	513	137	099－1	珠洲	壷		10.1	4.3		1.1(口縁部)		1/4口縁部	中世	Ⅱ期　内外面口縁部に自然釉	N6/	灰色	良	砂粒含－白・灰・黒色粒
	514	137	099－1	珠洲	甕		43.2	6.0		0.8(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅱ2期　内面に当て具痕	2.5Y7/1	灰白色	不良	砂粒含－白色粒
	515	137		八尾	壷				6.4	1.5	1.4	1/8底部	中世		2.5Y6/1	黄灰色	良	砂粒含－白色粒
	516	137		八尾	壷				13.4	1.3	1.2	1/6底部	中世		10YR7/2	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	517	137		八尾	甕		29.5			1.0		口縁部小片	中世	Ⅱa類	2.5Y6/1	黄灰色	良	砂粒含－白色粒
	518	137		八尾	甕		29.0			1.2		口縁部小片	中世	Ⅱa類	2.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	519	137	099－1	白磁	碗		17.2	4.8		0.3		1/8	中世	Ⅴ類　内面流水文　白磁釉7.5Y6/2灰オリーブ色	7.5Y7/1	灰白色	良	精良
	520	137	099－1	白磁	碗		17.8	4.8		0.5(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅴ類　内面流水文？白磁釉7.5Y6/2灰オリーブ色	N8/	灰白色	良	精良
	521	137		青磁	碗				6.5		1.7	3/4底部	中世		2.5Y7/1	灰白色	良	精良
	522	137	105－1	中世土師器	皿		8.2	1.9		0.3	0.5	1/2	中世	外面7.5YR7/3にぶい橙色	7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	523	137	105－2	越中瀬戸	皿		10.0	2.5	4.4	0.6	0.6	1/2	近世	見込に印花　灰釉7.5Y7/1灰白色	7.5YR 7/6	橙色	普通	砂粒含－灰・赤色粒
	524	137		越中瀬戸	皿		11.1	2.65	4.6	0.45	0.8	完形底部	近世	墨書土器高台内(墨書「井」)　灰　釉7.5Y8/1灰白色	7.5YR 7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	525	137		瀬戸美濃	天目茶碗		11.9			0.6		口縁部小片	中世	後Ⅲ期　鉄釉2.5Y3/1黒褐色	2.5Y8/2	灰白色	良	精良
	526	137	105－1	瀬戸美濃	端反皿			1.2	6.0		0.7	1/4底	中世	大窯Ⅰ期　灰釉5Y7/3浅黄色	5Y8/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	527	137	105－2	唐津	皿			2.6	5.0	0.8	0.8	1/3	近世	灰釉10Y6/1灰色	10Y7/1	灰白色	良	精良
	528	137		八尾	陶錘		0.9(孔径)	5.8(長)		1.4(幅)		ほぼ完形	中世		2.5Y6/2	灰黄色	良	精良
A3地区	529	138	106－1	中世土師器	小皿	SK01	6.8	1.7	4.0	0.4(口縁部)	0.9	約1/6	中世	K類　前Ⅶ期	10YR4/2	灰黄褐色	不良	精良
	530	138	106－1	中世土師器	皿	SK10		2.1	4.3		1.0	完形底部	中世	K類　前Ⅵ～Ⅶ期	10YR7/3	にぶい黄橙色	良	精良
	531	138	106－1	中世土師器	小皿	SK33	7.8	2.7	5.6	0.6	2.4	約1/6胴部.5/6底部	中世	B1類　前Ⅴ期	5YR7/8	橙色	良	砂粒含－白・黒・赤色粒
	532	138	106－1	中世土師器	小皿	SE03	8.95	2.4	4.6	0.4(口縁部)	0.4	約1/4	中世		5YR6/6	橙色	良	砂粒含－白・赤色粒
	533	138	106－1	中世土師器	大皿	SK29	11.6	1.6		0.4(口縁部)		1/8	中世	内面口縁端部一部ス ス付着	7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－赤色粒
	534	138	106－2	白磁	皿	SK09		1.8		0.4(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅳ類　白磁釉2.5GY7/1明オリーブ色	N8/	灰白色	良	精良
	535	138	106－2	白磁	碗	SK32	16.8			0.3(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅳ類　白磁釉7.5Y7/1灰白色	7.5Y7/1	灰白色	良	精良
	536	138	106－2	白磁	碗	SK50	15.6	2.5		0.3(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅱ1類　白磁釉5Y8/2灰白色	5Y8/1	灰白色	良	精良
	537	138	106－2	珠洲	スリ鉢	SK36				0.9(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅱ期	2.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	538	138	106－2	珠洲	スリ鉢	SE03		7.0		1.1(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅱ期	2.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	539	138	106－2	白磁	碗	SE01		2.2	7.3	0.5(下位)	1.0	1/2底部	中世	Ⅴ類　内面櫛目　白磁釉5Y7/2灰色粒	5Y7/1	灰白色	良	精良
	540	138	106－1	土師器	杯		12.9	3.7	6.5	0.5		約1/4胴部	古代		7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－白・赤・灰色粒
	541	138	106－1	中世土師器	小皿		9.0	1.8		0.5(口縁部)	0.4	約1/6	中世	A2類　前Ⅵ期	5YR7/6	橙色	良	砂粒含－白・灰・赤色粒
	542	138	106－1	中世土師器	小皿		6.9	1.7		0.4(口縁部)	0.5	約1/8	中世	A3類　前Ⅵ期	2.5YR 5/6	明赤褐色	良	精良
	543	138	106－1	中世土師器	小皿		7.8	1.65		0.5(口縁部)	0.5	約1/5	中世	A3類　前Ⅵ期	5YR6/4	にぶい橙色	良	砂粒含－赤色粒
	544	138	106－1	中世土師器	小皿		9.5	1.9		0.4(口縁部)		1/8口縁部	中世	K類　前Ⅵ～Ⅶ期	10YR7/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含－黒色粒
	545	138	106－1	中世土師器	小皿		7.9	1.5		0.6(口縁部)	0.5	1/5	中世	B4類　前Ⅵ期	7.5YR 7/6	橙色	良	砂粒含－白色粒
	546	138	106－1	中世土師器	小皿		8.8	1.6		0.9(口縁部)		1/6口縁部	中世	K類　前Ⅶ期	7.5YR 7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒

土器・陶磁器一覧(15)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A3地区	547	138	106－1	中世土師器	小皿		7.0	1.4		0.5(口縁部)		小片口縁部	中世	B4類　前Ⅵ期	10YR8/2	灰白色	良	微砂粒含－白色粒
	548	138	080	中世土師器	小皿		8.2	2.2	4.9	0.6(口縁部)	0.8	ほぼ完形	中世	K類　前Ⅵ期	10YR6/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含－灰色粒
	549	138	106－1	中世土師器	大皿		12.9	1.8	7.5	0.6(口縁部)	0.4	約1/6	中世	A1類　前Ⅵ期	7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	550	138	106－1	中世土師器	大皿		14.0	2.1		0.6(口縁部)	0.4	約1/8	中世	A1類　前Ⅵ期	7.5YR 7/4	にぶい橙色	良	精良
	551	138		中世土師器	Ⅲ		9.9	2.3	6.4	0.4	0.9	底部1/4	中世	K類　前Ⅶ期	7.5YR 6/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	552	138	106－2	白磁	碗		15.8	4.1		0.4		小片口縁部	中世	Ⅳ類　白磁釉2.5Y8/1灰白色	2.5Y8/1	灰白色	不良	精良
	553	138	106－2	珠洲	スリ鉢		24.6	4.7		1.0(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅱ期	N7/	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	554	138	106－2	越中瀬戸	Ⅲ		9.0	2.4	3.5	0.5	0.6	1/3	近世	鉄釉10YR3/4暗褐色	10YR8/2	灰白色	不良	砂粒含－白色粒
	555	138	106－2	越中瀬戸	Ⅲ		9.8	2.5		0.5	0.7	2/3	近世	鉄釉7.5YR4/3褐色	7.5YR 7/1	明褐灰色	不良	精良
	556	138	106－2	越中瀬戸	茶碗		11.6	3.4		0.4(口縁部)		1/8口縁部	近世	鉄釉2.5Y3/1黒褐色	2.5Y7/1	灰白色	良	精良
	557	138	106－2	唐津(三島手)	碗		8.4	4.1		0.4		小片口縁部	近世	透明釉5Y4/3暗オリーブ色	5Y7/1	灰白色	良	精良
	558	138	106－2	伊万里	Ⅲ		13.4	3.1	5.5	0.6	0.8	1/2	近世	透明釉N8/灰白色	N8/	灰白色	良	精良
A5地区	559	138	109－1	伊万里	Ⅲ	SE02	14.1	2.95	7.2	0.7	0.8	約1/5	近世	透明釉N8/灰白色　見込み蛇の目釉ハギ　見込みと高台一部に砂目あり	N8/	灰白色	良	精良
	560	138	108－2	瀬戸美濃	天目茶碗	SK04	12.0			0.45(口縁部)		小片口縁部	中世	後Ⅲ期　鉄釉7.5YR2/2黒褐色	7.5Y7/2	灰白色	良	精良
	561	138	108－1	中世土師器	Ⅲ	SD03	8.6	2.0	3.8	0.7(口縁部)	0.5	1/4	中世	B1類　後Ⅲ～Ⅳ期	10YR8/2	灰白色	良	砂粒含－灰色粒
	562	138	109－1	越中瀬戸	Ⅲ	SD03	11.6	1.70	7.8	0.5	0.5	1/8	近世	大窯Ⅳ期　内外面口縁部に鉄釉7.5YR4/3褐色　錆釉2.5YR3/2暗赤褐色	2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	563	138	108－1	中世土師器	Ⅲ	SD03	10.2	2.1		0.5(口縁部)	0.6	約1/3	中世	B1類　前Ⅸ～後Ⅰ期	2.5Y8/2	灰白色	不良	砂粒含－赤色粒
	564	138	108－2	瀬戸美濃	天目茶碗	SK03		1.55	5.9		0.7	1/8底部	近世	大窯Ⅰ期　内面鉄釉2.5YR3/2暗赤褐色　錆釉5YR3/1黒褐色	2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	565	138	108－2	瀬戸美濃	天目茶碗	SD05	10.6	3.7		0.45(口縁部)		小片口縁部	近世	大窯Ⅰ期　鉄釉10YR2/2黒褐色	10YR8/2	灰白色	良	精良
	566	138	108－2	瀬戸美濃	端反皿	SD05	10.8	2.2		0.5(口縁部)		小片口縁部	近世	大窯Ⅳ期前半　灰釉5Y7/3浅黄色	5Y7/2	灰白色	良	精良
	567	138	107－2	珠洲	甕	SD05		6.5		1.2(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅳ1期　内面当て具痕	N6/	灰色	良	砂粒含－白色粒
	568	138	108－1	中世土師器	小皿	SD11	9.2	2.1	4.7	0.4(口縁部)	0.5	約1/5	中世	D2類　後Ⅲ期　内面口縁一部スス付着	10YR7/3	にぶい黄橙色	不良	砂粒含－茶色粒
	569	138	107－2	珠洲	片口スリ鉢	SK12		6.5		1.5(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅲ期　卸目8条一単位	5B7/1	明青灰色	不良	砂粒含－白色粒
	570	138	107－2	珠洲	スリ鉢	SD08	27.8	6.2		1.6(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅳ2期　卸目11条遺一単位	5B7/1	明青灰色	良	砂粒含－白色粒
	571	138	109－1	越中瀬戸	スリ鉢	SD03		8.4	12.9	1.0(下位)	0.9	2/3底部	近世	卸目14条一単位　錆釉10YR3/3暗褐色	10YR7/2	にぶい黄褐色	不良	砂粒含－白色粒
	572	138	108－1	中世土師器	Ⅲ		9.4	2.2		0.7(口縁部)	0.6	約1/5	中世	D1類　後Ⅲ期　内外面口縁端部一部スス付着	2.5Y8/2	灰白色	不良	砂粒含－白色粒
	573	138	108－1	中世土師器	中皿		9.9	2.4		0.4(口縁部)	0.5	約1/4	中世	D1類　後Ⅲ期	5YR7/8	橙色	不良	砂粒含－灰・赤色粒
	574	138	108－1	中世土師器	Ⅲ		8.0	1.95		0.5(口縁部)	0.5	1/5	中世	Z8類　後Ⅱ～Ⅲ期　外面口縁端部,内面口縁部にスス付着	7.5YR 8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－赤色粒
	575	138	108－1	中世土師器	Ⅲ		8.2	1.9		0.45(口縁部)	0.4	1/4	中世	内面黒く変色	2.5Y7/1	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	576	138	108－1	中世土師器	Ⅲ		8.95	2.3		0.7(口縁部)	0.7	1/6	中世	D1類　後Ⅳ～Ⅴ期	5YR7/6	橙色	良	砂粒含－白・赤・透明色粒
	577	138	108－1	中世土師器	小皿		9.1	1.5		0.4(口縁部)	0.6	約1/2	中世		7.5YR 8/6	浅黄橙色	良	微砂粒含－白色粒
	578	138	108－2	瀬戸美濃	天目茶碗		10.5	4.6		0.7		1/8	近世	大窯Ⅳ期前半　鉄釉7.5YR3/2黒褐色	2.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－灰色粒
	579	138	108－2	瀬戸美濃	天目茶碗		11.0	4.55		0.7		小片胴部＋口縁部	近世	大窯Ⅳ期前　鉄釉2.5Y3/1黒褐色	2.5Y7/1	灰白色	良	精良
	580	138	108－2	瀬戸美濃	Ⅲ		11.6	2.8	7.0	0.6	0.5	約2/5	近世	灰釉7.5Y7/2灰白色	7.5Y8/1	灰白色	良	精良
	581	138	109－1	越中瀬戸	Ⅲ		13.1	3.7	6.3	0.6	0.7～0.9	約1/6	近世	灰釉2.5Y8/1灰白色　見込み印花	7.5YR 7/4	にぶい橙色	不良	砂粒含－灰色粒
	582	139	109－1	越中瀬戸	Ⅲ		10.4	12.1		0.7		1/4口縁部	近世	灰釉2.5Y7/3浅黄色	2.5YR 5/4	にぶい赤褐色	良	微砂粒含－白・透明色粒

土器・陶磁器一覧(16)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A5地区	583	139	109−1	越中瀬戸	皿(内禿皿)		10.0	2.3	5.0	0.6		1/3	近世	灰釉5Y5/4オリーブ色 見込み印花	5YR7/6	橙色	良	砂粒含−白・灰色粒
	584	139	109−1	越中瀬戸	皿(内禿皿)		10.4	2.6	4.9	0.55	0.6	1/4	近世	灰釉5Y7/3浅黄色	10YR8/3	浅黄橙色	良	砂粒含−白・灰色粒
	585	139	109−1	越中瀬戸	皿		10.3	2.5	5.3	0.4	0.7 ～ 0.8	約1/10 底部完形	近世	灰釉7.5Y5/3灰オリーブ色 見込み印花	7.5Y7/1	灰白色	良	精良
	586	139	109−1	越中瀬戸	皿		10.8	2.2	5.6	0.75	0.8	1/3	近世	灰釉2.5Y7/2灰黄色	2.5YR 6/6	橙色	良	砂粒含−白・灰・黒色粒
	587	139	109−1	越中瀬戸	皿		10.0	2.7	5.0	0.65	0.8	約1/4	近世	灰釉7.5Y4/3暗オリーブ色 見込み印花	7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含−白色粒
	588	139	108−2	越中瀬戸	皿		12.6	3.1	5.2	0.5	0.8	1/3	近世	灰釉5Y5/4オリーブ色 内面重ね焼痕	5Y8/2	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	589	139	109−1	越中瀬戸	碗		10.5	6.5	5.0	0.6	0.8	1/4	近世	鉄釉7.5YR3/4暗褐色	2.5Y6/1	黄灰色	良	砂粒含−白・灰色粒
	590	139	108−2	瀬戸美濃	天目茶碗			1.15	4.3		0.75	底部完形	近世	大窯Ⅰ期 鉄釉2.5Y2/1黒色 錆釉5YR3/2暗赤褐色	2.5Y8/2	灰白色	良	精良
	591	139	080	須恵器	蓋		15.4	2.8		0.5～0.8		約4/5	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	592	139	107−1	須恵器	杯		10.7	2.0		0.4 (口縁部)		1/8 口縁部	古代		5B5/1	青灰色	良	砂粒含−白色粒
	593	139	107−1	須恵器	杯B		11.9	4.0	8.3	0.7	1.0	1/3	古代		5YR6/4	にぶい橙色	良	砂粒含−白色粒
	594	139	107−1	土師器	甕		17.5	2.9		0.6 (口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y8/2	灰白色	普通	砂粒含−灰・黒色粒
A6地区	595	139	110−1	唐津(三島手)	皿	SK007		3.1		0.5 (口縁部)		口縁部一破片	近世	透明釉2.5Y5/4黄褐色	2.5Y6/2	灰黄色	良	砂粒含−白色粒
	596	139	110−1	白磁	皿	SK027	11.0	3.0	6.0	0.3	0.5	2/1 (底部) 1/12 (口縁)	中世	Ⅸ類 白磁釉7.5Y8/1灰白色	N8/	灰白色	良	精良
	597	139	110−1	珠洲	スリ鉢		22.2	5.3		0.8 (口縁部)		約1/12	中世	Ⅱ期 卸目あり	2.5Y6/1	黄灰色	良	砂粒含−白色粒
	598	139	110−1	珠洲	スリ鉢			6.4	14.0	1.3 (下位)	1.0	底部 1/2	中世	Ⅳ期 卸目11本あり	2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含−白色粒
	599	139	110−1	中世土師器	皿		6.5	1.1	2.2	0.4		1/3	中世	B4類 前Ⅵ期	10YR7/3	にぶい黄橙色	良	微砂粒含−透明色粒
	600	139	110−1	中世土師器	小皿	SD03	7.4	1.0	5.8	0.5 (口縁部)	0.4	約1/2	中世	A2類 前Ⅵ期	2.5Y8/2	灰白色	良	精良
	601	139	110−1	中世土師器	小皿		7.4	1.1	6.5	0.5 (口縁部)	0.4	小片口縁部	中世	A2類 前Ⅵ期	2.5Y8/2	灰白色	良	微砂粒含−透明色粒
	602	139	109−2	須恵器	蓋		11.9	2.7		0.6		約1/6	古代	外面全体内面口縁端部に自然釉 宝球状のつまみ	2.5Y7/3	浅黄色	良	砂粒含−白色粒
	603	139	109−2	須恵器	蓋		12.7	1.7		0.6 (口縁部)		1/12 口縁部	古代		10YR6/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含−白色粒
	604	139	109−2	須恵器	蓋	SK106	14.0	1.2		0.4 (口縁部)		約1/5 口縁端部	古代	外面に自然釉	2.5Y5/1	黄灰色	良	微砂粒含−白色粒
	605	139	109−2	須恵器	蓋		12.2	2.1		0.7		約1/8	古代		7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	606	139	109−2	須恵器	蓋		12.7	1.3		0.4 (口縁部)		小片口縁部	古代	1群Ⅰ類 外面口縁部自然釉	2.5Y5/1	黄灰色	良	精良
	607	139	080	須恵器	杯A	SK106	13.1	3.4	9.7	0.5	0.7	約1/2	古代		2.5Y6/1	黄灰色	良好	砂粒含−白色粒
	608	139	109−2	須恵器	杯A		11.9	3.6	7.5	0.45	0.5	約1/3	古代		2.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	609	139	109−2	須恵器	杯A		12.3	3.6	8.4	0.6	0.5	約1/5	古代		2.5Y8/2	灰白色	不良	砂粒含−白・灰色粒
	610	139	109−2	須恵器	杯A		12.9	3.6	8.0	0.6	1.0	約1/5	古代		10YR8/3	浅黄橙色	不良	砂粒含−白色粒
	611	139	109−2	須恵器	杯B		14.8	4.2	9.9	0.7	1.1	約1/3	古代	外面に自然釉	2.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	612	139	109−2	須恵器	横瓶		15.5	3.8		0.8 (口縁部)		小片口縁部	古代	内面に自然釉	2.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	613	139	080	土師器	杯	SK102	15.5	5.6	6.4	0.5	0.9	約2/3	古代		2.5YR 6/8	橙色	良	砂粒含−白・赤色粒
	614	139	109−2	土師器	杯	SK106	14.5	4.6		0.5		1/8 口縁部	古代	内面口縁部外面胴部にスス付着	7.5YR 7/6	橙色	普通	砂粒含−白色粒
	615	139	109−2	土師器	甕	SK106	20.6	2.7		1.0 (口縁部)		1/6 口縁部	古代		7.5YR 6/2	灰褐色	普通	砂粒含−白・灰・赤色粒
	616	139	109−2	土師器	甕		23.3	2.15		0.75 (口縁部)		小片口縁部	古代		5YR6/6	橙色	普通	砂粒含−白・灰・茶・黒・透明色粒
	617	139	109−2	土師器	鍋		40.2	2.7		0.9 (口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 7/2	明褐灰色	普通	微砂粒含−透明色粒
A7・A8・A9地区	618	139	111−1	越中瀬戸	碗	SD006	8.5	6.5	3.7	0.6	0.6	2/3	近世	鉄釉7.5YR4/3褐色	7.5YR 7/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒

土器・陶磁器一覧(17)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A7・A8・A9地区	619	139	080	越中瀬戸	碗		9.8	5.7	4.7	0.5	0.7	1/2	近世	鉄釉10YR3/1黒褐色	2.5Y8/2	灰白色	良	精良
	620	139	111－1	中世土師器	皿	SD008	7.8	1.6	5.0	0.4	0.4	1/6	中世	B1類　前Ⅶ期	10YR7/3	にぶい黄橙色	普通	精良
	621	139	111－1	越中瀬戸	皿	SD008	11.7	1.8		0.5		1/6	近世	鉄釉2.5YR3/2暗赤褐色	7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－白・黒色粒
	622	139	081	中世土師器	皿	SD014	10.5	2.55	4.5	0.4	0.7	2/3	中世	K類　口縁にスス一部付着	7.5YR 7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白・灰色粒
	623	139	114－2	珠洲	スリ鉢	SD014	32.0	9.2		1.2 (口縁部)		1/5 口縁部	中世	Ⅳ2期　卸目あり.口縁端部に櫛目波状文.外面一部自然釉あり	10Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	624	139	111－1	中世土師器	皿	SD010	8.8	1.8		0.4 (口縁部)	0.3	1/5	中世	B1類　前Ⅶ期	2.5Y8/2	灰白色	普通	砂粒含－灰色粒
	625	139	112－1	土師器	皿		13.1	2.2	5.2	0.5	1.0	2/3	中世	C6類　後Ⅰ期　口縁部･体部にスス付着	7.5YR 7/2	明褐灰色	良	砂粒含－白・灰色粒
	626	140	111－1	伊万里	碗	SD010	8.3	3.9	3.1	0.3	0.5	ほぼ完形	近世～近代	透明釉 N8/灰白色　草花文	N8/	灰白色	良	精良
	627	140	111－1	伊万里	皿	SD010	11.5	3.1	4.1	0.55	0.8	3/4	近世	透明釉2.5GY8/1灰白色　蛇の目釉剥ぎ　二重格子文	N8/	灰白色	良	精良
	628	140	111－1	伊万里	碗	SD010	10.7	3.9		0.35		1/5	近世	透明釉 N8/灰白色	N8/	灰白色	良	精良
	629	140	114－2	越中瀬戸	灯明受皿	SD015	10.3	2.9	5.0	1.5	0.8	3/4	近世	内外面口縁端部にスス付着　鉄釉7.5YR3/3暗褐色	7.5YR 7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－灰色粒
	630	140	114－2	伊万里	皿	SD015	13.1	3.2	6.5	0.6	0.9	1/3	近世	透明釉 N8/灰白色　蛇の目釉剥ぎ　高台と見込みに砂目付着　五弁花　くずし唐草文	N8/	灰白色	良	精良
	631	140	114－2	伊万里	皿		12.4	3.05	6.2	0.6	0.9	1/2	近世	透明釉 N8/灰白色　見込み蛇の目釉剥ぎ　五弁花　くずし唐草文	N8/	灰白色	良	精良
	632	140	111－1	信楽	蓋		10.8	2.3	6.0	0.5	0.6	1/4	近世	灰釉灰釉5Y6/2灰オリーブ色	2.5Y8/2	灰白色	良	精良
	633	140	111－1	伊万里	小杯		7.9	3.4	2.8	0.3	0.5	2/3	近世	透明釉 N8/灰白色	N8/	灰白色	良	精良
	634	140	111－2	須恵器	杯蓋	SI01		2.1		0.4～0.85		小片(つまみ部分)	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	635	140	111－2	須恵器	杯蓋	SI01	12.1	2.2		0.5		1/4	古代	2群Ⅱb類	10Y5/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	636	140	111－2	須恵器	杯蓋	SI01	16.0	2.1		0.4 (口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y7/2	灰黄色	普通	砂粒含－白・灰色粒
	637	140	111－2	須恵器	杯蓋	SI01	17.0	2.25		0.4		1/5	古代		2.5Y7/1	灰白色	普通	砂粒含－白・黒色粒
	638	140	081	須恵器	杯A	SI01	11.8	3.9	5.5	0.4	0.5	3/4	古代	外面一部スス付着	5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	639	140	111－2	須恵器	杯A	SI01	12.7	4.1	7.5	0.4	0.6	1/2	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	640	140	111－2	須恵器	杯	SI01	17.9	3.2		0.4 (口縁部)		1/7	古代		2.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	641	140	111－2	須恵器	杯	SI01	17.0	3.9		0.5 (口縁部)		小片口縁部	古代	体部外面にスス一部付着	2.5Y7/2	灰黄色	普通	砂粒含－灰色粒
	642	140	112－1	土師器	杯	SI01	11.8	4.1		0.7 0.4 (口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 6/6	橙色	良	微砂粒含－白色粒
	643	140	112－1	土師器	杯	SI01	11.5	2.5		0.4 (口縁部)		小片口縁部	古代	外面一部スス付着　内面口縁部一部赤彩2.5YR6/8橙色	7.5YR 7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	644	140	112－1	土師器	杯	SI01	11.8	4.2	5.0	0.5	0.7	1/3	古代	内面にスス付着　内面口縁端部外面口縁部一部赤彩2.5YR5/6明赤褐色	7.5YR 7/2	明褐色	普通	砂粒含－白・赤色粒
	645	140	112－1	土師器	杯	SI01	12.3	4.1	5.3	0.6	0.7	1/2	古代	体部外面にススが一部付着	7.5YR 7/1	明褐灰色	良	砂粒含－白色粒
	646	140	112－1	土師器	杯	SI01	11.7	3.65		0.7 0.5 (口縁部)		1/4	古代	外面口縁部一部赤彩2.5YR5/6明赤褐色　外面スス付着	7.5YR 8/4	浅黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	647	140	081	土師器	杯	SI01	11.8	3.75	5.4	0.5	0.4	ほぼ完形	古代	体部外面一部スス付着	7.5YR 8/4	浅黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	648	140	112－1	土師器	杯	SI01	12.5	4.0	6.5	0.5	0.5	3/4	古代	外面口縁部一部赤彩2.5YR6/6橙色	7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－白･灰色粒
	649	140	081	土師器	杯	SI01	11.8	4.2	5.8	0.5	0.6	ほぼ完形	古代	体部内面にスス付着　墨書あり「山」	7.5YR 8/6	淡褐色	良	砂粒含－赤色粒
	650	140	112－1	土師器	杯	SI01	12.5	3.05		0.5 0.4 (口縁部)		小片口縁部	古代	内外面口縁部スス付着	10YR7/2	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	651	140	081	土師器	杯	SI01	11.2	4.1	5.3	0.4	0.8	ほぼ完形	古代	内面一部スス付着	7.5YR 8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	652	140	081	土師器	杯	SI01	11.83	4.1	5.5	0.5	0.6	ほぼ完形	古代	体部外面スス付着	5YR8/4	淡橙色	良	砂粒含－白色粒
	653	140	112－1	土師器	杯	SI01		2.5	5.8	0.5	0.9	3/4 口縁なし	古代	外面体部赤彩2.5YR7/6橙色	7.5YR 7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－赤色粒

土器・陶磁器一覧(18)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A7・A8・A9地区	654	140	112－1	土師器	杯	SI01	13.0	4.2	5.0	0.4	0.7	1/3	古代	外面全体にスス付着.内面一部にスス付着	7.5YR 7/2	明褐色	良	砂粒含－白色粒
	655	140	112－2	土師器	甕	SI01	13.9	2.6		0.4 (口縁部)		小片口縁部	古代	内面口縁部一部スス付着	5YR5/4	にぶい赤褐色	良	微砂粒含－白・透明色粒
	656	140	112－2	土師器	甕	SI01	13.3	1.8		0.45 (口縁部)		小片口縁部	古代	外面口縁部スス付着	10YR7/4	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白・灰・黒色粒
	657	140	112－2	土師器	甕	SI01	13.1	3.7		0.45 (口縁部)		小片口縁部	古代	内面口縁部スス付着	10YR8/2	灰白色	良	微砂粒含－透明色粒
	658	140	112－1	土師器	甕	SI01	14.4	2.1		0.45 (口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 6/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	659	140	112－2	土師器	甕	SI01	14.0	7.6		0.6 0.5 (口縁部)		口縁部＋胴部	古代		7.5YR 6/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白・黒色粒
	660	140	081	土師器	甕	SI01	11.9	13.4	5.6	0.4	0.5	1/3	古代	体部外面にスス一部付着	7.5YR 7/3	淡褐色	良	砂粒含－白色粒
	661	140	112－2	土師器	甕	SI01	17.7	3.5		0.6 (口縁部)		小片口縁部	古代	内面スス付着	10YR8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－灰色粒
	662	140	112－2	土師器	甕	SI01	19.3	2.1		0.7 (口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 6/3	にぶい褐色	良	砂粒含－白色粒
	663	140	112－2	土師器	甕	SI01	20.0	11.5		0.5 0.6 (口縁部)		1/8	古代	口縁外面にスス一部付着	7.5YR 8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	664	140	112－2	土師器	甕	SI01	21.2	7.65		0.5 (口縁部)		小片口縁部	古代		10YR6/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	665	140	112－2	土師器	甕	SI01	19.9	10.8		0.6 (口縁部)		小片口縁部小破片	古代	内面一部外面全体スス付着	7.5YR 7/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	666	140	112－2	土師器	鍋	SI01	34.1	6.3		0.8 (口縁部)		小片口縁部	古代	外面一部スス付着	7.5YR 6/2	灰褐色	良	砂粒含－白・灰・黒・透明色粒
	667	139	111－1	越中瀬戸	天目茶碗	SK010	9.7	4.3		0.6		1/4	近世	鉄釉7.5YR3/2黒褐色	7.5YR 7/2	明褐灰色	良	砂粒含－白色粒
	668	141	110－2	須恵器	杯	SD102	15.6	4.1		0.5		小片口縁部	古代		N6/	灰色	良	砂粒含－白色粒
	669	141	080	須恵器	杯蓋		11.9	2.0		0.8		5/6	古代	1群Ⅲ類	7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	670	141	110－2	須恵器	杯蓋		14.1	2.3		0.4 (口縁部)		小片口縁部	古代	1群Ⅱa類　外面口縁部自然釉	2.5Y6/1	灰黄色	良	砂粒含－白色粒
	671	141	110－2	須恵器	杯蓋		11.8	1.8		0.75		約1/4	古代	2群Ⅱb類　外面口縁部に自然釉	N6/	灰色	良	砂粒含－白色粒
	672	141	113－2	須恵器	杯蓋		12.6	1.65		0.9		1/8	古代	1群Ⅰ類　外面に自然釉	2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白色粒
	673	141	113－2	須恵器	杯蓋		14.7	1.9		0.45		1/8	古代	1群Ⅱa類	7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－黒色粒
	674	141	113－2	須恵器	杯蓋		12.4	1.5		0.7		1/5	古代	1群Ⅱb類	2.5Y6/1	黄灰色	良	微砂粒含・透明色粒
	675	141	111－2	須恵器	杯蓋		12.5	2.6	5.6	0.8		1/3	古代	体部外面にススが付着	2.5Y8/6	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	676	141	113－2	須恵器	杯A		11.7	3.0	5.3	0.4	0.8	1/5	古代		7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	677	141	113－2	須恵器	杯A		11.6	3.15	7.5	0.6	0.7	1/3	古代		2.5Y7/1	灰白色	普通	砂粒含－白色粒
	678	141	110－2	須恵器	杯		12.7	4.8		0.4		小片口縁部	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	679	141	110－2	須恵器	皿		11.7	1.55	8.4	0.3	0.6	小片胴部＋底部	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	680	141	111－2	須恵器	杯A		10.3	3.75		0.6	0.8	1/3	古代		5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	681	141	113－2	須恵器	杯A		11.4	3.5	7.0	0.5	0.8	1/2	古代		2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含－白・灰色粒
	682	141	113－2	須恵器	杯A		11.1	2.7	6.4	0.5	0.3	1/5	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	683	141	113－2	須恵器	杯A		11.6	2.7	7.8	0.5	0.7	1/3	古代		7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白・透明色粒
	684	141	113－2	須恵器	杯		11.6	2.9		0.5		小片口縁部	古代		5Y5/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	685	141	113－2	須恵器	杯A		11.7	3.2	7.0	0.7	0.9	1/5	古代		7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	686	141	081	須恵器	杯B		11.1	4.95	7.2	0.4	0.7	1/2	古代		2.5Y7/1	黄灰色	良	砂粒含－白色粒
	687	141	113－2	須恵器	杯B		10.6	4.0	7.0	0.4	0.4	1/2弱	古代		7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白・灰色粒
	688	141	110－2	須恵器	杯B		14.7	6.65	8.0	0.7	0.7	1/6	古代		N6/	灰色	良	砂粒含－白色粒
	689	141	110－2	須恵器	皿		15.7	2.55	11.5	0.5	0.8	小片胴部・底部	古代		5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白・灰色粒
	690	141	111－2	須恵器	甕		17.6	5.8		1.0 (上位) 0.45 (口縁部)		1/8 口縁部	古代	外面口縁部自然釉.内面当て具痕	7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒

土器・陶磁器一覧(19)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A7・A8・A9地区	691	141	110−2	須恵器	甕		22.7	3.0		0.6(口縁部)		小片口縁部	古代		2.5Y7/1	灰白色	普通	砂粒含−白・灰色粒
	692	141	113−2	須恵器	甕		25.8	4.35		0.6(口縁部)		1/7口縁部	古代	外面口縁部一部スス付着	7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	693	141	081	須恵器	壷			22.9		0.9	1.0	1/2	古代	外面に自然釉	10Y6/1	灰色	良	砂粒含−白色粒
	694	141	113−1	土師器	杯		11.7	3.95	5.9	0.6		1/8	古代		2.5YR 7/8	橙色	良	砂粒含−白・黒・赤色粒
	695	141	111−1	土師器	杯		11.0	3.5		0.4		1/5	古代		7.5YR 7/4	にぶい橙色	普通	砂粒含−白・赤色粒
	696	141	113−1	土師器	杯		11.6	3.7	6.0	0.4	0.5	1/4	古代	墨書土器　付着物多く判読不明	7.5YR 7/6	橙色	良	精良
	697	141	114−1	土師器	杯		12.0	3.1		0.3〜0.5		1/6	古代		5YR7/6	橙色	良	砂粒含−白・灰・赤色粒
	698	141	081	土師器	杯		12.9	4.1	6.4	0.4	0.6	3/4	古代	外面全体スス付着	7.5YR 8/6	浅黄橙色	良	砂粒含−白・赤・灰色粒
	699	141	113−1	土師器	杯		12.5	4.2	7.0	0.5		1/8	古代		10YR7/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含−白色粒
	700	141	113−1	土師器	杯		13.6	4.0	6.8	0.5	0.7	1/3	古代		2.5YR 6/8	橙色	良	砂粒含−白色粒
	701	141	113−1	土師器	杯		12.5	2.7		0.55(口縁部)		小片口縁部	古代		5YR7/6	橙色	良	砂粒含−赤色粒
	702	141	113−1	黒色土器	椀(内黒)		11.6	2.4		0.4(口縁部)		小片口縁部	古代	内黒10YR2/1黒色	10YR6/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含−白色粒
	703	141	113−1	黒色土器	椀(内黒)			1.7	5.0	0.4(下位)	0.7	1/3底部	古代	内黒10YR2/1黒色	10YR6/2	灰黄褐色	良	砂粒含−白色粒
	704	141	110−2	土師器	甕		11.1	1.9		0.5(口縁部)		1/8口縁部	古代		7.5YR 7/6	橙色	良	砂粒含−白色粒
	705	141	113−1	土師器	甕		11.6	2.4		0.45(口縁部)		1/8口縁部	古代	内面口縁端部にスス付着	7.5YR5/2	灰褐色	良	砂粒含−白色粒
	706	141	113−1	土師器	甕		13.8	5.5		0.9(口縁部)		小片口縁部	古代	口縁部内面にスス付着	5YR4/4	にぶい赤褐色	普通	砂粒含−白・灰・黒色粒
	707	141	114−1	土師器	甕		16.0	2.7		0.55(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 6/4	にぶい橙色	良	砂粒含−白色粒
	708	141	114−1	土師器	甕		17.0	6.0		0.5〜0.7(口縁部)		1/8口縁部	古代	面全体内面一部スス付着	10YR8/2	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	709	141	114−1	土師器	甕		18.0	4.9		0.5〜1.0(口縁部)		1/4口縁部	古代	内面口縁部スス付着	7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	微砂粒含−白・透明色粒
	710	141	110−2	土師器	甕		21.3	4.95		0.65(口縁部)		1/6口縁部	古代		10YR7/4	にぶい黄橙色	良	微砂粒含−白・透明色粒
	711	141	113−1	土師器	甕		22.2	7.2		0.7(口縁部)		1/8口縁部	古代	内面口縁部にスス付着	7.5YR 7/4	にぶい橙色	良	砂粒含−灰色粒
	712	142	110−2	土師器	甕		24.0	13.5		0.55		小片胴部+口縁部	古代	口縁部〜体部の外面にスス付着.口縁の内面も一部付着	10YR7/3	にぶい黄橙色	普通	砂粒含−白・黒色粒
	713	142	114−1	土師器	甕		27.2	8.3		0.8〜1.0(口縁部)		小片口縁部	古代		5Y7/6	橙色	普通	砂粒含−白・灰・透明色粒
	714	142	113−1	土師器	鍋		35.3	3.9		0.9(口縁部)		小片口縁部	古代	内面口縁端部一部にスス付着	10YR7/2	にぶい黄橙色	良	砂粒含−白色粒
	715	142	114−1	土師器	鍋		38.0	8.75		0.9(口縁部)		小片口縁部	古代		10YR5/3	にぶい黄褐色	良	砂粒含−白色粒
	716	142		土製品	土錘		1.2(孔径)	4.7(長)		2.7(幅)		3/4欠	古代	たるC？重量16.95g	10YR7/2	にぶい黄橙色	良	微砂粒含−白色粒
	717	142		土製品	土錘		1.2(孔径)	6.6(長)		4.0(幅)		完形	古代	たるC.外面に一部焼けた痕.重量98.72g	10YR7/2	にぶい黄橙色	不良	砂粒含−白・黒色粒
	718	142		土製品	土錘		1.3(孔径)	6.8(長)		4.1(幅)		完形	古代	たるC.重量97.95g	10YR7/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含−白色粒
A11地区	719	142	115−1	越中瀬戸	小杯	SD02	6.4	1.8	3.3	0.5	1.3	4.4/8	近世	鉄釉5YR3/2	5YR7/6	橙色	良	精良
	720	142	115−1	越中瀬戸	皿	SD02		2.0	4.5	0.5(下位)	0.7	約1/2底部	近世	灰釉5Y5/3灰オリーブ色　見込み押印と重ね焼痕跡	10YR7/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含−黒・白色粒混
	721	142	115−1	越中瀬戸	皿	SD02	10.6	1.6		0.45(口縁部)		小片口縁部	近世	灰釉2.5Y8/2灰白色	2.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	722	142	115−1	伊万里	碗	SD02			4.6	0.4	0.7	1/5底部	近世	透明釉N8/灰白色　外面コンニャク印判(鶴と松)	N8/	灰白色	良	精良
	723	142	115−1	越中瀬戸	皿	SD03		1.7	4.6	0.5(下位)	1.0	完形底部	近世	見込み沈線状の凹み	5YR4/3	にぶい赤褐色	良	砂粒含−白色粒
	724	142	115−1	伊万里	碗	SD03		1.9	4.0	0.4(下位)	0.6	1/8底部	近世	透明釉N8/灰白色　見込み蛇の目釉ハギ　高台内砂目付着	N8/	灰白色	良	精良
	725	142	115−1	伊万里	碗	SD03		2.2	4.8	0.4(下位)	0.6	1/4底部	近世	透明釉N8/灰白色　見込み蛇の目釉ハギ	N8/	灰白色	良	精良
	726	142	115−1	伊万里	大皿	SD03		1.8	16.8	0.5	0.7	小片底部	近世	透明釉N8/灰白色　草花文	N8/	灰白色	良	精良
	727	142	115−1	伊万里	皿		9.5	2.45	4.8	0.6	0.7	1/4	近世	透明釉N8/灰白色　コンニャク印判　くずし唐草文	N8/	灰白色	良	精良

土器・陶磁器一覧(20)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A11地区	728	142	115−1	伊万里	皿	SD02	12.3	3.1		0.5 0.3 (口縁部)		1/6	近世	透明釉7.5GY8/1明緑灰色　二重格子文	N8/	灰白色	良	精良
A12地区	729	142	081	越中瀬戸	壷	SK11	12.7	13.65	12.2	0.9	1.1	完形	近世	錆釉7.5YR3/2黒褐色	7.5YR 7/6	橙色	良	砂粒含−白色粒
	730	142	116−2	越中瀬戸	皿	SD04	11.9	2.7	5.5	0.5	0.9	約1/4	近世	鉄釉5YR2/2黒褐色	5YR4/6	赤褐色	不良	砂粒含−白・黒色粒
	731	142	116−2	中世土師器	大皿		15.1	2.0		0.5 (口縁部)		小片口縁部	中世	A1類　前Ⅵ期	10YR7/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含−白・赤色粒
	732	142	116−2	珠洲	スリ鉢		29.5	4.7		1.2 (口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅳ2期　卸目あり　外面口縁部自然釉	N7/	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	733	142	116−2	珠洲	甕		45.2	11.75		1.5 (口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅴ期　外面ほぼ全体と内面一部に自然釉	N5/	灰色	良	砂粒含−白色粒
	734	142	116−2	珠洲	甕			9.3		1.5 (口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅲ〜Ⅳ期　内外面一部自然釉	5Y5/1	灰色	良	砂粒含−白色粒
	735	142	116−2	越中瀬戸	碗		9.5	5.4		0.5		1/3	近世	鉄釉10YR2/1黒色	10YR7/1	灰白色	良	精良
	736	142	116−2	越中瀬戸	皿			0.9	4.2	0.5 (下位)	0.7	約1/6 底部	近世	灰釉2.5Y8/1灰白色　見込みに菊花文	2.5Y8/2	灰白色	不良	砂粒含−白色粒
	737	142	116−2	越中瀬戸	皿			1.3	4.4	0.5 (下位)	0.8	1/2 底部	近世	灰釉7.5Y8/1灰白色	7.5YR 7/6	橙色	不良	微砂粒含−白色粒
	738	142	116−2	越中瀬戸	天目茶碗			2.1	5.2	0.7 (下位)	0.8	約1/3 底部	近世	鉄釉10YR2/2黒褐色	10YR7/2	にぶい黄橙色	不良	砂粒含−白色粒
	739	142	116−2	伊万里	皿		12.5	2.7		0.5		1/3 口縁部	近世	透明釉10Y8/1灰白色　二重格子文	10Y8/1	灰白色	良	精良
	740	142	116−1	土師器	甕	SI01	12.9	14.55		0.6 (口縁部)		1/8 口縁部	古代	内面口縁端部にスス付着	7.5YR 6/4	にぶい橙色	良	微砂粒含−白・透明色粒
	741	142	116−1	土師器	甕	SI01	20.0	6.4		0.8〜0.7 (口縁部)		1/6 口縁部	古代		7.5YR 6/4	にぶい橙色	良	砂粒含−白色粒
	742	142	116−1	土師器	甕	SI01	20.1	2.4		0.7 (口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含−白色粒
	743	142	116−1	土師器	甕	SI01	19.8	2.55		0.6 (口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含−白色粒
	744	142	116−1	土師器	甕	SI01	20.3	2.65		0.7〜0.6 (口縁部)		小片口縁部	古代	外面口縁部にスス付着	10YR7/4	にぶい黄橙色	良	微砂粒含−透明色粒
	745	142	116−1	土師器	甕	SI01	21.0	3.3		0.6 (口縁部)		小片口縁部	古代		5YR7/3	にぶい橙色	良	砂粒含−灰・黒色粒
	746	142	116−1	土師器	甕	SI01	25.7	4.1		0.7〜0.6 (口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	微砂粒含−白・透明色粒
	747	142	115−2	須恵器	杯A	SI01	11.9	2.6	9.1	0.4	0.8	小片	古代		7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	748	143	115−2	須恵器	杯蓋		11.5	2.7		0.5		約1/4	古代		7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	749	143	115−2	須恵器	杯蓋		14.7	1.8		0.8		小片口縁部＋体部	古代		2.5Y5/3	黄褐色	良	微砂粒含−白色粒
	750	143	115−2	須恵器	杯蓋		16.0	2.4		0.7		約1/3	古代		N6/	灰色	良	砂粒含−白色粒
	751	143	115−2	須恵器	杯A		10.7	3.0	6.1	0.5	0.6	1/4	古代		7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含−灰色粒
	752	143	115−2	須恵器	杯A		12.0	2.9	8.5	0.6	0.9	約1/4	古代		7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含−白色粒
	753	143	115−2	須恵器	杯A		12.4	3.2		0.5		小片口縁部＋胴部	古代		5Y7/2	灰白色	良	砂粒含−白・灰色粒
	754	143	115−2	須恵器	杯B			2.2	7.1	0.4 (下位)	0.7〜 0.8	1/5 底部	古代		10Y7/1	灰白色	良	砂粒含−灰色粒
	755	143	115−2	須恵器	杯B			1.9	7.0	0.5 (下位)	0.4	約1/5 底部	古代		5Y7/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	756	143	115−2	須恵器	杯		13.5	5.3		0.6 (口縁部)		約1/8 口縁部	古代		10R5/4	赤褐色	良	砂粒含−白色粒
	757	143	115−2	須恵器	壷		11.8	4.1		0.5 (口縁部)		小片口縁部	古代	外面口縁部に自然釉	N5/	灰色	良	砂粒含−白色粒
	758	143	116−1	土師器	甕		16.2	4.7		0.8 (口縁部)		小片口縁部	古代		10YR7/4	にぶい黄橙色	良	砂粒含−白色粒
	759	143	116−1	土師器	甕		18.2	5.5		0.7 (口縁部)		1/8 口縁部	古代		10YR7/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含−白色粒
	760	143	116−1	土師器	甕		20.15	2.8		0.7 (口縁部)		1/12 口縁部	古代		10YR6/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含−灰色粒
	761	143	116−1	土師器	甕		22.9	2.0		0.6〜0.7 (口縁部)		1/8 口縁端部	古代		7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	精良
	762	143	116−1	土師器	杯			2.5	6.1	0.6	0.7	1/5 底部	古代		7.5YR	にぶい橙色	良	砂粒含−白・灰色粒
A13地区	763	143	117−2	中世土師器	小皿	SP21 (SB03)	7.4	2.0		0.5 (口縁部)	0.5	ほぼ完形	中世	B1類　前Ⅴ期	10YR8/2	灰白色	良	砂粒含−灰色粒

土器・陶磁器一覧(21)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A13地区	764	143	117−2	中世土師器	小皿	SK07	6.7	1.6	2.2	0.5 (口縁部)	0.4	小片口 縁部＋ 底部	中世	B3類　前Ⅴ期	2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	765	143	117−2	中世土師器	小皿	SK08	7.9	1.5	4.0	0.5 (口縁部)	0.4	約1/6	中世	B3類　前Ⅵ期	2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	766	143	117−2	中世土師器	中皿	SK14	9.2	1.2		0.6〜0.7 (口縁部)		小片口 縁部	中世	Z7類　前Ⅷ期	2.5Y8/2	灰白色	良	精良
	767	143	117−2	中世土師器	小皿	SD03	6.9	1.7		0.5 (口縁部)		約1/6	中世	B1類　前Ⅶ期	7.5YR 7/3	にぶい 橙色	良	砂粒含−赤色粒
	768	143	117−2	中世土師器	小皿	SD03	7.2	1.3		0.5 (口縁部)		約1/6	中世	Z8類　後Ⅰ〜Ⅱ期	2.5YR 6/4	にぶい 橙色	不良	砂粒含−赤色粒
	769	143	117−2	中世土師器	小皿	SD03	6.9	1.3		0.5 (口縁部)		約1/8	中世	Z8類　後Ⅰ〜Ⅱ期	7.5YR 7/3	にぶい 橙色	良	砂粒含−赤色粒
	770	143	117−2	中世土師器	小皿	SD03	7.4	1.3		0.4 (口縁部)	0.3	約1/4	中世	B1類　前Ⅶ〜Ⅷ期 一部口縁部スス付着	2.5Y8/1	灰白色	良	砂粒含−透明色粒
	771	143	117−2	中世土師器	小皿	SD03	8.8	1.4	3.8	0.5 (口縁部)	0.4	約1/5	中世	B4類　前Ⅴ期	2.5Y8/1	灰白色	良	精良
	772	143	118−1	八尾	甕	SK14		1.9		0.8 (口縁部)		小片口 縁部	中世	Ⅲb類	10YR6/2	灰黄褐 色	良	砂粒含−白色粒
	773	143	118−1	八尾	甕	SD03		2.0		2.2 (口縁部)		小片口 縁部	中世	Ⅲb類	10YR6/2	灰黄褐 色	良	砂粒含−白色粒
	774	143	118−1	瀬戸美濃	合子	SK17		2.2	3.0	0.3	0.4	約1/2 底部	中世	中Ⅰ〜Ⅱ期 灰釉10Y8/2灰白色	10Y7/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	775	143	117−1	珠洲	甕	SD03		6.6		1.2 (口縁部)		小片口 縁部	中世	Ⅲ期　外面に自然釉	10R5/2	灰赤色	良	砂粒含−白色粒
	776	143	117−1	珠洲	甕	SD03		5.7		1.1 (口縁部)		小片口 縁部	中世	Ⅲ期	N4/	灰色	良	砂粒含−白色粒
	777	143	117−1	珠洲	甕	SK16		6.0		1.9〜1.3 (口縁部)		小片口 縁部	中世	Ⅲ期	N4/	灰色	良	砂粒含−白色粒
	778	143	117−1	珠洲	甕	SK12		6.8		1.3 (口縁部)		小片口 縁部	中世	Ⅳ1期	N4/	灰色	良	砂粒含−白色粒
	779	143	117−1	珠洲	スリ鉢	SK12	26.3	3.3		1.3 (口縁部)		小片口 縁部	中世	Ⅲ期　卸目あり	10Y4/1	灰色	不良	砂粒含−白色粒
	780	143	118−1	八尾	甕	SK12		6.3	29.1	1.2 (下位)	1.2	小片底 部	中世		10YR7/1	灰白色	良	砂粒含−白・灰色粒
	781	143	117−2	中世土師器	小皿		7.1	1.3	4.1	0.4 (口縁部)	0.5	約1/6	中世	B1類　前Ⅵ〜Ⅶ期	7.5YR 7/3	にぶい 橙色	良	微砂粒含−白・透明色粒
	782	143	117−2	中世土師器	小皿		8.2	1.5		0.5 (口縁部)		小片口 縁部	中世	B1類　前Ⅵ〜Ⅶ期	10YR7/2	にぶい 黄橙色	不良	砂粒含−灰色粒
	783	143	117−2	中世土師器	小皿		7.3	1.2		0.5 (口縁部)		小片口 縁部	中世	B2類　前Ⅵ期	7.5YR 7/6	橙色	良	砂粒含−赤色粒
	784	143	117−2	中世土師器	小皿		8.0	1.2		0.6 (口縁部)	0.7	約1/5	中世	Z1類　前Ⅳ〜Ⅴ期	10YR7/4	にぶい 黄橙色	良	砂粒含−灰色粒
	785	143	117−2	中世土師器	小皿		7.8	1.2		0.5 (口縁部)		小片口 縁部	中世	B1類　前Ⅸ〜後Ⅰ期 内面口縁部スス付着	10YR7/4	にぶい 黄橙色	良	砂粒含−白色粒
	786	143	117−2	中世土師器	皿		8.8	1.6	3.9	0.6 (口縁部)	0.5	約1/6	中世	Z8類　後Ⅰ〜Ⅱ期	7.5YR 6/3	にぶい 褐色	不良	砂粒含−白色粒
	787	143	117−2	中世土師器	小皿		9.7	1.1		0.5 (口縁部)		小片口 縁部	中世	B1類　前Ⅵ〜Ⅶ期	7.5YR 8/1	灰白色	良	微砂粒含−白色粒
	788	143	117−2	中世土師器	小皿		9.3	1.2		0.5 (口縁部)		小片口 縁部	中世	B1類　後Ⅲ〜Ⅳ期	7.5YR 7/2	明褐灰 色	良	砂粒含−白色粒
	789	143	118−1	瀬戸美濃	皿			1.2	4.6	0.4 (下位)	0.8	1/2 底部	中世	古瀬戸後Ⅰ〜Ⅱ灰釉10Y 8/2灰白色	10Y8/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	790	143	118−1	瀬戸美濃	瓶子			4.0	10.0	1.2 (下位)	1.4	1/3 底部	中世	灰釉2.5Y7/2灰黄色 古瀬戸中Ⅰ〜Ⅱ期	2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	791	143	118−1	越中瀬戸	皿			1.6	5.3	0.5 (下位)	0.6	約1/5 底部	近世	灰釉5Y4/3暗オリーブ色 内面見込みに印花文	5Y7/1	灰白色	良	精良
	792	143	118−1	越中瀬戸	皿			1.2	4.6	0.5 (下位)	0.7	約1/3 底部	近世	鉄釉5YR3/4暗赤褐色	5YR7/4	にぶい 橙色	不良	砂粒含−白色粒
	793	143	118−1	越中瀬戸	皿			1.5	5.8	0.6 (下位)	0.7	約1/3 底部	近世	内面一部鉄釉5Y4/2灰オリーブ色　錆釉5YR4/4 にぶい赤褐色	5Y4/1	灰色	良	精良
	794	143	117−1	珠洲	スリ鉢			3.7		1.0〜1.1 (口縁部)		小片口 縁部	中世	Ⅴ期　卸目あり　内面口 縁端部に波状文	2.5Y7/2	灰黄色	不良	砂粒含−白色粒
	795	143	117−1	珠洲	スリ鉢			7.2		1.1〜1.0 (口縁部)		小片口 縁部	中世	Ⅳ3期　卸目6条一単位	2.5Y6/2	灰黄色	普通	砂粒含−白色粒
	796	143	117−1	珠洲	甕			6.5		1.0〜1.5 (口縁部)		小片口 縁部	中世	Ⅳ1期	N7/	灰白色	不良	砂粒含−白色粒
	797	143	117−1	珠洲	甕			6.5		1.1〜1.5 (口縁部)		小片口 縁部	中世	Ⅲ期　外面に自然釉	10R5/2	灰赤色	良	砂粒含−白色粒
	798	143	117−1	珠洲	甕			6.9		1.3〜1.7 (口縁部)		小片口 縁部	中世	Ⅲ期	10R5/2	灰赤色	良	砂粒含−白色粒
A14地区	799	143	119−1	龍泉窯系青磁	碗	SK06	13.0	2.7		0.35 (口縁部)		小片口 縁部	中世	Ⅰ類2〜3　青磁釉10Y6/ 2オリーブ灰色	10Y7/1	灰白色	良	精良

土器・陶磁器一覧(22)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A14地区	800	143	119−1	中世土師器	皿	SK19	6.7	1.5	3.0	0.5(口縁部)	0.4	1/6	中世	B1類　前Ⅴ期	2.5Y8/2	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	801	143	119−1	白磁	皿	SK19	9.4	2.5	5.7	0.4	0.5	1/3	中世	Ⅸ−1類　白磁釉2.5GY8/1灰白色	N8/	灰白色	良	精良
	802	143	119−1	中世土師器	皿	SK26	7.2	1.7	5.5	0.5(口縁部)	0.6	1/8	中世	B1類　前Ⅴ期	10YR6/2	灰黄褐色	普通	微砂粒含−透明色粒
	803	143	119−1	白磁	皿	SD06		1.2	7.9	0.4(下位)	0.45	1/8底部	中世	Ⅸ−2類　白磁釉N8/灰白色	N8/	灰白色	良	精良
	804	143	119−1	中世土師器	皿	SD06	9.7	2.4		0.6(口縁部)		1/8	中世	B1類　前Ⅳ〜Ⅴ期　内面口縁部スス付着	7.5YR 7/4	にぶい橙色	良	砂粒含−白色粒
	805	143	119−1	珠洲	スリ鉢	SK19	33.0			1.2		小片口縁部	中世	Ⅲ期　卸目11状一単位	10Y5/1	灰色	良	砂粒含−白・透明色粒
	806	143	119−1	珠洲	甕	SD06		6.1		1.4(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅰ3期　内外面自然釉	5Y6/1	灰色	良	砂粒含−白・灰色粒
	807	143	119−1	中世土師器	皿		8.1	1.45		0.45(口縁部)	0.4	完形	中世	B4類　前Ⅴ〜Ⅵ期	7.5YR 7/6	橙色	良	砂粒含−黒・赤色粒
	808	143	118−2	須恵器	杯蓋		17.8	1.4		0.4(口縁部)		小片口縁部	古代	1群Ⅱb？類	2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含−白色粒
	809	143	118−2	須恵器	杯蓋		12.6	2.0		0.8		1/5	古代	1群Ⅱa類	7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含−白色粒
	810	143	118−2	須恵器	杯蓋		14.7			0.8		1/6	古代	1群Ⅱb類	2.5Y8/2	灰白色	普通	砂粒含−白色粒
	811	144	118−2	須恵器	杯		10.7	2.6		0.4〜0.5(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	812	144	118−2	須恵器	杯		10.8	1.9		0.3〜0.4(口縁部)		小片口縁部	古代	Ⅰ1〜Ⅰ4期	7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含−白色粒
	813	144	118−2	須恵器	杯A		11.7	3.1	8.0	0.5	1.0	1/4	古代		7.5Y6/1	灰色	良	砂粒含−白色粒
	814	144	118−2	須恵器	杯A		11.7	2.85	8.15	0.4	0.8	1/3	古代		7.5YR 7/1	明褐灰色	良	砂粒含−白色粒
	815	144		土師器	杯			1.0	6.0	0.6(下位)	0.4	1/5	古代	底部墨書「平？」　内外面ススあり	7.5YR 7/3	にぶい橙色	普通	砂粒含−白色粒
	816	144	118−2	土師器	甕		22.4	2.1		0.55(口縁部)		小片口縁部	古代		7.5YR 7/6	橙色	普通	砂粒含−白色粒
	817	144	118−2	土師器	甕		21.1	5.6		0.7(口縁部)		小片口縁部	古代		5YR7/6	橙色	良	微砂粒含−透明色粒
A15地区	818	144	119−2	須恵器	杯B	SD102		1.95	9.4	0.5(下位)	0.5	1/5底部	古代		2.5Y7/2	灰黄色	良	砂粒含−白色粒
	819	144	119−2	須恵器	杯蓋		13.6	2.9		0.8		3/4	古代	4群Ⅲ類　内面スス付着	2.5Y8/2	灰白色	普通	砂粒含−白色粒
	820	144	119−2	土師器	杯		12.5	4.5	5.3	0.5	0.9	3/4	古代	外面にスス付着	7.5YR 7/6	橙色	普通	砂粒含−白・赤色粒
A16地区	821	144	120−1	伊万里	皿	SK12	13.3	3.2	8.9	0.4	0.7	1/2	近世	透明釉7.5Y7/1灰白色	7.5Y7/1	灰白色	良	精良
	822	144	120−1	中世土師器	皿	SK01	7.8	1.5		0.4(口縁部)		1/6	中世	B1類　前Ⅶ期	10YR7/3	にぶい黄橙色	良	砂粒含−白・赤色粒
	823	144	081	中世土師器	皿	SK14	7.8	1.2	6.2	0.4(口縁部)	0.3	2/3	中世	B4類　前Ⅵ期	2.5Y8/3	淡黄色	良	砂粒含−白色粒
	824	144	120−1	中世土師器	皿	SK15	7.6	0.9	7.0	0.4	0.3	1/4	中世	B4類　前Ⅶ期	10YR7/2	にぶい黄橙色	良	砂粒含−白色粒
	825	144	120−1	中世土師器	皿	SK19	8.3	1.7		0.3(口縁部)	0.5	1/4	中世	B2類　前Ⅵ期	7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含−赤色粒
	826	144		中世土師器	皿		7.9	1.6		0.4(口縁部)	0.4	1/5	中世	B1類　前Ⅶ期 内外面口縁端部スス付着	10YR8/2	灰白色	良	砂粒含−灰色粒
	827	144	120−1	越中瀬戸	皿	SD01	10.6	1.7		0.55(口縁部)		小片口縁部	近世	鉄釉7.5YR3/2黒褐色	7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	精良
	828	144	120−1	伊万里	碗	SD01	10.4	6.1	4.1	0.25	0.5	3/4	近世	透明釉N8/灰白色	N8/	灰白色	良	精良
	829	144	120−1	越中瀬戸	皿	SD01	9.8	2.5	4.6	0.4	0.7	1/3	近世	鉄釉7.5YR3/3暗褐色 内ハゲ	7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含−白色粒
	830	144	120−1	伊万里	小瓶	SK21		4.0	2.8	0.15	0.4	1/2	近世	梅文	N8/	灰白色	良	精良
	831	144	120−1	珠洲	スリ鉢	SD04	15.6	5.7		0.75(口縁部)		1/4口縁部	中世	Ⅰ3〜Ⅱ2期	N6/	灰色	良	砂粒含−白色粒
	832	144	120−1	珠洲	スリ鉢	SD04	17.4	8.1	8.0	0.8	1.2	1/2	中世	Ⅰ3期	N7/	灰白色	良	砂粒含−白色粒
	833	144	119−1	龍泉窯系青磁	碗		16.1	2.4		0.3(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅱ−b類　外面に蓮弁文 青磁釉10Y6/2オリーブ灰色	10Y7/1	灰白色	良	精良
	834	144		龍泉窯系青磁	稜花皿		11.7			0.5		口縁部小片	中世	青磁釉7.5Y6/2灰オリーブ色	5Y7/2	灰白色	良	精良
	835	144	120−1	珠洲	スリ鉢		33.1	9.25		0.8(口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅱ2期　卸目あり	7.5Y7/1	灰白色	良	砂粒含−白色粒
A18地区	836	144	121−1	龍泉窯系青磁	坏	SK01	12.6	2.2		0.5(口縁部)		1/8口縁部	中世	青磁釉7.5GY7/1	7.5Y7/1	灰白色	良	精良
	837	144	122−1	越中瀬戸	皿	SK01	11.0	2.7	4.0	0.4	0.7	1/3	近世	鉄釉10YR3/2黒褐色	2.5Y8/3	淡黄色	良	砂粒含−白色粒

土器・陶磁器一覧(23)

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	種類	器種	遺構番号	口径 cm	器高 cm	底径 cm	器厚体部(中位) cm	器厚底部 cm	残存	時期	備考	色調(記号)	胎土色	焼成	胎土
A18地区	838	144	122－1	越中瀬戸	小皿	SK01		2.0	4.2	0.4 (下位)	0.7	完形底部	近世	灰釉5Y7/4浅黄色	5YR7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	839	144	122－1	越中瀬戸	小皿	SK01	10.8	2.5	4.8	0.4	0.7	4/5	近世	灰釉2.5Y8/2灰白色　高台内墨書あり(判読不明)	2.5YR 6/6	橙色	良	精良
	840	144	122－1	越中瀬戸	皿	SK01	11.0	2.4	4.4	0.4	0.4	1/3	近世	鉄釉7.5YR3/4暗褐色	10YR8/3	浅黄橙色	良	砂粒含－白色粒
	841	144	122－1	越中瀬戸	皿	SK01	11.0	2.3	5.2	0.5	0.6	1/3	近世	鉄釉7.5YR3/4暗褐色	2.5YR 5/4	にぶい赤褐色	良	砂粒含－白色粒
	842	144	122－1	越中瀬戸	皿	SK02	10.8	2.5	4.4	0.3	0.5	1/6	近世	鉄釉5YR3/2暗赤褐色	2.5Y8/3	淡黄色	良	砂粒含－白色粒
	843	144	121－2	越中瀬戸	皿 (通し皿)	SK01		1.8	5.3	0.4 (下位)	0.9	完形底部	近世	鉄釉5YR3/3暗赤褐色 高台内墨書あり「十」	5YR7/6	橙色	良	砂粒含－白色粒
	844	144	122－1	越中瀬戸	スリ鉢	SK01		5.0	11.8	1.4 (下位)	1.2	1/4 底部	近世	錆釉5YR4/3にぶい赤褐色　卸目7条一単位	5YR7/6	橙色	良	砂粒含－白色粒
	845	144	122－1	越中瀬戸	スリ鉢	SK01		4.2	9.0	1.0 (下位)	0.7	1/4 底部	近世	錆釉7.5YR3/4暗褐色 卸目15条一単位	2.5Y8/3	淡黄色	良	砂粒含－白色粒
	846	144	122－1	越中瀬戸	壷	SK01	13.8	5.9		0.8 (口縁部)		1/8 口縁部	近世	錆釉7.5YR3/3暗褐色	7.5YR 8/2	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	847	144	122－1	越中瀬戸	壷	SK01	15.0	8.4	13.0	0.6 (下位)	1.0	1/2	近世	錆釉7.5YR3/4暗褐色	2.5Y8/3	淡黄色	良	砂粒含－白色粒
	848	144	121－1	中世土師器	小皿		7.4	1.6		0.4 (口縁部)	0.5	2/5	中世	B1類　前Ⅸ～後Ⅰ期	10YR6/3	にぶい黄橙色	普通	砂粒含－白・赤色粒
	849	144	121－1	中世土師器	小皿		8.0	2.0		0.45 (口縁部)	0.4	1/3	中世	C3類　後Ⅰ期 内外面口縁部スス付着	2.5YR 7/6	橙色	良	精良
	850	144	121－1	中世土師器	小皿		7.8	1.6		0.5 (口縁部)	0.5	ほぼ完形	中世	B1類　前Ⅸ～後Ⅰ期 口縁端部一部スス付着	7.5YR 7/6	橙色	良	砂粒含－白色粒
	851	144	121－1	中世土師器	小皿		7.6	1.8		0.5 (口縁部)	0.5	1/3	中世	B1類　前Ⅸ～後Ⅰ期	10YR7/2	にぶい黄橙色	良	砂粒含－赤色粒
	852	144	121－1	中世土師器	大皿		11.0	2.6		0.6 (口縁部)		1/6	中世	D4類　後Ⅳ期	10YR7/3	にぶい黄橙色	普通	砂粒含－赤色粒
	853	144	121－2	越中瀬戸	皿 (通し皿)			1.7	5.2	0.7 (下位)	0.4	完形底部	近世	鉄釉5YR4/4にぶい赤褐色　高台内墨書あり(判読不明)　灰釉10YR7/3にぶい黄橙色	10YR8/3	浅黄橙色	良	精良
	854	144	121－2	越中瀬戸	小皿			2.0	4.4	0.7 (下位)	0.4	完形底部	近世	灰釉7.5Y8/1灰白色 高台内墨書あり「十」	7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－灰色粒
	855	144	121－2	越中瀬戸	皿		10.6	2.9	5.1	0.4	0.5	1/4	近世	灰釉7.5Y8/1灰白色 高台内に墨痕あり スス？付着	7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	微砂粒含－白色粒
	856	144	121－2	越中瀬戸	皿			1.7	4.5	0.4 (下位)	0.5	完形底部	近世	外面7.5YR7/3にぶい橙色　高台内墨書あり「十」 灰釉7.5Y7/1灰白色	7.5YR 7/3	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	857	144	122－1	越中瀬戸	皿		10.6	2.5	4.4	0.4	0.4	1/3	近世	灰釉2.5Y8/2灰白色	5YR6/4	にぶい橙色	良	砂粒含－白色粒
	858	144	122－1	越中瀬戸	鉄釉碗		11.6	6.0		0.5		1/6	近世		7.5Y7/1	灰白色	良	精良
	859	144	122－1	越中瀬戸	鉄釉碗			3.6	4.9	0.6 (下位)	0.5	完形底部	近世		7.5YR 7/2	明褐灰色	良	砂粒含－白色粒
	860	144	122－1	越中瀬戸	天目茶碗			3.1	5.0	0.5 (下位)	0.7	ほぼ完形底部	近世		7.5Y7/1	灰白色	良	微砂粒含－透明色粒
	861	144	120－2	須恵器	杯蓋		12.0	1.3		0.5		1/8	古代		10Y6/1	灰色	良	砂粒含－白色粒
	862	144	120－2	須恵器	杯B			1.4	7.0	0.4 (下位)	0.5	1/3	古代	墨書土器高台内(墨書判読不明)	2.5Y6/1	黄灰色	普通	砂粒含－白色粒
	863	144	121－1	珠洲	スリ鉢		35.4	2.7		1.2 (口縁部)		小片口縁部	中世	Ⅴ期　口縁端部に櫛目波状文　卸目あり	N6/	灰色	良	砂粒含－白色粒
	864	144	121－1	越前	スリ鉢		30.0	5.3		1.3 (口縁部)		1/8 以下口縁部	近世	卸目7条～9条あり	2.5Y7/2	灰黄色	良	微砂粒含－白色粒
	865	144	121－1	越前	スリ鉢			6.8	15.0	1.6 (下位)	0.9	1/6 以下底部	近世	卸目7条以上と9条あり	5Y7/1	灰白色	良	砂粒含－白色粒
	866	144		土製品	土鈴		4.3 (長)	3.4 (幅)		0.6 (胴部)		1/2	近世		10YR7/3	にぶい黄橙色	良	精良

木製品一覧

地区	遺物番号	図版番号	写真番号	遺構番号	種類	材質	長さ・cm	幅・cm	厚さ・cm	備考
A５地区	001	145	122－2	SE01	板状木製品		21.3	7.3	2.2	
A13地区	002	145	122－2	SK13	漆器蓋		13.4	9.9	1.0	内外面黒漆　内面赤漆で「シ」
	003	145	122－2		棒状木製品		13.2	2.8	1.8	
A16地区	004	145	122－2	SK12	漆器椀		4.5	3.3	0.8	外面黒漆　内面赤漆

金属製品一覧(1)

遺構コード	遺物番号	図面番号	写真番号	遺構番号	種類	材質	長さ・cm	幅・cm	厚さ・cm	重さ・g	備考
A１・A４地区	001	145	123	SD030	棒状銅製品		3.1	0.35	0.4	1.4	
	002	145	125－2	SP047 (SB05)	釘		(1.9)	0.4	0.4	2.7	
	003	145	126－2	SK079	釘		(4.9)	0.7	0.5	17.1	
	004	145	125－2	SK060	釘		5.2	0.4	0.5	9.8	
	005	145	124－2	SK116	釘		8.0	0.55	0.55	12.4	
	006	145	124－2	SD003	棒状鉄製品		(2.7)	0.3	0.8	7.0	棒状
	007	145	126－2	SD020	棒状鉄製品		(14.4)	0.3	0.3	13.0	接合　他7
	008	145	126－2	SD020	棒状鉄製品		(13.0)	0.3	0.3	12.1	接合　他7
	009	145	125－2	SK023	棒状鉄製品		4.7	0.8	0.3	11.8	棒状
	010	145	124－2	SD163	棒状鉄製品		5.5	1.0	0.15	13.3	棒状
	011	145	125－2	SK113	板状鉄製品		3.9	1.5	0.2	8.7	接合
	012	145	125－1	SK054	刀子		(17.3)	2.4	0.6	138.7	
	013	145	125－2	SI02	棒状鉄製品		2.1	0.5	0.4	5.0	北東1/4　他1
	014	145	125－1	SI12	鉄鏃		(5.8)	1.3	0.35	20.1	
	015	145	125－2	SI11	棒状鉄製品		(1.7)	0.5	0.4	2.4	
	016	145	124－2	SD106	棒状鉄製品		6.5	0.4	0.5	14.1	
	017	145	125－1	SI11	鉄鏃		(7.7)	3.1	0.7	50.5	
	018	145	125－1	SI11	刀子		18.1	1.1	0.4	32.6	
	019	145	125－1	SI02	刀子		(13.6)	1.1	0.3	27.5	
	020	145	125－1	SI07	刀子		(5.2)	0.7	0.3	4.3	
	021	146	123	SI22	金環		2.5	2.75	0.6	8.3	
	022	146	125－1	SI07	棒状鉄製品		8.9	1.1	0.85	57.1	
	023	146	127－1	SD164	棒状鉄製品		13.3	0.6	0.5	38.9	接合
	024	146	124－2		釘		(4.9)	0.35	0.3	3.6	接合
	025	146	124－2		釘		5.9	0.75	0.4	12.8	出土状況写真有り
	026	146	124－2		棒状鉄製品		(5.6)	0.5	0.3	12.5	棒状
	027	146	124－2		棒状鉄製品		(5.3)	0.9	0.35	12.4	
	028	146	124－2		L字状鉄製品		(4.15)	0.4	0.3	4.1	
	029	146	124－2		棒状鉄製品		(5.8)	0.7	0.4	12.2	棒状　接合　他2
	030	146	123		袋状鉄斧		(8.9)	4.1	0.35	152.2	
	031	146	124－1		不明		6.2	5.0	5.0	87.4	
	032	146	125－2	SK107	鉄滓		2.5	1.2	1.3	3.2	
	033	146	126－2	SD022	鉄滓		4.2	6.2	2.4	64.0	
	034	146	126－2	SD022	鉄滓		4.4	5.4	1.6	48.2	
	035	146	126－2	SD023	鉄滓		3.9	5.2	1.5	33.2	
	036	146	127－1	SD164	椀形滓		10.3	12.4	3.3	306.9	上層　他9
	037	146	127－1	SD164	鉄滓		3.2	4.65	2.8	30.1	他6
	038	146	127－1	SD164	鉄滓		3.8	5.4	2.5	69.7	
	039	146	127－1	SD164	鉄滓		4.4	5.9	2.8	108.5	他11
	040	146	127－1	SD164	鉄滓		3.7	6.7	2.0	34.5	上層　他9
	041	147	126－2	SD164	鉄滓		3.0	4.4	0.9	7.5	
	042	147	126－2	SD164	鉄滓		3.0	3.4	1.7		他6
	043	147	127－1	SD164	鉄滓		2.95	4.2	2.8	11.5	
	044	147	126－2	SD164	鉄滓		3.9	6.5	2.8		他6
	045	147	127－1	SD164	鉄滓		3.55	3.5	1.65	13.4	他13
	046	147	126－2	SD164	鉄滓		3.0	4.3	2.5	63.2	他6
	047	147	127－1	SD164	鉄滓		4.8	5.7	1.8	30.4	破片有り　他8
	048	147	127－1	SD164	鉄滓		5.25	6.8	3.5	94.7	

金属製品一覧(2)

遺構コード	遺物番号	図面番号	写真番号	遺構番号	種類	材質	長さ・cm	幅・cm	厚さ・cm	重さ・g	備考
A1・A4地区	049	147	127−1	SD164	鉄滓		2.7	3.6	1.8		破片有り　他8
	050	147	127−1	SD164	鉄滓		3.8	5.45	1.75	29.1	上層　他9
	051	147	124−1	SD106	鉄滓		3.0	2.4	2.0	12.9	
	052	147	124−1	SD106	鉄滓		3.3	2.0	1.0	11.3	
	053	147	124−1	SD111	鉄滓		2.9	3.1	1.5	28.1	
	054	147	125−2	SI02	鉄滓		2.2	2.7	1.4	7.8	南東1/4
	055	147	127−1	SI24	鉄滓		3.5	3.7	2.25	26.8	他1
	056	147	127−1	SI24	鉄滓		3.95	4.6	1.85	23.2	他1
	057	147	125−1	SI09	鉄滓		6.0	8.9	2.5	211.0	
	058	147	124−1		鉄滓		3.9	5.1	3.1	96.0	
	059	147	124−1		鉄滓		3.8	5.4	2.2	56.0	
	060	147	124−1		鉄滓		5.7	8.0	2.3	118.0	側溝
	061	147	126−2		鉄滓		2.8	4.6	2.0	25.8	
A3地区	062	147	126−1	SD08	鉄滓		3.0	4.7	2.3	38.8	
	063	147	126−1	SK41	棒状鉄製品		(11.7)	0.6	0.15	39.8	棒状
	064	147	126−1		棒状鉄製品		6.1	0.7	0.2	5.1	中世包含層
	065	147	126−1		鋏		(5.3)	1.8	0.4	15.9	中世包含層　接合
	066	147	126−1		鉄鎌		(7.2)	2.4	0.6	37.3	中世包含層
	067	147	126−1		板状鉄製品		(8.6)	1.8	0.25	18.1	中世包含層　接合
	068	148	126−1		馬鍬		18.7	2.2	0.7	133.2	包含層
A5地区	076	148	123	SK19	鉄鍋		(40.1)	28.5	15.8	10462	
A7·A8·A9地区	069	148	127−2	SD008	釘		(5.8)	0.8	0.3	8.6	他1
	070	148	127−2	SI01	棒状鉄製品		2.5	0.4	0.4	1.1	
	071	148	127−2	SI01	棒状鉄製品		3.3	0.45	0.45	5.2	
	072	148	127−2	SD010	釘		(6.4)	0.5	0.45	5.6	
	073	148	127−2	SI01	棒状鉄製品		8.1	0.4	0.3	3.3	他1
	074	148	127−2	SK002	棒状鉄製品		9.2	0.35	0.35	9.9	
	075	148	127−2	SI01	コ字状鉄製品		(5.5)	0.7	0.5	47.6	
	077	148	123	SI01	紡錘車		6.2	5.5	0.35	46.6	軸直径−0.35
	078	148	127−2	SI01	鉄滓		1.9	3.0	1.35	8.7	
	079	148	127−2	SI01	鉄滓		2.5	2.9	1.3	6.5	
	080	148	127−2	SI01	鉄滓		3.8	3.7	2.7	27.1	
A10地区	103	149	123		銅銭		2.5	2.5	0.2	3.0	
A12地区	081	148	128−1	SD003	棒状鉄製品		(5.2)	0.85	0.15	14.2	
	082	148	123		煙管（吸口）		4.7	0.8	0.1	3.3	包含層
	083	148	128−1		板状鉄製品		7.4	5.5	1.4	3.7	包含層　他9
	084	148			棒状鉄製品		5.3	1.3	1.3	21.9	包含層　他9
	085	148	128−1		棒状鉄製品		(7.3)	1.2	0.6	39.0	包含層
	086	148	128−1		鉄鎌		3.7	3.6	0.5	10.9	包含層
	087	149	128−1		釘		9.5	0.4	0.4	10.6	包含層　他1
	088	149	128−1		袋状鉄斧		15.6	6.2	4.7	1320	包含層
	089	149	123		鉄鍋		33.0	23.3（底径）	15.2（器高）	2250	厚−0.3　他多数
A13地区	090	149	128−2		釘		7.3	0.25	0.25	10.9	包含層　破片有り
	091	149	128−2		釘		9.2	0.3	0.25	12.7	包含層
	092	149	128−2		釘		9.9	0.3	0.3	10.8	包含層
	093	149	128−2		釘		10.0	0.3	0.3	12.2	包含層
	094	149	128−2	SK13	板状鉄製品		8.0	1.5	0.25	17.5	近代
	095	149	128−2		板状鉄製品		19.2	0.3	0.55	54.5	包含層
	096	149	128−2		鉄鎌		10.3	3.1	0.3	17.0	包含層
	097	149	128−2		板状鉄製品		9.8	2.8	0.65	38.8	包含層
A14地区	098	149	128−2	SK13	鉄滓		3.2	4.5	0.8	11.0	
	099	149	128−2	SK39	鉄滓		3.5	5.8	2.1	41.9	
A16地区	100	149	123	SD01	煙管（吸口）		5.6	1.15	0.1	3.2	
	101	149	128−2	SK20	棒状鉄製品		10.9	1.5	0.6	41.2	
	104	149	123		銅銭		2.6	2.6	0.5	2.3	接合
A18地区	102	149	123		刀子		6.3	1.5	1.3	10.4	

石製品一覧

地区	遺物番号	図面番号	写真番号	遺構番号	種類	材質	長さ・cm	幅・cn	厚さ・cm	重さ・g	備考
A1・A4地区	001	150	134－1	SD164	砥石	砂岩	(6.4)	6.5	3.4	203.2	
	002	150	134－1		砥石	泥岩	(5.7)	3.1	0.7	19.7	
A3地区	003	150	134－1		砥石	泥岩	(4.3)	3.3	0.9	14.5	
	004	150	134－1		砥石	凝灰岩	(9.1)	3.8	3.0	160.6	
	005	150	134－1		砥石	凝灰岩	(5.7)	5.3	3.6	151.4	接合
	006	150	134－1		砥石	凝灰岩	(8.0)	2.3	1.7	32.9	
	033	152	129		五輪塔(火輪)	泥岩	20.9	19.7	15.7	8300.0	天井部一辺9.0cm
A5地区	007	150	134－1	SK06	砥石	安山岩	(5.0)	4.2	1.4	39.7	
	008	150	129	SD02	五輪塔(火輪)	安山岩	28.3	28.7	18.4	22500.0	
	009	150	129	SD02	五輪塔(火輪)	安山岩	28.9	28.9	18.8	23500.0	
	010	150	129	SD02	五輪塔(火輪)	安山岩	25.4	25.2	18.0	17600.0	
	011	150	129	SD02	五輪塔(火輪)	溶結凝灰岩	25.0	25.8	14.9	14900.0	
	012	150	130	SD02	五輪塔(地輪)	安山岩	23.3	23.8	19.6	20800.0	
	013	150	130	SD02	五輪塔(地輪)	安山岩	24.7	23.6	17.2	23100.0	
	014	150	130	SD02	五輪塔(地輪)	安山岩	25.4	25.7	18.8	24000.0	
	015	150	130	SD02	五輪塔(地輪)	安山岩	26.3	26.6	21.8	32100.0	
	016	151	130	SD02	五輪塔(地輪)	安山岩	24.3	29.7	21.7	33500.0	
	017	151	130	SD02	五輪塔(地輪)	安山岩	27.0	25.2	21.8	28800.0	
	018	151	130	SD02	五輪塔(地輪)	安山岩	27.9	28.8	19.0	27600.0	
	019	151	130	SD02	五輪塔(地輪)	安山岩	25.9	25.5	17.5	24500.0	
	020	151	131	SD02	五輪塔(地輪)	安山岩	26.8	27.9	22.4	34200.0	
	021	151	130	SD02	五輪塔(地輪)	安山岩	27.7	25.0	18.6	25000.0	
	022	151	131	SD02	板碑	安山岩	42.6	19.0	16.1	21500.0	線刻
	023	151	131	SD02	板碑	安山岩	43.9	17.8	14.4	16100.0	線刻
	024	151	131	SD02	板碑	安山岩(角せん石がないタイプ)	51.3	22.3	16.6	31600.0	線刻
	025	151	131	SD02	板碑	溶結凝灰岩	52.5	17.8	11.0	21400.0	線刻
	026	151	131	SD04	五輪塔(地輪)	石灰質片麻岩	26.7	26.8	21.2	31500.0	
	027	151	132	SD04	すり石	砂岩	15.5	16.0	12.3	2900.0	
	028	152	134－2	SE02	凹石	安山岩	19.5	17.1	6.5	2900.0	
	029	152	129	SD05	五輪塔(火輪)	安山岩	26.2	26.7	14.0	13200.0	
	030	152	132		五輪塔(空風輪)	溶結凝灰岩	16.3	11.7	10.8	2600.0	
	031	152	132		五輪塔(水輪)	安山岩	22.2	23.0	16.3	11500.0	
	032	152	129		五輪塔(火輪)	溶結凝灰岩	23.9	23.5	14.5	12800.0	
	034	152	132		石臼(下臼)	安山岩	31.7	13.9	8.2	6000.0	臼目14～15本
A6地区	041	152	134		砥石	安山岩	(8.7)	4.1	2.9	166.3	
A7・A8・A9地区	035	152	129		五輪塔(火輪)	安山岩	25.7	24.6	16.2	14000.0	天井部一辺10.0cm
	036	152	132	SD14	石臼(上臼)	安山岩	29.1	14.9	10.1	5400.0	臼目8本
	037	152	132	SD17	石臼(上臼)	砂岩	34(径)		4.9	5000.0	接合
	038	152	134	SD14	凹石	安山岩	13.5	13.9	5.2	1360.0	
	039	152	132		石臼(上臼)	安山岩	33.6	24.8	9.3	10200.0	孔2カ所
A12地区	040	152	129		五輪塔(火輪)	凝灰岩	25.4	24.8	15.7	12500.0	天井部一辺10.0cm
A13地区	042	153	134－2	SK13	砥石	泥岩	(6.8)	3.7	1.8	59.7	近代砥石
	043	153	132	SK12	不明石製品	安山岩	36.6	8.3	4.7	1330.0	接合
	044	153	134－2	SD03	砥石	砂岩	5.4	2.7	5.0	136.0	
A16地区	045	153	134－2		砥石	凝灰岩	(9.9)	7.1	1.6	184.9	
	046	153	132	SK12	硯	泥岩	12.1	7.7	1.8	272.5	裏面に線刻
A18地区	047	153	133	SK01	砥石	砂岩	(17.7)	10.0	5.8	1500	
	048	153	133	SK01	石鉢	溶結凝灰岩	31.1(口径)	5.0(体部厚)	6.8(底部厚)	11500	
	049	153	133	SK01	石臼(上臼)	花崗岩	28.0	19.5	10.0	8000	
	050	153	133	SK01	不明石製品	安山岩	35.2	28.0	11.5	16900	
	051	153	133	SK01	五輪塔(火輪)	安山岩	19.2	20.0	11.0	5600	天井部一辺16.0cm
	052	153	133	SK01	五輪塔(火輪)	安山岩	28.0	27.0	17.2	18800	天井部一辺10.0cm
	053	153	133	SK01	五輪塔(地輪)	安山岩	27.6	27.0	21.7	27300	

第Ⅳ章　結　　語

任海宮田遺跡Ａ地区の調査からは古代、中世、近世の長期にわたる集落遺跡であることが判明した。今回報告した調査区域の北側にはＢ地区とＣ地区が続く。こうした周辺遺跡の様相も踏まえ、遺構や遺物、集落の様相をとらえていく必要があろう。しかし、今後報告される部分も多く、現時点では調査区域内における建物遺構を中心に、各時期ごとの遺構変遷を示し、結語としたい。

1　古　代

古代の遺構が検出されている地区は、任海宮田遺跡のＡ１・Ａ４・Ａ６・Ａ７・Ａ８・Ａ９・A12・A15地区である。遺構は竪穴住居・掘立柱建物・畑・土坑・溝がある。このうち、竪穴住居や掘立柱建物などの建物遺構が認められたのは、Ａ１・Ａ４地区で竪穴住居18棟、掘立柱建物１棟、Ａ８地区とA12地区で竪穴建物１棟であった。出土遺物の検討から遺跡の存続年代は８世紀後半から10世紀前半とされ、住居跡の時期区分を前期と後期の２時期に分けている。それぞれの遺構について見ても、住居の重複関係・軸方向・遺構の深さから各時期をさらに数期に分けることにした。

(1)　前期Ⅰ［Ａ１地区SI03・SI06・SI07・SI09・SI11・SI12、Ａ４地区SI16・SI17・SI18・SI19・SI22］８世紀後半

Ａ１地区では調査区のほぼ中心に竪穴住居を６棟検出している。建物規模を床面積でみると中型(35㎡～10㎡）小型（10㎡以下）に分けることができる。この時期ではこれらが３基ずつ、セット関係にあるものと思われる。組み合わせとしてはSI07とSI03、SI09とSI06、SI11とSI12がある。カマドを確認できた住居はSI09・SI11・SI12で、平面形は方形である。カマドの方位はほとんどが東南向きで、規則性が窺える。カマドの設置位置はSI09とSI11がコーナーに造り付けられ、SI12は東側のほぼ中央に構築されている。畑との重複が激しく、SI03・SI06ではカマドのプランを確認出来なかった。Ａ４地区は住居が北西側に集中している。この地区はＡ１地区から西に約10m離れており、面積も狭く知り得る住居の確認範囲が限られるためセット関係などを見い出すことは出来なかった。更に住居群が調査区外に延びるものと考えられる。

(2)　前期Ⅱ［Ａ１地区SI04・SI05、SI08・SI13・SB10］８世紀後葉～９世紀前半

この時期も前期Ⅰと同様にＡ１地区のほぼ中心で竪穴住居４棟と掘立柱建物１棟を確認している。建物規模は中型、小型ともに２基ずつ確認した。SI04とSI05とSI08が大まかなセット関係として捉えることができる。小型住居が２基あるが、調査区西側に住居群が広がるものと思われる為どちらがSI08との組み合わせかは確定は難しい。これらも畑との重複が多く、SI04・SI05ではカマドのプランを確認出来ていない。次にSB10とSI13のセット関係が考えられる。調査地の南西800mには富山県埋蔵文化財センターによって調査された吉倉Ｂ遺跡があり、堀立柱建物と竪穴住居の組み合わせが報告されている。SB10は２間×３間の側柱建物で、棟方位は北東方向である。SI13は中型住居でカマドがコーナーに設置されている。カマドの方位は東南向きで前期Ⅰとの関連性が窺える。

(3)　後期Ⅰ［Ａ１地区SI01・SI14・SK241、Ａ４地区SI20・SI21・SI23・SI24］９世紀前半から９世紀中頃

後期に入ると前期に比べて竪穴住居の軸方向が若干西に傾く傾向が見られる。住居の位置は中央部分に集中していたが、棟数が少なくなり散在するようになる。また住居の深度が浅くなるのも特徴で

ある。A１地区の北東端に２基、中央部分に１基確認している。セット関係が見られるのはSI01とSK241であるがSK241は調査区端で部分的な検出しかできず、建物規模が明確に判明しなかった為便宜的に土坑とした。SI01も同様である為このセット関係はあくまで推定にすぎない。SI14は規模は小型で方形である。SI15と重複している為、カマドの有無は確認できない。A４地区は建物規模がわかるものは２棟でSI20とSI21である。これも前期Ｉと同様、面積も狭く知り得る住居の確認範囲が限られるためセット関係などを見い出すことは出来なかった。

⑷　後期Ⅱ［A１地区 SI02・SI10・SI15］ ９世紀中頃～９世紀後半

後期Ⅱは後期Ｉと同様に住居の棟数が少なく、散在するようになる。A１地区の北東端に２基と中央部分に１基確認している。セット関係がみられるのはSI02とSI10と思われる。SI10のカマドの方位は西方向である。調査区東端に位置している為規模は不明である。SI02は方形でカマドは確認されなかった。規模が中型住居であるため今までのセット関係をみると、SI10は小型住居である可能性が高い。SI15は小型住居でカマドの方位は北向きで、この時期になるとカマド方位に対する規則性が弛緩する傾向があると思われる。

⑸　後期Ⅲ［A１地区 SD101～SD155・SD157・SD158］ 10世紀前半

後期Ⅲは住居群が見られず、溝群がA１地区の北側半分に広がっている。溝群はそれぞれ平行に一定の間隔および長さを保持することから畑のさく状遺構と考えられる。また竪穴住居の大半および掘立柱建物とほぼ同じ向きを示す。集落廃絶後に畑として利用されたものと思われる。

２　中近世

中世から近世の遺構は今回の調査で各地区から多数存在していることが明らかになっている。このような中で、確認されている掘立柱建物の棟数は大小様々な規模のものが30棟あり、井戸は７基、土坑、溝は多数確認されている。中でも建物遺構が最も集中しているのはA３地区で、掘立柱建物が10棟確認された。次にA１・A４地区の９棟、A13地区の４棟、A16地区の４棟がつづく。他にA６地区の３棟が確認されている。

これらの地区のうち、特に掘立柱建物が集中して検出されたのはA３地区である。遺構の主体となる時期については、出土遺物などから13世紀中頃以降に形成されたとみられる。下限は16世紀代以降の遺構や遺物が希薄なことから、A地区周辺一帯の集落は15世紀末までの約250年ほどの存続期間ということができる。16世紀代以降は集落を形成する建物遺構がみられず、集落廃絶後は耕地化が急速に進んだと考えられる。

以下に各時期における集落の様相を遺構変遷図をもとに考えてみることにする。しかし、遺構変遷の主体となる建物遺構については、その帰属時期を示す遺物がほとんど含まれていない。また、遺構内に意図的ないしは一括投棄された例は皆無で、土坑から出土する遺物もほとんど無いか、あっても小破片で覆土に混じり込んでいる場合がほとんどである。さらに、遺構が密布するような場合、切り合いが著しく、遺構相互の先後に関係なく、時期の前後した遺物が混入する例もみられる。したがって、今回示した遺構変遷はこれらのことに留意し、遺構の重複関係、出土遺物のある土坑や溝の年代観などから想定されている。なお、中近世の遺構変遷については前期（13世紀中頃～15世紀後半）と後期（16世紀前半～17世紀前半以降）とし、必要に応じて細分することにした。

(1) 前期Ⅰ[A1地区SB03・SB04・SB05・SB07、A4地区SB08、A3地区SB03・SB04・SB07・SE03]13世紀中頃～14世紀前半

前期は当該地域の建物群の成立時期にあたる。棟方向が北西方向にもつ建物群で構成されている。建物遺構の分布が顕著なのはA1とA3地区である。A1地区ではほぼ並列に配置されていることからSB04とSB03の組み合わせが考えられる。SB05は2間×5間の大型総柱建物でSB03と重複しておりSB03より古い時期のものと考える。SB07は調査区南東隅で切られているが3間×4間の総柱建物である。A4地区のSB08はA1地区のSB05と同時期のものと思われる。A3地区では重複関係にある建物が多い。SB04は調査区南端で切れているが4間×3間以上の総柱建物である。SB05・SB06と重複関係で古い順にSB04→SB05→SB06となる。東側地区にはSB03とSB07の組み合わせが考えられ、SB07には井戸のSE03を伴う。SE03からは珠洲擂鉢が出土しており、吉岡編年のⅢ期に相当する。

(2) 前期Ⅱ[A3地区SB02・SB05・SB08・SE03]14世紀中頃～15世紀後半

この時期も棟方位が北西方向である。A3地区で前期Ⅰの建物群と重複関係にあった為、便宜的にⅡ期に分ける事にした。SB05は総柱建物でSB04より新しい時期のものと考えられる。東側地区にやや離れて並列配置されているSB02とSB08の組み合わせが考えられる。SB08は3間×4間、面積143.3㎡の全建物群の中で最大規模の大型総柱建物である。重複関係や配置から古い順にSB07→SB08→SB01となる。前期Ⅰと同様に井戸のSE03を伴う。

(3) 後期Ⅰ[A1地区SB01・SB02・SB06・SD14・SD16、A4地区SB09、A3地区SB01・SB06・SB09・SB10・SE01・SE02・SD08・SD09]16世紀前半～17世紀前半

後期になると遺跡全体の建物の棟数や規模が縮小される。建物群の棟方位は前期までの北西方向から、北東方向へ遷移する過渡的な時期と考えられる。A1地区の建物群は調査区北端に2棟、SB01とSB02が重複して位置している。2棟とも総柱建物でSB01の方が新しいと思われる。SB06は小型建物で前期のSB05と重複関係にある。東側地区を南北にほぼ平行に流れるSD14とSD16もこの時期のものと考えられる。A4地区のSB09は調査区南端に位置し、1間×1間の側柱建物で小規模である。A3地区はやや離れて並列配置されているSB01とSB10とSB06の組み合わせが考えられる。SB01は総柱建物で重複関係にあり、SB07とSB08より新しく小規模である。SB06は調査区西南端に位置し、重複関係にある。井戸のSE02を伴う。SB09とSB10は重複関係にあり、SB09の方が新しいと思われる。井戸のSE01を伴う。SE01からは白磁碗が出土しており、太宰府分類のⅤ類に相当する。A3地区西側部分の北側に東西に流れるSD09と東側に南北に流れるSD08が鋭角に交わっている。SB04・SB05・SB06の主軸方向でほぼ一致することから、屋敷地を区画するために構築された区画溝と考えられる。

(4) 後期Ⅱ[A1地区SE01・SK111・SK113・SD01・SD02・SD13、A4地区SE02・SD21・SD22・SD30・SD31]17世紀前半以降

この時期になると遺構の分布はさらに希薄になる傾向にある。区画溝の重複関係から、大きく2段階の遺構変遷が考えられ、SD13の古段階とSD01・SD02の新段階がある。古段階に伴うものとしてA1地区では井戸のSE01、土坑のSK111・SK113、A4地区には井戸のSE02、L字状にほぼ平行に流れる区画溝のSD21・SD22・SD30・SD31があげられる。明確な掘立柱建物は確認されていないものの、井戸の配置から数棟の建物の存在が推定できる。

3 おわりに

以上、任海宮田遺跡の調査成果から建物群を中心に遺構変遷を試みた。任海宮田遺跡の古代集落の

形成時期は８世紀後半に遡り、以後古代を通じて集落が営まれていたことが看取できた。集落自体は時期によって動態的であることが窺え、古代を通じて同じ場所に集落を営む様相は見受けられない。古代前期ⅠではＡ１・Ａ４地区で集落が展開し、次の９世紀前半の古代前期Ⅱでも同じくＡ１・Ａ４地区で営まれている。この時期になると掘立柱建物が出現する。後期の段階でもＡ１・Ａ４地区で集落が展開し、建物が縮小し、古代集落の終焉となる。集落は前期（８世紀後半～９世紀前半）で最盛期を迎え、集落経営が本格的に展開していたとみられる。これらのことは中名Ⅰ・Ⅴ遺跡、中名Ⅴ・Ⅵ遺跡の古代集落の様相と類似する。

古代集落から中世集落に移るまでの間は遺構や遺物がなく、集落変遷の様相が分からない空白部である。本調査成果からは11世紀～12世紀の間の遺物や遺構は皆無と言ってよいほどである。任海宮田遺跡Ａ地区一帯の中世集落は前期に形成期と最盛期を迎え、この時期にかけて集落が営まれる。後期になると前期までの中世集落の形態は解体され、規模を縮小しながら散在的に分布するようになる。集落の最盛期は前期で、その後は終焉し耕地化が急速に進む。このような様相は道場Ⅰ遺跡、中名Ⅴ・Ⅵ遺跡でもみられ、関連性が窺える。

以上任海宮田遺跡Ａ地区の建物の遺構変遷について考察してきたが、筆者の力量不足により全体の流れを概観するにとどまった感がある。是非諸氏の御助言、御叱責を仰ぎ、周辺遺跡との比較・検討など今後の課題としていきたい。（細辻真澄）

引用・参考文献

青山晃「中名遺跡・持田遺跡における中世集落の様相」（財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『紀要』創刊号）　1998

青山晃「神通川右岸における中世集落の一様相－建物群構成の検討を中心として－」（財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『紀要』第２号）　1999

青山晃「古代北陸におけるカマドについて－富山県の造り付けカマドを中心として－」（財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『紀要』第４号）　2001

青山晃「古代北陸におけるカマドについて－カマド構築方位についての検討－」（財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『紀要』第５号）　2002

上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類について」（『貿易陶磁研究』№２）　1982

内田亜紀子「富山県の黒色土器」（財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『紀要』第５号）　2002

九州近世陶磁学会「九州陶磁の編年」　2000

（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡発掘調査報告』　2002

（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『中名Ⅰ・Ⅴ遺跡遺跡発掘調査報告』　2003

（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『道場Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告』　2004

（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『中名Ⅴ・Ⅵ遺跡、砂子田Ⅰ遺跡発掘調査報告』　2005

（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『吉倉Ｂ遺跡発掘調査報告』　2005

中世土器研究会編「概説中世の土器・陶磁器」真陽社　1995

鐘方正樹『井戸の考古学』同成社　2003

富山県埋蔵文化財センター『富山県富山市南　中田Ｄ遺跡発掘調査報告書』　1991

富山県埋蔵文化財センター『富山県総合運動公園内遺跡発掘調査報告書（３）任海遺跡・吉倉Ａ遺跡・吉倉Ｂ遺跡』1993

富山県埋蔵文化財センター『富山県総合運動公園内遺跡発掘調査報告書（４）吉倉Ｂ遺跡』　1994

富山県埋蔵文化財センター『富山県富山市　任海宮田遺跡発掘調査報告書』　1996
富山県埋蔵文化財センター『富山県富山市　任海宮田遺跡発掘調査報告書Ⅱ』　1997
富山県埋蔵文化財センター『富山県富山市　任海宮田遺跡発掘調査報告書Ⅲ』　1998
藤澤良祐「古瀬戸中期様式の成立過程」(『東洋陶磁』第８号)　1982
藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅱ－古瀬戸後期様式の編年－」(『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ｘ)　1991
藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅲ－古瀬戸前期様式の編年－」(『(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第３輯)　1995
藤澤良祐「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」(『(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯)　2002
北陸中世土器研究会「中・近世の北陸」桂書房　1997
北陸中世土器研究会「中世北陸の家・屋敷・暮らしぶり」1993
水野和夫「日本硯考－出土品を中心として－」(『考古学雑誌』第70巻第４号) 1985
向井由紀子・橋本慶子「箸」(『ものと人間の文化史』102) 法政大学出版会　2001
森隆「富山県の中世土器（資料編)」(財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『紀要』第６号)　2003
森隆「任海遺跡群の古代建物群構成－南中田Ｄ遺跡の事例より－」(財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『紀要』創刊号)　1998
森隆「任海遺跡群の古代建物群構成（２）－吉倉Ｂ遺跡・任海宮田遺跡の事例より－」(財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『紀要』第２号)　1999
森隆「任海遺跡群の古代建物群構成（３）－個別事象の検討－」(財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『紀要』第３号)　2000
森田勉「14～16世紀の白磁の形式分類と編年」(『貿易陶磁研究』№２)　1982
八尾町教育委員会『富山県八尾町長山遺跡・京ヶ峰古窯跡緊急調査概要』　1985
山本信夫「大宰府条坊跡Ⅱ」(『大宰府町の文化財』第７集) 大宰府市教育委員会　1983
山本信夫「中世前期の貿易陶磁器－その分析視点－」(『原遺跡七郎丸１地区・口寺田遺跡』) 国東町教育委員会　1999
横田賢次郎・森田勉「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」(『九州歴史資料館研究論集』４)　1978
吉岡康暢『中世須恵器の研究』吉川弘文館　1994

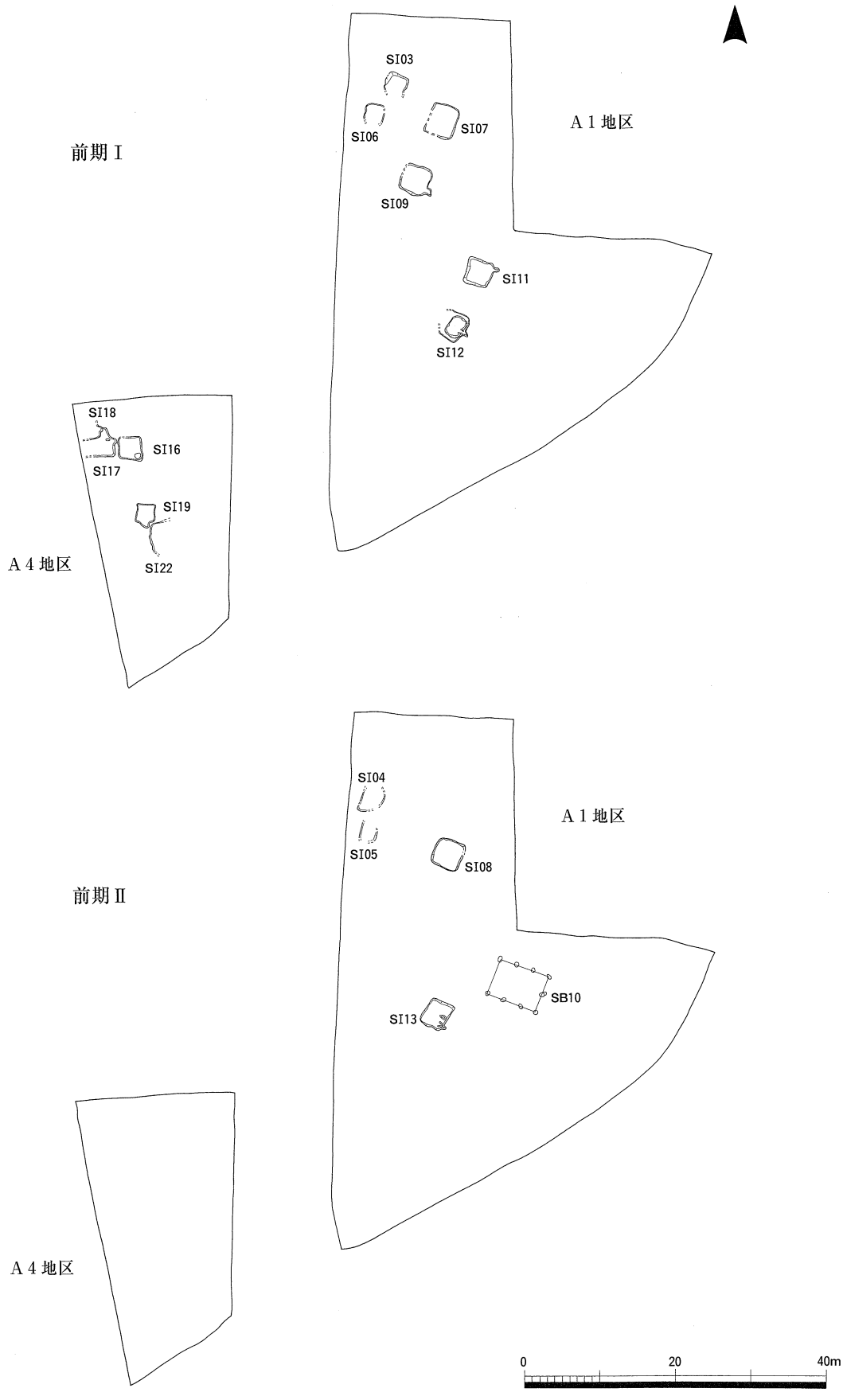

前期Ⅰ
A１地区
SI03
SI06
SI07
SI09
SI11
SI12
SI18
SI16
SI17
SI19
SI22
A４地区
前期Ⅱ
A１地区
SI04
SI05
SI08
SB10
SI13
A４地区
0
20
40m

図１　古代遺構変遷図（１）

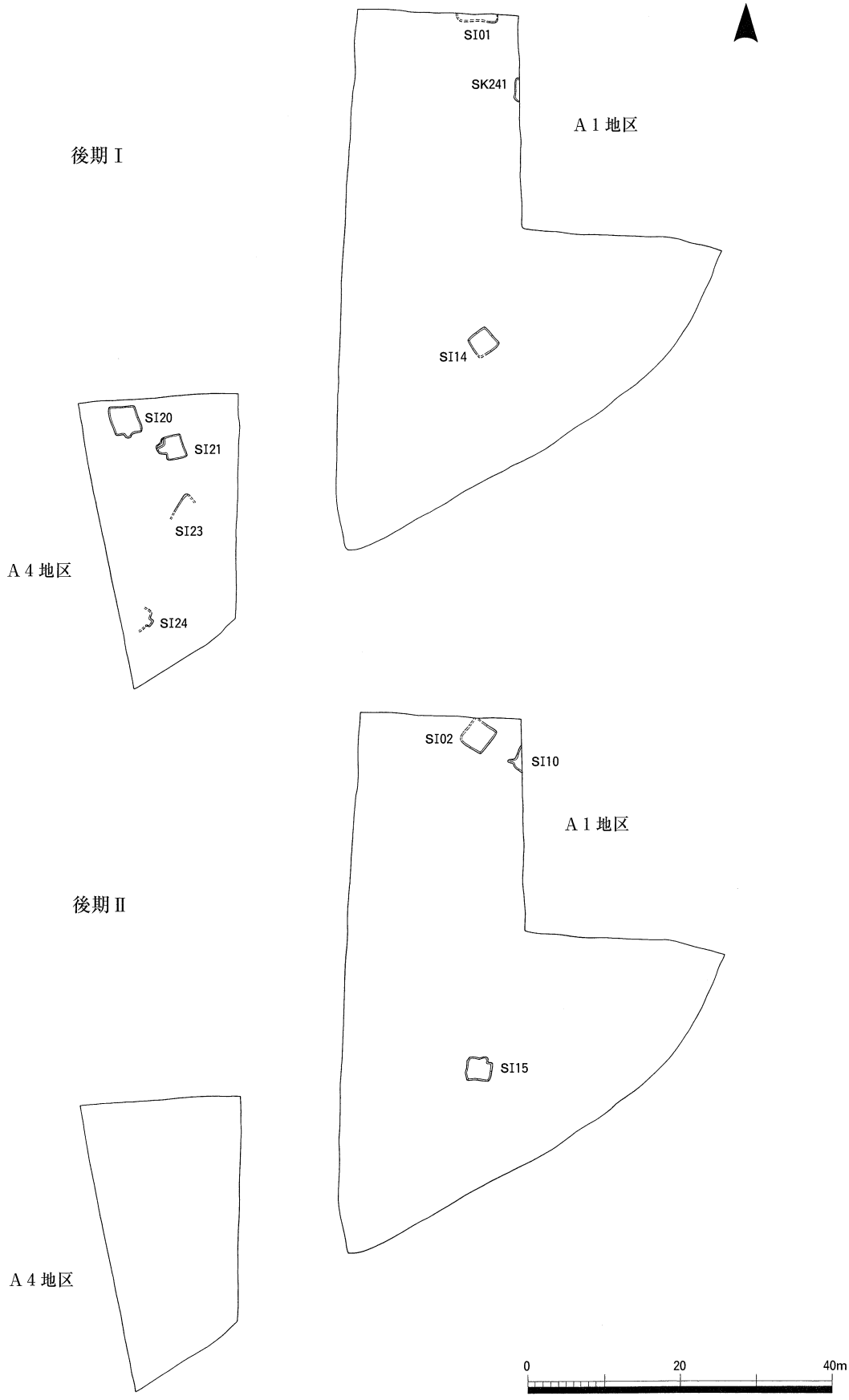

後期Ⅰ
SI01
SK241
A１地区
SI14
SI20
SI21
SI23
A４地区
SI24
後期Ⅱ
SI02
SI10
A１地区
SI15
A４地区
0
20
40m

図２　古代遺構変遷図（２）

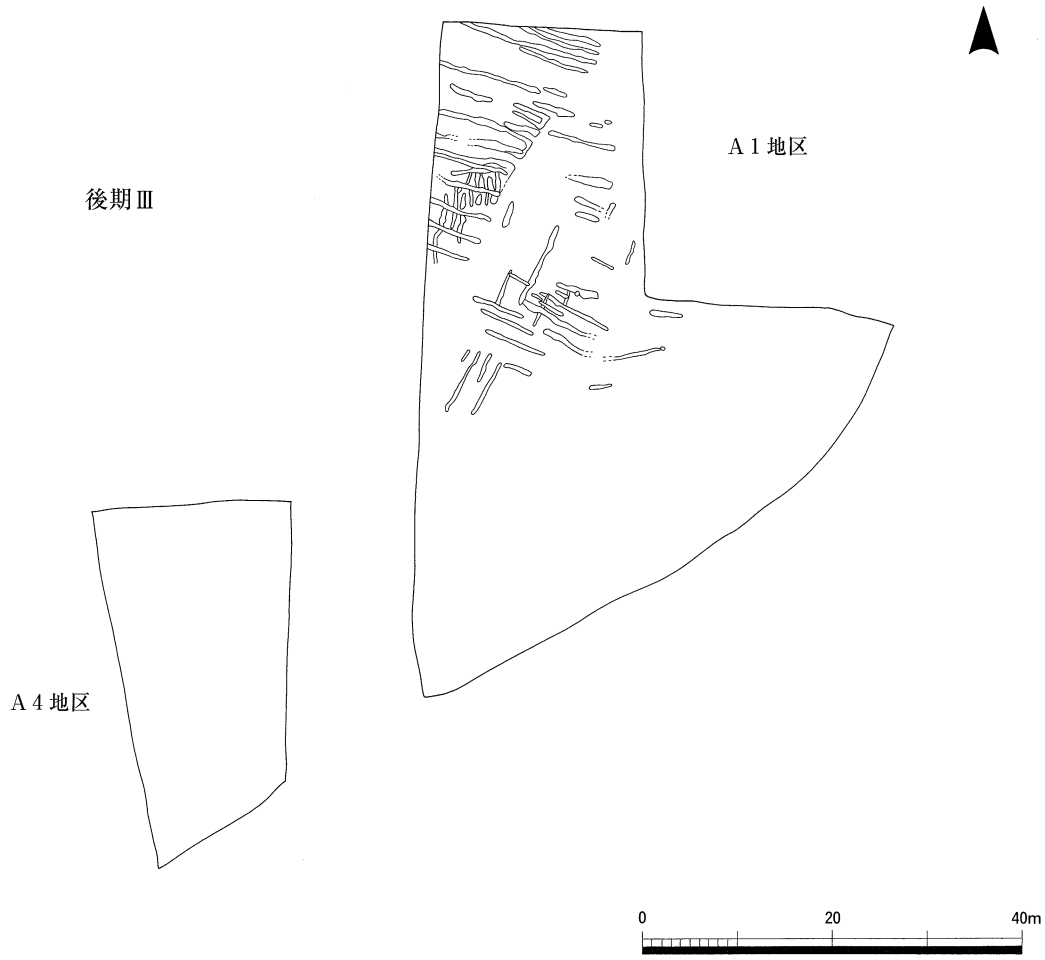


図３　古代遺構変遷図（３）

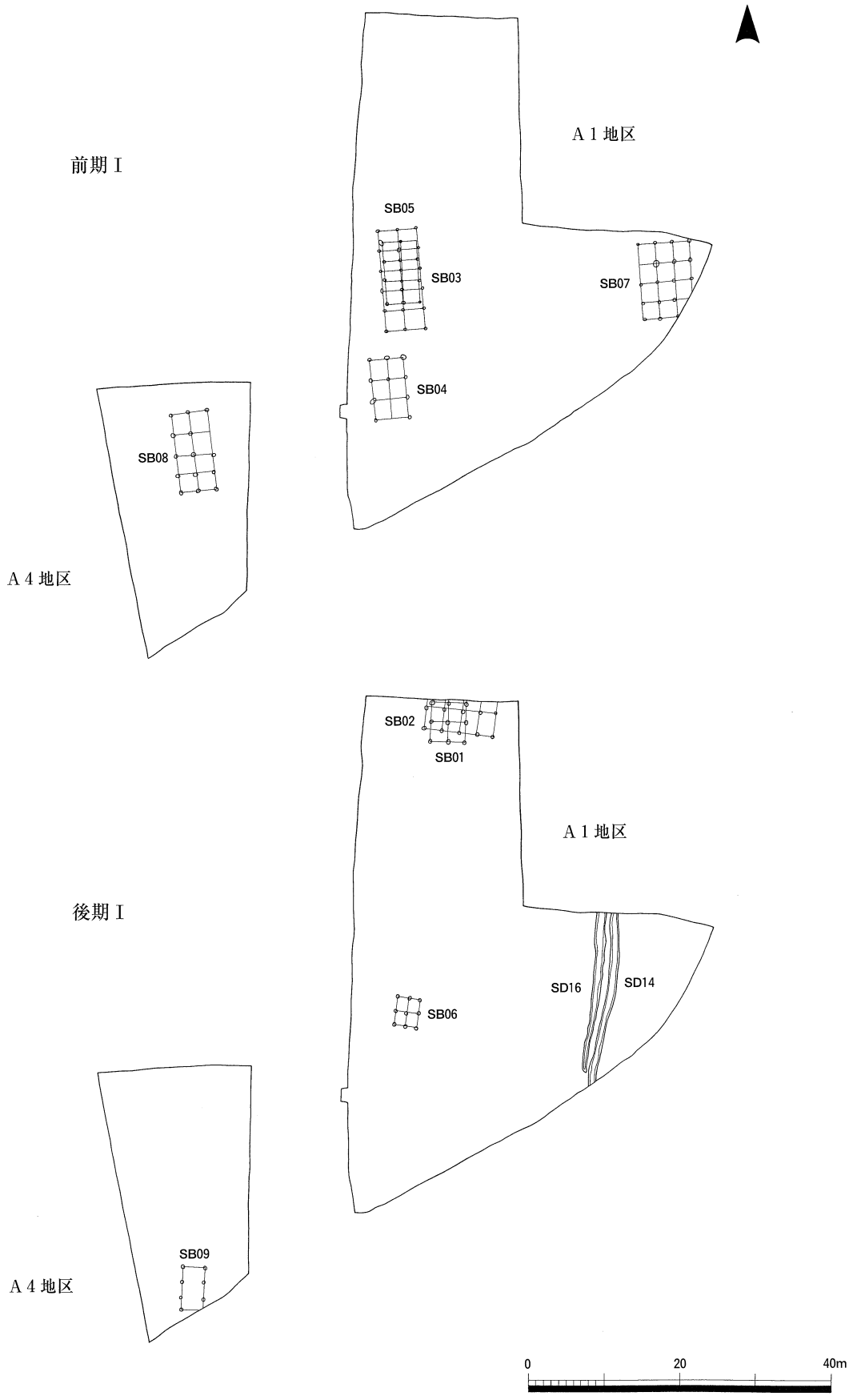


図４　中近世遺構変遷図（１）

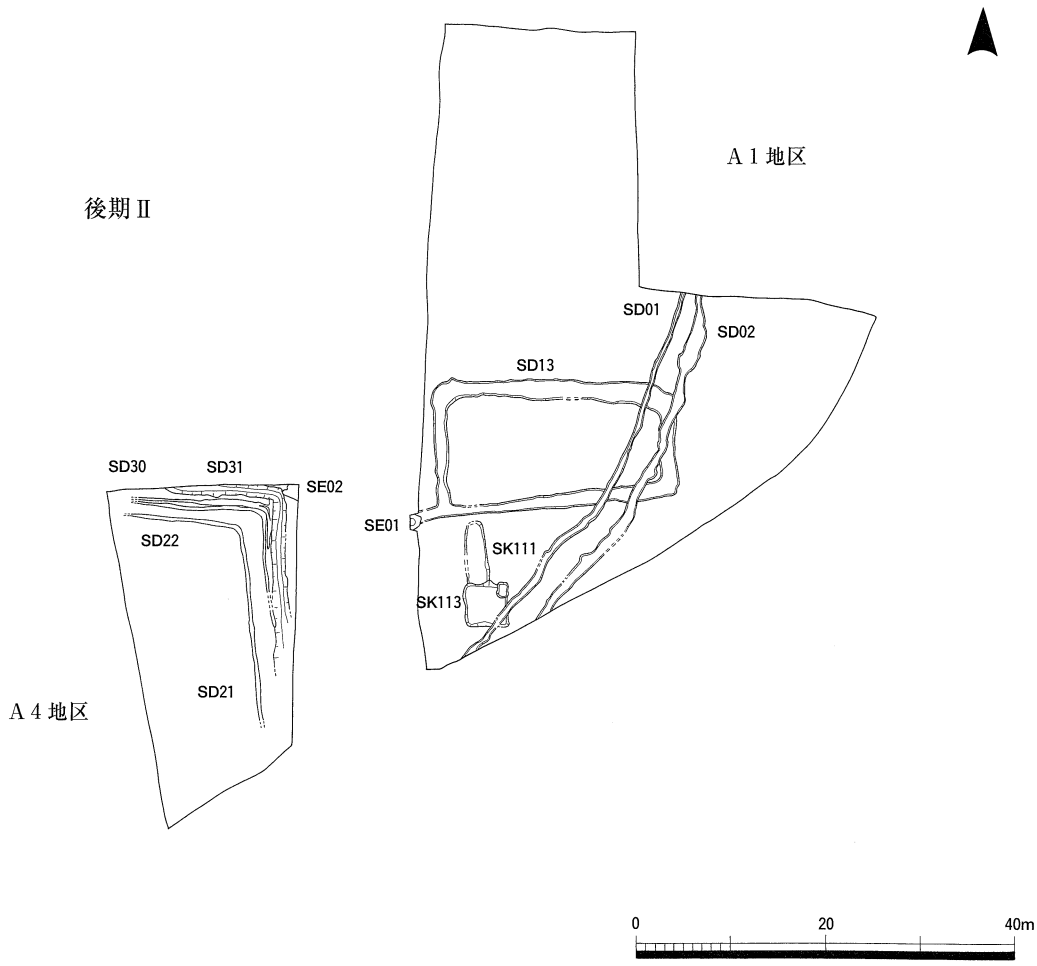


図５　中近世遺構変遷図（２）

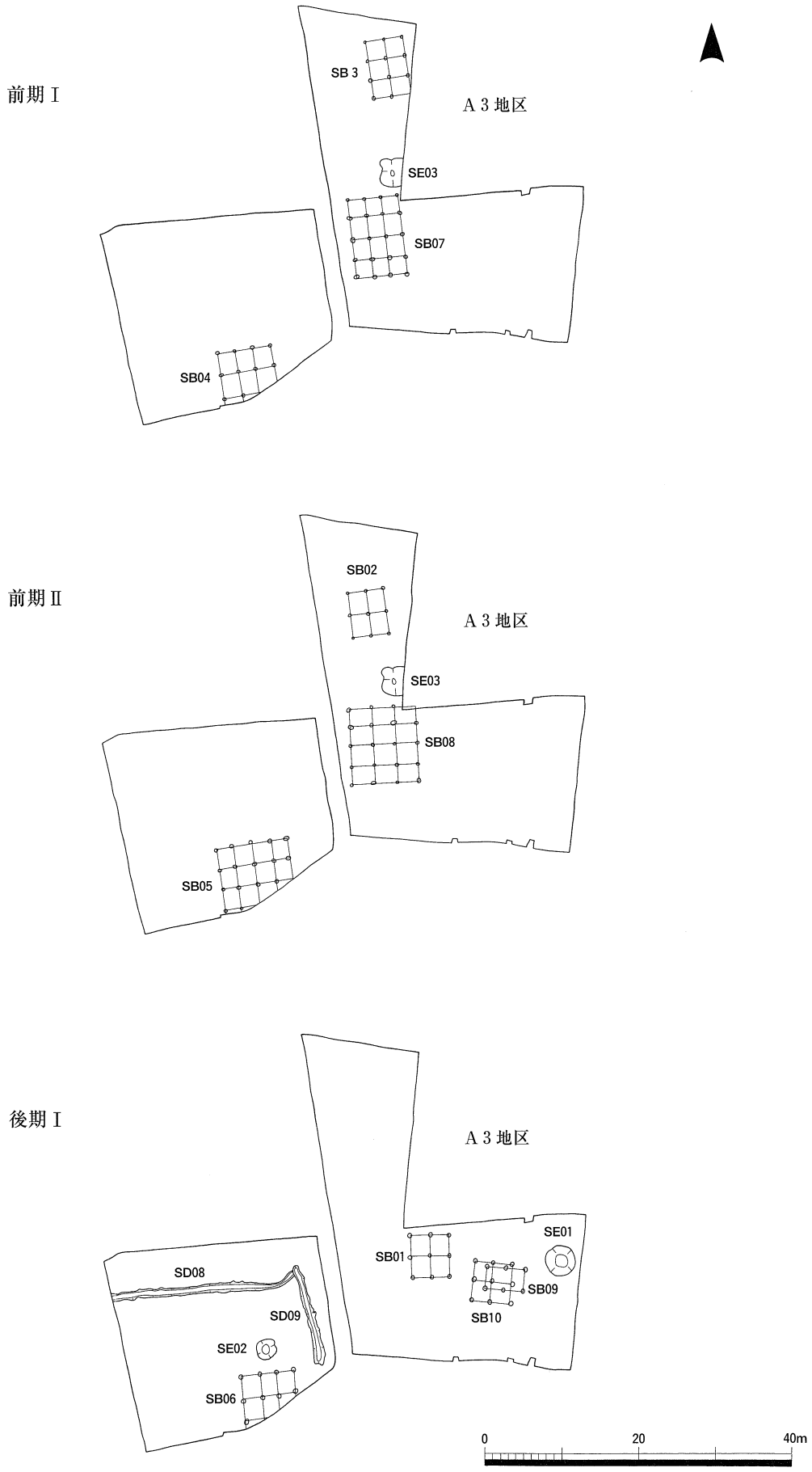


図６　中近世遺構変遷図（３）

付　　論

1．任海宮田遺跡A地区出土の中世土器・陶磁器組成について ……中村　亮仁

2．任海宮田遺跡A地区における古代の竪穴住居出土の土器組成について ……中村　亮仁

1．任海宮田遺跡Ａ地区出土の中世土器・陶磁器組成について

中村　亮仁

1．はじめに

近年、神通川からほど近い左岸に立地している道場Ⅰ遺跡や中名Ⅴ・Ⅵ遺跡では、建物変遷から集落の様相を推定されていることに加え、出土した多数の土器類についても検討されている。とりわけ、多種多様な土器・陶磁器を分類し、組成や比率などから得られる情報は、建物変遷や特定の遺物のもつ情報以外にも重要な視座が得られる場合がある。更に、同じような分析方法を用い、複数の遺跡を対象に分析した結果を比較することによって、遺跡の性格や周辺の遺跡との位置づけをする上で、有力な根拠となろう。そこで、道場Ⅰ遺跡や中名Ⅴ・Ⅵ遺跡とは神通川を挟んで対岸に位置する任海宮田遺跡についても中世土器・陶磁器組成について分析を行うことにする。

分析の対象とした調査区は、任海宮田遺跡Ａ地区の合計17地区あるうちで、中世遺構が比較的多数検出されているＡ１・Ａ４地区、Ａ３地区の３地区を分析の対象とした。土器・陶磁器は遺構出土、包含層出土を含めた全てである。このなかには排土またはラベル記載不備で正確な出土位置は不明だが、出土地区は把握できる資料も含めている。このため組成に用いた資料数と、地点別出土状況に用いた資料数の両者は必ずしも一致していない。カウントに先立ち、まず中世以外の時期の遺物を選別し除外した。カウントは基本的に破片数で行い、原則として個体識別や口縁部・底部残存比率による総計といった方法は行っていない。但し珠洲・八尾については、破片総数以外にも口縁部、体部、底部ごとの破片数のカウントを行い、これを総個体数把握のための参考とした。これらの手法は基本的に「道場Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告」ならびに昨年度の「中名Ⅴ・Ⅵ遺跡発掘調査報告」で実施した手法を用いている。以下に各地区毎に分析結果を記していく。

2．出土した土器・陶磁器の種類と特徴

まず最初に任海宮田遺跡Ａ１・Ａ３・Ａ４地区で出土した中世土器・陶磁器の種類と特徴を概括しておく。Ａ１・Ａ３・Ａ４地区出土の総点数は431点である。土器類ではまず在地産と考えられる土師器皿が挙げられる。総数で160点が出土している。土師器皿以外の器種では、八尾や珠洲など地域色の強い流通品がみられる。これらは壷・甕・擂鉢といった典型的な中世の貯蔵・調理器として使用されており、珠洲は199点、八尾は40点が出土している。さらに国内遠隔地から国外に及ぶ広域流通品としては、青磁・白磁などの中国陶磁、瀬戸美濃施釉陶器などがある。とくに中国陶磁は当地では最も遠隔地からもたらされた広域流通品のひとつである。流通商品の価値は、そのものの有する品質としての価値に加えて、入手の難易度によっても左右されるが、中国陶磁は品質と入手の困難さにおいて、当時の人々にとって最も価値の高い焼物の一つであったと考えられる。中国陶磁の我が国への輸入は、初期貿易陶磁の段階を除くと、平安時代後期以降に本格化する。本調査地では平安時代に遡る北宋の時期の製品はなく、南宋・元代の製品が主流となる。白磁、青磁の順で多く出土し、総数24点が確認される。青磁は龍泉窯系青磁のみで、同安系青磁はみられない。一方国産の施釉陶器である瀬戸美濃の製品は８点と、意外にも数量的に中国陶磁より少ない。施釉は鉄釉と灰釉がある。また、中

世で流通していた瓦質土器の出土は確認されていない。

3．各地区別の土器・陶磁器の組成比率と出土状況

次に各地区出土の中世土器・陶磁器全てを対象に、その組成の比率や各地区内での出土の様相、傾向などについて検討してみる。本来土器・陶磁器組成の分析は、遺構論・遺物論双方からの複合的検討が必要不可欠で、かつ資料の出土条件にも恵まれている必要があるが、任海宮田遺跡A地区の場合そのどちらにも恵まれていない。とくに建物群単位で短時期毎の組成が復元できるのがベストであるが、このような条件はもとより論外の状況にある。そこで漠然とした取り扱いであるが、土器・陶磁器の全体組成について、とりあえず存続時期総体の出土遺物でカウントする。

また出土位置と数量のドットについては、基本的に調査地内に設定した国土座標軸をもととした地区割り（X軸、Y軸）を利用し、4m毎のメッシュ内での破片数をカウントした。カウントの結果示された数量は●○■などの記号と、その大きさの大小で表示し、出土の粗密を表現した。珠洲、八尾についてはこれに加えて器種ごと（壷・甕・擂鉢）の数量分布と組成比率を細分して明示した。中国陶磁は青磁・白磁の表示に、瀬戸美濃については灰釉・鉄釉の施釉別に表記した。その他これらの表記の種類と意味についてはその都度図面中で凡例を示した。以下に分析結果について順次言及していく。

(1) 任海宮田遺跡A1・A4地区

カウントした土器・陶磁器の総数は、A1地区で154点、A4地区で82点の全体で236点である。A1・A4地区の内訳は、土師器皿64点（27.1%）、珠洲117点（49.5%）、八尾35点（14.8%）、中国陶磁13点（5.5%）、瀬戸美濃7点（2.9%）となる。土師器皿が30%弱というのはやや低い比率で、その一方で珠洲50%は高い出現率にある。他の八尾15%弱というのもやや高い比率である。八尾のやや高い比率は、道場Ⅰ遺跡を除くと中名Ⅴ・Ⅵ遺跡でもA地区に限られ、他の地区は数%程度である。後に触れるA3地区でもやはり数%しかみられない。中国陶磁には青磁と白磁があり、青磁は4点で龍泉窯系青磁で占められている。白磁は9点で碗が多い。分布については特に傾向はなく散在している。瀬戸美濃の7点には鉄釉天目茶椀3点が含まれている。

詳細をみるとA1地区の場合、内訳は土師器皿36点(23.3%)、珠洲79点(51.2%)、八尾24点(15.5%)、中国陶磁11点（7.1%）、瀬戸美濃4点（2.5%）となる。A1地区では土師器皿の分布は散在的であり、顕著な出土傾向は認められないものの、溝（SD15）付近にやや出土量が多い。おそらく破棄されたか堆積時に流れ込んだものが反映されたと考えられる。土師器皿は森分類のA2・A3・K類がみられ、時期は前Ⅳ～後Ⅰ期に比定できるものが多いようである。珠洲・八尾についても土師器皿と同様な傾向が見受けられ、全体としては散在的である。やはり溝（SD15）付近からの出土が多い傾向にあり、また、掘立柱建物や土坑群周辺にもやや多い傾向を示している。珠洲は吉岡編年のⅡ期のものが多い。八尾の陶錘は掘立柱建物付近から出土している。中国陶磁は掘立柱建物や土坑群の付近に分布している。

A4地区の詳細内訳は土師器皿28（34.2%）、珠洲38点（46.3%）、八尾11点（13.4%）、中国陶磁2点（2.4%）、瀬戸美濃3点（3.7%）となる。土師器皿は全体として散在的である。土師器皿は森分類のB2類で、時期は前Ⅵ～後Ⅰ期が多く、A1地区とほぼ同様な様相を呈している。珠洲は甕と擂鉢で分布に違いが見受けられる。甕は区画溝（SD31）からの出土が多く、一方擂鉢は区画溝内の掘立柱建物や土坑群付近に分布していることがみてとれる。珠洲には吉岡編年のⅡ期に相当するものが多い。他の八尾や中国陶磁・瀬戸美濃は散在的で、出土傾向は判然としない。

表１　任海宮田遺跡Ａ地区出土中世土器・陶磁器組成表

地区名	土師器皿	珠洲擂鉢	珠洲甕	珠洲壺	八尾擂鉢	八尾甕	八尾壺	八尾陶錘	青磁	白磁	瀬戸美濃	その他	合計
A1・A4	65	32	79	6	2	29	3	1	3	10	7	0	237
	65			117				35		13	7	0	237
A3	96	22	49	11	0	5	0	0	0	11	1	0	195
	96			82				5		11	1	0	195
合計	161			199				40		24	8	0	432
詳細													
地区名	土師器皿	珠洲擂鉢	珠洲甕	珠洲壺	八尾擂鉢	八尾甕	八尾壺	八尾陶錘	青磁	白磁	瀬戸美濃	その他	合計
A1	37	20	55	4	0	20	3	1	3	8	4	0	155
	37			79				24		11	4	0	155
A4	28	12	24	2	2	9	0	0	0	2	3	0	82
	28			38				11		2	3	0	82

表２　中国陶磁・国内施釉陶器集計表

任海宮田遺跡Ａ１・Ａ４地区

中国陶磁

種別	窯	器種	分類	点数
青磁	龍泉窯系青磁	碗	大宰府分類Ⅴ−４−a・b類もしくはⅧ−１	1
		碗	上田分類Ⅱ形式以降	1
		碗	上田分類Ⅱ−E類	1
		坏	大宰府分類Ⅲ−３a類	1
			小計	4
白磁		碗	大宰府分類Ⅴ類	2
		碗	大宰府分類Ⅳ類	1
		碗	大宰府分類Ⅳ〜Ⅷ類	3
		碗	大宰府分類Ⅳ〜Ⅷ類？	1
		碗？	森田分類Ｅ群	1
		皿	大宰府分類Ⅸ−２類？	1
			小計	9
			合計	13

国内施釉陶器

種別	施釉・質などの種類	器種	分類	点数
瀬戸美濃	鉄釉	天目茶椀	藤澤編年古瀬戸後Ⅲ期	1
	鉄釉	天目茶椀		2
	灰釉	端反皿か丸皿	藤澤編年大窯Ⅰ期	1
	灰釉	縁釉小皿		1
	灰釉	皿		1
	灰釉	瓶類		1
			合計	7

任海宮田遺跡Ａ３地区

中国陶磁

種別	窯	器種	分類	点数
白磁		碗	大宰府分類Ⅳ類	3
		碗	大宰府分類Ⅳ−１類	1
		碗	大宰府分類Ⅴ類	1
		碗	大宰府分類Ⅴ〜Ⅷ類	2
		碗	不明	1
		皿	森田分類Ｄ群？	1
		皿	大宰府分類Ⅸ類	1
		坏	大宰府分類Ⅳ類	1
			合計	11

国内施釉陶器

種別	施釉・質などの種類	器種	分類	点数
瀬戸美濃	鉄釉	天目茶椀		1
			合計	1

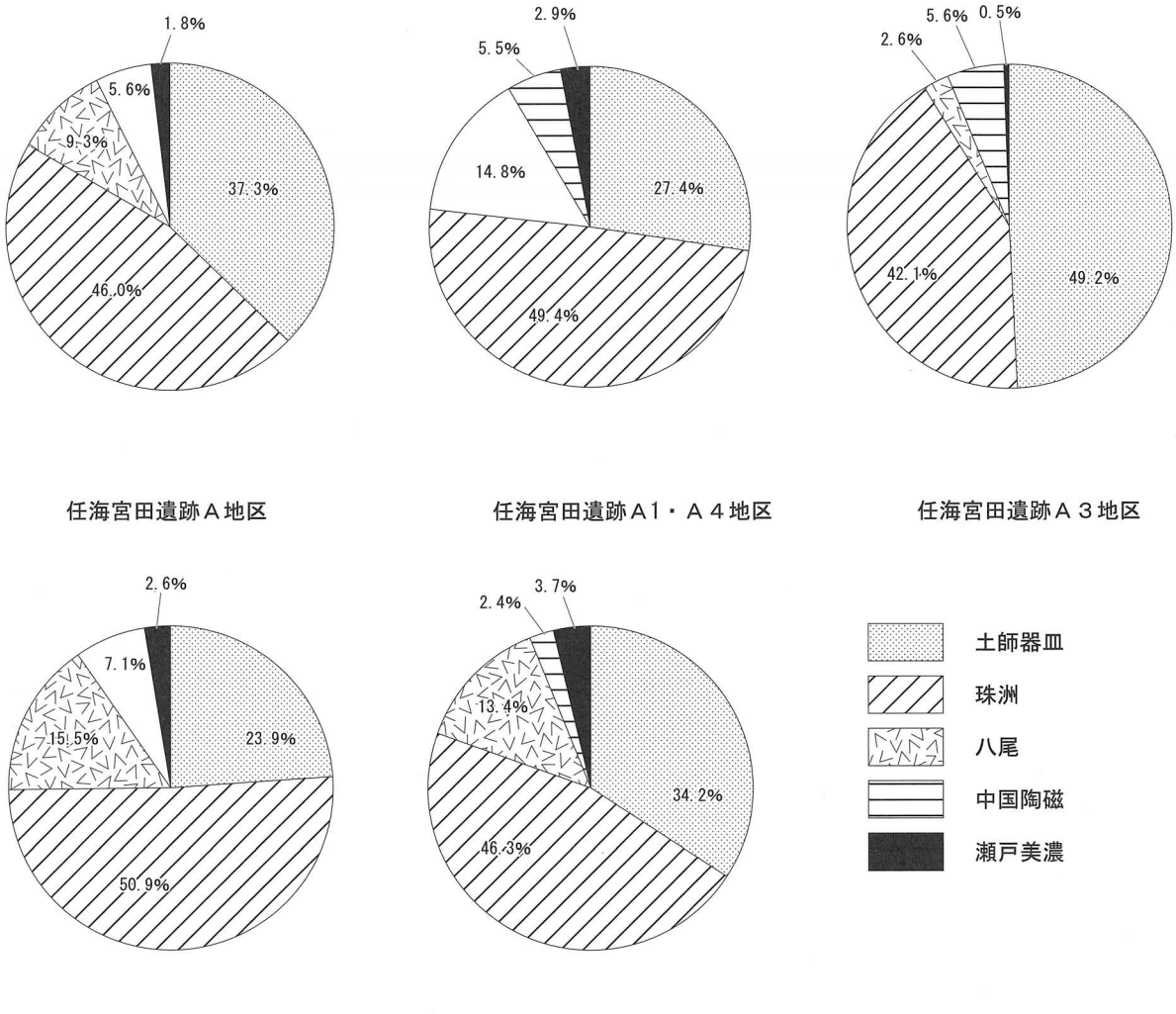
表３　中世陶器の器種・部位別破片数集計表

任海宮田遺跡Ａ１・Ａ４地区

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
珠洲	擂鉢	15	15	2	32
	甕	9	69	1	79
	壺（T種）	0	1	0	1
	壺（R種）	0	1	1	2
	壺	1	2	0	3
	合計				117
八尾	擂鉢	0	1	1	2
	甕	2	25	5	32
	壺	0	0	0	0
	合計				34

任海宮田遺跡Ａ３地区

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
珠洲	擂鉢	9	12	1	22
	甕	0	44	5	49
	壺（T種）	0	4	1	5
	壺（R種）	0	2	2	4
	壺	2	0	0	2
	合計				82
八尾	擂鉢	0	0	0	0
	甕	1	4	0	5
	壺	0	0	0	0
	合計				5



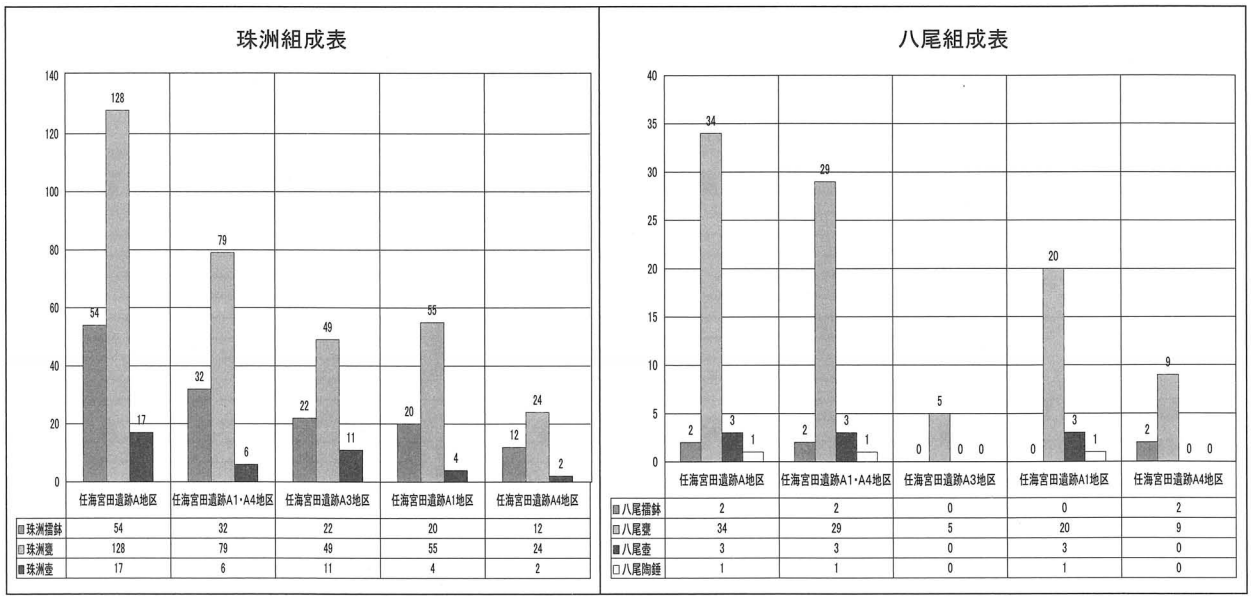
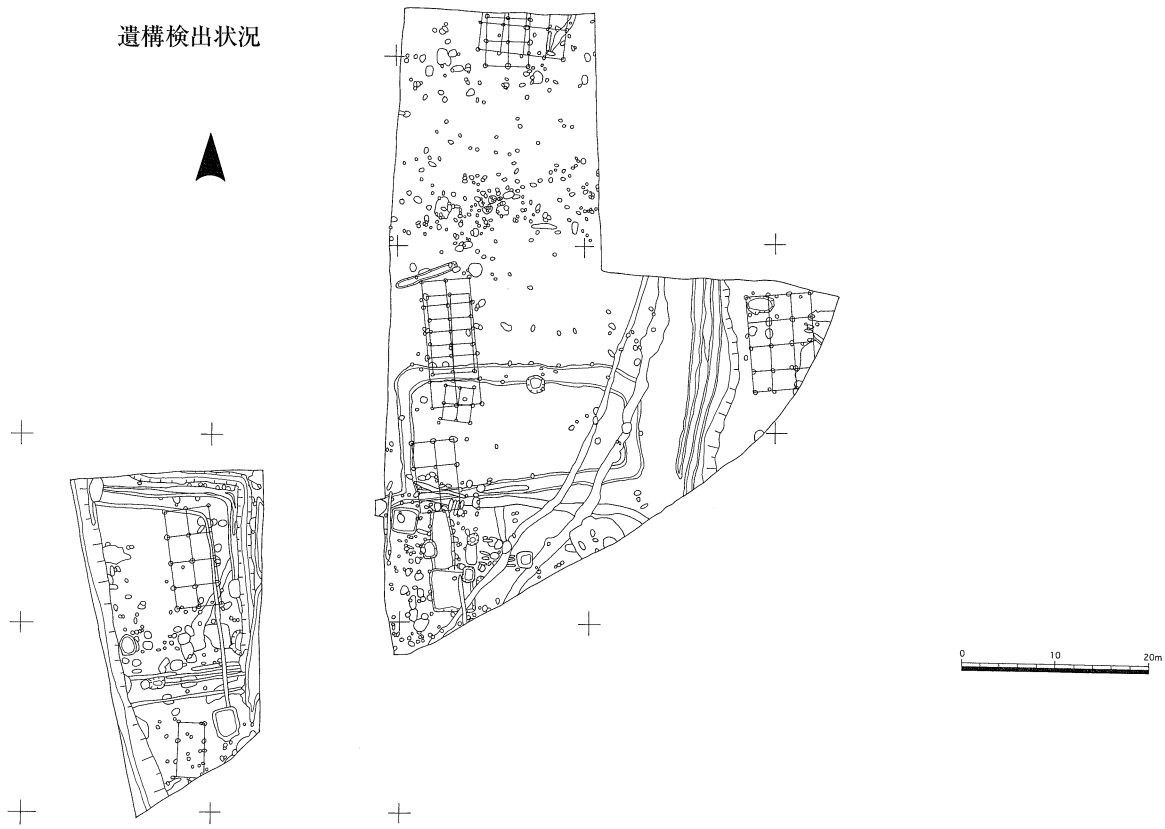


図１　任海宮田遺跡Ａ地区出土中世土器・陶磁器の組成



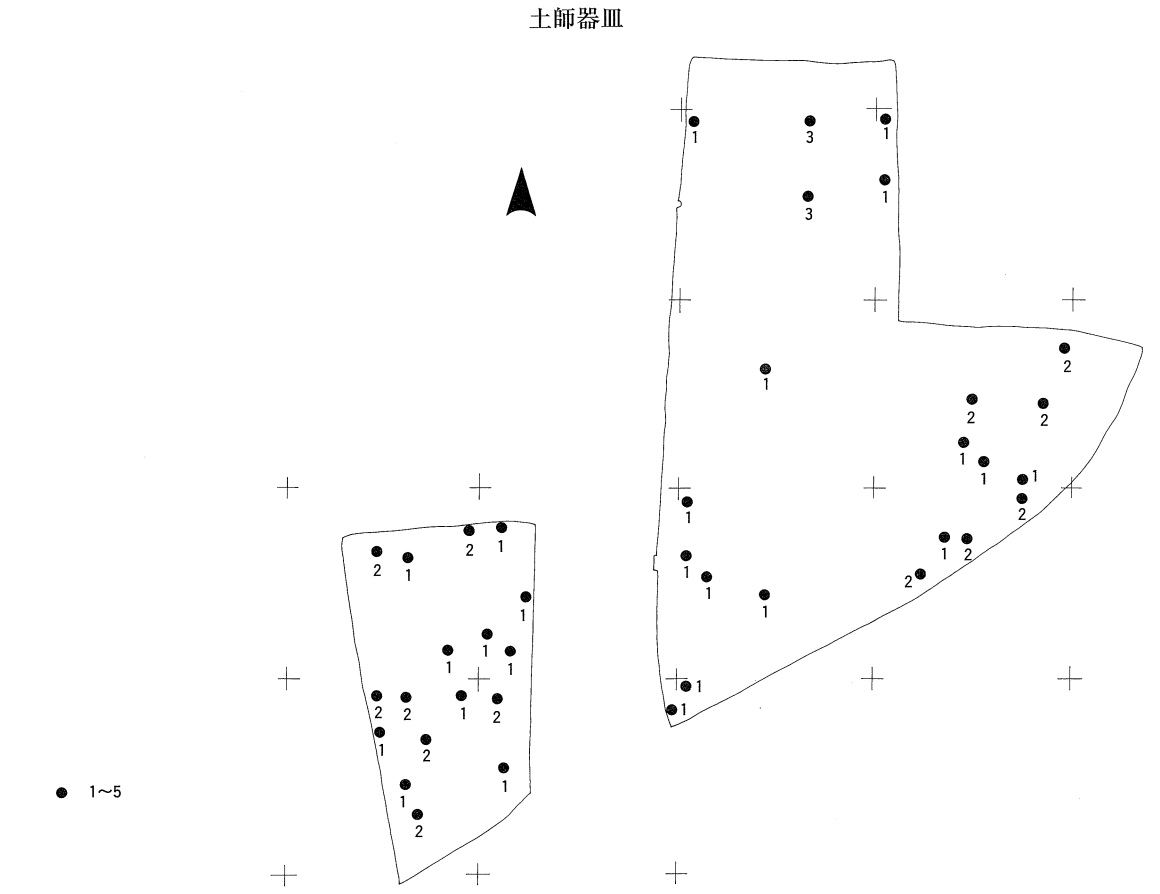


図２　任海宮田遺跡Ａ１・Ａ４地区出土遺物分布図（１）

図３　任海宮田遺跡Ａ１・Ａ４地区出土遺物分布図（２）

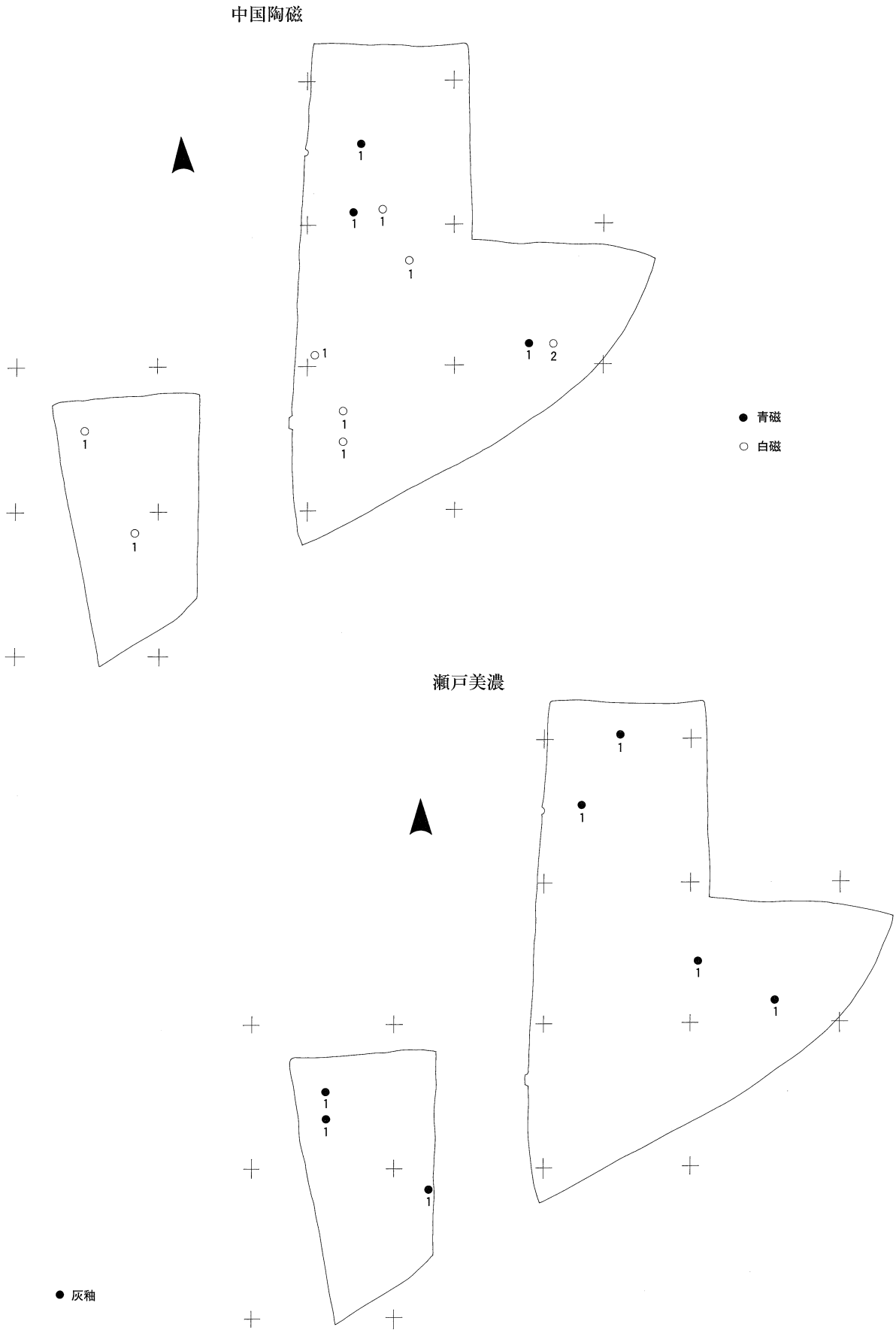


図４　任海宮田遺跡Ａ１・Ａ４地区出土遺物分布図（３）

(2) 任海宮田遺跡Ａ３地区

カウントした土器・陶磁器の総点数は195点である。内訳は、土師器皿96点（49.2%）、珠洲82点（42.1%）、八尾５点（2.6%）、中国陶磁10点（5.6%）、瀬戸美濃１点（0.5%）となる。概ね土師器皿と珠洲とがほぼ同じ比率で、他は数%にとどまっている。遺構変遷自体は時期幅があるが、主体となるのは13世紀から14世紀代と考えられ、古い時期の遺物は相対的に少ない。

土師器皿の分布については、Ａ１・Ａ４地区の出土傾向とは異なり、掘立柱建物の周辺に集中して出土していることが顕著にみてとれる。このような傾向は土師器皿の使用形態の一端を示すものと考えられる。土師器皿は森分類のＫ類が多く、時期は概ね前Ⅵ～Ⅶ期におさまる。これに比べ珠洲は建物からやや離れて周辺に散在しており、土師器皿の分布と比べるとまとまりに欠く。吉岡編年のⅡ期が多い。掘立柱建物の周辺に集中して土師器皿が出土し、珠洲が全体に散在している傾向は過去の調査で明らかにされている道場Ｉ遺跡や中名Ⅴ・Ⅵ遺跡と類似している。八尾は３点しか出土しておらず、分布傾向は判然としない。Ａ１・Ａ４地区で八尾がやや高い出現率を示しているのとは相対的である。Ａ３地区には八尾の流通する時期の建物があり、珠洲の高率出現と何らかの相関みられ注目される。中国陶磁では白磁のみで青磁は伴わない。器種では碗が多く、分布については特に傾向はなく散在している。瀬戸美濃は１点のみで鉄釉天目茶椀である。こうしてみると、中国陶磁などと比べて瀬戸美濃が極端に少ないことが印象的である。

４．まとめ

任海宮田遺跡のＡ１・Ａ４、Ａ３地区における土器・陶磁器類の組成について、組成比率、出土分布の状況、個別出土遺物の特徴の３つの視点から分析を行ってきた。ここでは各調査区間において共通する様相、異なる様相の両者がみられた。以下に箇条書きでまとめておく。

(1) Ａ１・Ａ４地区では総点数236点を数え、土器・陶磁器の組成比率では土師器皿が27.1%で低率にとどまり、その一方で珠洲が49.5%と高率で出現している。八尾の14.8%についても使用期間などを考慮すると高い割合といえよう。Ａ１地区とＡ４地区の組成比率は、ほぼ似たような出現比率を示している。分布傾向については、Ａ１地区では土師器皿や珠洲・八尾で溝（SD15）付近に分布傾向が認められる。これは使用不能になったものを破棄したか堆積時に流れ込んだものが反映されたと考えられる。Ａ４地区では土師器皿や八尾・中国陶磁・瀬戸美濃については特に分布に偏りはなく、散在傾向にある。他方、珠洲については甕と擂鉢の器種間で分布に偏りがみられ、甕が区画溝（SD31）からの多く出土しているのに対して、擂鉢は区画溝内の掘立柱建物や土坑群付近に分布している傾向が看取できる。

(2) Ａ３地区の総点数は195点であり、Ａ１・Ａ４地区の調査面積に比べて小さい割には出土量が多い。土器・陶磁器の組成比率では土師器皿と珠洲で90%を占め、珠洲が42.5%と高率で出現しており、土師器皿が49.2%である。他に八尾や中国陶磁が数%と定量みられるものの少なく、瀬戸美濃は１%に満たない。Ａ１・Ａ４地区と比べると、土師器皿の占める割合が高く、その一方で八尾・瀬戸美濃の占める割合が小さい。また、珠洲についてはＡ１・Ａ４地区と同様に出現率が高い。分布は土師器皿で掘立柱建物周辺に集中する傾向がみられる。その一方で、珠洲・八尾は土師器皿よりもやや外縁で散在して出土するものが多くみられ、出土分布に若干の有意差がみられる。個別遺物では中国陶磁で白磁のみの出土で、青磁がまったく確認されていない点が特徴的であり、また、瀬戸美濃の１点のみ

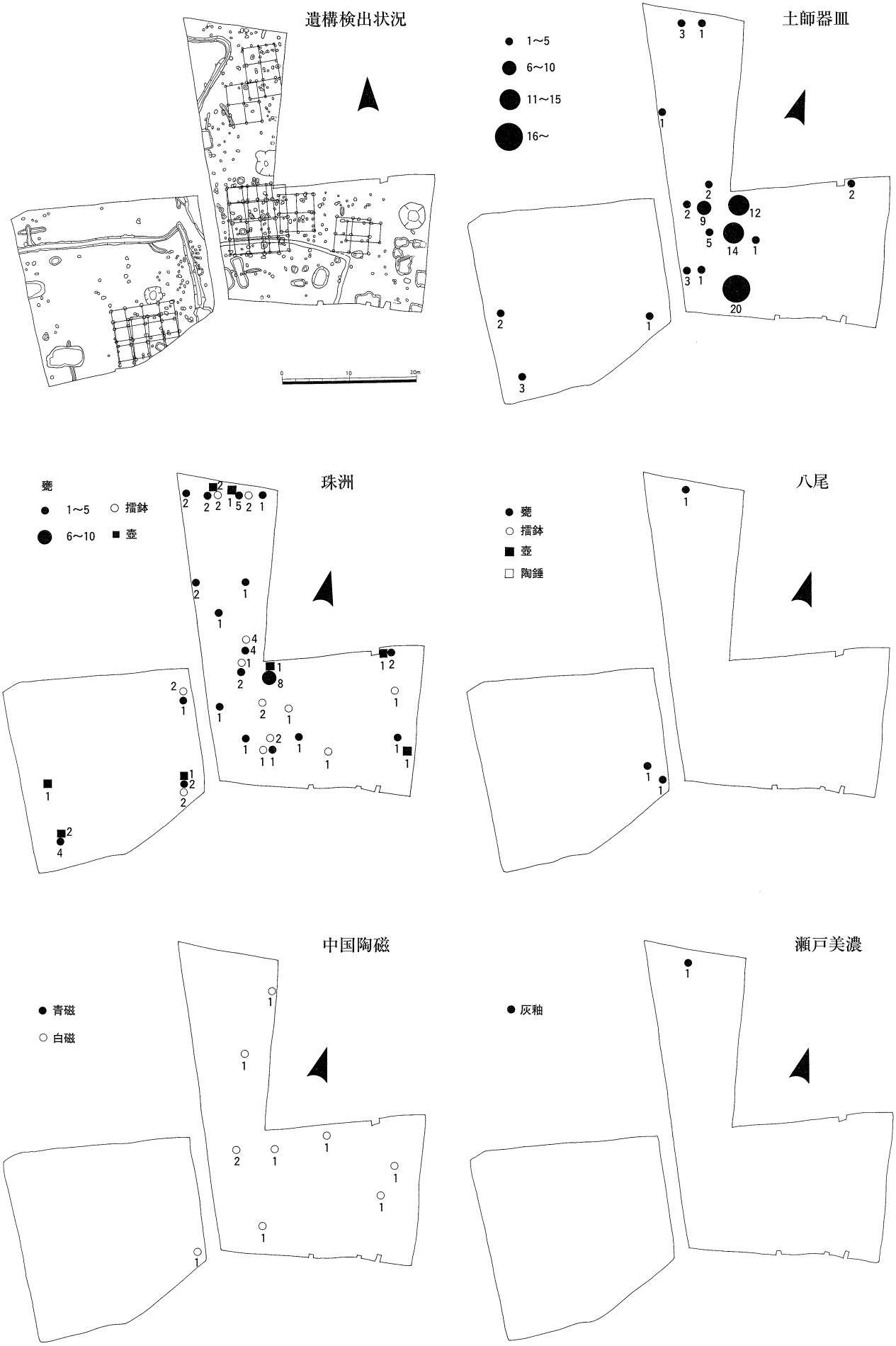


図５　任海宮田遺跡Ａ３地区出土遺物分布図

出土というのも印象的である。

今回は任海宮田遺跡Ａ地区の中で、比較的中世遺構がまとまって検出されたＡ１・Ａ４、Ａ３地区から出土した中世土器・陶磁器について分析を行った。過去に同様の手法を用いて分析された遺跡には神通川左岸の道場Ⅰ遺跡や中名Ⅴ・Ⅵ遺跡がある。任海宮田遺跡Ａ地区と組成における相違点をみると、組成では土師器皿の占める割合が低く、珠洲の占める割合が高い傾向が看取できよう。特に珠洲の占める割合がＡ地区全体で46.0％という高い出現率を占めている。このような相違は遺跡の性格的なものなのか、時期的なものなのか、また流通の違いによるものなのかなど様々なことが考えられる。

今後数年の間に任海宮田遺跡ⅡとⅢが順次刊行される予定である。そのためここでは、早急に結論を出すことを控え、後に刊行される任海宮田遺跡ⅡとⅢの中で、同様な手法によりデータを蓄積し、それらを加えて、今一度、任海宮田遺跡の中世土器・陶磁器の在り方を検討し、任海宮田遺跡をとりまく周辺遺跡との関係や位置づけを明らかにしていく必要があろう。

引用参考文献

・中世土器研究会編「概説中世の土器・陶磁器」真陽社　1955

・森隆「富山県の中世土器（資料編）」（財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『紀要』第６号）2003

・森隆「富山県の中世土器（資料編２）－道場Ⅰ遺跡出土資料の検討と中名遺跡群出土資料の総括－」
（財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『紀要』第８号）2005

・横田賢次郎・森田勉「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」（『九州歴史資料館研究論集』４）1978

・山本信夫他「大宰府条坊跡Ⅱ」（『太宰府町の文化財』第７集）太宰府市教育委員会1983

・山本信夫「中世前期の貿易陶磁器－その分析視点－」（『原遺跡七郎丸１地区・口寺田遺跡』）国東町教育委員会1999

・森田勉「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」（『貿易陶磁研究』№２）1982

・上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類について」（『貿易陶磁研究』№２）1982

・藤澤良祐「古瀬戸中期様式の成立過程」（『東洋陶磁』第８号）1982

・藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅱ－古瀬戸後期様式の編年－」（『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ｘ）1991

・藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅲ－古瀬戸前期様式の編年－」（『㈶瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』　第３輯）1995

・藤澤良祐「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」（『㈶瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯）2002

・八尾町教育委員会『富山県八尾町長山遺跡・京ヶ峰古窯跡緊急調査概要』1985

・吉岡康暢『中世須恵器の研究』吉川弘文館　1994

・㈶富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『道場Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告』2004

・㈶富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『中名Ⅴ・Ⅵ遺跡、砂子田Ⅰ遺跡発掘調査報告』2005

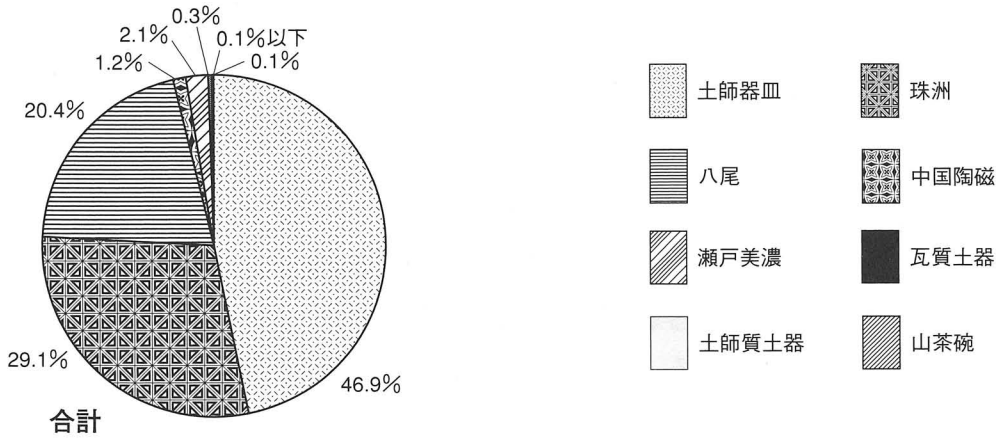


図６　道場Ⅰ遺跡Ａ地区出土の土器・陶磁器組成

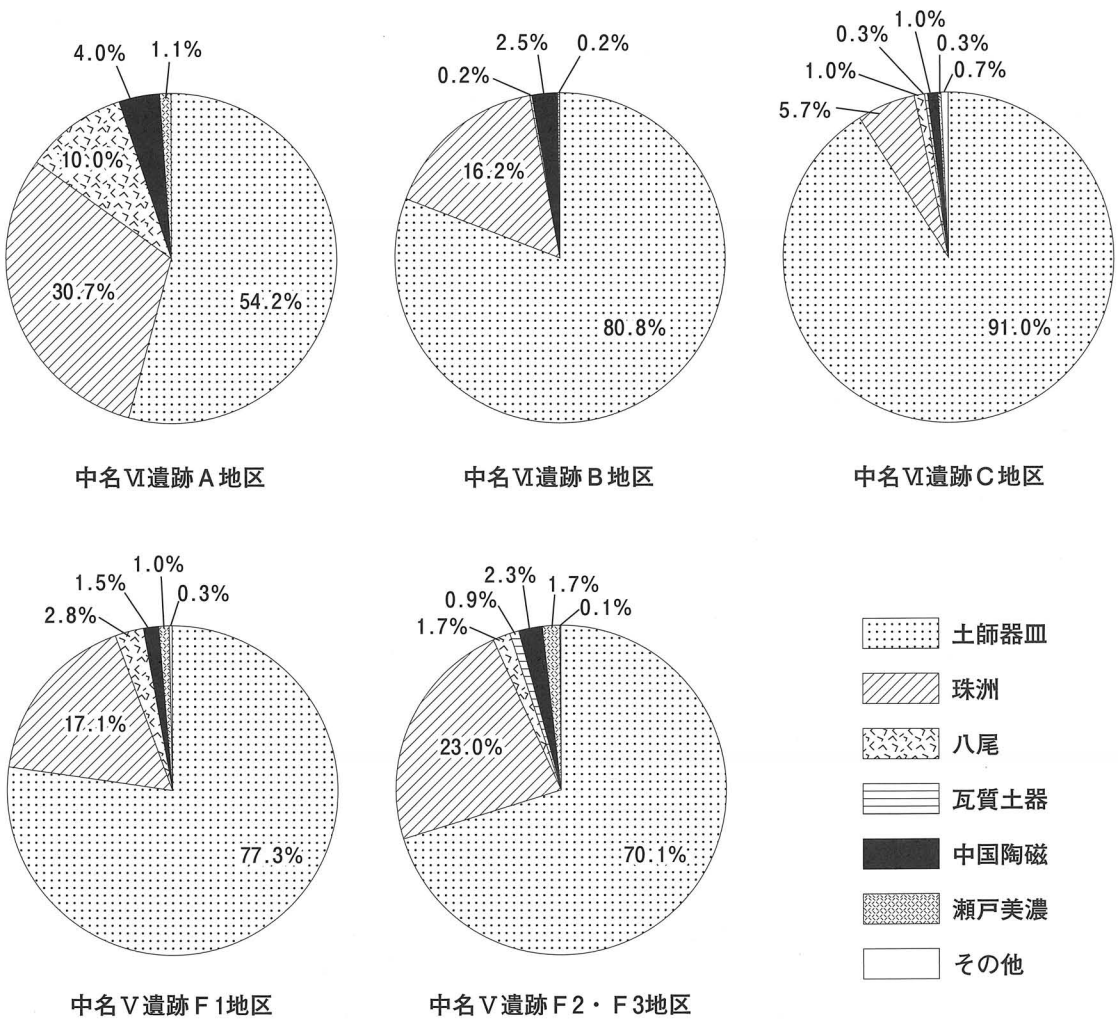


図７　中名Ⅴ・Ⅵ遺跡出土の中世土器・陶磁器組成

2．任海宮田遺跡A地区における古代の竪穴住居出土の土器組成について

中村　亮仁

1．はじめに

任海宮田遺跡では、A1地区とA4地区を中心に古代の集落遺構の分布が確認され、それに伴い多数の土師器や須恵器といった土器類が出土している。とりわけ、当時の生活の場である竪穴住居からはまとまって土器が出土している。これらの土器類は遺跡周辺で生産された土師器以外は基本的には流通によってもたらされたものである。出土した土器の中で最も離れた遠隔地からもたらされたものとして京都・洛北産の緑釉陶器があり、当時としては最も価値の高い高級品の部類に入る。一方、須恵器はおよそ郡単位内で生産されたとみられ、製塩土器は沿岸部で製塩生産のためだけに焼かれた焼き物である。以下に、まず竪穴住居から出土した土器の焼物別ならびに器種別のリストを作成し、次いで各種の焼物から構成される土器の組成について検討を加えていきたい。

分析は、古代の集落遺構がまとまって検出されているA1・A4の2地区を対象とした。これらの土器類は竪穴住居24棟から出土したもので、カウントは基本的に破片数で行っている。原則として個体識別や口縁部・底部残存比率による方法は行っていないが、土師器と須恵器については、破片総数以外にも口縁部、体部、底部ごとの破片数をリストとして示し、総個体数把握のための参考とした。土師器の中～大型の丸底甕は体部と底部の境界が判別できず口縁部と体部のみの分類とした。この点については鍋についても同様である。一方、小型甕の平底の個体については体部と底部の識別が可能であるため、分けて計数を行い個体数把握の参考とした。

2．出土した土器の種類と特徴

まず、はじめに任海宮田遺跡のA1・A4地区の竪穴住居24棟から出土した土器の種類と特徴を概括しておく。竪穴住居出土の総点数は2212点である。これら2212点で在地産と考えられる焼き物としては土師器が挙げられ、総数で1838点が出土している。これは実に総点数の83.1％が在地産の焼き物ということができる。これらは主に日常的に使用された焼き物で、食膳具である杯、主に煮炊きするための調理具である甕や鍋といった煮炊具に分けられる。そのうち杯は88点で土師器総点数の５％に満たず、その一方で、煮炊き用の甕が1725点と90％以上占めている。土師器以外の器種では、須恵器などおよそ群単位で生産されたと考えられているものがある。これらには杯・蓋・甕・壷といった食膳具や貯蔵具に相当するものが含まれている。須恵器は351点で全体の15.8％に相当し、土師器に比べると全体に占める割合は小さい。竪穴住居出土の黒色土器は在地系のもの４点で全体の１％にも満たないし、また、赤彩土器（９点）につても同様に全体の１％未満である。黒色土器・赤彩土器については明確な個体のみを含めているため、黒色部分や赤彩が剥落したものは土師器に含まれている可能性がある。緑釉陶器はSI22から１点出土している。緑釉陶器は軟質で、全面に淡緑釉が施されているものであり、京都洛北産で９世紀半ばの所産である。出土状況は覆土上面からの出土であり、混入の可能性が高い。製塩土器は７点出土し、全体に占める割合は１％にも満たない。なお、A1・A4地区の竪穴住居からは墨書が施された個体は検出されておらず、任海宮田遺跡のB地区で多量に

表1　任海宮田遺跡Ａ１・Ａ４地区における竪穴住居出土の土器組成表

遺跡・地区名	遺構番号	時期	土師器				須恵器					黒色土器	赤彩土器	緑釉陶器	製塩土器	羽口	合計
			杯	甕	鍋	小計	杯	蓋	甕	壺	小計						
任海宮田遺跡A1地区	SI01	後Ⅰ期	1	33	4	38	3			1	4		1				43
	SI02	後Ⅱ期	20	227		247	20	8	4	1	33						280
	SI03	前Ⅰ期	6	35		41	2	1	6	2	11		1		3		56
	SI04	前Ⅱ期	19	40		59	9	4	4		17		3				79
	SI05	前Ⅱ期	1	33	2	36	3	2	5		10						46
	SI06	前Ⅰ期	3	33		36			1		1						37
	SI07	前Ⅰ期	4	151		155	10	2	4		16						171
	SI08	前Ⅱ期	4	344	2	350	24	6	7	4	41				4		395
	SI09	前Ⅰ期	6	153	2	161	20	7	12	1	40						201
	SI10	後Ⅱ期		66		66	6				6	2	2				76
	SI11	前Ⅰ期	13	157		170	39	7	3	3	52		1				223
	SI12	前Ⅰ期		62		62	7	3	4		14						76
	SI13	前Ⅱ期		45	5	50				1	1	1					52
	SI14	後Ⅰ期		6	1	7	1				1	1					9
	SI15	後Ⅱ期		17		17		1			1						18
	小　計		77	1402	16	1495	144	41	50	13	248	4	8		7		1762
任海宮田遺跡A4地区	SI16	前Ⅰ期		43	3	46	4	2	5		11						57
	SI17	前Ⅰ期	7	43	3	53	7	1	6		14						67
	SI18	前Ⅰ期		9		9	6	1	5		12						21
	SI19	前Ⅰ期		6		6	3		3		6						12
	SI20	後Ⅰ期		85	3	88	2	2	10	1	15						103
	SI21	後Ⅰ期		39		39			7		7						46
	SI22	前Ⅰ期	2	58		60	10	5	8	1	24			1			85
	SI23	後Ⅰ期		12		12	5	2	3		10						22
	SI24	後Ⅰ期	2	28		30	2		1	1	4		1			2	37
	小　計		11	323	9	343	39	13	48	3	103		1	1		2	450
合　計			88	1725	25	1838	183	54	98	16	351	4	9	1	7	2	2212

表2　土師器・須恵器の部位別破片数集計表

SI01

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	1	0	0	1
	甕(小型)	2	3	3	8
	甕	3	22	—	25
	鍋	4	0	—	4
	合計				38
須恵器	杯	3	0	0	3
	蓋	0	0	—	
	甕	0	0	0	0
	壺	0	0	1	1
	合計				4

SI02

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	6	11	3	20
	甕(小型)	13	27	13	53
	甕	17	157	—	174
	鍋	0	0	—	0
	合計				247
須恵器	杯	14	4	2	20
	蓋	5	3	—	8
	甕	0	4	0	4
	壺	1	0	0	1
	合計				33

SI03

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	2	1	3	6
	甕(小型)	1	4	3	8
	甕	2	25	—	27
	鍋	0	0	—	0
	合計				41
須恵器	杯	0	1	1	2
	蓋	0	1	0	1
	甕	0	5	1	6
	壺	2	0	0	2
	合計				11

SI04

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	16	2	1	19
	甕(小型)	1	4	1	6
	甕	1	33	—	34
	鍋	0	0	—	0
	合計				59
須恵器	杯	6	1	2	9
	蓋	3	1	—	4
	甕	0	4	0	4
	壺	0	0	0	0
	合計				17

SI05

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	1	0	0	1
	甕(小型)	3	1	2	6
	甕	3	24	—	27
	鍋	0	2	—	2
	合計				36
須恵器	杯	1	0	2	3
	蓋	1	1	—	2
	甕	0	5	0	5
	壺	0	0	0	0
	合計				10

SI06

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	2	1	0	3
	甕(小型)	2	4	2	8
	甕	0	25	—	25
	鍋	0	0	—	0
	合計				36
須恵器	杯	0	0	0	0
	蓋	0	0	—	0
	甕	0	1	0	1
	壺	0	0	0	0
	合計				1

SI07

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	0	5	0	5
	甕(小型)	6	27	7	40
	甕	10	100	—	110
	鍋	0	0	—	0
	合計				155
須恵器	杯	5	1	4	10
	蓋	1	1	—	2
	甕	1	3	0	4
	壺	0	0	0	0
	合計				16

SI08

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	2	2	0	4
	甕(小型)	13	56	13	82
	甕	21	241	—	262
	鍋	2	0	—	2
	合計				350
須恵器	杯	17	4	3	24
	蓋	3	3	—	6
	甕	0	7	0	7
	壺	2	2	0	4
	合計				41

SI09

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	5	0	1	6
	甕(小型)	4	7	5	16
	甕	12	125	—	137
	鍋	2	0	—	2
	合計				161
須恵器	杯	10	4	6	20
	蓋	6	1	—	7
	甕	2	10	0	12
	壺	0	1	0	1
	合計				40

SI10

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	0	0	0	0
	甕(小型)	3	16	0	19
	甕	4	43	—	47
	鍋	0	0	—	0
	合計				66
須恵器	杯	5	0	1	6
	蓋	0	0	—	0
	甕	0	0	0	0
	壺	0	0	0	0
	合計				6

SI11

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	4	8	1	13
	甕(小型)	3	4	5	12
	甕	11	134	—	145
	鍋	0	0	—	0
	合計				170
須恵器	杯	21	8	10	39
	蓋	6	1	—	7
	甕	0	3	0	3
	壺	1	2	0	3
	合計				52

SI12

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	0	0	0	0
	甕(小型)	3	4	4	11
	甕	4	47	—	51
	鍋	0	0	—	0
	合計				62
須恵器	杯	6	0	1	7
	蓋	3	0	—	3
	甕	0	4	0	4
	壺	0	0	0	0
	合計				14

SI13

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	0	0	0	0
	甕(小型)	6	7	3	16
	甕	2	27	—	29
	鍋	5	0	—	5
	合計				50
須恵器	杯	0	0	0	0
	蓋	0	0	—	0
	甕	0	0	0	0
	壺	0	1	0	1
	合計				1

SI14

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	0	0	0	0
	甕(小型)	0	0	0	0
	甕	0	6	—	6
	鍋	1	0	—	1
	合計				7
須恵器	杯	1	0	0	1
	蓋	0	0	—	0
	甕	0	0	0	0
	壺	0	0	0	0
	合計				1

SI15

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	0	0	0	0
	甕(小型)	1	0	0	1
	甕	2	14	—	16
	鍋	0	0	—	0
	合計				17
須恵器	杯	0	0	0	0
	蓋	1	0	—	1
	甕	0	0	0	0
	壺	0	0	0	0
	合計				1

SI16

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	0	0	0	0
	甕(小型)	0	7	0	7
	甕	0	36	—	36
	鍋	3	0	—	3
	合計				46
須恵器	杯	2	0	2	4
	蓋	1	1	—	2
	甕	0	5	0	5
	壺	0	0	0	0
	合計				11

SI17

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	3	4	0	7
	甕(小型)	0	3	1	4
	甕	3	36	—	39
	鍋	0	3	—	3
	合計				53
須恵器	杯	2	0	5	7
	蓋	1	0	—	1
	甕	0	6	0	6
	壺	0	0	0	0
	合計				14

SI18

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	0	0	0	0
	甕(小型)	0	0	1	1
	甕	2	6	—	8
	鍋	0	0	—	0
	合計				9
須恵器	杯	1	1	4	6
	蓋	1	0	—	1
	甕	0	5	0	5
	壺	0	0	0	0
	合計				12

SI19

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	0	0	0	0
	甕(小型)	1	0	1	2
	甕	2	2	—	4
	鍋	0	0	—	0
	合計				6
須恵器	杯	2	1	0	3
	蓋	0	0	—	0
	甕	0	3	0	3
	壺	0	0	0	0
	合計				6

SI20

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	0	0	0	0
	甕(小型)	0	4	0	4
	甕	3	81	—	84
	鍋	0	0	—	0
	合計				88
須恵器	杯	1	1	0	2
	蓋	1	1	—	2
	甕	0	10	0	10
	壺	1	0	0	1
	合計				15

SI21

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	0	0	0	0
	甕(小型)	0	0	0	0
	甕	4	35	—	39
	鍋	0	0	—	0
	合計				39
須恵器	杯	0	0	0	0
	蓋	0	0	—	0
	甕	0	7		7
	壺	0	0	0	0
	合計				7

SI22

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	0	2	0	2
	甕(小型)	2	5	2	9
	甕	2	47	—	49
	鍋	0	0	—	0
	合計				60
須恵器	杯	8	1	1	10
	蓋	2	4	—	6
	甕	0	8	0	8
	壺	0	0	0	0
	合計				24

S23

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	0	0	0	0
	甕(小型)	0	0	0	0
	甕	0	12	—	12
	鍋	0	0	—	0
	合計				12
須恵器	杯	4	0	1	5
	蓋	2	0	—	2
	甕	0	3	0	3
	壺	0	0	0	0
	合計				10

SI24

種別	器種	口縁部	体部	底部	計
土師器	杯	1	1	0	2
	甕(小型)	5	0	0	5
	甕	5	18	—	23
	鍋	0	0	—	0
	合計				30
須恵器	杯	2	0	0	2
	蓋	0	0	—	0
	甕	0	1	0	1
	壺	1	0	0	1
	合計				4

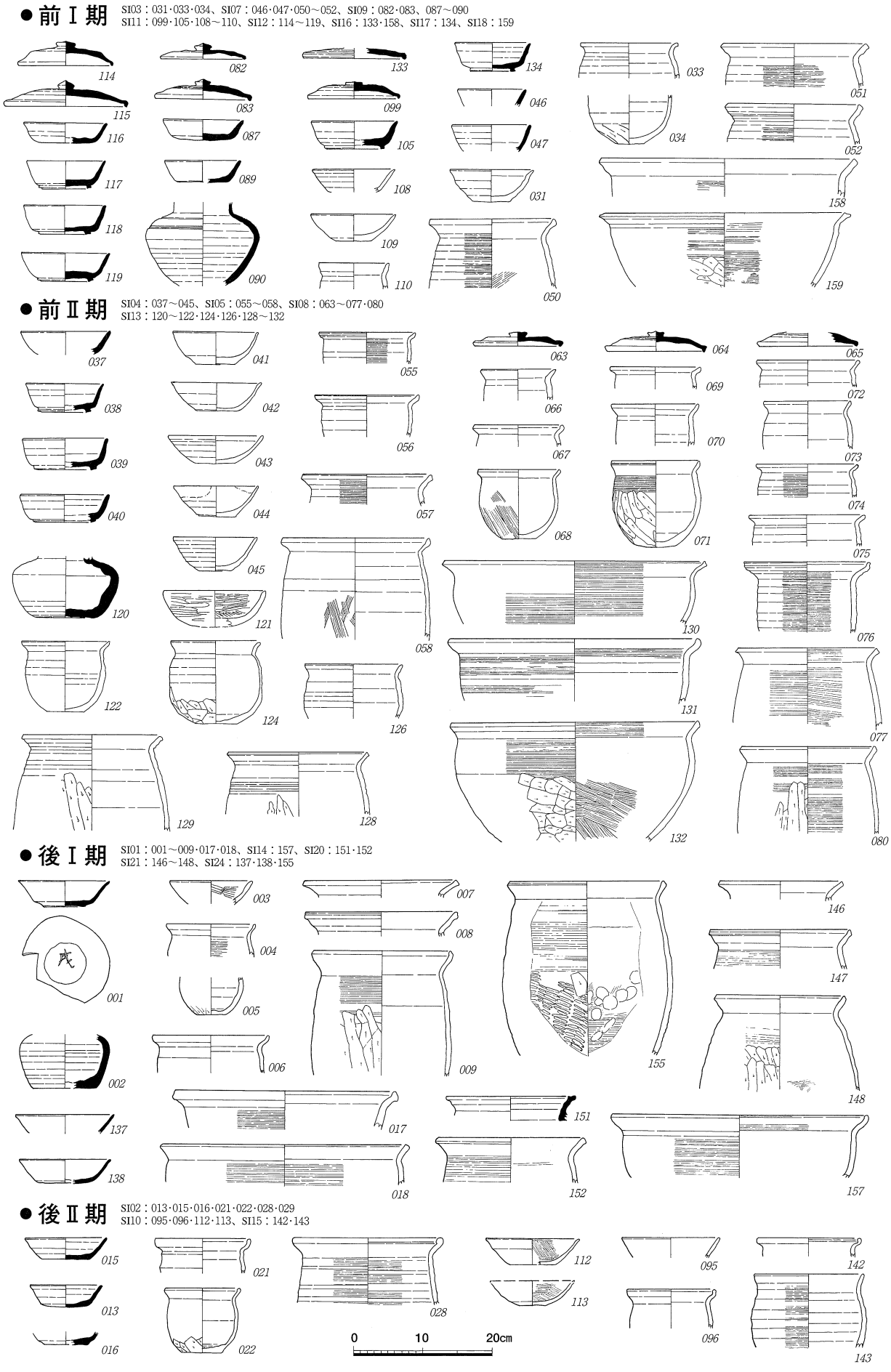


図１　竪穴住居出土の土器

検出されている灰釉陶器や土錘なども確認されていない。

3．土器の組成比率と出土状況

次に竪穴住居24棟から出土した土器類全てを対象に、その組成の比率や各竪穴住居からの出土の様相、傾向などについて検討してみる。土器組成比率の場合、遺構出土でほぼ単時期の、まとまった数が出土する一括性の高い資料を取り扱うのが最良であるが、このような事例はほとんどみられない。竪穴住居は比較的資料の出土条件にも恵まれているが、それでもやはり竪穴住居に伴う遺物ばかりでなく、混入しているものも含まれることは否めない。このようなことをふまえ、まずＡ１・Ａ４地区の竪穴住居出土の土器類の全体組成について示し、その後、時期単位で各竪穴住居毎の器種組成を概括していく。竪穴住居の変遷や時期については結語で示された遺構変遷に準じている。また、竪穴住居の中には遺物出土状況の比較的良好なものがあるため、そのような竪穴住居については、その都度個別に組成をみていくことにする。さらに、食膳具（杯・蓋・黒色土器・赤彩土器・緑釉陶器）・煮炊具（土師器甕・鍋）・貯蔵具（甕・壺）・その他（製塩土器・羽口）のような用途別についても時期単位で組成を概観していく。

(1) 器種別組成

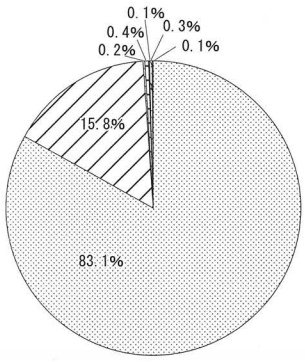
ここでは結語で示された建物変遷と時期区分に準じ、前Ⅰ期（８世紀後半）、前Ⅱ期（９世紀前半から９世紀中頃）、後Ⅰ期（９世紀中頃～９世紀後半）、後Ⅱ期（10世紀前半）の４時期で器種別組成をみていく。

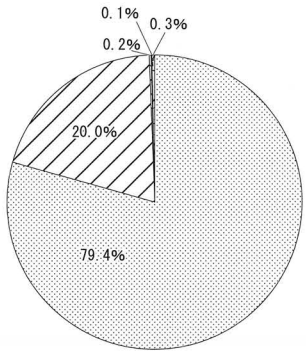
前Ⅰ期に該当する竪穴住居は計11棟であり、土器の総点数は1006点である。内訳は土師器につては799点で全体の79.4％に相当する。須恵器は201点で全体の20.0％、赤彩土器は２点で0.2％、緑釉陶器は１点で1.2％、製塩土器は３点で0.3％となっている。竪穴住居11棟の内で最も出土量が多いのはSI11で223点、次に多いのがSI09の201点がつづく。比較的出土状況の良好な竪穴住居はSI09・SI11・SI12であり、これるをみると土師器が76.2～81.6％、須恵器が18.4～23.3％となっており、土師器：須恵器は概ね８：２の割合であるといえる。緑釉陶器がSI22から１点出土しているが、出土状況が覆土上面からの出土であるため混入の可能性も考えられる。

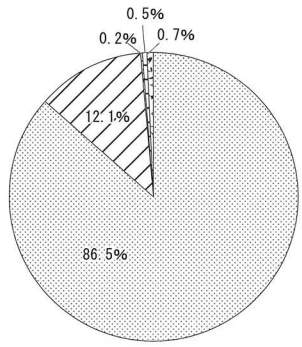
前Ⅱ期に該当する竪穴住居は計４棟であり、土器の総点数は572点である。内訳は土師器につては495点で全体の86.5％に相当する。須恵器は69点で全体の12.1％、黒色土器は１点で0.2％、赤彩土器は３点で0.5％、製塩土器は４点で0.7％となっている。竪穴住居４棟の内で最も出土量が多いのはSI08で395点であり、またＡ１・Ａ４地区の竪穴住居24棟の中でもSI08が最も数が多い。次に多いのがSI04の79点がつづく。比較的出土状況の良好な竪穴住居はSI08であり、これるをみると土師器が88.6％、須恵器が10.4％となっており、土師器：須恵器は概ね９：１の割合である。

後Ⅰ期に該当する竪穴住居は計６棟であり、土器の総点数は260点である。内訳は土師器につては214点で全体の82.2％、須恵器は41点で全体の15.8％、黒色土器は１点で0.4％、赤彩土器は２点で0.8％、羽口は２点で0.8％となっている。竪穴住居６棟の内で最も出土量が多いのはSI20で103点であり、つぎに多いのがSI21で46点がつづいている。比較的、土器の出土状況が良好な竪穴住居はSI20であり、この竪穴住居の出現率をみると土師器が85.4％、須恵器が14.6％となっており、土師器：須恵器は概ね8.5：1.5の割合である。SI24からは羽口が２点出土しているが、出土状況は覆土上層からであり混入の可能性がある。

後Ⅱ期に該当する竪穴住居は計３棟であり、土器の総点数は373点である。内訳は土師器につては



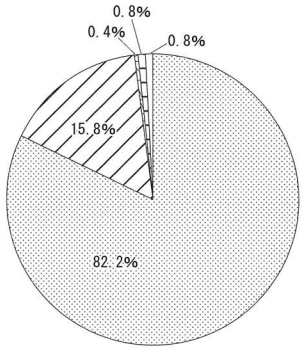


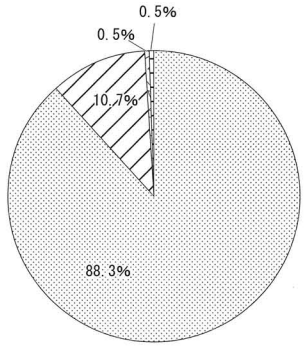


任海宮田遺跡A1・A4地区
器種別組成

前Ⅰ期

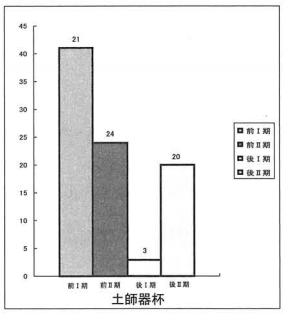
前Ⅱ期

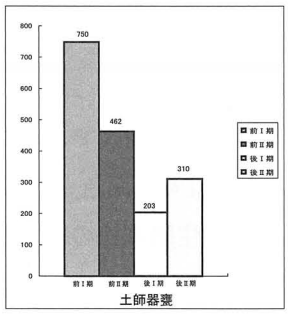


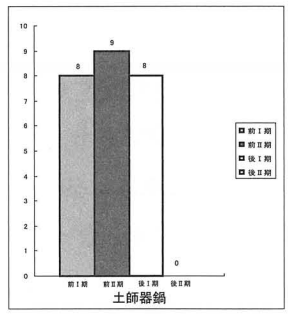


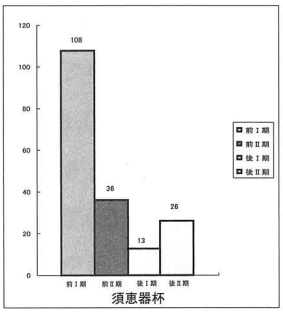
後Ⅰ期

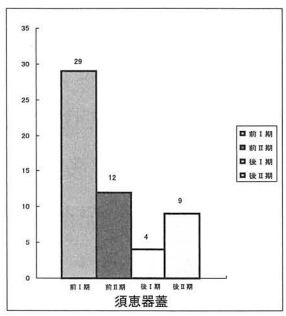
後Ⅱ期

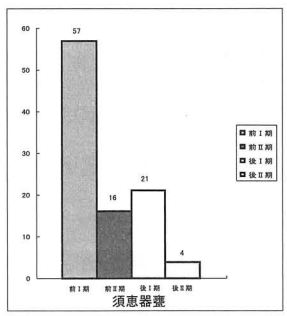












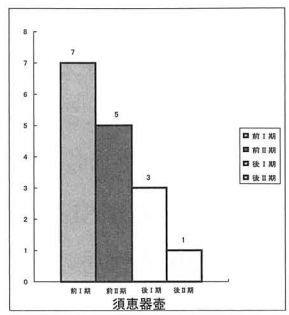


図２　器種別組成